實用船舶便覽

和九年版

668-2
1200501574519
2

三菱重工業株式會社營業科目

（舊稱三菱造船株式會社）

本店

東京市丸ノ内

各種船舶艦艇の建造竝修理

戰艦・巡洋戰艦・水雷母艦・驅逐艦・潛水艦・潛水母艦・砲艦・特務艦等
客船・貨客船・貨物船・油槽艦・鐵道連絡船・ケーブル船・練習船・トロール船
漁業指導船・取締船・手繰網漁船・冷藏船・小蒸氣船・曳船・起重機船・モータ
ーボート外

艦船用主機・補機・其他

MSディーゼル機關
三菱四衝式單働無空氣噴油ディーゼル機關
三菱ズルツアー二衝式單（複）働空（無空）氣噴油ディーゼル機關
三菱ツエリー・スチーム・タービン
三菱ユングストローム・スチーム・タービン
三菱バウエル・ワツハ排氣タービン　三菱フルカンギヤー及流體接手
蒸氣往復式機關
ウエアー社及コントラフロー社特許品一式
三菱多效式冷却機　三菱マカンキング鋼製艙口蓋
電動、汽動、揚貨機及捲揚機　元良式船舶動搖制止裝置
スペリー式船舶安定裝置

長崎造船所

長崎市飽ノ浦町

陸用機械類

MSディーゼル機關
三菱ズルツアー二衝式單（複）働空（無空）氣噴油ディーゼル機關

神戸造船所

神戸市兵庫區和田崎町

三菱四衝式單働無空氣噴油ディーゼル機關
三菱式スチーム・タービン
三菱ツエリー・スチーム・タービン
三菱ユングストローム・スチーム・タービン
三菱エツシヤウイス水力タービン
三菱カプラン水力タービン
三菱竪型水管式汽罐
三菱セクショナル水管式汽罐
ウエヤー及コントラフロー社復水裝置及補助機械類
自動車　ロードローラー、土運車、炭車
蒸氣、電氣及ディーゼル機關車
三菱ウエスティングハウス式エヤブレーキ
空氣壓縮機及ターボブロワー各種喞筒類

彦島造船所

下關市彦島

鐵工製品

鐵塔、鐵柱、鐵構、鋼橋
油槽、瓦斯槽、ビール貯藏槽等

鋼鑄物打物、特殊合金類

クランクシヤフト　N M ブロンズ
飯高メタル　クルミン
アルシロン

長崎兵器製作所

長崎市茂里町

アートメタル製家具類

鎔接竝鋲接鐵管

實用船舶便覽

昭和九年版

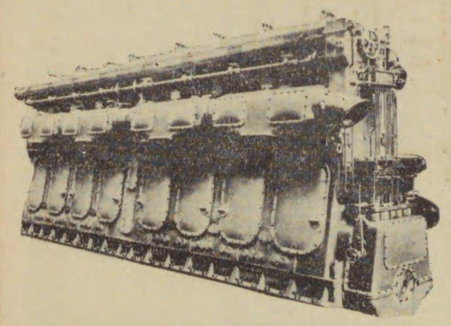
モータシップ雜誌社發行

SULZER

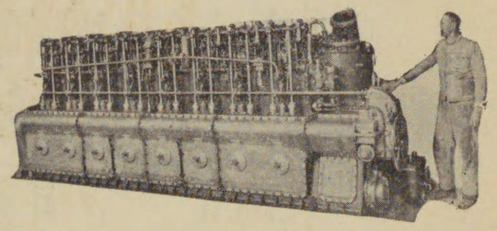
DIESEL ENGINES

FOR

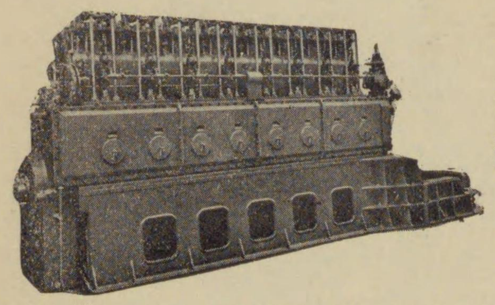
MARINE-STATIONARY-TRACTION-PURPOSES



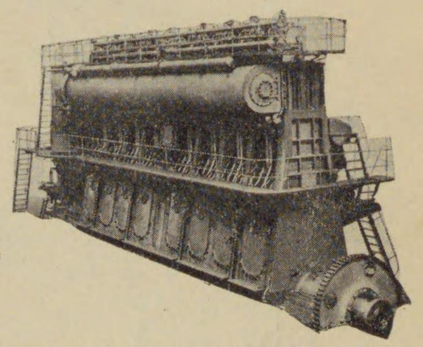
Submarine Diesel Engine 7000 BHP



Latest Type of High Speed Reversible Engine of 1200 HP at 685 r.p.m.



Airless Injection Four Cycle Dynamo Engine, 680 BHP at 550 r.p.m.



Double Acting Two Cycle Marine Diesel Engine, 7600 BHP. at 106 r.p.m.

SULZER BROTHERS

ENGINEERING OFFICE KOBE

SOLE REPRESENTATIVE FOR JAPAN AND MACHUKUO

668-2

はしがき

本書の内容として、もつと多岐に亘り、種々の材料を收錄する筈であつたが、船舶安全法關係法令が豫定頁を遙かに凌駕してしまつたので、掲載するに至らなかつたものが多々ある。本書は毎年刊行して行くものなので、その都度、增補改訂して行く積りである。一般造船所名の調査には非常な時日を要した。農林省調査のものと本社調査のものとを適宜按配して編輯した。全國的なものであるから材料蒐集が非常に困難である。全國關係者各位の御助力を得て逐年完全な名簿にして行きたいと思つてゐる。

資料篇は信頼し得る一流關係業界の營業種目、主製品等を使用者側から見て最も便利なやうに編輯したものである。

本書は編輯の便宜上、その内容に從つて、縱書、横書の二つに分けた。

最後に材料の蒐集に當つて多大の便宜を與へられた遞信、農林兩省當局に深甚の敬意を表する。

昭和九年五月

編者

實用船舶便覽目次

法令篇

船舶安全法關係法令

▽船舶安全法（昭和八年法律第十一號）……頁一
▽船舶安全法第二條第一項第十二號ニ關スル規定及同法第三十條ノ一般規定施行期日ノ件（昭和九年二月勅令第十二號）……七
▽船舶安全法施行令（昭和九年二月勅令第十三號）……七
▽船舶安全法施行規則（昭和九年二月遞信省令第四號）……九
▽船舶安全法施行規則ヲ外國船舶ニ準用ノ件（昭和九年二月遞信省令第五號）……七九
▽船舶設備規程（昭和九年二月遞信省令第六號）……八〇
▽船舶滿載吃水線規程（昭和九年二月遞信省令第七號）……一二六
▽船舶區畫規程（昭和九年二月遞信省令第八號）……一六八
▽木船構造規程（昭和九年二月遞信省令第九號）……一八四
▽船舶機關規程（昭和九年二月遞信省令第十號）……二二五
▽造船規程中改正（昭和九年二月遞信省令第十一號）……二八九
▽危險物船舶運送及貯藏規則（昭和九年二月遞信省令第十四號）……二九〇
▽明治三十二年省令第十九號（商法第五百六十二條ニ掲クル書類中改正（昭和九年二月遞信省令第十五號）……三〇七
▽救命艇手適任證書交付規則（昭和九年二月遞信省令第十六號）……三一一
▽船用品取締規則（昭和九年二月遞信省令第十七號）……三一四
▽船用品檢査試驗規則中改正（昭和九年二月遞信省令第十八號）……三二八
▽船燈試驗規程（昭和九年二月遞信省令第十九號）……三三二
▽信號器試驗規程（昭和九年二月遞信省令第二十號）……三五三
▽救命器具試驗規程（昭和九年二月遞信省令第二十一號）……三五五
▽消火器試驗規程（昭和九年二月遞信省令第二十二號）……三七二
▽火災警報裝置試驗規程（昭和九年二月遞信省令第二十三號）……三七四
▽防毒面試驗規程（昭和九年二月遞信省令第二十四號）……三八〇
▽船舶法施行細則中改正（昭和九年二月遞信省令第二十七號）……三八三
▽遠洋航路補助法施行細則中改正（昭和九年二月遞信省令第二十八號）……三八三
▽船用品檢査試驗規則中改正（昭和九年二月遞信省令第二十九號）……三八五

法令篇

目次

▽漁船特殊規則（昭和九年二月遞信、農林省令）……三八四
▽漁船特殊規程（昭和九年二月遞信、農林省令）……三八六
▽船舶氣象觀測報告規則（昭和九年二月文部遞信省令第一號）……四〇八
▽船舶職員法中改正（昭和八年法律第十二號）……四〇九
▽昭和八年法律第十二號（船舶職員法中改正）施行期日ノ件（昭和九年二月勅令第十八號）……四一〇
▽船舶職員法施行細則中改正（昭和九年二月遞信省令第二十五號）……四一一
▽船舶職員試驗規程中改正（昭和九年二月遞信省令第二十六號）……四二三
▽海事諸法臺灣施行令中改正（昭和九年二月勅令第十四號）……四二七

船舶改善助成費に關する法令

▽議會條件……四二九
▽船舶改善助成金ノ交付ニ關スル遞信省告示（昭和七年九月遞信省告示第千七百八十六號）……四二九

名簿篇

▽造船所（千噸以上の鋼船を製造し得るもの）……一
▽船渠（長二百尺以上のもの）……二
▽一般造船所……三
▽ディーゼル機關製造所……二〇
▽農林省認定發動機工場……二〇
▽鐵工所……二一
▽舶用機關輸入關係會社……二五
▽電機、無線、計器等……二五
▽油清淨器製作及販賣……二五
▽オイル、ガソリン類……二六
▽ペイント……二六
▽船燈、信號器、救命具遞信省免許製造人及免許製造品一覽表……二七
▽大阪船具商組合員……三四
▽横濱船具商組合員……三七
▽船用品業者……三八
▽マニラ・ロープ商……四〇
▽ター・ロープ商……四一
▽ワイヤ・ロープ商……四二
▽船主……四三
▽海事關係官公署及團體……五一

（統計篇、モーターボート篇、資料篇は左開きより）

法律

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル船舶安全法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

昭和八年二月十四日

内閣總理大臣子爵齋藤實

遞信大臣南弘

法律第十二號（官報、昭和八年二月十五日）

船舶安全法

第一條　日本船舶ハ本法ニ依リ其ノ堪航性ヲ保持シ且人命ノ安全ヲ保持スルニ必要ナル施設ヲ爲スニ非ザレバ之ヲ航行ノ用ニ供スルコトヲ得ズ

第二條　船舶ハ左ニ掲グル事項ニ付命令ノ定ムル所ニ依リ施設スルコトヲ要ス

一　船體
二　機關
三　帆裝
四　排水設備
五　操舵、繫船揚錨ノ設備
六　救命及消防ノ設備
七　居住設備
八　衞生設備
九　航海用具
十　危險物其ノ他ノ特殊貨物ノ積附設備
十一　荷役其ノ他ノ作業ノ設備
十二　電氣設備
十三　前各號ノ外主務大臣ニ於テ特ニ定ムル事項

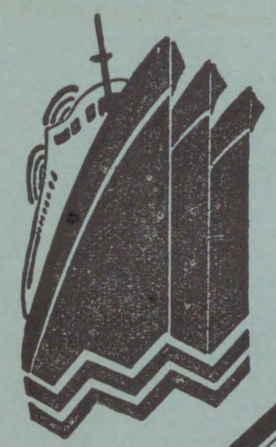
前項ノ規定ハ左ニ掲グル船舶ニハ之ヲ適用セズ

一　總噸數五噸未滿ノ船舶
二　櫓櫂ヲ以テ運轉スル舟其ノ他主務大臣ニ於テ特ニ定ムル船舶

第三條　遠洋區域ヲ航行スル船舶又ハ近海區域ヲ航行スル總噸數百五十噸以上ノ船舶ハ命令ノ定ムル所ニ依リ滿載吃水線ヲ標示スルコトヲ要ス但シ漁獵、曳船、海難救助、浚渫又ハ測量ニノミ使用スル船舶其ノ他主務大臣ニ於テ特ニ滿載吃水線ヲ標示スル必要ナシト認ムル船舶ハ此ノ限ニ在ラズ

第四條　左ニ掲グル船舶ハ無線電信法ニ依ル無線電信ヲ施設スルコトヲ要ス

一　遠洋區域又ハ近海區域ヲ航行スル總噸數千六百噸以

G.T.C.
純國産潤滑油

ディーゼルエンジン油
タービン油
資合會社 田中源太郎商店鑛油部
大阪　東京　札幌　神戸　小倉
秋田縣平澤町　製油工場

上ノ船舶

二　遠洋區域又ハ近海區域ヲ航行スル旅客船（十二人ヲ超ユル旅客定員ヲ有スル船舶）

三　總噸數百噸以上ノ漁船

前項ノ規定ニ依リ無線電信ノ施設ヲ要スル船舶ト雖モ航海ノ目的其ノ他ノ事情ニ依リ主務大臣ニ於テ已ムコトヲ得ズ又ハ必要ナシト認ムルトキハ之ヲ施設スルコトヲ要セズ

第五條　船舶所有者ハ第二條第一項ノ規定ノ適用アル船舶ニ付同條第一項各號ニ掲グル事項、第三條ノ船舶ニ付滿載吃水線、第四條ノ船舶ニ付無線電信ニ關シ命令ノ定ムル所ニ依リ左ノ區別ニ依ル檢査ヲ受クベシ

一　初メテ航行ノ用ニ供スルトキ又ハ第十條ニ規定スル有效期間滿了シタルトキ行フ精密ナル檢査（定期檢査）

二　定期檢査ト定期檢査トノ中間ニ於テ命令ノ定ムル時期ニ行フ簡易ナル檢査（中間檢査）

三　臨時ニ特殊ノ用途ニ使用スルトキ行フ檢査（特殊船檢査）

四　前各號ノ外主務大臣ニ於テ特ニ必要アリト認メタルトキ行フ檢査（臨時檢査）

主務大臣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ中間檢査ヲ受クルコトヲ免除スルコトヲ得

第六條　本法施行地ニ於テ製造スル長サ三十メートル以上ノ船舶ノ製造者ハ第二條第一項ノ規定ノ適用アル船舶ニ付同條第一項第一號、第二號及第四號ニ掲グル事項、第三條ノ船舶ニ付滿載吃水線ニ關シ船舶ノ製造ニ著手シタル時ヨリ檢査（製造檢査）ヲ受クベシ但シ主務大臣ニ於テ已ムコトヲ得ズ又ハ必要ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラズ

本法施行地ニ於テ製造スル長サ三十メートル未滿ノ船舶ノ製造者ハ其ノ船舶ニ付命令ノ定ムル所ニ依リ前項ノ製造檢査ヲ受クルコトヲ得

本法施行地ニ於テ製造スル船舶用機關ノ製造者ハ備附クベキ船舶ノ特定前ト雖モ其ノ機關ニ付命令ノ定ムル所ニ依リ檢査ヲ受クルコトヲ得

前三項ノ規定ニ依ル檢査ニ合格シタル事項ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ前條ノ檢査ヲ省略ス

第七條　第五條又ハ前條第一項若ハ第二項ノ規定ニ依ル檢査ハ主務大臣ノ特ニ定ムル場合ヲ除クノ外船舶ノ所在地ヲ管轄スル管海官廳之ヲ行フ

前條第三項ノ規定ニ依ル檢査ハ船舶用機關ノ所在地ヲ管轄スル管海官廳之ヲ行フ

第八條　主務大臣ノ認定シタル日本ノ船級協會（以下單ニ船級協會ト稱ス）ノ檢査ヲ受ケ船級ノ登錄ヲ爲シタル船舶ニシテ旅客船ニ非ザルモノハ其ノ船級ヲ有スル間第二條第一項第一號乃至第五號、第十號乃至第十二號ニ掲グル事項及滿載吃水線ニ關シ管海官廳ノ檢査ヲ受ケ之ニ合格シタルモノト看做ス

第九條　管海官廳ハ定期檢査ニ合格シタル船舶ニ對シテハ其ノ航行區域（漁船ニ付テハ從業制限）、最大搭載人員、制限汽壓及滿載吃水線ノ位置ヲ定メ船舶檢査證書ヲ交付ス

管海官廳ハ特殊船檢査ニ合格シタル船舶ニ對シテハ特殊船檢査證書ヲ交付ス

管海官廳ハ第六條ノ規定ニ依ル檢査ニ合格シタル船舶又ハ船舶用機關ニ對シテハ合格證明書ヲ交付ス

前條ノ船舶ニ付船級協會ノ定メタル制限汽壓及滿載吃水線ノ位置ハ管海官廳ニ於テ之ヲ定メタルモノト看做ス

第十條　船舶檢査證書ノ有效期間ハ四年トス但シ命令ヲ以テ定ムル小形船ニ付テハ四年以內ニ於テ管海官廳ノ定メタル期間トス

船舶檢査證書ハ主務大臣ノ特ニ定ムル場合ニ於テハ其ノ有效期間滿了後五月迄ハ仍其ノ效力ヲ有ス

船舶檢査證書ハ中間檢査又ハ臨時檢査ニ合格セザル船舶ニ付テハ之ニ合格スル迄其ノ效力ヲ停止ス

第八條ノ船舶ノ受有スル船舶檢査證書ハ其ノ船舶ガ當該船級ノ登錄ヲ抹消セラレ又ハ旅客船ト爲リタルトキハ其ノ有效期間滿了ス

第十一條　船舶ニ付管海官廳ノ檢査ヲ受ケタル者檢査ニ對シ不服アルトキハ其ノ事由ヲ具シ主務大臣ニ再檢査ヲ申請スルコトヲ得

再檢査ヲ申請シタル者ハ主務大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ關係部分ノ原狀ヲ變更スルコトヲ得ズ

第十二條　管海官廳ハ必要アリト認ムルトキハ何時ニテモ當該官吏ヲシテ船舶ニ臨檢セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ當該官吏ハ其ノ身分ヲ證明スベキ證票ヲ携帶スベシ

管海官廳ハ本法ニ違反シタル事實アリト認ムルトキハ船舶ノ航行停止其ノ他ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第十三條　船舶乘組員二十人未滿ノ船舶ニ在リテハ其ノ二分ノ一以上、其ノ他ノ船舶ニ在リテハ乘組員十人以上ガ命令ノ定ムル所ニ依リ當該船舶ノ堪航性又ハ居住設備衞生設備其ノ他ノ人命ノ安全ニ關スル設備ニ付重大ナル缺陷アル旨ヲ申立テタル場合ニ於テハ管海官廳ハ其ノ事實

ヲ調査シ必要アリト認ムルトキハ前條第二項ノ處分ヲ處スコトヲ要ス

第十四條　日本船舶ニ非ザル船舶ニシテ左ニ掲グルモノニハ勅令ヲ以テ本法ノ全部又ハ一部ヲ準用ス

一　本法施行地ノ各港間又ハ湖川港灣ノミヲ航行スル船舶

二　日本船舶ヲ所有シ得ル者ノ借入レタル船舶ニシテ本法施行地ト其ノ他ノ地トノ間ノ航行ニ從事スルモノ

三　前各號ノ外本法施行地ニ在ル船舶

第十五條　主務大臣ニ於テ前條第三號ニ掲グル船舶ノ所屬地ノ本法ニ該當スル法令ヲ相當ト認メタルトキハ之ニ基キタル船舶ノ堪航性又ハ人命ノ安全ニ關スル證書ハ本法ニ依リ交付シタル證書ト同一ノ效力ヲ有ス

前項ノ規定ハ本法ニ依リ交付シタル證書ノ效力ヲ認メザル國ニ屬スル船舶ニ付テハ之ヲ適用セズ

第十六條　船舶ノ堪航性及人命ノ安全ニ關シ條約ニ別段ノ規定アルトキハ其ノ規定ニ從フ

第十七條　滿載吃水線ノ標示ヲ隱蔽、變更又ハ抹消シタル者ハ百圓以上二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條　船舶所有者又ハ船長左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ船舶所有者及船長ヲ百圓以上二千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　船舶檢査證書ヲ受有セズシテ船舶ヲ航行ノ用ニ供シ又ハ特殊船檢査證書ヲ受有セズシテ船舶ヲ特殊ノ用途ニ使用シタルトキ

二　航行區域ヲ超エ又ハ從業制限ニ違反シテ船舶ヲ航行ノ用ニ供シタルトキ

三　制限汽壓ヲ超エテ汽罐ヲ使用シタルトキ

四　最大搭載人員ヲ超エテ旅客其ノ他ノ者ヲ搭載シタルトキ

五　滿載吃水線ヲ超エテ載荷シタルトキ

六　無線電信ノ施設ヲ要スル船舶ヲ其ノ施設ナクシテ航行ノ用ニ供シタルトキ

七　中間檢査ヲ受クベキ場合ニ於テ之ヲ受ケズシテ船舶ヲ航行ノ用ニ供シタルトキ

八　前各號ノ外船舶檢査證書ニ記載シタル條件ニ違反シテ船舶ヲ航行ノ用ニ供シ又ハ特殊船檢査證書ヲ記載シタル條件ニ違反シテ船舶ヲ特殊ノ用途ニ使用シタルトキ

九　管海官廳ノ許可ヲ受ケズシテ檢査ヲ受ケタル事項ニ變更ヲ爲シ又ハ其ノ事項ニ變更アリタルニ拘ラズ適當ノ措置ヲ爲サズシテ船舶ヲ航行ノ用ニ供シタルトキ

第十九條　詐僞ソノ他不正ノ行爲ヲ以テ第九條ニ掲グル證書ヲ受ケタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十條　船舶所有者又ハ船長第十二條又ハ第十三條ノ規定ニ依ル處分ニ違反シタルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十一條　正當ノ事由ナクシテ當該官吏ノ臨檢ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シ又ハ其ノ尋問ニ對シテ答辯ヲ爲サズ若ハ虛僞ノ陳述ヲ爲シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十二條　船舶乘組員虛僞ノ申立ヲ爲シ管海官廳ヲシテ第十三條ノ規定ニ依ル調査ヲ爲サシメタルトキハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條　船級協會ノ職員第八條ニ掲グル船舶ニ付第二條第一項第一號乃至第五號、第十號乃至第十二號ニ掲グル事項又ハ滿載吃水線ノ檢査ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若ハ約束シタルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲サザルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徵ス

第二十四條　船級協會ノ職員ニ前條ニ掲グル檢査ニ關シ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第二十五條　本法及本法ニ基ク命令ニ依リ船舶所有者ニ適用スベキ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ之ヲ適用シ國又ハ道府縣市町村其ノ他ノ公共團體ガ船舶所有者ナルトキハ之ヲ適用セズ

第二十六條　本法及本法ニ基ク命令中船舶所有者ニ關スル規定ハ船舶共有ノ場合ニ在リテ船舶管理人ヲ置キタルトキハ之ヲ船舶管理人ニ、船舶貸借ノ場合ニ在リテハ之ヲ船舶借入人ニ適用シ又船長ニ關スル規定ハ船長ニ代リテ其ノ職務ヲ行フ者ニ之ヲ適用ス

第二十七條　船舶ノ衝突豫防ニ關シ船舶ノ遵守スベキ船燈ノ表示、航法、信號其ノ他必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

前項ノ船舶ニハ海軍艦船ヲモ包含ス

第二十八條　危險物ノ運送禁止、遭難者救助、救命艇手、操練及操舵命令ニ關スル事項竝ニ危險及氣象ノ通報其ノ他船舶航行上ノ危險防止ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以

テ之ヲ定ム

第二十九條　前二條ニ規定スル事項ヲ除クノ外地方長官ハ第二條第一項ノ規定ヲ適用セザル船舶ノ堪航性及人命ノ安全ニ關シ主務大臣ノ認可ヲ受ケ必要ナル規則ヲ設クルコトヲ得

附　則

第三十條　本法施行ノ期日ハ第二條第一項第十一號ニ關スル規定、同條同項第十二號ニ關スル規定、第二十七條ノ規定竝ニ他ノ一般規定ニ付各別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十一條　船舶檢査法、船舶滿載吃水線法、船舶無線電信施設法及明治六年第二百九十二號布告ハ前項ノ一般規定施行ノ日ヨリ、海上衝突豫防法ハ第二十七條ノ規定ノ施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第三十二條　第二條第一項ノ規定ハ左ニ掲グル船舶ニハ當分ノ內之ヲ適用セズ

一　總噸數二十噸未滿ノ帆船

二　總噸數二十噸未滿ノ漁船

三　平水區域ノミヲ航行スル帆船

第三十三條　船舶滿載吃水線法ニ依リ滿載吃水線ノ標示ヲ要セザリシ船舶ニシテ本法ニ依リ其ノ標示ヲ要スルモノニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ滿載吃水線ニ關スル檢査ヲ受クル迄之ヲ標示セザルコトヲ得

第三十四條　本法施行前ニ生ジタル事項ニ付テハ仍舊法ニ依ル但シ船級協會ノ認定其ノ他命令ヲ以テ定ムル事項ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第三十五條　船舶檢査法ニ依リ船舶檢査證書若ハ假證書ヲ受有スル船舶又ハ之ヲ受有セズシテ航行ノ用ニ供スル船舶ニハ左ノ各號ノ一ニ該當スルニ至ル迄船舶檢査、滿載吃水線及無線電信施設ニ關シ仍舊法ニ依ル

一　航行期間滿了ノ爲船舶檢査法ニ依リ檢査ヲ受クベキトキ

二　船舶檢査法ニ依リ船舶檢査證書又ハ假證書ヲ受有セズシテ航行ノ用ニ供シ得ザルニ至リタルトキ

三　船舶滿載吃水線法ニ依リ滿載吃水線ノ指定ヲ受クベキトキ

第三十六條　前條ノ船舶同條各號ノ一ニ該當スルニ至リタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ檢査ヲ受クベシ

前項ノ檢査ニ合格シタル船舶ニハ船舶檢査證書ヲ交付ス但シ其ノ有效期間ハ四年以內ニ於テ管海官廳ノ定メタル期間トス

前項ノ有效期間ノ滿了ハ第五條第一項ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ第十條ニ規定スル有效期間ノ滿了ト看做ス

第三十七條　他ノ法令中航路定限、遠洋航路、近海航路、河海航路又ハ平水航路トアルハ各之ヲ航行區域、遠洋區域、近海區域、沿海區域又ハ平水區域トス

〔參照〕

明治六年八月九日第二百九十二號布告ハ危害品船積ノ法則ナリ

勅令

朕船舶安全法第二條第一項第十二號ニ關スル規定及同法第三十條ノ一般規定施行期日ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

昭和九年一月三十一日

內閣總理大臣　子爵　齋藤　實

遞信大臣　南　弘

勅令第十二號（官報二月一日）

船舶安全法第二條第一項第十二號ニ關スル規定及同法第三十條ノ一般規定ハ昭和九年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

昭和八年三月十五日公布法律第十一號船舶安全法抄錄

第二條第一項

船舶ハ左ニ掲グル事項ニ付命令ノ定ムル所ニ依リ施設スルコトヲ要ス

十二　電氣設備

第三十條　本法施行ノ期日ハ第二條第一項第十一號ニ關スル規定、同條同項第十二號ニ關スル規定、第二十七條ノ規定竝ニ他ノ一般規定ニ付各別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

朕船舶安全法施行令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

昭和九年一月三十一日

內閣總理大臣　子爵　齋藤　實

遞信大臣　南　弘

勅令第十三號（官報　二月一日）

船舶安全法施行令

第一條　船舶安全法第一條乃至第五條、第七條第一項、第八條、第九條第一項第二項第四項、第十條乃至第十二條、第十六條乃至第二十一條、第二十三條乃至第二十六條及

第二十九條ノ規定ハ日本船舶ニ非ザル船舶ニシテ同法第十四條各號ノ一ニ掲グルモノニ之ヲ準用ス

第二條　船舶安全法第十三條及第二十二條ノ規定ハ日本船舶ニ非ザル船舶ニシテ同法第十四條第一號又ハ第二號ニ掲グルモノニ之ヲ準用ス

第三條　遞信大臣漁船ニ關シ左ニ掲グル事項ニ付法律勅令ノ制定改廢案ヲ閣議ニ提出シ若ハ省令ノ制定改廢ヲ爲サントスルトキ又ハ漁船ニ關シ船舶安全法第二十九條ノ認可ヲ爲サントスルトキハ豫メ農林大臣ニ議スベシ

一　船舶ノ構造設備及之ニ關スル法ノ適用範圍

二　滿載吃水線ノ標示及無線電信施設ニ關スル法ノ適用範圍

三　船舶ノ從業制限

四　船舶檢査ノ種類、時期及機關

附則

本令ハ昭和九年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

外國船舶檢査規則ハ之ヲ廢止ス

船舶安全法第三十二條乃至第三十六條ノ規定ハ日本船舶ニ非ザル船舶ニシテ同法第十四條第一號又ハ第二號ニ掲グルモノニ、同法第三十二條及第三十三條ノ規定ハ日本船舶ニ非ザル船舶ニシテ同法第十四條第三號ニ掲グルモノニ之ヲ準用ス

日本船舶ニ非ザル船舶ニシテ船舶安全法第十四條第三號ニ掲グルモノニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ本令施行後一年ヲ限リ本令ニ依ラザルコトヲ得

省令

⊙遞信省令第四號（官報號外）

船舶安全法施行規則左ノ通定ム

昭和九年二月一日　遞信大臣　南　弘

船舶安全法施行規則

目次

第一章　總則
第二章　構造及設備
第三章　滿載吃水線
第四章　無線電信
第五章　航行區域
第六章　最大搭載人員
第七章　制限汽壓
第八章　檢査ヲ行フ場合
第九章　檢査申請ノ手續
第十章　檢査ノ執行
第十一章　檢査ノ方法
第一節　製造檢査　第二節　定期檢査
第三節　中間檢査　第四節　特殊船檢査及臨時檢査
第五節　雜則
第十二章　檢査ノ準備
第十三章　證書
第十四章　再檢査
第十五章　船舶乘組員ノ不服申立
第十六章　船級協會
第十七章　航海上ノ危險防止
第十八章　雜則
第十九章　罰則
附則

船舶安全法施行規則

第一章　總則

第一條　本令ニ於テ國際航海ト稱スルハ別ニ告示スル區域內ノ航海ヲ除クノ外一國ト他ノ國トノ間ノ航海ヲ謂フ各殖民地、海外領土、保護領又ハ完主權若ハ委任統治ノ下ニ在ル地域ハ前項ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ一國ト看做ス

第二條　本令ニ於テ短國際航海ト稱スルハ航海中海岸ヨリ二百海里ヲ超エザル國際航海ヲ謂ヒ長國際航海ト稱スル

ハ短國際航海以外ノ國際航海ヲ謂フ

第三條　本令ニ於テ漁船ト稱スルハ左ノ各號ノ一ニ該當スル船舶ヲ謂フ

一　專ラ漁獵ニ從事スル船舶

二　漁獵ニ從事スル船舶ニシテ漁獲物ノ保藏又ハ製造設備ヲ有スルモノ

三　專ラ漁獵場ヨリ漁獲物又ハ其ノ化製品ヲ運搬スル船舶

四　專ラ漁業ニ關スル試驗、調査、指導若ハ練習ニ從事スル船舶又ハ漁業ノ取締ニ從事スル船舶ニシテ漁獵設備ヲ有スルモノ

前項第一號ノ船舶ニハ其ノ附屬漁船ヲ以テ漁獵ニ從事スル船舶ヲ前項第二號ノ船舶ニハ其ノ附屬漁船ヲ以テ漁獵ニ從事シ且其ノ漁獲物ノ保藏又ハ製造ニ從事スル船舶ヲモ包含ス

第四條　本令ニ於テ移民船ト稱スルハ船舶安全法施行地內ノ港ニ於テ移民若ハ三等旅客五十人以上又ハ移民及三等旅客ヲ併セ五十人以上ヲ搭載シ近海區域外ノ港又ハ別ニ告示スル地方ニ到ル船舶ヲ謂フ

前項ノ移民トハ移民保護法第一條ニ該當スル者ヲ謂ヒ三等旅客トハ一室ニ八人以上雜居スル者ヲ謂フ

第五條　本令ニ於テ臨時旅客ト稱スルハ臨時ニ搭載シ得ル者ニシテ近海區域又ハ別ニ告示スル區域ニ於テハ漁夫、木材積取人夫、移住民其ノ他之ニ準ズル者又ハ軍隊、沿海區域ニ於テハ遊覽其ノ他ノ團體旅客ヲ謂フ

第六條　本令ニ於テ甲板旅客ト稱スルハ近海又ハ遠洋ノ航行區域ヲ有スル船舶ガ船舶安全法施行地ヲ除クノ外東ハ東經百八十度、西ハ同四十度、南ハ南緯十一度、北ハ北緯三十五度ノ線ニ依リ限ラレタル區域、紅海、黃海又ハ渤海灣ニ於テ船舶ノ暴露甲板上ニ搭載スル旅客ヲ謂フ

第七條　本令ニ於テ船舶ノ長サト稱スルハ船舶ノ上甲板梁上ニ於テ船首材ノ前面ヨリ船尾材ノ後面ニ至ル長サヲ謂フ

第八條　本令ノ規定ニ依ル申請、屆出又ハ證書若ハ證明書ノ返還ハ特ニ定ムル場合ヲ除クノ外船舶所有者又ハ船長之ヲ爲スベシ

第二章　構造及設備

第九條　船舶安全法第二條第一項ノ規定ハ倉庫船、繫留船被曳艀船其ノ他之ニ準ズル船舶ニハ之ヲ適用セズ

第十條　船舶安全法第二條第一項ノ規定ニ依リ船舶ニ施設スベキ事項及其ノ標準ハ鋼船ノ船體ニ付テハ漁船構造規程、木船ノ船體ニ付テハ木船構造規程、機關ニ付テハ船舶機關規程、設備及屬具ニ付テハ船舶設備規程ノ定ムル

所ニ依ル

第十一條　船舶安全法第三條ノ規定ニ依リ滿載吃水線ヲ標示スベキ船舶ハ前條ノ規定ニ依ルノ外其ノ船體及設備ニ付國際航海ニ從事スル旅客船ニ在リテハ船舶滿載吃水線規程及船舶區畫規程、其ノ他ノ船舶ニ在リテハ船舶滿載吃水線規程ノ定ムル所ニ依ル

第十二條　船舶安全法第二條第一項ノ規定ニ依リ漁船ニ付特ニ施設スベキ事項及其ノ標準ハ漁船特殊規程ノ定ムル所ニ依ル

第三章　滿載吃水線

第十三條　水先船、專ラ漁業ニ關スル試驗、調査、指導若ハ練習ニ從事スル船舶、漁業ノ取締ニ從事スル船舶又ハ肋骨ヲ有セズ且推進機關ヲ有セザル木船「ジアンク」其ノ他ノ原始的構造ノ木船ハ滿載吃水線ヲ標示スルコトヲ要セズ

第十四條　汽船ノ滿載吃水線ハ季節及區域ニ應ジ左ノ種類ニ分ツ

一　夏期滿載吃水線

二　冬期滿載吃水線

三　冬期北大西洋滿載吃水線

四　熱帶滿載吃水線

ニ對應スル各淡水滿載吃水線

帆船ノ滿載吃水線ハ季節及區域ニ應ジ左ノ種類ニ分ツ

一　海水滿載吃水線

二　冬期大西洋滿載吃水線

三　前各號ニ揭グル滿載吃水線ニ對應スル各淡水滿載吃水線

滿載吃水線ノ位置ノ決定竝ニ船舶ニ標示スベキ滿載吃水線ノ種類及標示ノ方法ハ船舶滿載吃水線規程ノ定ムル所ニ依ル

第十五條　國際航海ニ從事スル旅客船ハ前條ノ規定ニ依ル滿載吃水線ノ外區畫滿載吃水線ヲ標示スルコトヲ要ス

區畫滿載吃水線ノ位置ノ決定及標示ノ方法ハ船舶區畫規程ノ定ムル所ニ依ル

第十六條　國際航海ニ從事スル旅客船ニシテ特ニ旅客室ヲ貨物搭載所トシテ使用スルコトアルベキモノハ當該場所ノ使用狀態ニ對應スル二箇以上ノ區畫滿載吃水線ヲ標示スルコトヲ得

第十七條　甲板積木材貨物ヲ運送スル汽船ハ船舶滿載吃水線規程ノ定ムル所ニ依リ木材滿載吃水線ヲ標示スルコトヲ得

木材滿載吃水線ハ季節及區域ニ應ジ左ノ種類ニ分ツ

一　夏期木材滿載吃水線
二　冬期木材滿載吃水線
三　冬期北大西洋木材滿載吃水線
四　熱帶木材滿載吃水線
五　前各號ニ掲グル滿載吃水線ニ對應スル各淡水木材滿載吃水線

第十八條　船舶ハ平水區域又ハ瀨戸內（和歌山縣海草郡田倉埼ヨリ兵庫縣津名郡生石鼻ニ至ル線、兵庫縣三原郡門埼ヨリ德島縣板野郡孫埼ニ至ル線、愛媛縣西宇和郡佐田岬ヨリ大分縣北海郡關埼ニ至ル線及福岡縣企救郡門司埼ヨリ山口縣豐浦郡甲山ニ至ル線內ノ區域）ニ於テハ滿載吃水線ヲ超ユル吃水ヲ以テ航行スルコトヲ得但シ平水區域又ハ瀨戸內外ニ出航セントスル船舶ニ付テハ其ノ區域內ニ於ケル最後ノ港ヲ發航スルトキノ超過吃水ハ該港ヨリ其ノ區域外ニ達スル迄ニ推進ノ爲消費スベキモノノ重量ニ相當スルモノヨリ大ナルコトヲ得ズ

前項ノ規定ハ區畫滿載吃水線ニ付テハ之ヲ適用セズ

第十九條　船舶ガ船積港ヲ發航シタル後不可抗力ニ因リ豫定ノ航路ヲ變更シ又ハ航海ヲ遲延シタル爲其ノ吃水ガ當該季節及區域ニ付定メラレタル滿載吃水線ヲ超ユルニ至リタルトキト雖モ其ノ儘其ノ目的港迄航行スルコトヲ得

第二十條　滿載吃水線ヲ標示シタル船舶ガ其ノ標示ヲ要セザルモノト爲リタルトキ又ハ木材滿載吃水線ヲ標示シ得ザルニ至リタルトキハ船舶所有者又ハ船長ハ當該標示ヲ抹消スベシ但シ臨時ニ標示ヲ要セザルモノト爲リタル場合ニ於テハ之ヲ存續スルコトヲ得

第二十一條　前條ノ規定ニ依リ滿載吃水線ノ標示ノ全部ヲ抹消スベキ場合ニ於テハ乾舷甲板ヲ標示スル水平線及圓標ノ中心ヲ通過スル水平線ニ限リ之ヲ存置スルモ妨ナシ

第四章　無線電信

第二十二條　左ノ各號ノ一ニ該當スル船舶ハ無線電信ヲ施設セザルコトヲ得但シ漁船ニ付テハ漁船特殊規則ノ定ムル所ニ依ル

一　旅客船ニシテ海岸ヨリ二十海里ヲ超エザル區域內又ハ相次グ二港間ノ外海ニ於ケル距離二百海里ヲ超エザル航路ノミヲ航行スルモノ
二　旅客船ニシテ別表第一號ニ定ムル區域內ノミヲ航行スルモノ
三　旅客船ニ非ザル船舶ニシテ海岸ヨリ百五十海里ヲ超エザル區域內ノミヲ航行スルモノ
四　無線電信ヲ施設スルコト實際上不可能ナル原始的構造ノ船舶ニシテ管海官廳ノ認可ヲ受ケタルモノ

第二十三條　船舶安全法第四條第一項ノ規定ニ依リ無線電信ヲ施設スベキ船舶ト雖モ左ノ各號ノ場合ニ該當スルトキハ管海官廳ノ認可ヲ受ケ一定期間ヲ限リ無線電信ヲ施設セザルコトヲ得

一　無線電信ノ施設ナクシテ航行スルコトヲ得ル航路ニ就航スル爲他ヨリ回航スルトキ
二　無線電信ノ施設ヲ要セザル船舶ガ航路、噸數又ハ旅客定員ノ變更ノ爲其ノ施設ヲ要スルモノト爲リタルモ直ニ之ヲ爲スコト能ハザル事由アルトキ
三　無線電信ノ施設ヲ要セザル船舶ガ臨時ニ旅客定員ヲ變更シタル爲其ノ施設ヲ要スルモノト爲リタルトキ

前項第二號又ハ第三號ノ場合ニ於テ當該船舶ガ國際航海ニ從事スルモノナルトキハ臨時ニ之ニ從事スル場合ヲ除クノ外前項ノ規定ハ之ヲ適用セズ

第二十四條　第二十二條第四號ノ認可ヲ受ケントスルトキハ其ノ事由ヲ具シタル申請書ヲ、前條ノ認可ヲ受ケントスルトキハ其ノ事由及期間ヲ記載シタル申請書ヲ最寄管海官廳ニ提出スベシ

第五章　航行區域

第二十五條　航行區域ヲ分チテ左ノ四種トス

一　平水區域
二　沿海區域
三　近海區域
四　遠洋區域

第二十六條　平水區域ハ湖川港內及左ニ掲グル各區域トス

第一區　神奈川縣三浦郡千駄埼ヨリ同郡笠島ヲ經テ千葉縣君津郡富津埼ニ至ル線內

第二區　靜岡縣安部郡三保埼ヨリ同縣田方郡御濱埼ニ至ル線內

第三區　愛知縣渥美郡伊良湖埼ヨリ三重縣志摩郡菅島ヲ經テ同郡松ケ鼻ニ至ル線內

第四區　和歌山縣東牟婁郡駒埼ヨリ同郡太地埼ニ至ル線內

第五區　和歌山縣有田郡宮崎ヨリ同縣海草郡田倉埼ヲ經テ兵庫縣津名郡生石鼻ニ至ル線及同郡江埼燈臺ヨリ眞方位三百三十度ニ引キタル線內

第六區　兵庫縣加古郡加古川口ヨリ兵庫縣飾磨郡男鹿島及香川縣小豆郡大角鼻ヲ經テ同縣大川郡馬ノ鼻ニ至ル線、愛媛縣溫泉郡轡山ヨリ山口縣大島郡平郡島ヲ經テ同縣熊毛郡長島東端ニ至ル線竝ニ同島小山ノ鼻ヨリ同郡揖取埼ニ至ル線內

第七區　山口縣熊毛郡島田川口ヨリ同縣都濃郡笠戸島火

振埼ヲ經テ同縣佐波郡向島翁埼ニ至ル線及同島牛ケ頸ヨリ同縣吉敷郡丸尾埼ニ至ル線內

第八區　愛媛縣西宇和郡女岬埼ヨリ同縣東宇和郡大埼ヲ經テ同縣北宇和郡赤埼鼻ニ至ル線內

第九區　大分縣東國東郡美濃埼ヨリ同縣北海部郡闘埼、同郡沖垢島、同郡保戸島及同縣南海部郡大島ヲ經テ同郡鶴見埼ニ至ル線內

第十區　山口縣厚狹郡宇部岬ヨリ福岡縣企救郡尾上川口ニ至ル線竝ニ福岡縣遠賀郡沖田埼ヨリ同縣企救郡馬島及山口縣豐浦郡六連島ヲ經テ同郡村崎鼻ニ至ル線內

第十一區　山口縣大津郡今岬ヨリ同郡靑海島西北端ニ至ル線及同島東端ヨリ同縣阿武郡虎ケ埼ニ至ル線內

第十二區　福岡縣糸島郡西浦三埼ヨリ同縣糟屋郡志賀島大埼ニ至ル線內

第十三區　福岡縣糸島郡串埼ヨリ佐賀縣東松浦郡神集島及同郡加部島ヲ經テ同郡波戸埼ニ至ル線內

第十四區　佐賀縣東松浦郡値賀埼ヨリ同郡向島、長崎縣北松浦郡黑島及同郡靑島ヲ經テ同郡津埼ニ至ル線內

第十五區　長崎縣上縣郡唐洲埼ヨリ同縣下縣郡鄕埼ニ至ル線及同郡折瀨鼻ヨリ眞方位零度ニ引キタル線內

第十六區　長崎縣北松浦郡大瀨埼ヨリ同郡平戸島魚見埼ニ至ル線及同島坊山埼ヨリ同郡黑島ヲ經テ同郡七郎埼ニ至ル線內

第十七區　長崎縣北松浦郡向後埼ヨリ同縣西彼杵郡番所埼ニ至ル線內

第十八區　長崎縣西彼杵郡三重埼ヨリ同郡野母埼ニ至ル線內

第十九區　長崎縣南高來郡瀨詰埼ヨリ熊本縣天草郡天草下島大島埼ニ至ル線、同島鶴埼ヨリ同郡下須島「ビシヤゴ」瀨ノ鼻ニ至ル線、同島尾埼ヨリ鹿兒島縣出水郡長島大埼ニ至ル線及同島南端ヨリ眞方位九十度ニ引キタル線內

第二十區　鹿兒島縣揖宿郡金比羅ノ鼻ヨリ同縣肝屬那小根占埼ニ至ル線內

第二十一區　鹿兒島縣大島郡奄美大島神ノ鼻ヨリ同郡加計呂麻島「カネンテ」埼ニ至ル線及同島西端ヨリ同郡江仁屋離、同郡奄美大島曾津高埼及同郡枝手久島戸倉埼ヲ經テ同郡奄美大島倉木埼ニ至ル線內

第二十二區　島根縣知夫郡知夫島帶ケ埼ヨリ同郡西ノ島漕廻鼻ニ至ル線、同島東端ヨリ同縣海士郡中ノ島北端ニ至ル線及同島木橋ケ埼ヨリ同縣知夫郡知夫島東端ニ至ル線內

第二十三區　島根縣八束郡地藏埼ヨリ鳥取縣西伯郡日野川口ニ至ル線內

第二十四區　京都府與謝郡鷲埼ヨリ同縣加佐郡博奕埼ニ至ル線內

第二十五區　福井縣敦賀郡立石埼ヨリ同郡「ヲカ」埼ニ至ル線內

第二十六區　石川縣鳳至郡沖波鼻ヨリ同縣鹿島郡觀音埼ニ至ル線內

第二十七區　靑森縣東津輕郡明神埼ヨリ同縣下北郡貝埼ニ至ル線內

第二十八區　宮城縣宮城郡花淵埼ヨリ同縣桃生郡宮戸島萱ノ埼ニ至ル線內

第二十九區　北海道上磯郡葛登支岬ヨリ同龜田郡函館山大鼻岬ニ至ル線內

第三十區　北海道壽都郡辨慶岬ヨリ同磯谷郡尻別川口ニ至ル線內

第三十一區　北海道高島郡高島岬ヨリ小樽郡神威古潭ニ至ル線內

第三十二區　北海道釧路郡尻羽岬ヨリ同厚岸郡大黑島ヲ經テ同郡「ルムセシマ」岬ニ至ル線內

第三十三區　臺北州野柳半島龜頭鼻ヨリ同州基隆島ヲ經テ同州鼻頭角ニ至ル線內

第三十四區　澎湖廳馬港要港區域外

第三十五區　高雄州猫鼻頭ヨリ同州鷲巒鼻ニ至ル線內

第二十七條　沿海區域ハ左ニ揭グル各區域トス

一　北海道本島、北海道國後島、同擇捉島、同色丹島、同志勃島、同禮文島、同利尻島、同奥尻島、本州、靑森縣久六島、島根縣隱岐列島、山口縣見島、四國、九州、長崎縣五島列島、熊本縣天草島、鹿兒島縣甑列島、同縣大隅群島、臺灣本島、澎湖列島、臺北州彭佳嶼、臺東廳火燒島及同廳紅頭嶼ノ各海岸ヨリ二十海里以內ノ區域

二　千葉縣安房郡野島埼ヨリ東京府神津島ヲ經テ靜岡縣賀茂郡石室埼ニ至ル線內ノ區域

三　秋田縣由利郡鹽越鼻ヨリ石川縣舳倉島ヲ經テ石川縣鳳至郡猿山埼ニ至ル線內ノ區域

四　山口縣豐浦郡觀音埼ヨリ慶尙南道蔚埼ニ至ル線及長崎縣北松浦郡生月島北端ヨリ慶尙南道古突山半島南東端ニ至ル線內ノ區域

五　北海道宗谷郡野寒岬ヨリ樺太西能登呂岬ニ至ル線及北海道宗谷郡宗谷岬ヨリ樺太中知床岬ニ至ル線內ノ區域

六　東京府聟島、父島及母島ノ各海岸ヨリ二十海里以内ノ區域

七　鹿兒島縣奄美群島ノ各海岸ヨリ二十海里以内ノ區域

八　沖繩縣沖繩島及同縣島尻郡ノ各島ノ海岸ヨリ二十海里以内ノ區域

第二十八條　近海區域ハ東ハ東經百七十五度、西ハ同九十四度、南ハ南緯十一度、北ハ北緯六十三度ノ線ニ依リ限ラレタル區域トス

近海區域ハ之ヲ左ノ三區ニ分ツ

第一區　東ハ東經百七十五度、西ハ同百十三度、南ハ北緯二十一度、北ハ同六十三度ノ線ニ依リ限ラレタル區域

第二區　東ハ東經百三十度、西ハ同百二度、南ハ北緯四度、北ハ同二十七度ノ線ニ依リ限ラレタル區域及邏羅海灣

第三區　東ハ東經百七十五度、西ハ同九十四度、南ハ南緯十一度、北ハ北緯二十一度ノ線ニ依リ限ラレタル區域ヨリ第二區ノ區域ヲ除キタル區域

第二十九條　遠洋區域ハ總テノ水面ヲ包含スル區域トス

第三十條　管海官廳船舶ノ航行區域ヲ定ムルニ當リ船舶ノ種類、構造、設備、大小若ハ用途又ハ季節ニ依リ必要アリト認ムルトキハ區域ヲ制限シ又ハ之ニ期間ヲ附スルコトヲ得

第三十一條　管海官廳ハ第二級船ニ付テハ遠洋ノ航行區域ヲ、第三級船ニ付テハ近海以上ノ航行區域ヲ、第四級船ニ付テハ沿海以上ノ航行區域ヲ定ムルコトヲ得ズ

第三十二條　管海官廳總噸數二百噸未滿ノ旅客船ニ付沿海ノ航行區域ヲ定ムル場合ニハ左ニ掲グル區間ヲ包含セシムルコトヲ得ズ

一　北海道宗谷郡宗谷岬ヨリ同斜里郡知床岬ニ至ル區間

二　擇捉島沿岸

三　北海道十勝郡大津川口ヨリ同幌泉郡襟裳岬ニ至ル區間

四　青森縣下北郡尻矢埼ヨリ同縣三戸郡馬淵川口ニ至ル區間

五　宮城縣宮城郡花淵埼ヨリ福島縣雙葉郡請戸川口ニ至ル區間

六　茨城縣東茨城郡大洗岬ヨリ千葉縣長生郡大東埼ニ至ル區間

七　靜岡縣榛原郡御前埼ヨリ愛知縣渥美郡伊良湖埼ニ至ル區間

第三十三條　船舶安全法施行地外ノ各港間又ハ湖川港内ノ

ミヲ航行スル船舶ノ航行區域ハ管海官廳ニ於テ第二十六條乃至第二十八條ノ規定ニ準ジ之ヲ定ムルコトヲ得

第三十四條　平水ノ航行區域ヲ有スル船舶ハ管海官廳ノ認可ヲ受ケ當該區域ヨリ其ノ船舶ノ最强速力ヲ以テ二時間以内ニ又平穩ナル季節ニ限リ四時間以内ニ往復シ得ベキ平水區域外ニ航行スルコトヲ得

第三十五條　特殊ノ用途ニ使用スル船舶已ムコトヲ得ザル事由アルトキハ管海官廳ノ認可ヲ受ケ其ノ航行區域外ニ航行スルコトヲ得

第三十六條　前二條ノ規定ニ依ル認可ヲ受ケントスルトキハ事由ヲ具シタル申請書ヲ最寄管海官廳ニ提出スベシ

前條ノ場合ニ於テ旅客又ハ貨物ヲ搭載セントスルトキハ申請書ニ其ノ旨ヲ附記スベシ

第三十七條　船舶左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ管海官廳ノ認可ヲ受ケ其ノ航行區域ヲ超エテ之ヲ回航スルコトヲ得

一　日本船舶ヲ所有スルコトヲ得ザル者ニ船舶ヲ讓渡スル目的ヲ以テ之ヲ船舶安全法施行地外ニ回航スルトキ

二　船舶ヲ修繕シ又ハ檢査ヲ受クル爲之ヲ工場所在地又ハ檢査ヲ受クル場所ニ回航スルトキ

三　航行區域外ニ在ル船舶ヲ航行區域内ニ回航スルトキ

四　航行區域變更ノ爲船舶ヲ航行區域外ニ回航スルトキ

前項ノ規定ニ依ル認可ヲ受ケントスルトキハ事由ヲ具シタル申請書ヲ最寄管海官廳ニ提出スベシ

第一項各號ノ場合ニ於テ旅客又ハ貨物ヲ搭載セントスルトキハ申請書ニ其ノ旨ヲ附記スベシ

第三十八條　船舶檢査證書ノ有效期間内ニ於テ航行區域ヲ變更セントスルトキハ申請書ニ新舊航行區域ヲ列記シ船舶檢査手帖ヲ添ヘ之ヲ最寄管海官廳ニ提出シ其ノ認可ヲ受クベシ

第三十九條　漁船ノ從業制限ハ漁船特殊規則ノ定ムル所ニ依ル

第六章　最大搭載人員

第四十條　最大搭載人員ハ管海官廳ニ於テ船舶ノ航行區域、設備等ニ應ジ旅客、船員及其ノ他ノ者ニ付各別ニ之ヲ定ム

旅客、船員及其ノ他ノ者ハ各其ノ最大搭載人員ヲ超エ又ハ其ノ搭載場所ニ對スル定員ヲ超エテ之ヲ搭載スルコトヲ得ズ但シ傷病船員ノ補充、海難救助其ノ他已ムコトヲ得ザル事由ニ因リ臨時ニ搭載シタル人員ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第四十一條　最大搭載人員算定ノ標準ハ船舶設備規程ノ定ムル所ニ依ル但シ漁船ニ付テハ漁船特殊規程ノ定ムル所

ニ依ル

第四十二條　船舶ニ搭載スル人員ハ十二年未滿ノ者二人ヲ以テ一人ニ換算シ一年以下ノ者ハ之ヲ算入セズ

第四十三條　左ニ掲グル者ハ旅客ト看做サズ

一　船舶所有者、船舶管理人、船舶借入人及船荷上乘人

二　稅關吏員、檢疫吏員、通信吏員、水先人其ノ他船員ニ非ズシテ船内ニ於テ業務ニ從事スル者

第四十四條　第五十七條第一項第二號第三號又ハ第二項ノ規定ニ依リ特殊船檢査ヲ受ケ之ニ合格シタル船舶ハ船舶檢査證書ニ記載スル最大搭載人員ノ外特殊船檢査證書ニ記載スル人員ヲ搭載スルコトヲ得但シ臨時ノ遊覽其ノ他ノ團體旅客ヲ搭載スル船舶ニ付テハ其ノ運送區域ガ平水區域ニ非ザルトキハ當該船舶ノ總噸數二百噸以上、航行豫定時間六時間未滿ニシテ且管海官廳ニ於テ離島其ノ他交通不便ナル地方ノ旅客運送上已ムコトヲ得ズト認メタル場合ニ限ル

第四十五條　船舶檢査證書ノ有效期間内ニ於テ最大搭載人員ヲ變更セントスルトキハ事由ヲ具シタル申請書ニ船舶檢査手帖ヲ添ヘ之ヲ最寄管海官廳ニ提出シ其ノ認可ヲ受クベシ

第四十六條　旅客室ニハ其ノ見易キ場所ニ左ノ各號ノ規定ニ依ル表示ヲ爲スベシ

一　一等室及二等室ニハ各室ニ其ノ等級及定員ヲ表示スベシ但シ總出入口其ノ他適當ノ場所ニ等級ノ表示ヲ爲ストキハ各室ニ之ヲ表示セザルモ妨ナク又其ノ定員ガ寢臺數ト同一ナル室ニハ之ヲ表示セザルモ妨ナシ

二　三等室ニハ各室ニ其ノ等級及定員ヲ表示シ且雜居客棚ヲ設ケタル室ニ在リテハ各客棚ノ定員ヲ記入シタル客棚配置圖ヲ掲グベシ

三　臨時旅客ヲ搭載スル室ニハ其ノ旅客ノ種類及定員ヲ表示スベシ

旅客若ハ船員ニ非ザル者ヲ搭載スル室及雜居船員室ニハ其ノ室名及定員ヲ、其ノ他ノ船員室ニハ其ノ室名ヲ表示スベシ

第四十七條　客室ト船員室トハ常ニ區別シ置クベシ

旅客及船員ハ第四十三條各號ニ掲グル者ノ室ニ之ヲ搭載スルコトヲ得ズ

旅客室又ハ船員室ニ第四十三條各號ニ掲グル者ヲ搭載シタルトキハ最大搭載人員ニ關シテハ之ヲ旅客又ハ船員ト看做ス

第四十八條　旅客、船員又ハ其ノ他ノ者ノ室ニ貨物ヲ搭載シタルトキハ該室ノ定員ヨリ貨物ノ占有スル場所ニ相當

スル人員ヲ減少シタルモノヲ以テ其ノ定員ト看做ス

第七章　制限汽壓

第四十九條　制限汽壓ハ機關ノ構造及現狀ニ應ジ船舶機關規程ニ依リ之ヲ定ム

第五十條　制限汽壓ヲ定メタルトキハ管海官廳ハ逃汽試驗ヲ執行シテ安全辨ヲ封鎖ス其ノ封鎖ヲ解放シタルトキ亦同ジ

第五十一條　船長ハ安全辨ノ鍵ヲ船内ニ保管シ已ムコトヲ得ザル事由アル場合ヲ除クノ外安全辨ノ封鎖ヲ解放スルコトヲ得ズ

已ムコトヲ得ザル事由ニ因リ安全辨ノ封鎖ヲ解放シタルトキハ船長ハ遲滯ナク最寄管海官廳ニ其ノ事由ヲ具シ更ニ安全辨ノ封鎖ヲ申請スベシ

第八章　檢査ヲ行フ場合

第五十二條　船舶安全法第二條第一項ノ規定ノ適用ヲ受ケザル船舶ガ其ノ適用ヲ受クルモノト爲リタルトキハ定期檢査ヲ受クベシ

第五十三條　定期檢査ハ船舶檢査證書ノ有效期間内ト雖モ申請ニ依リ管海官廳ニ於テ其ノ時期ヲ繰上ゲ之ヲ行フコトヲ得

第五十四條　中間檢査ハ船舶檢査證書ノ有效期間内ニ於テ汽船及蒸汽機關ヲ有スル帆船ニ在リテハ其ノ定期檢査又ハ中間檢査ヲ受ケタル時ヨリ十二月毎ニ、其ノ他ノ帆船ニ在リテハ其ノ定期檢査ヲ受ケタル時ヨリ二十四月毎ニ之ヲ行フ

前項ノ規定ニ依リ中間檢査ヲ受クベキ時期ニ該當スルモ之ヲ受ケズシテ引續キ航海ヲ爲スコトヲ必要トスル事情アル船舶ニ付テハ第百二十二條ノ規定ヲ準用ス

第五十五條　第百十八條各號ノ一ニ該當スル船舶ハ中間檢査ヲ受クルコトヲ要セズ

前項ノ船舶ガ第百十八條各號ニ該當セザル船舶ト爲リタルトキハ管海官廳ニ於テ當該船舶ノ現狀ニ應ジ次回中間檢査ヲ受クベキ時期ヲ指定ス

第五十六條　中間檢査ハ之ヲ受クベキ時期ニ該當セザル場合ト雖モ申請ニ依リ管海官廳ニ於テ其ノ時期ヲ繰上ゲ之ヲ行フコトヲ得

第五十七條　特殊船檢査ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ之ヲ行フ

一　移民船ガ船舶安全法施行地ニ於ケル最後ノ港ヲ發航セントスルトキ

二　船舶ガ臨時旅客ヲ運送セントスルトキ

三　船舶ガ甲板旅客ヲ運送セントスルトキ

漁船ニ付テハ漁船特殊規則ノ定ムル場合ニ於テ特殊船檢査ヲ行フ

第五十八條　臨時檢査ハ船舶ガ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ之ヲ行フ

一　第三十六條第一項、第三十七條第二項、第三十八條第四十五條、第五十一條第二項、第百二十二條第三項若ハ第百三十五條第二項ノ規定ニ依ル申請又ハ第百七十七條ノ規定ニ依ル屆出アリタル場合ニ於テ管海官廳檢査ヲ行フノ必要アリト認メタルトキ

二　修繕、自然衰耗其ノ他ノ事由ニ因リ滿載吃水線ヲ變更スベキ必要アルトキ

三　滿載吃水線ヲ標示シ又ハ無線電信ヲ施設スルコトヲ要セザル船舶ガ滿載吃水線ヲ標示シ又ハ無線電信ヲ施設スルコトヲ要スルモノト爲リタルトキ

四　第十六條ノ規定ニ依リ區畫滿載吃水線ヲ標示シ又ハ第十七條第一項ノ規定ニ依リ木材滿載吃水線ヲ標示セントスルトキ

五　管海官廳ノ指定スル所ニ依リ船舶ノ特定部分ニ付檢査ヲ受クベキ時期ニ該當シタルトキ

六　前各號ニ掲グル場合ノ外船舶檢査證書ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生ジタル場合ニ於テ管海官廳檢査ヲ行フノ必要アリト認メタルトキ

七　其ノ他管海官廳ニ於テ檢査ヲ行フノ必要アリト認メタルトキ

第五十九條　船舶檢査證書ノ有效期間內ニ繫船ヲ再ビ航行ノ用ニ供セントスル場合ニ於テ繫船期間中ニ中間檢査ヲ受クベキ時期ヲ經過シタルトキハ中間檢査ヲ、未ダ中間檢査ヲ受クベキ時期ニ該當セザルトキハ臨時檢査ヲ受クベシ

第六十條　中間檢査ヲ受クベキ場合ニ於テ定期檢査ヲ受ケタルトキハ中間檢査ヲ、臨時檢査ヲ受クベキ場合ニ於テ定期檢査又ハ中間檢査ヲ受ケタルトキハ臨時檢査ヲ行ハズ

第六十一條　朝鮮若ハ關東州ノ船籍又ハ外國ノ國籍ヲ取得スル目的ヲ以テ船舶安全法施行地ニ於テ製造セラルル船舶ニ付テハ製造檢査ヲ行ハズ

前項ノ船舶ガ其ノ製造中日本ノ國籍ヲ取得スル目的ヲ以テ製造セラルルモノト爲リタルトキハ管海官廳ハ當該船舶ニ付製造檢査ヲ行ハザルコトアルベシ

第六十二條　管海官廳ハ船舶檢査執行地外ニ於テ製造セラルル船舶ニ付テハ船舶安全法第六條第一項ノ規定ニ依ル製造檢査ヲ行フコトヲ得

船舶檢査執行地外ニ於テ製造セラルル船舶ニ付テハ船舶安全法第六條第二項ノ規定ニ依ル製造檢査ヲ行ハズ

第六十三條　船舶用機關ニシテ其ノ備附クベキ船舶ノ特定セザルモノハ左ノ各號ニ掲グルモノニ限リ船舶安全法第六條第三項ノ規定ニ依ル檢査ヲ受クルコトヲ得

一　往復動汽機　汽筒ノ徑ノ和ガ五百ミリメートル以上ノモノ

二　タービン汽機　三百軸馬力以上ノモノ

三　發動機　汽筒ノ徑ノ和ガ五百ミリメートル以上ノモノ

四　汽罐　受熱面積ガ二十平方メートル以上ノモノ

第九章　檢査申請ノ手續

第六十四條　定期檢査、中間檢査、特殊船檢査又ハ臨時檢査ヲ受ケントスルトキハ船舶檢査申請書（第一號書式）ヲ管海官廳ニ提出スベシ

檢査申請者ハ船舶ガ初メテ檢査ヲ受クル場合ヲ除クノ外船舶檢査申請書ニ船舶檢査手帖ヲ添附スベシ

第六十五條　初メテ滿載吃水線ニ關スル檢査ヲ受ケントスルトキハ船舶檢査申請書ニ左ニ掲グル圖面ヲ添附スベシ但シ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ其ノ一部ヲ省略スルコトヲ得

一　船體中央橫截面圖（縱通板各條ノ幅ヲモ記載スベシ）

二　船體中心線縱截面ノ諸材構造配置圖

三　甲板及艙內平面ノ諸材構造配置圖

四　甲板平面圖

五　船體線圖

六　排水量曲線圖（最上層全通甲板迄ノ各吃水ニ對スル全排水量及每一センチメートル排水量ヲ示スモノ）

前項第五號及第六號ノ圖面ハ鋼船ニ在リテハ肋骨ノ外面ニ、木船ニ在リテハ外板ノ外面ニ對スルモノナルコトヲ要ス

第六十六條　前條第一項ニ掲グル圖面ノ外木材滿載吃水線ノ指定ヲ受ケントスルトキハ甲板積木材貨物ノ積附及定著ニ要スル裝置竝ニ其ノ配置ヲ示ス圖面ヲ、區畫滿載吃水線ノ指定ヲ受ケントスルトキハ左ノ書類ヲ船舶檢査申請書ニ添附スベシ

一　限界線迄ノ各吃水ニ對スル浮力ノ中心ヨリ縱ノ「メタセンター」ニ至ル高サヲ示ス曲線圖

二　限界線迄ノ各吃水ニ對スル船舶ノ長サノ中央ヨリ吃水面ノ中心（浮泛中心）ニ至ル距離ヲ示ス曲線圖

三　限界線迄ノ橫截面積ヲ示ス曲線圖

四　可許長曲線圖

五　可許長計算表

第六十七條　製造檢査ヲ受ケタル船舶ニ付初メテ定期檢査ヲ受ケントスルトキハ船舶檢査申請書ニ其ノ合格證明書ヲ添附スベシ但シ製造檢査ニ引續キ定期檢査ヲ受ケントスル船舶ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

船舶安全法第六條第三項ハ規定ニ依ル檢査ヲ受ケタル船舶用機關ヲ船舶ニ備附クル場合ニ於テ檢査ヲ受ケントスルトキ亦前項ニ同ジ

第六十八條　船舶安全法第八條ニ揭グル船舶ニ付管海官廳ノ檢査ヲ受ケントスルトキハ船舶檢査申請書ニ當該船級協會ノ檢査ニ關スル證明書ヲ添附スベシ

第六十九條　製造檢査ヲ受ケントスルトキハ船舶ノ製造者ハ製造著手前製造檢査申請書（第二號書式）ヲ管海官廳ニ提出スベシ

前項ノ申請書ニハ製造仕樣書竝ニ船體及機關ノ各部ノ構造及配置ヲ示ス圖面ヲ添附スベシ

第七十條　船舶安全法第六條第三項ノ規定ニ依ル檢査ヲ受ケントスルトキハ船舶用機關ノ製造者ハ機關檢査申請書（第三號書式）ヲ管海官廳ニ提出スベシ

船舶用機關ノ製造中ヨリ前項ノ檢査ヲ受ケントスルトキハ機關檢査申請書ニ製造仕樣書及機關ノ構造ヲ示ス圖面ヲ添附シ製造著手前之ヲ管海官廳ニ提出スベシ

第七十一條　第十六條ノ規定ニ依リ二箇以上ノ區畫滿載吃水線ヲ標示セントスル船舶ニ付テハ船舶檢査申請書ニ貨物ヲ搭載スルコトアルベキ旅客室ノ詳細ナル關係事項ヲ記載シタル書類ヲ添附スベシ

第七十二條　第七十五條ノ規定ニ依リ休暇日ニ檢査ヲ受ケントスルトキハ成ルベク二日前迄ニ其ノ旨ヲ管海官廳ニ申出ヅベシ

第十章　檢査ノ執行

第七十三條　檢査ハ船舶檢査執行地ニ於テ之ヲ行フ

船舶檢査執行地ハ別ニ之ヲ告示ス

第七十四條　檢査ハ申請ニ依リ船舶檢査執行地外ニ於テ之ヲ行フコトアルベシ但シ船舶安全法第六條第三項ノ規定ニ依ル檢査ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ規定ニ依リ檢査ヲ受ケントスルトキハ檢査申請者ハ其ノ理由ヲ申請書ニ附記スベシ

第七十五條　遞信大臣ノ特ニ指定シタル船舶檢査執行地ニ於テハ急遽ノ檢査ヲ必要トスル場合ニ限リ休暇日ト雖モ檢査ヲ行フ

管海官廳ハ事務ノ都合ニ依リ前項ノ船舶檢査執行地外ニ於テモ臨時ニ休暇日檢査ヲ行フコトアルベシ

第七十六條　船舶ノ檢査ヲ行フトキハ檢査事項ニ應ジ船長又ハ機關長、若シ船長又ハ機關長差支アルトキハ之ニ代リテ其ノ職務ヲ行フ船舶職員之ニ立會フベシ

前項ニ揭グル者ノ乘組マザル船舶ノ檢査、製造檢査又ハ船舶用機關ノ檢査ヲ行フトキハ檢査申請者ハ適當ノ者ヲ指定シテ之ニ立會ハシムベシ

第七十七條　前條ニ依リ檢査ニ立會ヒタル者ハ檢査ニ必要ナル援助ヲ爲シ又ハ書類ヲ査閲ニ供スベシ

第七十八條　檢査ニ立會フ者ナキトキ又ハ檢査ニ立會ヒタル者前條ノ規定ニ違反シタルトキハ管海官廳ハ檢査ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

第七十九條　管海官廳ハ檢査ノ爲必要アリト認ムルトキハ第六十四條乃至第七十一條ニ揭グル書類ノ外必要ナル書類ノ提出ヲ命ズルコトヲ得

第八十條　檢査申請者已ムコトヲ得ザル事由アルトキハ事由ヲ具シタル書面ヲ管海官廳ニ提出シ其ノ檢査ヲ他ノ管海官廳ニ引繼又ハ囑託センコトヲ申請スルコトヲ得

前項ノ申請アリタル場合ニ於テ管海官廳差支ナシト認ムルトキハ其ノ檢査ヲ他ノ管海官廳ニ引繼又ハ囑託スルコトヲ得

第八十一條　管海官廳滿載吃水線ヲ定メタルトキハ船舶滿載吃水線指定書（第四號書式）ヲ檢査申請者ニ交付ス

檢査申請者船舶滿載吃水線指定書ノ交付ヲ受ケタルトキハ船舶ニ滿載吃水線ヲ標示シ書面又ハ口頭ヲ以テ管海官廳ニ標示ノ檢査ヲ受ケントスル期日及場所ヲ申出ヅベシ

第八十二條　管海官廳定期檢査、中間檢査、特殊船檢査又ハ臨時檢査ヲ結了シタルトキハ船舶檢査手帖ヲ封緘シ之ヲ船長ニ交付ス

船長ハ船舶檢査手帖ヲ船內ニ保管スベシ

船舶檢査手帖ハ管海官廳又ハ帝國領事官ニ於テ檢閲スル場合ヲ除クノ外何人ト雖モ之ヲ開封スルコトヲ得ズ

第八十三條　船舶檢査手帖ヲ滅失又ハ毀損シタルトキハ船長ハ遲滯ナク其ノ事由ヲ具シ最寄管海官廳ニ再交付ヲ申請スベシ

船舶檢査手帖ノ毀損ニ因リ其ノ再交付ヲ受ケタルトキハ船長ハ之ト引換ニ舊手帖ヲ當該管海官廳ニ返還スベシ

船舶檢査手帖ノ封緘ヲ毀損シタルトキハ船長ハ遲滯ナク其ノ事由ヲ具シ最寄管海官廳ヨリ更ニ其ノ封緘ヲ受クベシ

第十一章　檢査ノ方法

第一節　製造檢査

第八十四條　製造檢査ニ於テハ船體、機關及設備ノ設計、

材料竝ニ工事ニ付檢査ヲ行フ

第八十五條　製造檢査申請者ハ工事著手前製造仕樣書及圖面ニ依リ設計ニ付檢査ヲ受ケ且左ノ各號ノ時期ニ於テ工事ニ付檢査ヲ受クベシ

一　船體

（一）龍骨ヲ据附クルトキ竝ニ船首材及船尾材ヲ建立セントスルトキ

（二）肋骨組成中及組成後建立セントスルトキ

（三）內龍骨、縱通材及梁ヲ取附ケントスルトキ

（四）甲板及外板ヲ數枚張リタルトキ

（五）水壓試驗ヲ執行スルトキ

（六）外板ヲ張リ了リ未ダ船底包板又ハ塗料ヲ施サザルトキ

（七）船體完成シタルトキ

（八）其ノ他管海官廳ニ於テ指定シタルトキ

二　機關

（一）諸軸、諸桿又ハ「タービン」汽機ノ「ローター」ノ粗削ヲ爲シタルトキ

（二）發動機ノ氣槽又ハ汽罐ニ使用スル鋼板ノ「マーキング」ヲ行ヒタルトキ

（三）發動機ノ氣槽若ハ汽罐ノ各部ヲ曲緣、鍛接又ハ鎔接シタルトキ

（四）發動機ノ氣槽又ハ汽罐ノ各部ノ組立ヲ爲シ鋲孔ヲ仕上ゲタルトキ

（五）汽機、發動機、空氣壓縮機若ハ「ポンプ」ノ要部、船尾管、推進器又ハ復水器ノ仕上ヲ了リタルトキ

（六）汽機、發動機、空氣壓縮機、氣槽、汽罐、過熱器、復水器、「ポンプ」又ハ減速裝置ノ組立ヲ了リタルトキ

（七）水壓試驗ヲ執行スルトキ

（八）其ノ他管海官廳ニ於テ指定シタルトキ

前項第二號ノ發動機ニハ船舶ノ進推ニ關係アル補發動機ヲ、汽罐ニハ補汽罐ヲ、諸軸ニハ船舶ノ推進ニ關係アル補發動機ノ「クランク」軸ヲモ包含ス

第二節　定期檢査

第八十六條　定期檢査ニ於テハ左ノ各號ニ掲グル事項ニ付精密ナル檢査ヲ行フ

一　船體及ビ機關

二　設備及屬具

三　滿載吃水線

四　無線電信施設

第八十七條　船體ニ關スル定期檢査ニ於テハ二重底、水槽油槽及活魚艙ノ水壓試驗、外板、水密隔壁、軸路及水密戸ノ水密試驗竝ニ水密戸ノ開閉裝置、載貨門、載炭門、舷窓及上甲板上諸開口ノ閉鎖裝置ノ効力試驗ヲ行フ但シ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルモノニ付テハ水密試驗ヲ省略スルコトヲ得

第八十八條　機關ニ關スル定期檢査ニ於テハ新ニ使用スル機關又ハ其ノ部分ニ付テハ船舶機關規程ニ依リ、既ニ使用シタル機關又ハ其ノ部分ニ付テハ左表ニ依リ水壓試驗ヲ行フ但シ左表第一欄及第三欄ニ掲グルモノヲ除クノ他管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルモノニ付テハ水壓試驗ヲ省略スルコトヲ得

欄	種別	試驗壓力
一	新ニ重大ナル修繕ヲ施シタル汽罐	汽罐ノ制限汽壓ガ毎平方糎七瓩以下ナルトキハ其ノ二倍壓力、毎平方糎七瓩ヲ超ユルトキハ其ノ一・五倍ニ毎平方糎三・五瓩ヲ加ヘタル壓力
二	重大ナル修繕ヲ施サザル汽罐	汽罐ノ制限汽壓ニ毎平方糎三・五瓩ヲ加ヘタル壓力
三	主汽管	汽罐ノ制限汽壓ノ二倍
四	正給水管及副給水管	汽罐ノ制限汽壓ノ二倍
五	復水器ノ管取附部	復水器ノ頂部上二米ノ水高壓力ニ相當スル壓力
六	噴油「ポンプ」ノ送油辨ヨリ噴油器ニ至ル管竝ニ燃料油加熱器及其ノ附屬具	常用最大壓力ノ二倍及毎平方糎二八瓩ノ中大ナル壓力
七	前欄ニ掲グルモノヲ除キ機關室ニ在ル油管	毎平方糎二瓩
八	燃料油ト接觸スル加熱用蒸汽管	常用最大汽壓ノ二倍
九	蒸汽過熱器	汽罐ノ制限汽壓ノ二倍
十	潤滑油裝置	常用最大壓力ノ二倍
十一	壓縮空氣管	常用最大壓力ノ一・五倍
十二	冷却裝置	常用最大壓力ノ二倍
十三	鋲接合又ハ無接合ノ氣槽	制限壓力ノ一・五倍
十四	鍛接合又ハ鎔接合ノ氣槽	制限壓力ノ二倍
十五	油槽	頂板上二・五米ノ水高壓力ニ相當スル壓力但シ强壓油槽ニ付テハ其ノ常用壓力ノ二倍

第八十九條　定期檢査ニ於テハ左ノ設備及屬具ニ付効力試驗ヲ行フ但シ已ムコトヲ得ザル事由アル場合ニ於テハ其ノ全部又ハ一部ヲ省略スルコトヲ得

一　排水裝置
二　消防裝置
三　操舵、繫船、揚錨及揚貨ノ裝置
四　羅針儀、測量器其ノ他ノ航海用具
五　端艇揚卸裝置
六　汽笛又ハ汽角
七　信號器
八　端艇、救命筏、救命浮器其ノ他ノ救命器具
九　照明裝置

第九十條　定期檢査ハ船舶ヲ入渠又ハ上架セシメテ之ヲ行フ但シ檢査申請者ヨリ特ニ申請アリタル場合ニ於テ管海官廳之ヲ正當ト認メタルトキハ其ノ指定スル時期迄入渠又ハ上架ヲ猶豫スルコトヲ得

前項ノ規定ニ拘ハラズ總噸數五十噸未滿ノ木船ニ付テハ據船ノ儘又湖川ノミヲ航行スル船舶ニ付テハ管海官廳ノ適當ト認ムル狀態ニ於テ定期檢査ヲ行フコトヲ得

第九十一條　汽船ノ第一回定期檢査ニ於テハ速力試驗ヲ執行ス

汽船ノ第二回以後ノ定期檢査ニ於テハ前回速力試驗執行後速力ニ直接關係アル事項ニ變更ヲ加ヘタル場合ニ在リテハ速力試驗ヲ、其ノ他ノ場合ニ在リテハ試運轉ヲ執行ス但シ旅客船ニ非ザル船舶ニ付テハ管海官廳ノ見込ニ依リ試運轉ヲ省略スルコトヲ得

第九十二條　管海官廳船舶ノ定期檢査ヲ執行シタルトキハ其ノ構造、材料、工事及現狀ニ應ジ且左表ニ掲グル長サ及速力ヲ標準トシテ船舶ノ資格ヲ定ム但シ海難救助船、漁業ノ取締ニ從事スル船舶其ノ他特殊ノ用途ニ使用スル船舶ニ付テハ左表ニ依ラザルコトヲ得

資格	船種	長サ（米）	最強速力（一時間ニ付）
第一級船	汽船	六〇以上	一〇海里以上
	帆船	二五以上	
第二級船	汽船	三〇以上	八海里以上
	帆船	二〇以上	
第三級船	汽船	二〇以上	六海里以上
	帆船	無制限	
第四級船	汽船	無制限	無制限
	帆船	無制限	

甲板ヲ有セザル船舶、頂部ヲ水密ニ爲シ得ザル船舶又ハ進水後二十年以上ノ推進機關ヲ有スル木船ハ之ヲ第一級船又ハ第二級船ト爲スコトヲ得ズ

船舶ノ資格ハ管海官廳ニ於テ其ノ現狀ニ應ジ必要アリト認ムルトキハ何時ニテモ之ヲ變更スルコトヲ得

第三節　中間檢査

第九十三條　中間檢査ニ於テハ第八十六條各號ニ掲グル事項ニ付簡易ナル檢査ヲ行フ

管海官廳特ニ必要アリト認ムルトキハ特定ノ事項ニ付定期檢査ニ準ジ中間檢査ヲ行フコトヲ得檢査申請者ヨリ特ニ申請アリタル場合ニ於テ管海官廳之ヲ正當ト認メタルトキ亦同ジ

第九十四條　左ノ各號ニ掲グル船舶ヲ除キ鋼船ノ中間檢査ニ於テハ船舶ヲ入渠又ハ上架セシメテ其ノ船底、舵及推進器ヲ檢査ス

一　湖川ノミヲ航行スル船舶
二　旅客船ニ非ザル船舶ニシテ長サ十五メートル未滿ノモノ

第九十條第一項但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第一項各號ニ掲グル船舶ノ中間檢査ニ於テ管海官廳必要アリト認ムルトキハ之ヲ入渠又ハ上架セシムルコトヲ得

第四節　特殊船檢査及臨時檢査

第九十五條　特殊船檢査ニ於テハ第五十七條ニ掲グル各場合ニ應ジ必要ナル居住、衞生、救命及消防ノ設　其ノ他人命ノ安全ニ關スル設備ヲ檢査ス

第九十六條　臨時檢査ニ於テハ第五十八條各號ノ場合ニ應ジ管海官廳ニ於テ必要ト認ムル事項ニ付檢査ヲ行フ

第五節　雜　則

第九十七條　船舶安全法第六條第三項ノ規定ニ依ル船舶用機關ノ檢査ニ付テハ製造中檢査ナルカ又ハ出來上リ檢査ナルカノ區別ニ從ヒ船舶ノ製造檢査又ハ定期檢査ニ關スル規定ヲ準用ス

第九十八條　定期檢査ニ於テハ前回ノ中間檢査又ハ其ノ後ノ檢査ニ於テ定期檢査ニ準ジ檢査ヲ行ヒタル事項ニ關シテハ管海官廳ノ見込ニ依リ精密ナル檢査ヲ省略スルコトヲ得

中間檢査ニ於テハ其ノ以前六月以內ニ中間檢査ニ準ジ檢査ヲ執行シタル事項ニ付テハ管海官廳ノ見込ニ依リ其ノ檢査ヲ省略スルコトヲ得

第九十九條　同形ノ汽機又ハ發動機ニ依ル推進軸系二箇以上ヲ有スル船舶ノ機關ニ關スル定期檢査ニ於テハ機關ノ年齡、現狀、製造檢査又ハ船舶安全法第六條第三項ノ規定ニ依ル製造中檢査ヲ受ケタルモノナリヤ否ヤ等ヲ考慮シ管海官廳ニ於テ持ニ差支ナシト認ムル場合ニ限リ其ノ檢査ノ方法ヲ斟酌スルコトヲ得

十二月每ニ中間檢査ヲ受クベキ船舶ノ機關ノ部分ニシテ製造檢査又ハ船舶安全法第六條第三項ノ規定ニ依ル製造中檢査ヲ受ケタルモノニ付テハ當該部分ノ年齡、現狀等

ヲ考慮シ管海官廳ニ於テ特ニ差支ナシト認ムル場合ニ限リ其ノ檢査ノ方法ヲ斟酌スルコトヲ得

第百條　製造檢査ヲ受ケタル船舶ノ第一回定期檢査又ハ船舶安全法第六條第三項ノ規定ニ依ル檢査ヲ受ケタル機關ヲ船舶ニ備附クル場合ノ檢査ニ於テハ管海官廳ニ於テ特ニ必要アリト認ムル場合ノ外既ニ檢査ヲ受ケタル事項ノ檢査ヲ省略ス

第百一條　定期檢査又ハ中間檢査ニ於テハ左ノ各號ノ一ニ該當スル船舶ニ付テハ其ノ螺旋軸ヲ拔取リ檢査ヲ行フ但シ湖川ノミヲ航行スル船舶又ハ旅客船ニ非ザル長サ十五メートル未滿ノ船舶ニ付テハ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムル場合ニ限リ之ヲ省略スルコトヲ得

一　螺旋軸ガ船舶機關規程ニ定ムル第一種螺旋軸ニシテ前回拔取リテ檢査シタル後三年ヲ經タルトキ又ハ次回中間檢査若ハ定期檢査ノ期日迄ニ三年ニ達スベキトキ

二　螺旋軸ガ船舶機關規程ニ定ムル第二種螺旋軸ニシテ前回拔取リテ檢査シタル後二年ヲ經タルトキ又ハ次回中間檢査若ハ定期檢査ノ期日迄ニ二年ニ達スベキトキ

前項ニ依リ螺旋軸ヲ拔取リ檢査スベキ場合ト雖モ檢査申請者ヨリ特ニ申請アリタル場合ニ於テ管海官廳之ヲ正當ト認メタルトキハ其ノ檢査ヲ行フ爲臨時檢査ヲ受クベキ時期ヲ指定シ該時期迄螺旋軸ノ拔取ヲ猶豫スルコトヲ得

第百二條　管海官廳檢査ヲ行フニ當リ必要アリト認ムルトキハ第九十一條ニ該當セザル場合ト雖モ船舶ノ速力試驗若ハ試運轉又ハ機關ノ試運轉ヲ執行スルコトヲ得

第十二章　檢査ノ準備

第百三條　檢査申請者ハ本章ノ規定ニ從ヒ檢査ノ準備ヲ爲スベシ

第百四條　船體ニ關スル定期檢査ノ準備ヲ分チテ左ノ三種トス

一　第一種準備
二　第二種準備
三　第三種準備

第百五條　第一回定期檢査ニ於テハ當該船舶ガ進水後四年未滿ナルトキハ第二種準備、四年以上ナルトキハ第三種準備ヲ爲スベシ但シ製造檢査ヲ受ケタル船舶ニ付テハ管海官廳ニ於テ準備ヲ輕減セシムルコトヲ得

製造檢査ヲ受ケタル船舶ノ第二回定期檢査又ハ第三種準備ヲ爲シテ定期檢査ヲ受ケタル船舶ノ次回定期檢査ニ於テハ第一種準備、第一種準備ヲ爲シテ定期檢査ヲ受ケタル船舶ノ次回定期檢査ニ於テハ第二種準備、第二種準備ヲ爲シテ定期檢査ヲ受ケタル船舶ノ次回定期檢査ニ於テ

ハ第三種準備ヲ爲スベシ

進水後二十五年ヲ經過シタル船舶ノ定期檢査ニ於テハ管海官廳ハ前項ノ規定ニ拘ラズ第三種準備ヲ爲サシムルコトヲ得

第百六條　第一種準備ハ左ノ各號ニ依ルベシ

一　船體ノ內外部適當ノ場所ニ足場ヲ設クルコト

二　石炭及脚荷ヲ取出シ船體ニ固著セザル物品ハ成ルベク取片附ケ又淦水道覆板又通風路覆板ハ悉ク取除ケ泥芥箱ヲ開キ淦水吸水管ノ芥除ヲ露出シ船體ノ內外部ヲ總テ掃除スルコト

三　主トシテ日本ト外國トノ間ヲ航行スル汽船ニ於テハ食料品其ノ他ノ雜品置場、庖廚、船艙等鼠ノ棲息スル場所ハ硫黃燻蒸其ノ他適當ノ方法ヲ以テ鼠ノ驅除ヲ行ヒ淦水道ハ海水ヲ以テ洗滌シ便所其ノ他不潔ナル場所ハ消毒藥液ヲ以テ消毒ヲ行ヒ飲料水槽ハ石灰乳ヲ以テ洗滌シ又ハ蒸汽ヲ通ジテ掃除スルコト

四　水槽及水槽ニ使用スル二重底ハ其ノ出入口ヲ開キテ水ヲ排出シ內部ヲ掃除シ檢査ニ支障ナカラシムルコト

五　入渠又ハ上架シタル船舶ハ舵ヲ扛擧又ハ取除シ舵針及壺金等ヲ檢査スルニ支障ナカラシメ且鋼船ニ在リテハ船底外部ニ附著セル海草、介殼等ヲ落シ又木船ニ在リテハ船底包板及毛紙ノ幾分ヲ取去リ外板ノ現狀、塡隙及固著釘ヲ檢査スルニ支障ナカラシムルコト

六　鋼船ニ於テハ首尾ヲ通ジテ中心線ノ兩側ニ於テ兩舷トモ船底內張板ヲ一條宛取離スコト

木船ニ於テハ首尾ニ於テ兩舷トモ船舶ノ長サノ五分ノ一間內龍骨ト最下層梁トノ間ニ於テ內張板一條宛取離シ且艙內ニ防熱裝置ヲ施セル部分アルトキハ管海官廳ノ指示スル部分ニ於テ內張板ヲ取離シ防熱部ノ一部ヲ露出スルコト

七　木船ニ於テ鐵敲釘又ハ鐵螺釘ヲ用ウルトキハ最下層梁ノ位置ニ於テ兩舷トモ鐵敲釘又ハ鑄螺釘ヲ六本以上宛拔取ルコト但シ該釘ガ外板ヲ貫通セザルトキハ兩舷トモ該部ノ外板ヲ一枚宛取離スコト

木船ニ於テ龍骨、船首材及船尾材ノ固著釘ガ鐵敲釘又ハ鐵螺釘ナルトキハ管海官廳ノ指示スル部分ニ於テ鐵敲釘又ハ鐵螺釘ヲ拔取ルコト

八　木船ニ於テハ上部外板、彎曲部外板其ノ他ノ外板中管海官廳ノ指示スル部分ニ於テ木釘ヲ拔取ルコト但シ木釘ナキ部分ニ於テハ錐揉スルカ又ハ內張板若ハ外板ヲ取離スコト

九　汽罐ノ下部ヲ檢査シ得ル準備ヲ爲スコト

十　船首尾艙ハ燃料ノ積載ニ使用スルモノト雖モ其ノ出入口ヲ開キ油ヲ排出シテ内部ヲ掃除シ危險性瓦斯ヲ排除シ檢査ニ支障ナカラシムルコト

十一　二重底、水槽、油槽及活魚艙ノ水壓試驗ノ準備ヲ爲スコト

十二　第八十七條ニ掲グル水密ヲ爲スコト

十三　滿載吃水線ノ標示ヲ檢査スルニ必要ナル足場及型板ヲ準備スルコト

第百七條　第二種準備ハ前條ノ外左ノ各號ニ依ルベシ

一　鋼船ニ於テハ船ノ首尾ヲ通ジ彎曲部ニ於テ内張板ヲ一條宛取離シ且二重底、深水槽深油槽ノ部分ニ於ケル内張板ヲ全部取離スコト

木船ニ於テハ首尾ヲ通ジテ底部肋材ヲ檢査スルニ最モ適當ナル位置ニ於テ兩舷トモ内張板又ハ外板ヲ一條宛取離シ且首尾ヲ通ジテ兩舷トモ甲板間ノ内張板又ハ外板一條宛取離スコト

二　木船ニ於テハ水線部外板中管廳ノ指示スル部分ニ於テ木釘ヲ拔取ルコト但シ木釘ナキ部分ニ於テハ錐揉スルカ又ハ内張板若ハ外板ヲ取離スコト

三　二重底ハ燃料油ヲ積載スルモノト雖モ其ノ出入口ヲ開キ油ヲ排出シテ内部ヲ掃除シ危險性瓦斯ヲ排除シ檢査ニ支障ナカラシムルコト

第百八條　第三種準備ハ前二條ノ外左ノ各號ニ依ルベシ

一　鋼船ニ於テハ艙内内張板ノ大部分ヲ取離シ且艙内ニ防熱裝置ヲ施セル部分アルトキハ管海官廳ノ指示スル部分ニ於テ内張板ヲ取離シ防熱部ノ一部ヲ露出スルコト

木船ニ於テハ首尾ニ於テ兩舷トモ船舶ノ長サノ五分ノ一間内張板ノ半數ヲ取離スコト

二　石炭庫内ノ内張板ヲ全部取離スコト

三　木船ニ於テハ首尾ニ於テ兩舷トモ上部外板ヲ一條宛取離スコト

四　鋼船ニ於テハ船體内外ノ要部ヲ錆落スルコト

五　鋼船ニ於テハ梁上側板ヲ檢査スル爲其ノ上面ノ木甲板ヲ管海官廳ノ指示スル部分ニ於テ取離スコト

本船ニ於テハ梁端ヲ檢査スル爲梁壓材ニ接スル甲板ヲ管海官廳ノ指示スル部分ニ於テ取離スコト

六　鋼船ニ於テハ外板、肋板、隔壁、鋼甲板、二重底諸板其ノ他要部ニ於ケル鋼板ハ其ノ厚サヲ檢査スル爲之ニ試孔ヲ穿ツコト

七　深油槽ハ其ノ出入口ヲ開キ内部ヲ掃除シ危險性瓦斯ヲ排除シ檢査ニ支障ナカラシムルコト

八　本船ニ於テハ船底包板及毛紙ヲ全部取去ルコト

九　檣及斜檣ノ楔ヲ拔取ルコト但シ檣又ハ斜檣ガ鋼製ニシテ二重張板ヲ有スルモノナルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第百九條　機關ニ關スル定期檢査ニ於テハ左ノ各號ノ準備ヲ爲スベシ但シ製造檢査又ハ船舶安全法第六條第三項ノ規定ニ依ル檢査ヲ受ケタル機關ヲ船舶ニ初メテ備附ケタル場合ノ定期檢査ニ於テハ管海官廳ノ指示スル所ニ依ルベシ

一　往復動汽機

（一）「ピストン」及滑辨ヲ取出スコト

（二）「クランク」軸ノ受金ノ上半並ニ十字頭栓及「クランク」栓ノ受金ヲ解放シ且「クランク」軸ヲ回轉セシメル樣爲シ置クコト

二「タービン」汽機

「タービン」筒上半及「ローター」ヲ扛擧スルコト

三　發動機

（一）「ピストン」ヲ取出シ其ノ冷却部ヲ檢査シ得ル樣解放スルコト

（二）氣筒蓋附屬ノ辨ヲ取外シ蓋ノ冷却部ヲ檢査シ得ル樣爲シ置クコト

（三）「クランク」軸ノ受金ノ上半並ニ十字頭栓及「クランク」栓ノ受金ヲ解放シ且「クランク」軸ヲ回轉セシメ得ル樣爲シ置クコト

（四）消音器ヲ掃除スルコト

四　推進器及推進軸系

（一）各軸受ノ上半又ハ覆金及推力受ヲ取外スコト

（二）船尾管後端軸受部内面上部ト螺旋軸トノ間隙ヲ測定シ得ル樣爲シ置クコト

五　減速裝置

（一）各軸受金ノ上半ヲ取外シ且各軸ヲ回轉シ得ル樣爲シ置クコト

（二）齒車箱ノ上半ヲ解放スルコト

（三）液體ニ依ル動創傳導裝置ノ翼車ヲ檢査シ得ル樣爲シ置クコト

六　汽　罐

（一）罐内ノ水ヲ排除シ人孔蓋、泥孔蓋及覗孔蓋ヲ取外シ且火側及水側ヲ充分掃除スルコト

（二）火床棧ヲ取出スコト

（三）煙室扉ヲ開キ置クコト

（四）安全辨、塞汽辨、給水制限辨及放水辨ノ辨匣ヲ開キ置クコト

七　給水裝置

（一）給水「ポンプ」ノ「プランヂャー」又ハ「ピスト

ン」ヲ取出シ且辨匣ヲ開キ置クコト

(二) 給水漉器及給水加熱器ヲ開キ置クコト

八　復水裝置

(一) 復水器蓋ヲ開キ置クコト

(二) 抽氣「ポンプ」及循環「ポンプ」ノ「バケツト」又ハ扇車ヲ取出スコト

九　吸水、排水冷却ノ裝置

(一) 最大吃水線以下ニ於テ船外ニ通ズル辨及「コツク」ヲ開キ置クコト

(二) 淦水「ポンプ」及冷却「ポンプ」ノ「プランヂヤー」又ハ「ピストン」ヲ取出シ且辨匣ヲ開キ扇車「ポンプ」ナルトキハ扇車ヲ取出スコト

(三) 芥除箱及泥芥箱ヲ掃除スルコト

(四) 油、清水又ハ空氣ノ冷却器ヲ開キ置クコト

十　潤滑油裝置

潤滑油「ポンプ」及其ノ辨匣並ニ油漉器ヲ開キ置クコト

十一　空氣壓縮機、氣槽及掃除空氣「ポンプ」

(一) 空氣壓縮機ノ「ピストン」ヲ取出シ且辨匣及冷却器蓋ヲ開キ置クコト

(二) 氣槽ノ檢査孔ヲ開キ内部ヲ掃除スルコト

(三) 掃除空氣「ポンプ」ノ「ピストン」ヲ取出シ辨匣ヲ開キ置クコト

十二　油　槽

油ヲ排出シ人孔又ハ檢査孔ヲ開キ内部ヲ掃除スルコト

十三　船舶ノ推進ニ關係アル補發動機及救命用發動機主發動機ニ準ジ準備ヲ爲スコト

十四　水壓試驗

第八十八條ニ掲グル水壓試驗ノ準備ヲ爲スコト

十五　機關備品

適當ノ場所ニ陳列スルカ又ハ近寄リ易キ場所ニ整備シ置クコト

第百十條　設備及屬具ニ關スル定期檢査ノ準備ハ左ノ各號ニ依ルベシ

一　屬具中取離サザレバ檢査シ得ザルモノハ之ヲ取離シ消防、操舵、繫船、揚錨及揚貨ノ機具、手用淦水「ポンプ」並ニ給口、載炭口、通風器、載貨門載炭門、船樓端ノ開口其ノ他ノ開口ノ閉鎖裝置ハ所屬具ヲ取揃ヘ置キ錨鎖、索、船燈、信號器、救器具其ノ他ノ航海用具ハ總テ之ヲ適當ノ場所ニ陳列シ置クコト

二　端艇ハ所屬具ヲ備ヘ水上ニ浮ベ置クコト

三　帆船ノ帆類ハ所定ノ位置ニ取附ケ展開シ得ベキ準備ヲ爲スコト

四　第八十九條ニ掲グル效力試驗ノ準備ヲ爲スコト

五　操舵機、揚錨機其ノ他ノ甲板補機ノ氣筒又ハ汽筒及軸受ヲ開キ置クコト

六　應急用動力設備、點燈設備、水密戸閉鎖裝置及荷役設備ノ原動機ノ要部ヲ管海官廳ノ指示スル所ニ依リ解放スルコト

第百十一條　初メテ滿載吃水線ニ關スル檢査ヲ受ケントスルトキハ管海官廳ノ指示スル所ニ依リ船體ノ構造及現狀ノ檢査ニ必要ナル準備ヲ爲スベシ

第百十二條　中間檢査ニ於テハ第百六條第五號及第百十條第一號乃至第四號ニ掲グル準備ヲ爲スベシ

機關ヲ備フル船舶ノ中間檢査ニ於テハ前項ノ準備ノ外左ノ準備ヲ爲スベシ

一　往復動汽機

「クランク」軸ノ受金ノ上半、汽筒蓋、滑辨匣蓋及「クランク」栓ノ受金ヲ解放シ且「クランク」軸ヲ回轉セシメ得ル樣爲シ置クコト

二　「タービン」汽機

「タービン」筒ノ上半ヲ扛擧シ「ローター」軸ノ受金ノ上半ヲ取外シ且「ローター」ヲ回轉セシメ得ル樣爲シ置クコト

三　發動機

「クランク」軸ノ受金ノ上半、氣筒蓋及「クランク」栓ノ受金ヲ解放シ且「クランク」軸ヲ回轉セシメ得ル樣爲シ置クコト

四　推進器及推進軸系

定期檢査ニ準ジ準備ヲ爲スコト

五　減速裝置

各軸受金ノ上半ヲ取外シ且減齒車ノ齒ヲ全般ニ亘リ檢査シ得ル樣爲シ置クコト

六　汽　罐

定期檢査ニ準ジ準備ヲ爲スコト但シ管海官廳ニ於テ必要アリト認ムル場合ノ外火床棧ハ取外サザルモ妨ナシ

七　吸水及排水ノ裝置

最大吃水線以下ニ於テ船外ニ通ズル辨及「コツク」並ニ淦水「ポンプ」ノ蓋及辨匣又ハ扇車匣ノ上半ヲ開キ且芥除箱及泥芥箱ヲ掃除スルコト

八　潤滑油裝置

定期檢査ニ準ジ準備ヲ爲スコト但シ二重裝置ナルトキハ其ノ一方ニ付準備ヲ爲スニ止ムルモ妨ナシ

九　空氣壓縮機及掃除空氣「ポンプ」

空氣壓縮機及掃除空氣「ポンプ」ノ蓋並ニ辨匣ヲ開キ置

クコト但シ二箇以上ヲ備フルトキハ一箇ニ付準備ヲ爲スニ止ムルモ妨ナシ

十　船舶ノ推進ニ關係アル補發動機救命艇用發動機主發動機ニ準ジ準備ヲ爲スコト

十一　機關備品定期檢査ニ準ジ準備ヲ爲スコト

第百十三條　特殊船檢査及臨時檢査ニ於テハ管海官廳ノ指示スル所ニ依リ必要ナル準備ヲ爲スベシ

第百十四條　船舶用機關ノ出來上リ檢査ニ於テハ第百九條ニ準ジ當該機關ノ檢査ニ必要ナル準備ヲ爲スベシ

第百十五條　管海官廳ハ前十條ニ規定スル檢査ノ準備ニ付船舶ノ大小、用途、年齡、構造、前檢査ノ成績又ハ現狀ニ依リ適當ニ增減セシムルコトヲ得

第百十六條　檢査申請者檢査ニ必要ナル準備ヲ爲サザルトキハ第七十八條ノ規定ヲ準用ス

第十三章　證書

第百十七條　船舶檢査證書ヲ分チテ甲種船舶檢査證書（第五號書式）、乙種船舶檢査證書（第六號書式）及漁船檢査證書（第七號書式）ノ三種トス

甲種船舶檢査證書ハ滿載吃水線ノ標示ヲ要スル船舶ニ、乙種船舶檢査證書ハ滿載吃水線ノ標示ヲ要セザル船舶ニ、漁船檢査證書ハ漁船ニ之ヲ交付ス

第百十八條　左ニ掲グル船舶ニ付テハ船舶檢査證書ノ有效期間ハ三年以內ニ於テ管海官廳之ヲ定ム但シ漁船ニ付テハ漁船特殊規則ノ定ムル所ニ依ル

一　推進機關ヲ有セザル長サ二十メートル未滿ノ帆船

二　旅客船ニ非ザル長サ二十メートル未滿ノ船舶ニシテ平水ノ航行區域ヲ有シ且汽罐ヲ有セザルモノ

第百十九條　前條ノ規定ノ適用ヲ受ケザル船舶ガ其ノ適用ヲ受クル船舶ト爲リタルトキハ船舶檢査證書ノ有效期間ハ當該船舶ノ現狀ニ應ジ三年以內ニ於テ管海官廳之ヲ定ム

第百二十條　特殊船檢査證書ヲ分チテ甲種特殊檢査證書（第八號書式）、乙種特殊船檢査證書（第十號書式）、丙種特殊船檢査證書（第十一號書式）ノ四種トス

甲種特殊船檢査證書ハ移民船ニ、乙種特殊檢査證書ハ臨時旅客ヲ搭載スル船舶ニ、丙種特殊船檢査證書ハ甲板旅客ヲ搭載スル船舶ニ、漁船特殊檢査證書ハ第五十七條第二項ノ規定ニ依リ特殊船檢査ヲ受ケタル漁船ニ之ヲ交付ス

特殊船檢査證書ノ有效期間ハ當該航海ニ必要ナル期間ヲ

標準トシ管海官廳之ヲ定ム

臨時旅客又ハ甲板旅客ヲ搭載スル船舶ニシテ管海官廳ニ於テ其ノ設備、航路、季節等ノ狀況ニ依リ差支ナシト認ムルモノニ付テハ其ノ運送區域及旅客ノ種類ガ同一ナル場合ニ限リ前項ノ有效期間ハ二航海以上ニ亙リ之ヲ定ムルコトヲ得

第百二十一條　合格證明書（第十二號書式）ハ製造檢査ヲ受ケタル船舶又ハ船舶安全法第六條第三項ノ規定ニ依ル檢査ヲ受ケタル船舶用機關ニ之ヲ交付ス

第百二十二條　左ニ掲グル場合ニ於テハ船舶檢査證書ハ其ノ有效期間滿了後五月迄ハ仍其ノ效力ヲ有ス

一　船舶安全法施行地外ニ於テ船舶檢査證書ノ有效期間滿了シタル場合ニ於テ當該船舶ヲ同法施行地內ノ目的港迄回航スルトキ

二　船舶安全法施行地ニ在ル船舶ガ船舶檢査證書ノ有效期間滿了シ又ハ航海中其ノ有效期間滿了スベキ場合ニ於テ管海官廳ノ認可ヲ受ケズシテ引續キ短期ノ航海ヲ爲ストキ

前項第一號ノ場合ニ於テハ船長ハ船舶安全法施行地內ノ最初ニ到達シタル港ニ在ル管海官廳ニ遲滯ナク其ノ事實ヲ屆出ヅベシ

第一項第二號ノ認可ヲ受ケントスルトキハ船長ハ事由ヲ具シタル申請書ニ船舶ノ運航豫定表竝ニ次回定期檢査ヲ受ケントスル場所及期日ヲ記載シタル書面ヲ添附シ之ヲ最寄管海官廳ニ提出スベシ

前項ノ申請アリタルトキハ管海官廳ハ船舶ガ當該航海ニ適スルヤ否ヤヲ調査シ差支ナシト認ムルトキハ期間ヲ附シテ之ヲ認可ス

第一項第一號ノ航海ヲ終了シ同項第二號ノ認可ヲ受ケザルトキ又ハ同項第二號ノ航海ヲ終了シタルトキハ船舶檢査證書ハ其ノ效力ヲ失フ

第百二十三條　第五十三條ノ規定ニ依リ定期檢査ヲ行ヒタルトキハ船舶檢査證書ノ有效期間ハ滿了シタルモノト看做ス

第百二十四條　左ニ掲グル場合ニ於テハ船舶所有者又ハ船長ハ船舶檢査證書及特殊船檢査證書ヲ管海官廳ニ提出スベシ

一　船舶ニ付檢査ヲ受クルトキ

二　繫船シタルトキ

前項ノ場合ニ於テハ當該船舶ガ管海官廳ヨリ前項ノ規定ニ依リ提出シタル證書ノ返付ヲ受クルニ非ザレバ船舶檢査證書ノ有效期間內ト雖モ之ヲ航行ノ用ニ供スルコトヲ

得ズ

第百二十五條　船舶檢査證書又ハ特殊船檢査證書ヲ滅失又ハ毀損シタルトキハ當該證書ノ受有者ハ遲滯ナク其ノ事由ヲ具シ船舶檢査手帖ヲ添ヘ最寄管海官廳ニ其ノ再交付ヲ申請スベシ

合格證明書ヲ滅失又ハ毀損シタルトキハ當該證明書ノ受有者ハ其ノ事由ヲ具シ原證明書ヲ交付シタル管海官廳ニ其ノ再交付ヲ申請スルコトヲ得

第百二十六條　船舶檢査證書又ハ特殊船檢査證書ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生ジタルトキハ船長ハ船舶檢査手帖ヲ添ヘ遲滯ナク最寄管海官廳ニ其ノ書換ヲ申請スベシ

前項ノ場合ニ於テ變更ヲ生ジタル事項ガ船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ニ記載スベキモノナルトキハ船長ハ船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ヲ當該管海官廳ノ檢閲ニ供スベシ

第百二十七條　左ニ掲グル場合ニ於テハ遲滯ナク船舶檢査證書ヲ最寄管海官廳ニ返還スベシ

一　船舶ガ滅失若ハ沈沒シ又ハ解撤セラレタルトキ

二　船舶ガ檢査ヲ受クルコトヲ要セザルモノト爲リタルトキ

三　船舶檢査證書ノ有效期間滿了シタルトキ

第百二十八條　左ニ掲グル場合ニ於テハ遲滯ナク特殊船檢査證書ヲ最寄管海官廳ニ返還スベシ

一　前條ノ規定ニ依リ船舶檢査證書ヲ返還シタルトキ

二　船舶ガ其ノ特殊ノ用途ニ使用セラレザルニ至リタルトキ

三　特殊船檢査證書ノ有效期間滿了シタルトキ

第百二十九條　船舶用機關ヲ船舶ニ備附ケタルトキハ其ノ合格證明書ノ受有者ハ遲滯ナク之ヲ最寄管海官廳ニ返還スベシ

第百三十條　左ニ掲グル場合ニ於テハ船舶所有者若ハ船長又ハ合格證明書ノ受有者ハ舊船舶檢査證書、舊特殊船檢査證書　ハ舊合格證明書ヲ新證書又ハ新證明書ト引換ニ當該管海官廳ニ返還スベシ

一　船舶檢査證書又ハ特殊船檢査書ノ書換ヲ受ケタルトキ

二　船舶檢査證書、特殊船檢査證書又ハ合格證明書ノ毀損ニ因リ其ノ再交付ヲ受ケタルトキ

第百三十一條　船舶檢査證書、特殊船檢査證書又ハ合格證明書ヲ返還スル義務アル者其ノ所在分明ナラザルトキ又ハ死亡シタルトキハ現ニ之ヲ保管スル者ニ於テ前四條ノ規定ニ依ル手續ヲ爲スベシ

第百三十二條　船長ハ船舶檢査證書、特殊船檢査證書及同航認可證書ヲ船內ノ見易キ場所ニ掲ゲ置クベシ

第百三十三條　船舶檢査又ハ特殊船檢査證書ノ英譯書ノ交付ヲ受ケントスルトキハ最寄管海官廳ニ申請スベシ

第百三十四條　前條ノ英譯書ハ原證書ヲ返還スルトキ之ヲ當該管海官廳ニ返還スベシ但シ第百三十條第二號ノ規定ニ依リ原證書ヲ返還スル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ

第百三十五條　左ニ掲グル場合ニ於テハ船舶檢査證書ヲ受有セザル船舶ト雖モ之ヲ航行ノ用ニ供スルコトヲ得

一　日本船舶ヲ所有スルコトヲ得ザル者ニ船舶ヲ讓渡スル目的ヲ以テ之ヲ船舶安全法施行地外ニ回航スルトキ

二　船舶ヲ修繕シ又ハ檢査ヲ受クル爲之ヲ工場所在地又ハ檢査ヲ受クル場所ニ回航スルトキ

三　船舶法施行細則第四條第一項各號ニ該當スルトキ

四　繫船ノ繫留地ヲ變更スル爲之ヲ回航スルトキ

前項第一號、第二號又ハ第四號ノ場合ニ於テハ事由ヲ具シタル申請書ヲ管海官廳ニ提出シ其ノ認可ヲ受クベシ但シ船舶安全法施行地外ニ於テ製造セラレ又ハ國籍ヲ取得シ其ノ他同法ノ規定ニ依リ檢査ヲ受クベキモノト爲リタル日本船舶ヲ前項第二號ノ規定ニ依リ回航スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第百三十六條　前條第一項各號ノ場合ニ於テハ旅客又ハ貨物ヲ搭載スルコトヲ得ズ但シ同條第二項但書ノ場合ニ於テ帝國領事官又ハ當該官廳ノ發給シタル堪航性ヲ證スル書面ヲ受有スルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第百三十七條　第三十七條第二項又ハ第百三十五條第二項ノ規定ニ依リ申請書ノ提出アリタルトキハ管海官廳ハ當該船舶ニ付其ノ回航ノ適否又ハ旅客若ハ貨物搭載ノ適否ヲ調査シ之ヲ適當ト認ムルトキハ回航認可證書（第十三號書式）ヲ交付ス

第百三十八條　回航認可證書ノ有效期間ハ回航ニ必要ナル期間ヲ標準トシ管海官廳之ヲ定ム

船舶ガ目的地ニ到達シタルトキハ回航認可證書ハ其ノ效力ヲ失フ

第百二十五條第一項、第百二十七條及第百三十條第二號ノ規定ハ回航認可證書ニ之ヲ準用ス

第百三十九條　船舶檢査證書又ハ特殊船檢査證書滅失シタルトキ又ハ之ヲ返還スベキ場合ニ於テ返還セザルトキハ其ノ無效ナルコトヲ官報ニ公告ス但シ其ノ有效期間滿了後ハ此ノ限ニ在ラズ

第百四十條　船舶檢査證書、特殊船檢査證書、其ノ英譯書又ハ回航認可證書ハ急速ヲ必要トスル場合ニ限リ申請ニ

依リ休暇日ト雖モ其ノ交付、再交付又ハ書換ヲ爲スコトアルベシ

第十四章　再檢査

第百四十一條　船舶安全法第十一條ノ規定ニ依リ再檢査ヲ申請セントスルトキハ申請書ニ前檢査ニ對スル不服ノ事項及其ノ事由ヲ記載シタル書類ヲ添付シ前檢査ヲ行ヒタル管海官廳ヲ經由シ之ヲ遞信大臣ニ提出スベシ

第百四十二條　遞信大臣ニ於テ前條ノ申請ヲ理由ナシト認メタルトキ又ハ申請者ガ關係部分ノ原狀ヲ變更シタルトキハ申請ヲ却下ス

遞信大臣ニ於テ前條ノ申請ヲ理由アリト認メタルトキハ特ニ指命シタル者ヲシテ再檢査ヲ行ハシメ前檢査ヲ適當ナラズト認ムルトキハ更ニ當該管海官廳ヲシテ檢査ノ種類ニ應ジ必要ナル證書又ハ證明書ヲ申請者ニ交付セシム

第百四十三條　前條第二項ノ規定ニ依リ遞信大臣ノ指命シタル者ガ再檢査ヲ結了シタル場合ニ於テ遞信大臣ノ決定前關係部分ノ原狀ヲ變更セントスルトキハ再檢査ノ申請者ハ前檢査ヲ行ヒタル管海官廳ヲ經由シテ遞信大臣ニ申請書ヲ提出シ其ノ許可ヲ受クベシ

第十五章　船舶乘組員ノ不服申立

第百四十四條　船舶乘組員船舶安全法第十三條ノ規定ニ依リ申立ヲ爲サントスルトキハ左ノ事項ヲ記載シタル管海官廳宛ノ申立書ニ職務及氏名ヲ連記シ之ヲ當該船長ニ提出スベシ

一　重大ナル缺陷アリトスル事項及其ノ現狀

二　申立ヲ爲スニ至ル迄ノ顚末

第百四十五條　船舶ガ管海官廳所在地ニ在ル場合ニ於テ前條ノ規定ニ依ル申立書ノ提出アリタルトキハ船長ハ之ニ對スル意見書及船舶檢査手帖ヲ添附シ遲滯ナク之ヲ當該管海官廳ニ提出スベシ

船舶ガ管海官廳所在地ニ在ラザル場合ニ於テ前條ノ規定ニ依ル申立書ノ提出アリタルトキハ船長ハ遲滯ナク前項ノ書類ヲ其ノ後最初ニ到達スベキ港ニ在ル管海官廳ニ郵便其ノ他適當ノ方法ニ依リ提出スベシ

第百四十六條　船舶ノ發航直前ニ於テ第百四十四條ノ規定ニ依ル申立書ノ提出アリタルトキハ申立ノ事項ガ貨物ノ過載、積附其ノ他船舶ノ發航直前ニ非ザレバ分明シ難キモノナル場合ヲ除クノ外船舶ガ管海官廳所在地ニ在ル場合ト雖モ船長ハ前條第一項ノ規定ニ拘ラズ同條第二項ノ規定ニ依ルコトヲ得

第百四十七條　管海官廳申立書ヲ審査シ船舶ガ當該管海官

廳所在地ニ在ル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ當事者ノ出頭ヲ求メ又ハ船舶ニ臨檢シテ其ノ事實ヲ調査ス

管海官廳申立ヲ理由ナシト認ムルトキハ其ノ旨ヲ船長及申立人ニ通告ス

第十六章　船級協會

第百四十八條　船舶安全法第八條ノ規定ニ依ル檢査ノ業務ニ從事スル爲遞信大臣ノ認定ヲ受ケントスル船級協會ハ營利ヲ目的トセザル法人ナルコトヲ要ス

第百四十九條　船級協會前條ノ認定ヲ受ケントスルトキハ申請書ニ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル書類ヲ添附シ之ヲ遞信大臣ニ提出スベシ

一　主タル事務所竝ニ出張所ノ名稱及所在地

二　役員ノ氏名

三　檢査員ノ氏名及履歷

四　定款又ハ寄附行爲

五　船級登錄及檢査ニ關スル規定

六　手數料及旅費ニ關スル規定

第百五十條　遞信大臣ノ認定ヲ受ケタル船級協會（以下單ニ船級協會ト稱ス）檢査員ヲ選任セントスルトキ又ハ前條第五號若ハ第六號ニ掲グル規定ヲ變更セントスルトキハ遞信大臣ノ認可ヲ受クベシ

前條第一號又ハ第二號ニ掲グル事項ニ變更アリタルトキハ船級協會ハ遞信大臣ニ其ノ旨ヲ屆出ヅベシ

第百五十一條　船級協會船舶安全法第八條ノ規定ニ依ル船舶檢査ヲ行ヒタルトキハ遲滯ナク當該檢査報告書、乾舷計算表及該檢査ニ基キ發行シタル證書ノ謄本竝ニ檢査依賴者ヨリ差出シタル圖面ヲ遞信大臣ニ提出スベシ

第百五十二條　遞信大臣前條ノ書類ヲ審査シ船級協會ノ行ヒタル檢査ヲ適當ナラズト認ムルトキハ之ガ改訂ヲ命ジ其ノ他必要ナル命令ヲ爲スコトアルベシ

第五十三條　船級協會ハ一月毎ニ船舶安全法第八條ノ規定ニ依ル檢査ノ業務ニ關スル報告書ヲ遞信大臣ニ提出スベシ

第百五十四條　遞信大臣ニ於テ船級協會ヲ認定シタルトキ又ハ其ノ認定ヲ取消シタルトキハ之ヲ告示ス

第十七章　航海上ノ危險防止

第百五十五條　本章中第百五十六條乃至第百六十九條ノ規定ハ國際航海ニ從事スル旅客船ニシテ近海區域又ハ遠洋區域ヲ航行スルモノニ、其ノ他ノ規定ハ特ニ定ムル場合ヲ除クノ外總テノ船舶ニ之ヲ適用ス

第百五十六條　船舶ハ其ノ搭載シタル救命艇又ハ救命筏ニ左ノ員數ヲ割當ツルニ足ル救命艇手適任證書ヲ受有スル

船員ヲ乘組マシムベシ但シ臨時旅客又ハ甲板旅客搭載ノ爲特ニ之ヲ乘組マシムル必要ヲ生ジタルトキハ管海官廳又ハ帝國領事官ノ認可ヲ受ケ當該所要員數ノ一部又ハ全部ヲ減ジ相當ノ技能ヲ有スル船員ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

一　定員四十人以下ノ救命艇又ハ救命筏ニ付テハ二人

二　定員四十一人以上六十一人以下ノ救命艇又ハ救命筏ニ付テハ三人

三　定員六十二人以上八十五人以下ノ救命艇又ハ救命筏ニ付テハ四人

四　定員八十六人以上ノ救命艇又ハ救命筏ニ付テハ五人

前項ノ船員ノ割當員數ニ付テハ事情ニ應ジ船長之ヲ定ム

船長ハ救名艇又ハ救命筏ニ其ノ指揮者トシテ甲板部職員又ハ第一項ニ規定スル船員ヲ配置シ且右指揮ガ故障アル場合ニ於テ之ニ代リテ指揮スル者ヲ定メ置クベシ

船長ハ前項ノ指揮者ヲシテ其ノ指揮スル救命艇又ハ救命筏ノ乘組員ノ名簿ヲ所持セシムベシ

船長ハ發動機ヲ有スル救命艇ニハ發動機ヲ運轉シ得ル者ヲ、無線電信又ハ探照燈ノ設備ヲ有スル救命艇ニハ其ノ設備ヲ操作シ得ル者ヲ配置スベシ

船長ハ救命艇、救命筏、救命浮器其ノ他ノ救命設備ガ何時ニテモ使用シ得ルコトヲ確ムル爲甲板部職員ヲ指定シ置クベシ

救命艇手適任證書ノ交付、書換又ハ返還ニ關シテハ別ニ之ヲ定ム

第百五十七條　船長ハ非常ノ出來事ニ對スル船員ノ特別任務ニ付左ノ事項ニ關スル船員ノ擔當ヲ定メ發航前之ヲ記載シタル召集表ヲ作成シ船員室其ノ他適當ノ場所ニ掲ゲ置クベシ

一　水密戸、辨等ノ閉鎖

二　救命艇、救命筏及救命浮器ノ艤裝

三　端艇鈎ニ取附ケタル救命艇ノ卸方

四　前號以外ノ救命艇、救命筏及救命浮器ノ一般準備

五　旅客ノ召集

六　火災ノ消防

召集表ニ於テハ事務部員ニ對シ左ノ事項ニ關スル擔當ヲ指定スベシ

一　旅客ニ警報スルコト

二　旅客ガ著衣シ救命胴衣ヲ適當ニ著用セルコトヲ確ムルコト

三　旅客ヲ集合所ニ集合セシムルコト

四　通路及階段ニ於ケル秩序ヲ維持シ旅客ノ行動ヲ統制スルコト

召集表ニハ全船員ヲ各員割當ノ救命艇及消防持場ニ呼出ス爲ノ一定ノ信號ヲ記載スベシ

第百五十八條　船長ハ發航前甲板間ニ於ケル貨物艙ヲ區畫スル水密隔壁ニ取附クル水密蝶番戸ヲ閉ヅルコトヲ要シ航行中ハ之ヲ開放スベカラズ

第五十九條　機關室内ノ水密隔壁ニ取外シ得ル板戸ヲ設クル船舶ニ在リテハ船長ハ發航前該板戸ヲ其ノ位置ニ取附クルコトヲ要シ航行中ハ緊急ノ必要アル場合ヲ除クノ外之ヲ取外スベカラズ

前項ノ板戸ハ其ノ接合部ガ水密ヲ保ツ樣之ヲ取附クベシ

第百六十條　船長ハ作業上必要アル場合ヲ除クノ外航行中水密隔壁ニ取附クル一切ノ水密戸ヲ閉ヂ置キ之ヲ開キタルトキハ迅速ニ閉ヂ得ル樣常ニ準備シ置クベシ

第百六十一條　船舶區畫規程ニ依リ錠前附ナルコトヲ要スル何レカノ舷窓ノ下緣ガ發航ノ際ノ吃水線ノ上方ニ於テ同吃水線ヨリ船ノ幅ノ千分ノ二十五ニ一・三七メートルヲ加ヘタル距離ニ最低點ヲ有シ且船側ニ於ケル隔壁甲板ニ平行ニ引キタル線ノ下方ニ在ルトキハ船長ハ發航前舷窓ノ在ル甲板間ノ總テノ舷窓ヲ水密ニ閉ヂ且錠ヲ下スコトヲ要シ航行中ハ之ヲ開放スベカラズ

船舶ガ船舶滿載吃水線規程ニ定ムル熱帶ニ在ル場合又ハ熱帶季節ニ季節熱帶ニ在ル場合ニ於テハ前項ノ規定ノ適用ニ付テハ一・三七メートルトアルハ之ヲ一・〇六五メートルト爲スコトヲ得

船舶所有者又ハ船長ハ第一項ノ規程ヲ適用スベキ極限ノ平均吃水ノ指定ヲ管海官廳ニ申請スルコトヲ得

船舶區畫規定ニ依リ錠前附ナルコトヲ要スル舷窓ハ第一項ニ規定スルモノ以外ノモノト雖モ船長ニ於テ差支ナシト認ムル場合ニ非ザレバ航行中之ヲ開放スベカラズ

第百六十二條　前條第一項ノ場合ニ於テハ船長ハ舷窓ノ鍵ヲ保管シ其ノ他必要ナル處置ヲ爲スベシ

前條第四項ノ舷窓ニ錠ヲ下シタルトキハ船長ハ其ノ鍵ヲ保管スル等其ノ同意ヲ得ルニ非ザレバ之ヲ開キ得ザル樣必要ナル處置ヲ爲スベシ

第百六十三條　船長ハ發航前航行中近寄リ難キ場所ニ在ル舷窓及其ノ蓋ヲ水密ニ閉ヅベシ

船長ハ發航前限界線下ニ設クル舷門、載貨門及載炭門ヲ水密ニ閉ヅルコトヲ要シ航行中ハ之ヲ開放スベカラズ

第百六十四條　灰棄筒、芥棄筒其ノ他之ニ類似ノモノニシテ其ノ船内開口ガ限界線下ニ在ルモノニ付テハ之ヲ使用セザルトキハ船長ハ筒ニ取附ケタル自働不還辨及開口ノ

蓋ヲ締附ケ置クベシ

第百六十五條　船長ハ端艇操練ノ爲實行可能ナルトキハ毎週一回船員ノ召集ヲ行フベシ又航海ガ一週間ヲ超ユルトキハ發航前之ヲ行フベシ

端艇操練ヲ行フニ當リテハ異リタル場所ニ備附ケタル救命艇及救命筏ヲ順次ニ使用スベシ

第百六十六條　船長ハ水密戸、舷窓、辨並ニ排水孔、灰棄筒及芥棄筒ノ閉鎖裝置ノ操作ノ操練ヲ毎週一回行フベシ

又航海ガ一週間ヲ超ユルトキハ發航前之ヲ行ヒ爾後航海中少クトモ毎週一回之ヲ行フベシ但シ主横置隔壁ニ於ケル水密ナル動力戸及蝶番戸ニシテ航海中開閉スルコトアルモノハ毎日之ヲ操作スベシ

水密戸、之ニ附屬スル機構及表示器竝ニ區畫室ノ水密ヲ保ツニ必要ナル辨ハ航海中少クトモ毎週一回定期ニ之ヲ點檢スベシ

第百六十七條　前二條ニ定ムル操練及點檢ハ船員ガ其ノ任務ヲ完全ニ了解習熟スル樣且救命設備及其ノ附屬具ガ常ニ即時ノ使用ノ爲準備セラルル樣之ヲ行フベシ

第百六十八條　船長ハ航海ガ一週間ヲ超ユルトキハ其ノ初期ニ於テ旅客ノ召集ヲ行フベシ

旅客召集ノ危急性信號ハ汽笛又ハ汽角ニ依リ短聲六發以上ノ連發ト之ニ續ク長聲一發トス

前項ノ信號ハ短國際航海ニ從事スル船舶ヲ除クノ外船橋ニ於テ操作セラレ電氣裝置ニ依リ船内ニ普及スル他ノ信號ヲ以テ之ヲ補足スルコトヲ要ス

旅客召集ノ危急信號其ノ他旅客ニ關係アル信號ハ種種ノ國語ヲ以テ其ノ意味ヲ明記シ旅客室其ノ他適當ノ場所ニ掲ゲ置クベシ

第百六十九條　船長ハ火災ヲ速ニ發見スル爲有效ナル巡視制度ヲ設クベシ

第百七十條　操舵命令ハ船舶ノ前進中其ノ船首ヲ轉ズル方向ヲ直接ニ示ス語ヲ使用スベシ

第百七十一條　流氷、季棄物、熱帶暴風雨(「ハリケーン」、「タイフーン」、「サイクローン」及之ト同樣ノ性質ヲ有スルモノ)其ノ他航海ニ直接ノ危險ヲ及ボスモノニ遭遇シタルトキハ船長ハ適當ト認ムル通信方法ニ依リ之ヲ附近ノ船舶及最モ速ニ通信シ得ベキ海岸局ニ通報スベシ

前項ノ通報ハ別ニ告示スル樣式ニ依ルベシ

第百七十二條　無線電信ヲ施設シタル船舶全强風力ヲ感知シタルトキハ之ヲ附近ノ船舶ニ通報スベシ

第百七十三條　船舶ハ重大且急迫ノ危險ニ陷リ即時ノ救助ヲ要スルトキニ限リ警急信號及遭難信號ヲ使用スルコト

ヲ得

前項ノ場合ヲ除クノ外船舶ガ救助ヲ要スルトキ又ハ後ニ警急信號若ハ遭難信號ヲ發スルノ必要アルニ至ルベキコトノ警告ヲ發セントスルトキハ緊急信號ヲ使用スベシ

警急信號又ハ遭難信號ヲ發シタル後救助ヲ要セザルコトヲ認メタルトキハ該船舶ハ直ニ其旨ヲ一切ノ關係局ニ通報スベシ

第百七十四條　船長無線電信ニ依ル遭難信號ヲ接受シタルトキハ能フ限リノ速力ヲ以テ遭難者ノ救助ニ赴クベシ但シ遭難者ノ所在ニ到達シタル船舶ヨリ救助ノ必要ナキ旨ノ通報ヲ接受シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

遭難船舶ノ船長ハ遭難信號ニ應答シタル船舶ノ船長ト能フ限リ協議シタル上適當ト認ムル船舶ヲ選定シ救助ヲ要請スルコトヲ得

前項ニ依リ救助ヲ要請セラレタル船舶ノ全部ガ其ノ要請ニ應ジ救助ニ赴ク旨ノ通報ヲ接受シタルトキハ他ノ船舶ハ救助ニ赴クコトヲ要セズ

無線電信ニ依ル遭難信號ヲ接受シタル船舶ノ船長ハ已ムコトヲ得ザル事由ニ因リ救助ニ赴クコト能ハザルカ又ハ特殊ノ事情ニ依リ救助ニ赴クヲ不合理若ハ不必要ト認メ救助ニ赴カザルトキハ直ニ其ノ旨遭難船舶ノ船長ニ通報スベシ

第百七十五條　北大西洋横斷ノ航海ニ定期ニ船舶ヲ就航セシムル船舶所有者ハ其ノ協定シタル航路中船舶ヲシテ採ラシムベキ常用ノ航路及其ノ變更ニ付廣告ヲ爲スベシ

第十八章　雜　則

第百七十六條　國際航海ニ從事スル船舶ノ船長ハ旅客船ニ在リテハ左ノ各號、總噸數千六百噸以上ノ船舶ニシテ旅客船ニ非ザルモノニ在リテハ第六號ニ掲グル事項ヲ航海日誌ニ記載スベシ

一　第百七十四條ニ定ムル遭難者ノ救助ニ赴カザリシトキハ其ノ事由

二　第百五十八條、第百五十九條、第百六十一條又ハ第百六十三條ノ規定ニ依リ航行中開放スルコトヲ禁ゼラレタル水密蝶番戸、取外シ得ル板戸、舷窓、舷門、載貨門又ハ載炭門ヲ碇泊中開閉シタルトキハ其ノ日時

三　甲板間ニ於ケル石炭庫ヲ區畫スル水密隔壁ニ設クル水密戸ヲ開閉シタルトキ及第百五十九條若ハ第百六十條ノ規定ニ依リ航行中開放スルコトヲ禁ゼラレタル取外シ得ル板戸又ハ水密戸ヲ航行中緊急ノ必要ニ又ハ船舶ノ作業上開閉シタルトキハ其ノ日時

四　第百六十六條ニ定ムル水密戸等ノ操作ノ操練及之ガ

點檢ヲ行ヒタルトキハ其ノ日時及點檢ニ當リテ發見シタル缺陷

五　第百六十五條ニ定ムル端艇操練ヲ行ヒタルトキハ其ノ日時又之ヲ行フコトヲ得ザリシトキハ其ノ事由

六　航行中無線電信ノ補助電源ノ全能力ヲ維持シタルコト及警急自働受信機ヲ試驗シタルコト

第百七十七條　船舶檢査證書ノ有效期間ニ於テ船舶ガ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ旨管海官廳ニ屆出ヅベシ

一　入渠又ハ上架セントスルトキ（漁船ノ上架ヲ除ク）

二　船體若ハ機關ノ要部又ハ重要ナル設備若ハ屬具ニ損傷ヲ生ジタルトキ又ハ之ヲ修繕若ハ變更セントスルトキ

第百七十八條　國際航海ニ從事スル旅客船ニシテ昭和六年七月一日以後ニ龍骨ヲ据附ケタルモノ又ハ同日以後旅客船ニ變更シタルモノニ付テハ船舶所有者ハ之ヲ本令施行後初メテ國際航海ニ使用スルニ先チ傾斜試驗ヲ行ヒ復原性ニ關スル要項ヲ決定スベシ但シ復原性ニ關スル十分ノ資料ヲ有シ管海官廳ニ於テ更ニ傾斜試驗ヲ行フノ必要ナシト認メタル船舶ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ傾斜試驗ハ船舶ノ空艙狀態ニ於ケル重心ノ位置ヲ算定シ得ル狀態ニ於テ之ヲ行フベシ

傾斜試驗ヲ行ハントスルトキハ之ヲ管海官廳ニ屆出ヅベシ

第百七十九條　前條ノ船舶ニハ其ノ復原性ニ關スル要項ヲ記載シタル書類ヲ備フベシ

前項ノ書類ハ少クトモ左ノ事項ヲ記載シタルモノナルコトヲ要ス

一　傾斜試驗ノ成績

二　空艙狀態ニ於ケル船舶ノ重心ノ位置

三　横「メタセンター」ノ位置ヲ示ス曲線圖（最高區畫滿載吃水ニ對シ龍骨ノ上面ヨリ横「メタセンター」ニ至ル垂直距離ヲ示スモノ）

第百八十條　船舶安全法第十二條第一項ノ證票（第十四號書式）ハ船舶所有者又ハ船長ノ請求アルトキハ之ヲ示スベシ

第百八十一條　船舶ノ檢査ヲ受クルトキハ檢査申請者ハ當該管海官廳ノ指定スル所ニ從ヒ別表第二號ニ定ムル檢査手數料ヲ納付スベシ

檢査申請者ノ都合ニ依リ檢査ノ申請ヲ取下ゲ又ハ船舶ガ檢査ヲ要セザルモノト爲リタル場合ト雖モ檢査著手後ナルトキハ檢査手數料ヲ徵收ス

第百八十二條　船舶檢査證書、特殊船檢査證書又ハ其ノ英譯書ノ交付、若ハ書換ヲ受ケントスルトキ、合格證明書又ハ回航認可證書ノ交付若ハ再交付ヲ受ケントスルトキ又ハ船舶檢査手帖ノ再交付ヲ受ケントスルトキハ別表第三號ニ定ムル手數料ヲ納付スベシ

第百八十三條　前二條ノ手數料ハ其ノ金額ニ相當スル收入印紙ヲ手數料納付書ニ貼附シテ之ヲ納付スベシ

檢査手數料納付書ニハ船舶ノ名稱、總噸數、檢査ノ種類、旅客船ト旅客船ニ非ザルモノトノ區別及手數料額ヲ記載スベシ

前項ニ掲グル事項ノ外臨時檢査ヲ受ケタル場合又ハ休暇日ニ於テ檢査ヲ受ケタル場合ニハ臨檢回數ヲ、船體ノ製造檢査ヲ受ケタル場合ニハ船舶ノ長サヲ、機關ノ製造檢査ヲ受ケタル場合又ハ船舶安全法第六條第三項ノ規定ニ依ル檢査ヲ受ケタル場合ニハ往復動汽機ニ付テハ汽筒ノ徑ノ和ヲ、發動機ニ付テハ氣筒ノ徑ノ和及單働式又ハ複働式ノ別ヲ、「タービン」汽機ニ付テハ軸馬力ヲ、汽罐ニ付テハ受熱面積ヲ記載スベシ但シ船舶安全法第六條第三項ノ規定ニ依リ船舶ノ機關ノ部分品ノ檢査ヲ受ケタル場合ニハ臨檢回數ノミヲ記載スベシ

第百八十四條　船舶檢査執行地外ニ於テ管海官廳ノ檢査ヲ受クルトキハ檢査申請者ハ當該管海官廳ノ指定スル所ニ從ヒ檢査官吏ノ出張ニ要スル成規ノ旅費ヲ納付スベシ

船舶法施行細則第五十三條第一項ノ場合ニ於テ出張シタル檢査官吏ノ檢査ヲ受ケタルトキハ其ノ旅費ハ相互ニ通算ス

第百八十五條　本章ノ規定ニ依ル手數料及旅費ハ官廳又ハ公共團體ニ對シテハ之ヲ徵收セズ

第十九章　罰　則

第百八十六條　船舶所有者又ハ船長第四十六條、第百二十四條、第百三十六條、第百五十六條第一項又ハ第百七十七條ノ規定ニ違反シタルトキハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百八十七條　船長左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第四十七條第一項第二項、第五十一條、第八十二條第二項、第八十三條第三項、第百二十二條第二項、第百三十二條、第百四十五條又ハ第百五十七條第一項ノ規定ニ違反シタルトキ

二　第百四十四條ノ規定ニ依ル申立書ノ提出アリタル場合ニ於テ申立ノ事項ガ船舶ノ發航直前ニ非ザレバ分明シ難キモノナルニ拘ラズ第百四十五條第一項ノ規定ニ依ル措置ヲ執ラザリシトキ

附則

第百八十八條　本令ハ昭和九年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

第百八十九條　船舶檢査法施行細則、船舶滿載吃水線法施行規則、船舶無線電信施設法規則、船舶檢査規程、木船檢査規程、漁船檢査規程及船舶滿載吃水線規程ハ之ヲ廢止ス

第百九十條　船舶安全法第三十三條ニ揭グル船舶ハ同法第三十六條第一項ノ檢査ヲ受クル迄滿載吃水線ヲ標示セザルコトヲ得

第百九十一條　船舶安全法第二條第一項ノ規定ノ適用ヲ受ケザル船舶ニシテ本令施行ノ際現ニ船舶檢査法ニ依リ檢査申請中ノモノニ付テハ檢査ヲ行ハズ

第百九十二條　昭和六年七月一日以後ニ龍骨ヲ据附ケ本令ノ際現ニ製造中ノ旅客船ニシテ國際航海ニ從事スベキモノ又ハ昭和七年七月一日以後ニ龍骨ヲ据附ケ本令施行ノ際現ニ製造中ノ船舶ニシテ國際航海ニ從事スベキモノニ付テハ其ノ構造、設備及滿載吃水線ニ關シ本令ニ依リ檢査ヲ行フ

昭和六年七月一日以後ニ龍骨ヲ据附ケ本令施行ノ際現ニ製造中ノ船舶ニシテ國際航海ニ從事スベキモノニ付テハ其ノ無線電信施設ニ關シ本令ニ依リ檢査ヲ行フ

第百九十三條　船舶安全法第三十六條第一項ノ規定ニ依ル檢査ハ左ノ各號ニ依ル

一　船舶檢査法ニ依リ定メタル特別檢査ノ有效期間ガ滿了シタル船舶及同法ニ依リ特別檢査ヲ行ハザル船舶ノ受クベキ檢査ニ關スル規定ヲ準用ス

二　前項ノ有效期間ガ滿了セザル船舶ト雖モ申請ニ依リ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルモノニ付行フ檢査ニ付テハ定期檢査ニ關スル規定ヲ準用ス

三　前二號ニ該當セザル船舶ノ受クベキ檢査ニ付テハ中間檢査ニ關スル規定ヲ準用ス但シ管海官廳ニ於テ必要アリト認メタルトキハ檢査ノ方法及準備ニ付第一號ニ依ルコトヲ得

船舶安全法第三十三條ニ揭グル船舶前項ノ檢査ヲ受ケ滿載吃水線ヲ標示スベキ場合ニ於テ特ニ急速ノ發航ヲ必要トスル事情アルトキハ當該管海官廳ノ認可ヲ受ケ其ノ指定スル時期迄吃水線ヲ標示セザルコトヲ得

第百九十四條　國際航海ニ從事スル旅客船ニシテ船舶安全法第三十五條ニ揭グルモノハ同法ニ依リ檢査ヲ受クル迄第百五十六條ノ規定ニ拘ラズ救命艇手適任證書ヲ受有スル船員ヲ乘組マシメザルコトヲ得

第百九十五條　船舶檢査法ニ依リ定メタル船舶ノ資格ガ第

九十二條ノ表ニ揭グル船舶ノ長サ又ハ速力ニ依リ變更ヲ要スル場合ト雖モ當該船舶ノ用途其他ノ事情ニ依リ管海官廳ニ於テ已ムコトヲ得ズト認メタルトキハ當該船舶ノ現狀ニ變更ナキ限リ仍從前ノ資格ヲ存續セシムルコトヲ得

第百九十六條　鋼船ノ船體ニ關シ施設スベキ事項及其ノ標準ニ付テハ第十條ノ規定ニ拘ラズ當分ノ內仍造船規程第一編ノ定ムル所ニ依ル

別表第一號

無線電信施設免除區域表

一　北海道各港間及樺太各港間ノ區域並ニ北海道ト樺太トノ間ノ航路ニ當ル韃靼海灣及「オホツク」海

二　山口縣大津郡川尻岬ヨリ慶尙南道釜山ニ至ル線及長崎縣長崎ヨリ全羅南道馬羅島ヲ經テ同道珍島ニ至ル線內ノ區域

三　北緯三十七度以北ノ黃海

四　臺北州富貴角ヨリ中華民國福建省福州ニ至ル線及高雄州鷲鑾鼻ヨリ香港ニ至ル線內ノ區域

五　東經九十四度ノ「アヂア」ノ沿岸ヨリ西貢ニ至ル沿岸線、西貢ヨリ北緯四度三十分東經百十度ノ地點、「バラワン」島ノ南端、「バルマス」島(ミアンガス)、緯度零度東經百四十度ノ地點、緯度零度東經百四十八度ノ地點及南緯十度東經百四十八度ノ地點ヲ經テ「ヨーク」岬ニ引キタル線、「ヨーク」岬ヨリ「ポートダウイン」(「チアールズ」岬)ニ至ル「オーストラリア」ノ北沿岸線、並ニ「チアールズ」岬ヨリ「アシユモア、リーフ」(「イースト」島)、南緯十度東經百九度ノ地點、「クリスマス」島、北緯二度東經九十四度ノ地點及北緯十度東經九十四度ノ地點ヲ經テ東經九十四度ノ「アヂア」ノ沿岸迄引キタル各線內ニ在リテ「オーストラリア」聯邦及亞米利加合衆國ノ領域ヲ除キタル區域

六　香港ヨリ北緯十七度東經百十度ノ地點ニ至ル線、及同地點ヨリ正南ヘ北緯十度ニ至ル線及同地點ヨリ西貢ニ至ル線ノ西方ノ支那海及東京灣

七　赤道西經百三十度ノ線、南緯三十四度ノ線及「オーストラリヤ」ノ沿岸線ニ依リ圍マレタル南太平洋ヨリ「オーストラリア」ノ領域ヲ除キタル區域

八　「マダカスカル」島、「レユニオン」島及「モーリシアス」島ノ各港間ノ航路ニ當ル印度洋

九　「モロツコ」國「カサブランカ」、「アルジエリア」ノ「オラン」及其ノ中間ノ各港間ノ航路ニ當ル北大西洋及地中海一部

十　諾威國「ウトシレ」ヨリ和蘭國「テキセル」ニ至ル線ノ

東方ニシテ「ソヴイエト」社會主義共和國聯邦ノ領域ヲ除キタル「バルチツク」海及其ノ接續海

十一　亞米利加合衆國ノ領域ヲ除キタル「カリビアン」海

別表第二號

檢査手數料表

製造檢査					
船體	船體ノ長サ（米）	一隻ニ付		備考	
	二〇未滿	七圓	一〇圓	第十一ノ區域ニ付テハ帆船ノ航海ニ限ル	
	二〇以上三〇未滿	一〇圓	二〇圓		
	三〇以上四〇未滿	二〇圓	四〇圓		
	四〇以上五〇未滿	五〇圓	九〇圓		
	五〇以上六五未滿	六五圓	一五〇圓		
	六五以上一〇〇未滿	一〇〇圓	一七〇圓		
	一〇〇以上一二五未滿	一二五圓	三五〇圓		
	一二五以上一五〇未滿	一五〇圓	四三〇圓		
往復動汽機	汽筒ノ徑ノ和（米）	汽機一箇ニ付			
	一・〇未滿	一〇圓	二〇圓		
	一・〇以上一・五未滿	一五圓	三〇圓		
	一・五以上二・〇未滿	二〇圓	四五圓		
	二・〇以上二・七未滿	三〇圓	六〇圓		
	二・七以上三・五未滿	四五圓	九〇圓		
	三・五以上	六〇圓	一五〇圓		
「タービン」汽機	軸馬力	汽機一箇ニ付			
	三〇〇未滿	一〇圓	二〇圓		
	三〇〇以上五〇〇未滿	一五圓	三〇圓		
	五〇〇以上一、〇〇〇未滿	二〇圓	四五圓		
	一、〇〇〇以上三、〇〇〇未滿	三〇圓	六〇圓		
	三、〇〇〇以上五、〇〇〇未滿	四五圓	九〇圓		
	五、〇〇〇以上	六〇圓	一五〇圓		
汽罐	受熱面積（平方米）	汽罐一箇ニ付			
	五〇未滿	五圓	一〇圓		
	五〇以上一〇〇未滿	一〇圓	二〇圓		
	一〇〇以上一五〇未滿	一五圓	三〇圓		
	一五〇以上二三〇未滿	二〇圓	四五圓		
	二三〇以上三五〇未滿	三〇圓	六〇圓		
	三五〇以上	四五圓	九〇圓		
單動發動機	氣筒ノ徑ノ和（米）	發動機一箇ニ付			
	〇・五未滿	五圓	一〇圓		
	〇・五以上一・〇未滿	一〇圓	二〇圓		
	一・〇以上一・五未滿	二〇圓	三〇圓		
	一・五以上二・〇未滿	三〇圓	四五圓		
	二・〇以上二・五未滿	四五圓	六〇圓		
	二・五以上三・二未滿	六〇圓	九〇圓		
	三・二以上四・〇未滿	九〇圓	一一〇圓		
	四・〇以上五・〇未滿	一一〇圓	一三五圓		
	五・〇以上	一三五圓			

複動發動機	氣筒ノ徑ノ和（米）	發動機一箇ニ付	
	〇・五未滿	一〇圓	二〇圓
	〇・五以上一・〇未滿	一五圓	三〇圓
	一・〇以上一・五未滿	二〇圓	四五圓
	一・五以上二・〇未滿	三〇圓	六五圓
	二・〇以上二・五未滿	四五圓	九〇圓
	二・五以上三・二未滿	六五圓	一一〇圓
	三・二以上四・〇未滿	九〇圓	一三五圓
	四・〇以上五・〇未滿	一一〇圓	二〇〇圓
	五・〇以上	一三五圓	三〇〇圓

推進機關ヲ有スル船舶ノ檢査

總噸數			
定期檢査	旅客船（ザルモノ）ニ非ス	二〇噸未滿	一五圓
		二〇噸以上一〇〇噸未滿	二〇圓
		一〇〇噸以上三〇〇噸未滿	三〇圓
		三〇〇噸以上五〇〇噸未滿	五〇圓
		五〇〇噸以上一、〇〇〇噸未滿	七〇圓
		一、〇〇〇噸以上三、〇〇〇噸未滿	一〇〇圓
		三、〇〇〇噸以上六、〇〇〇噸未滿	一三〇圓
		六、〇〇〇噸以上一〇、〇〇〇噸未滿	一六五圓
		一〇、〇〇〇噸以上	二〇〇圓
	旅客船ニ非ザルモノ	二〇噸未滿	一〇圓
		二〇噸以上一〇〇噸未滿	二〇圓
		一〇〇噸以上三〇〇噸未滿	三〇圓
		三〇〇噸以上五〇〇噸未滿	五〇圓
		五〇〇噸以上一、〇〇〇噸未滿	七〇圓
		一、〇〇〇噸以上三、〇〇〇噸未滿	一〇〇圓
		三、〇〇〇噸以上六、〇〇〇噸未滿	一三〇圓
		六、〇〇〇噸以上一〇、〇〇〇噸未滿	一六五圓
		一〇、〇〇〇噸以上	二〇〇圓
中間檢査	旅客船ニ非ス	六圓	一〇圓
		一〇圓	二〇圓
		二〇圓	三〇圓
		三〇圓	五〇圓
		五〇圓	七〇圓
		七〇圓	一〇〇圓
		一〇〇圓	一三〇圓
		一三〇圓	一六五圓
		一六五圓	二〇〇圓
	旅客船ニ非ザルモノ	四圓	一五圓
		一五圓	二〇圓
		二〇圓	三〇圓
		三〇圓	四〇圓
		四〇圓	五〇圓
		五〇圓	六五圓
		六五圓	八〇圓
		八〇圓	一〇〇圓
		一〇〇圓	一三〇圓
		一三〇圓	一六五圓
		一六五圓	二〇〇圓
臨時檢査	臨檢一回ニ付	一五圓	二〇圓
特殊船檢査		二圓	三圓

推進機ヲ有セザル船舶ノ檢査

總噸數			
定期檢査	二〇噸以上五〇噸未滿	五圓	一〇圓
	五〇噸以上一〇〇噸未滿	七圓	一五圓
	一〇〇噸以上三〇〇噸未滿	一〇圓	二五圓
	三〇〇噸以上五〇〇噸未滿	一五圓	三〇圓
	五〇〇噸以上	三〇圓	五〇圓
中間檢査	二〇噸以上	三圓	五圓
臨時檢査	臨檢一回ニ付	二圓	三圓

船舶安全法第六條第三項ノ規定ニ依ル檢査

往復動汽機一箇ニ付	汽筒ノ徑ノ和（米）	一・〇未滿	一・〇以上一・五未滿	一・五以上二・〇未滿	二・〇以上二・七未滿
	製造中檢査	一〇圓	一五圓	二〇圓	三〇圓
	出來上リ檢査	三圓	五圓	七圓	一〇圓
「タービン」汽機一箇ニ付	軸馬力	三〇〇未滿	三〇〇以上五〇〇未滿	五〇〇以上一、〇〇〇未滿	一、〇〇〇以上三、〇〇〇未滿
	製造中檢査	一〇圓	一五圓	二〇圓	三〇圓
	出來上リ檢査	三圓	五圓	七圓	一〇圓
汽罐一箇ニ付	受熱面積（平方米）	五〇未滿	五〇以上一〇〇未滿	一〇〇以上一五〇未滿	一五〇以上三五〇未滿
	製造中檢査	五圓	一〇圓	一五圓	三〇圓
	出來上リ檢査	二圓	三圓	五圓	一〇圓
單動發働機一箇ニ付	氣筒ノ徑ノ和（米）	〇・五以上一・〇未滿	一・〇以上一・五未滿	一・五以上二・〇未滿	二・〇以上二・五未滿
	製造中檢査	一〇圓	一五圓	二〇圓	三〇圓
	出來上リ檢査	三圓	五圓	七圓	一〇圓
複動發働機一箇ニ付	氣筒ノ徑ノ和（米）	〇・五以上一・〇未滿	一・〇以上一・五未滿	一・五以上二・〇未滿	二・〇以上二・五未滿
	製造中檢査	一五圓	二〇圓	三〇圓	四五圓
	出來上リ檢査	五圓	七圓	一〇圓	一五圓

往復動汽機一箇ニ付	汽筒ノ徑ノ和（米）	二・七以上三・五未滿	三・五以上		
	製造中檢査	四五圓	六〇圓		
	出來上リ檢査	一五圓	二〇圓		
「タービン」汽機一箇ニ付	軸馬力	三、〇〇〇以上五、〇〇〇未滿	五、〇〇〇以上		
	製造中檢査	四五圓	六〇圓		
	出來上リ檢査	一五圓	二〇圓		
汽罐一箇ニ付	受熱面積（平方米）	二三〇以上三五〇未滿	三五〇以上		
	製造中檢査	三〇圓	四五圓		
	出來上リ檢査	一〇圓	一五圓		
單動發働機一箇ニ付	氣筒ノ徑ノ和（米）	三・二以上四・〇未滿	四・〇以上五・〇未滿	三・〇以上	
	製造中檢査	六〇圓	七五圓	九〇圓	
	出來上リ檢査	二〇圓	二五圓	三〇圓	
複動發働機一箇ニ付	氣筒ノ徑ノ和（米）	三・二以上四・〇未滿	四・〇以上五・〇未滿	五・〇以上	
	製造中檢査	九〇圓	一一〇圓	一三五圓	
	出來上リ檢査	三〇圓	三五圓	四五圓	

特定船舶ニ使用スベキ機關部分品	船舶ノ總噸數	一〇〇噸未滿	一〇〇噸以上五〇〇噸未滿	五〇〇噸以上二、〇〇〇噸未滿
	臨檢一回ニ付	二圓	三圓	五圓

備考

一　船舶安全法第八條ニ掲グル船舶ニ付定期檢査ヲ受クルトキハ本表ノ手數料ノ半額トス

二　臨檢回數ハ檢査官吏一人一回ノ臨檢ヲ以テ臨檢一回トシ一人一回ノ臨檢ガ四時間ヲ超ユル時ハ之ヲ二回トシ算出ス

三　臨時檢査ノ檢査手數料ガ當該船舶ノ定期檢査ノ檢査手數料ニ相當スル金額ヲ超ユルトキハ之ヲ該金額ニ止ム

四　休暇日檢査ヲ受クルトキハ臨檢一回ニ付前三號ノ規定ニ依リ算出シタル檢査手數料ニ其ノ三割ニ相當スル金額ヲ加算ス但シ臨檢一回ノ加算手數料ガ三圓未滿ナルトキハ之ヲ三圓トシ二十五圓ヲ超ユルトキハ之ヲ二十五圓ニ止ム

五　船舶安全法施行地外ニ於テ檢査ヲ受クルトキハ檢査手數料ハ前四號ノ規定ニ依リ算出シタル金額ノ四倍トス

六　船舶安全法施行地ニ於テ執行シタル檢査ト雖モ申請ニ依リ其ノ一部ヲ同法施行地外ニ於テ受ケタルトキハ檢査手數料ハ前號ノ規定ニ依リ之ヲ算出ス

七　汽罐ノ受熱面積ハ一面ガ火焰又ハ燃燒瓦斯ニ暴露シ反對ノ面ガ水ニ接觸スル部分ノ火焰又ハ燃燒瓦斯ニ暴露スル面ノ面積トス但シ筒形汽罐又ハ直立汽罐ニ在リテハ前管板ヲ除外シ且焰管ノ受熱面積ハ外徑ヲ基トシテ算定シ筒形汽罐ニ在リテハ各火爐及之ニ附屬スル燃燒室中該火爐ノ中心線ヲ含ム水平面以下ノ部分ヲ除外シ水管汽罐ニ在リテハ汽胴及水胴ヲ除外スルモノトス

八　檢査ノ申請ヲ取下ゲタル場合ニ於テ船體ノ長サ、往復動汽機ノ汽筒ノ徑、「タービン」汽機ノ軸馬力、汽罐ノ受熱面積又ハ發動機ノ氣筒ノ徑ヲ定ムルコト能ハザルトキハ夫々計畫ノモノニ依リ手數料ヲ定ムルモノトス

別表第三號

證書、證明書及船舶檢査手帖手數料表

一 船舶檢査證書又ハ特殊船檢査證書 推進機關ヲ有スル船舶 二圓
推進機關ヲ有セザル船舶 一圓

二 前號ニ掲グル證書ノ英譯書 推進機關ヲ有スル船舶 四圓
推進機關ヲ有セザル船舶 二圓

三 合格證明書 推進機關ヲ有スル船舶 一圓
推進機關ヲ有セザル船舶 二圓

四 回航認可證書 總噸數百噸以上ノ推進機關ヲ有スル船舶 十圓
總噸數百噸未滿ノ推進機關ヲ有スル船舶 七圓
推進機關ヲ有セザル船舶 五圓

五 船舶檢査手帖

備考

第一號乃至第四號ノ手數料ハ第百四十條ノ規定ニ依リ休暇日ニ於テ證書ノ交付、再交付又ハ書換ヲ受ケントスルトキハ各號ニ定ムル金額ノ倍額トス

第一號書式ノ一

船舶檢査申請書

一 船舶ノ番號、種類、名稱及總噸數
二 所有者ノ住所及氏名又ハ名稱
三 船籍港
四 船舶ノ用途
五 航行セントスル航路（漁船ニ在リテハ從事セントスル業務ノ種類）
六 無線電信施設ノ有無
七 檢査ヲ受ケントスル期日及場所
八 檢査ノ種類及其ノ申請ノ事由

年　月　日

申請者　氏　　名　印

管海官廳宛

備考

一 船舶ガ長國際航海若ハ短國際航海ニ從事スルモノナルトキ又ハ第二十二條第一號乃至第三號ニ該當スルトキハ其ノ旨ヲ第五號ニ附記スベシ

一 初メテ滿載吃水線ニ關スル檢査ヲ受ケントスル船舶又ハ滿載吃水線ノ再指定ヲ受ケントスル船舶ニ付申請者ニ於テ滿載吃水ノ限度ヲ豫定スルトキハ各號ノ外龍骨ノ上面ヨリ測リタル其ノ限度ヲ附記スベシ

三 漁船ニ付テハ特定區域內ノミニ於テ從業セントスルトキハ第五號ニ其ノ區域ヲ附記スベシ

第一號書式ノ二（移民船ニ付特殊船檢査ヲ受ケントスルトキ用ウルモノ）

船舶檢査申請書（移民船）

一 船舶ノ番號、種類、名稱及總噸數
二 所有者ノ住所及氏名又ハ名稱
三 航行區域
四 檢査ヲ受ケントスル期日及場所
五 移民又ハ三等旅客ノ員數及之ヲ搭載スル港
六 發航港、寄航港、到着港及移民又三等旅客ノ下船港
七 出港ノ日時及豫定航海期間
八 航行里程
九 平均速力
十 移民又ハ三等旅客ノ船內ニ於ケル搭載場所

年　月　日

申請者　氏　　名　印

管海官廳宛

備考

第八號ニハ船舶安全法施行地ニ於ケル最後ノ發航港ヨリ初メテ到着スベキ外國ノ港迄ノ里程ヲ記載スベシ

第一號書式ノ三（第五十七條第一項第二號第三號又ハ第二項ノ規定ニ依リ特殊船檢査ヲ受ケントスルトキ用ウルモノ）

船舶檢査申請書

一 船舶ノ番號、種類、名稱及總噸數
二 所有者ノ住所及氏名又ハ名稱
三 航行區域（漁船ニ在リテハ操業場所）
四 臨時ニ搭載スル者ノ種類及員數竝ニ之ヲ搭載スル港
五 檢査ヲ受ケントスル期日及場所
六 航行里程
七 平均速力
八 發航港、寄港及到着港
九 豫定航海期間（漁船ニ在リテハ豫定ノ漁期）

十　第四號ニ掲グル者ノ船内ニ於ケル搭載場所

年　月　日　　申請者　氏　　名　印

管海官廳宛

備　考

第六號ニハ第五十七條第一項第二號又ハ第三號ノ規定ニ依リ特殊船檢査ヲ受クル船舶ニ在リテハ其ノ運送航路ノ里程ヲ、同條第二項ノ規定ニ依リ特殊船檢査ヲ受クル船舶ニ在リテハ其ノ仕立港ヨリ操業場所迄ノ里程ヲ記載スベシ

第二號書式　　製造檢査申請書

一　船舶ノ種類及資格
二　鋼船又ハ木船ノ區別
三　船舶ノ長サ及總噸數
四　機關ノ種類及數
五　實馬力
六　制限汽壓
七　推進器ノ種類及數
八　使用ノ目的
九　航行セントスル航路（漁船ニ在リテハ從事セントスル業務ノ種類）
十　申請者ニ於テ滿載吃水ノ限度ヲ豫定スルトキハ龍骨ノ上面ヨリ測リタル其ノ限度
十一　船體及機關ノ製造所ノ名稱竝ニ其ノ所在地
十二　起工ノ年月

年　月　日　　申請者　氏　　名　印

管海官廳宛

備　考

機關ニ付船體ト同時ニ製造檢査ヲ受ケザルトキハ其ノ事由ヲ附記スベシ

第三號書式　　機關檢査申請書

一　檢査ヲ受クベキ機關又ハ其ノ部分ノ名稱及數
二　製造番號及製造年月
三　主要件名
四　檢査ヲ受ケントスル期日及場所
五　出來上リ檢査又ハ製造中檢査ノ別

年　月　日　　申請者　氏　　名　印

管海官廳宛

備　考

第三號ニハ往復動汽機ニアリテハ制限汽壓竝ニ各汽筒ノ徑及行長ヲ、「タービン」汽機ニ在リテハ制限汽壓、軸馬力及「タービン」筒ノ數ヲ、發動機ニ在リテハ型式竝ニ氣筒ノ數、徑及行長ヲ、汽罐ニ在リテハ型式、制限、汽壓徑、長サ（又ハ高サ）及受熱面積ヲ記載スベシ

第四號書式ノ一（汽船ニ用ウルモノ）

號　　申請者　氏　　名

割印

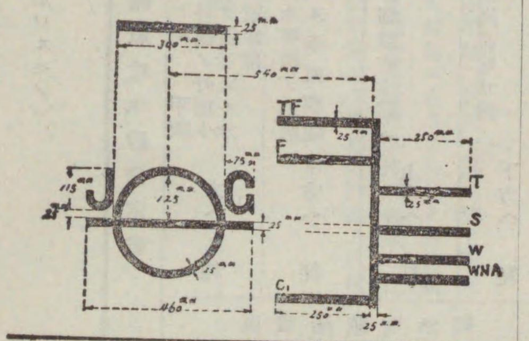
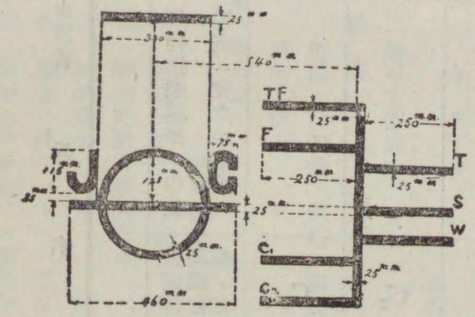
船舶滿載吃水線指定書

船ノ長サノ中央ニ於ケル甲板ノ上面ノ延長ト外板ノ外面トノ交點ヨリ乾舷甲板ヲ標示スル水平線ノ上緣ニ至ル垂直距離	方ヘ	糎	區畫滿載吃水線	貨物搭載場所ノ中旅客室ニ充ツル場所	當該區畫滿載吃水線ノ記號	乾舷甲板ヲ標示スル水平線ノ上緣ヨリ區畫滿載吃水線ニ至ル垂直距離
乾舷甲板ヲ標示スル水平線ノ上緣ヨリ圓標ノ中心ニ至ル垂直距離（夏期乾舷）	下方ヘ	糎			C_1	下方ヘ　糎
圓標ノ中心ヨリ熱帶滿載吃水線ニ至ル垂直距離	上方ヘ	糎			C_2	下方ヘ　糎
圓標ノ中心ヨリ冬期滿載吃水線ニ至ル垂直距離	下方ヘ	糎			C_3	下方ヘ　糎
圓標ノ中心ヨリ冬期北大西洋滿載吃水線ニ至ル垂直距離	下方ヘ	糎	海水ニ於ケル各種滿載吃水線ヨリ之ニ對應スル淡水滿載吃水線ニ至ル垂直距離			上方ヘ　糎

汽船　丸ニ標示スベキ滿載吃水線ノ位置右ノ通指定ス

年月日

管海官廳印

滿載吃水線標示例（右舷ニ於ケル例ヲ示ス）	記事
 （槽船及槽船ニ非ザル長サ一〇〇・五八米以下ノ汽船ニシテ遠洋ノ航行區域ヲ有スルモノ）	
 （近海ノ航行區域ヲ有スル汽船及長サ一〇〇・五八米ヲ超エ遠洋ノ航行區域ヲ有スル汽船（槽船ヲ除ク））	

備考

一　該當事項ナキ欄ニハ斜線ヲ引クベシ

二　木材滿載吃水線ヲ標示スル汽船ニ對シ指定ヲ爲ス場合ニハ第四號書式乙ヲ併セ用ウベシ

三　船舶滿載吃水線規程第二十九條第四項ニ依リ船ノ長サノ中央ヨリ前方船ノ長サノ四分ノ一ノ箇所ニモ圓標ノ標示ヲ要スル船舶ニ對シ指定ヲ爲ス場合ニハ該箇所ニ於ケル乾舷甲板ノ梁上側板（木甲板アルトキハ木甲板）ノ上面ノ延長ト外板ノ外面トノ交點ヨリ圓標ノ中心ニ至ル垂直距離ヲ記事欄ニ記載スベシ

第四號書式ノ二（木材滿載吃水線指定ニ用ウルモノ）

第　號　　申請者　氏名

船舶滿載吃水線指定書

		割印
圓標ノ中心ヨリ夏期木材滿載吃水線ニ至ル垂直距離	上方ヘ	粍
圓標ノ中心ヨリ熱帶木材滿載吃水線ニ直ル垂直距離	上方ヘ	粍
圓標ノ中心ヨリ冬期木材滿載吃水線ニ至ル垂直距離	方ヘ	粍
圓標ノ中心ヨリ冬期北大西洋木材滿載吃水線ニ至ル垂直距離	下方ヘ	粍
海水ニ於ケル各種木材滿載吃水線ヨリ之ニ對應スル淡水木材滿載吃水線ニ至ル垂直距離	上方ヘ	粍

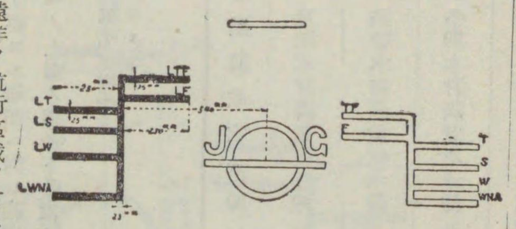
汽船　丸ニ標示スベキ滿載吃水線ノ位置右ノ通指定ス

年　月　日

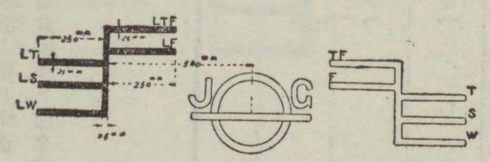
管海官廳印

木材滿載吃水線標示例

（右舷ニ於ケル例ヲ示ス）



（遠洋ノ航行區域ヲ有スル汽船）



（近海ノ航行區域ヲ有スル汽船）

備考

近海ノ航行區域ヲ有スル汽船ニ對シ指定ヲ爲ス場合ニハ「圓標ノ中心ヨリ冬期北大西洋木材滿載吃水線ニ至ル垂直距離」ノ欄ニ斜線ヲ引クベシ

第四號書式ノ三（帆船ニ用ウルモノ）

第　號

申請者　氏　名

割印

船舶滿載吃水線指定書

船ノ長サノ中央ニ於ケル　甲板ノ　ノ上面ノ延長ト外板ノ外面トノ交點ヨリ乾舷甲板ヲ標示スル水平線ノ上緣ニ至ル垂直距離　方ヘ　糎

乾舷甲板ヲ標示スル水平線ノ上緣ヨリ圓標ノ中心ニ至ル垂直距離（海水乾舷）　下方ヘ　糎

圓標ノ中心ヨリ冬期北大西洋滿載吃水線ニ至ル垂直距離　下方ヘ　糎

海水ニ於ケル各種滿載吃水線ヨリ之ニ對應スル淡水滿載吃水線ニ至ル垂直距離　上方ヘ　糎

帆船　丸ニ標示スベキ滿載吃水線ノ位置右ノ通指定ス

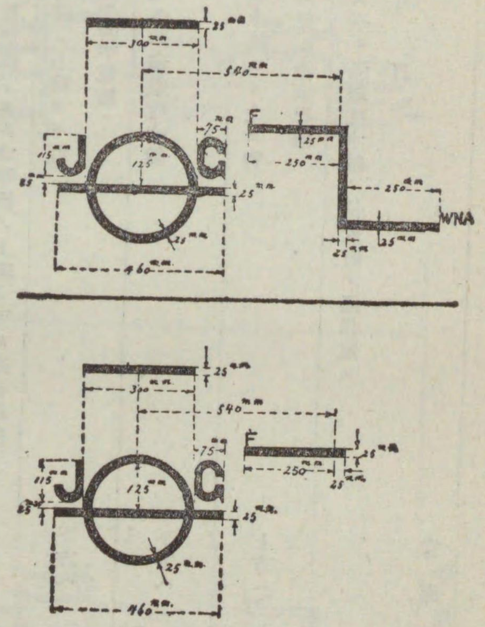
年　月　日

官海官廳印

記事

滿載吃水線標示例

（右舷ニ於ケル例ヲ示ス）



（遠洋ノ航行區域ヲ有スル帆船）

（近海ノ航行區域ヲ有スル帆船）

第五號書式ノ一（木材滿載吃水線ヲ標示セザル船舶ニ用ウルモノ）（竪二七糎 横四〇糎）

第　號

甲種

割印

船舶番號	第　號	所有者					
船舶種船名	船　丸	最大搭載人員	旅客	一等旅客定員	人	合計	人
總噸數	噸			二等旅客定員	人	其ノ他ノ者	人
信號符字				三等旅客定員	人	船員	人
船籍港				計	人		
船舶ノ用途							

備考

一　近海ノ航行區域ヲ有スル帆船ニ對シ指定ヲ爲ス場合ニハ「圓標ノ中心ヨリ冬期北大西洋滿載吃水線ニ至ル垂直距離」ノ欄ニ斜線ヲ引クベシ

二　船舶滿載吃水線規程第二十九條第四項ニ依リ船ノ長サノ中央ヨリ前方船ノ長サノ四分ノ一ノ箇所ニモ圓標ノ標示ヲ要スル船舶ニ對シ指定ヲ爲ス場合ニハ該箇所ニ於ケル乾舷甲板ノ梁上側板（木甲板アルトキハ木甲板）ノ上面ノ延長ト外板ノ外面トノ交點ヨリ圓標ノ中心ニ至ル垂直距離ヲ記事欄ニ記載スベシ

船舶檢査證書

機關		公稱馬力	航行區域	證書有效期間
種類	制限汽壓			自　年　月　日 至　年　月　日

救命設備					無線電信
端艇	救命筏	救命浮器	救命浮環	救命胴衣	
隻	箇	箇	箇	箇	式

滿載吃水	
船ノ長サノ中央ニ於ケル甲板ノ上面ノ延長ト外板ノ外面トノ交點ヨリ乾舷甲板ヲ標示スル水平線ノ上縁ニ至ル垂直距離	方へ　粍
乾舷甲旅ヲ標示スル水平線ノ上縁ヨリ圓標ノ中心ニ至ル垂直距離	下方へ　粍
圓標ノ中心ヨリ熱帶滿載吃水線ニ至ル垂直距離	上方へ　粍
圓標ノ中心ヨリ冬期滿載吃水線ニ至ル垂直距離	下方へ　粍
圓標ノ中心ヨリ冬期北大西洋滿載吃水線ニ至ル垂直距離	下方へ　粍

區畫滿載吃水線			
貨物搭載場所ノ中旅客室ニ充ツル場所			
當該區畫滿載吃水線ノ記號	C_1	C_2	C_3
乾舷甲板ヲ標示スル水平線ノ上縁ヨリ區畫滿載吃水線ニ至ル垂直距離	下方へ　粍	下方へ　粍	下方へ　粍

線	
海水ニ於ケル各種滿載吃水線ヨリ之ニ對應スル淡水滿載吃水線ニ至ル垂直距離	上方へ　粍

船舶安全法第九條ニ依リ本證書ヲ交付ス

年　月　日

管海官廳　印

第五號書式ノ二（木材滿載吃水線ヲ標示スル船舶ニ用ウルモノ）（竪二七糎 横四〇糎）

第　　號

割印

甲種

船舶番號	第　　號
船種船名	船　　丸
總噸數	噸
信號符字	
船籍港	
船舶ノ用途	
所有者	

最大搭載人員			
旅客			
一等旅客定員	人	船員	人
二等旅客定員	人	其ノ他ノ者	人
三等旅客定員	人	合計	人
計	人		

船舶檢査證書

機關 種類	機關 汽壓制限	公稱馬力	航行區域	證書有效期間 自 年 月 日 至 年 月 日	船ノ長サノ中央ニ於ケル外面トノ交點ヨリ乾舷甲板ヲ標示スル水平線ノ上面ノ延長ト外板ノ上緣ニ至ル垂直距離 方へ 糎	滿載吃水線 乾舷甲板ヲ標示スル水平線ノ上緣ヨリ圓標ノ中心ニ至ル垂直距離 下方へ 糎	滿載吃水線 圓標ノ中心ヨリ熱帶滿載吃水線ニ至ル垂直距離 上方へ 糎	滿載吃水線 圓標ノ中心ヨリ冬期滿載吃水線ニ至ル垂直距離 下方へ 糎	滿載吃水線 圓標ノ中心ヨリ冬期北大西洋滿載吃水線ニ至ル垂直距離 下方へ 糎	木材滿載吃水線 圓標ノ中心ヨリ夏期木材滿載吃水線ニ至ル垂直距離 上方へ 糎	木材滿載吃水線 圓標ノ中心ヨリ熱帶木材滿載吃水線ニ至ル垂直距離 上方へ 糎	木材滿載吃水線 圓標ノ中心ヨリ冬期木材滿載吃水線ニ至ル垂直距離 方へ 糎	木材滿載吃水線 圓標ノ中心ヨリ冬期北大西洋木材滿載吃水線ニ至ル垂直距離 下方へ 糎

備設 救命 救命衣	浮救命環	浮救命器	救命筏	端艇	無線電信
箇	箇	箇	箇	隻	式

第六號書式（竪二七糎 横四〇糎）

第　號

乙種

船舶番號	船種 船名	總噸數	機關 種類	機關 汽壓制限	海水ニ於ケル各種滿載吃水線ヨリ之ニ對應スル淡水滿載吃水線ニ至ル垂直距離 上方へ 糎	海水ニ於ケル各種木材滿載吃水線ヨリ之ニ對應スル淡水木材滿載吃水線ニ至ル垂直距離 上方へ 糎
第　號	船 丸	噸				

所有者	信符號字	船籍港	船舶ノ用途	最大旅客 一等旅客定員 二等旅客定員 三等旅客定員 計 人 人 人 人

船舶安全法第九條ニ依リ本證書ヲ交付ス

年　月　日

管海官廳印

船舶檢査證書

第七號書式ノ一（滿載吃水線ヲ標示スル漁船ニ用ウルモノ）（竪二七糎 横四〇糎）

第　　號

船名	船種	船番號	所有者
丸	船	第　號	

公稱馬力	航行區域	證書有效期間	搭載人員 船員	搭載人員 其ノ他ノ者	搭載人員 合計	無線電信	端艇
		自　年　月　日 至　年　月　日	人	人	人	式	隻

船舶安全法第九條ニ依リ本證書ヲ交付ス

年　月　日

管海官廳印

漁船檢査證書

制印

總噸數	機關 種類	機關 制限 汽壓	從業制限	證書有效期間	最大搭載人員 船員	最大搭載人員 其ノ他ノ者	最大搭載人員 合計	無線電信	端艇	信號符字	船籍港	公稱馬力
噸				自　年　月　日 至　年　月　日	人	人	人	式	隻			

滿載吃水線

船ノ長サノ中央ニ於ケル甲板ノ上面ノ延長ト外板ノ外面トノ交點ヨリ乾舷甲板ヲ標示スル水平線ノ上緣ニ至ル垂直距離	乾舷甲板ヲ標示スル水平線ノ上緣ヨリ圓標ノ中心ニ至ル垂直距離	圓標ノ中心ヨリ熱帶滿載吃水線ニ至ル垂直距離
方へ　糎	下方へ　糎	上方へ　糎
		圓標ノ中心ヨリ冬期滿載吃水線ニ至ル垂直距離
		圓標ノ中心ヨリ冬期北大西洋滿載吃水線ニ至ル垂直距離
	下方へ　糎	下方へ　糎

第七號書式ノ二（滿載吃水線ヲ標示セザル漁船ニ用ウルモノ）（竪二七糎 横四〇糎）

第　號

割印

漁船檢査證書

船舶番號	船種	總噸數	機關 種類	機關 制限	從業制限
第　號	船 丸	噸			

所有者	信號符字	船籍港	最大馬力	最大搭船員	最大搭其ノ他ノ者	載人員 合計	無線電信	端艇	證書有效期間
									自　年　月　日 至　年　月　日

海水ニ於ケル各種滿載吃水線ヨリ之ニ對應スル淡水滿載吃水線ニ至ル垂直距離　上方へ　糎

船舶安全法第九條ニ依リ本證書ヲ交付ス

年　月　日

管海官廳印

第八號書式（竪二七糎 横三三糎）

第　號

割印

甲

船種 船名	總噸數	所有者	搭員總員
船 丸	噸		人

查證書

載人員 合計	無線電信	端艇	證書有效期間
人	式	隻	自　年　月　日 至　年　月　日

船舶安全法第九條ニ依リ本證書ヲ交付ス

年　月　日

管海官廳印

第九號書式（竪二七糎 横三三糎）

第　號

種特殊船檢査證書

航路	證書有効期間
	自　年　月　日 至　年　月　日

載人員
内譯

船舶安全法第九條ニ依リ本證書ヲ交付ス

年　月　日

管海官廳印

乙種特殊船檢査證書

割印

船種船名	航路	總噸數	證書有効期間
船丸		噸	自　年　月　日 至　年　月　日

所有者	臨旅客		
	總員	内	譯
	人		

第十號書式（竪二七糎横三三糎）

第　號

船舶安全法第九條ニ依リ本證書ヲ交付ス

年　月　日

管海官廳印

丙種特殊船檢

割印

船種	船名	總噸數	航
	船　丸	噸	

所有者	甲板	
	內	員總
		人

第十一號書式（竪二七糎横三三糎）

第　號

船舶安全法第九條ニ依リ本證書ヲ交付ス

年　月　日

管海官廳印

檢査證書

割印

路	證書有效期間	旅客
	自　年　月　日 至　年　月　日	譯

船種	船名	總噸數
	船　丸	噸

所有者	仕立港

漁船特殊檢査證書

業務ノ種類		豫定歸著港	
操業場所		搭載人員	總員 人
證書有效期間	自 年 月 日 至 年 月 日		內譯

船舶安全法第九條ニ依リ本證書ヲ交付ス

年 月 日

管海官廳印

第十二號書式ノ一（船舶ニ用ウルモノ）（竪二七糎 横一九糎）

第 號

割印

合格證明書

一 船舶ノ種類及鋼船又ハ木船ノ區別
一 製造番號
一 總噸數
一 船體ノ主要寸法
一 船舶ノ用途
一 機關ノ種類及數
一 製造者ノ住所及氏名又ハ名稱
一 檢査ノ成績 別紙ノ通

右ハ船舶安全法第六條ニ依ル船舶ノ製造檢査ニ合格シタルモノナルコトヲ證明ス

年 月 日

管海官廳印

第十二號書式ノ二（船舶用機關ニ用ウルモノ）（竪二七糎横一九糎）

第　號

割印

合格證明書

一　檢印及檢査番號
一　檢査品名及數
一　製造中檢査又ハ出來上リ檢査ノ區別
一　製造者ノ住所及氏名又ハ名稱
一　檢査ノ成績　別紙ノ通

右ハ船舶安全法第六條ニ依ル船舶用機關ノ檢査ニ合格シタルモノナルコトヲ證明ス

年　月　日

管海官廳印

第十三號書式（竪二七糎横一九糎）

第　號

割印

回航認可證書

船舶所有者住所
氏名又ハ名稱

右所有（汽帆）船　丸ハ船舶安全法施行規則第　條第　號ニ該當スルニ因リ（旅客若ハ貨物ノ搭載ヲ許サレタルトキ又ハ之ヲ禁ゼラレタルトキハ其ノ旨ヲ記入ス）ヨリ　ヲ經テ　迄航行スルコトヲ認可シ本證書ヲ交付ス

本證書ハ　年　月　日限リ其ノ効力ヲ失フ

年　月　日

管海官廳印

第十四號書式（竪八・五糎　横六・五糎）

第　號

船舶検査印　官吏之證

官氏名

遞信省

○遞信省令第五號

船舶安全法施行規則ヲ外國船舶ニ準用ノ件左ノ通定ム

昭和九年二月一日　遞信大臣　南　弘

船舶安全法施行規則ヲ外國船舶ニ準用ノ件

第一條　左ニ掲グル規定ヲ除クノ外船舶安全法施行規則ハ日本船舶ニ非ザル船舶（以下外國船舶ト稱ス）ニシテ同法第十四條各號ニ掲グルモノニ之ヲ準用ス但シ本令ニ於テ別段ノ定アル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一　製造檢査ニ關スル規定

二　船舶安全法第六條第三項ノ規定ニ依ル船舶用機關ノ檢査ニ關スル規定

三　第百五十五條乃至第百七十六條

四　船舶安全法第十四條第三號ニ掲グル外國船舶ニ付テハ第十五章ノ規定

第二條　船舶安全法第十四條第三號ニ掲グル外國船舶ニ付テハ檢査ハ左ノ各號ニ依ル

一　船舶安全法第十五條第一項ノ規定ニ依リ同法ニ依リ交付シタル證書ト同一ノ效力ヲ有スル證書ヲ受有スル船舶ニ付テハ別ニ定ムル場合ヲ除クノ外當該證書ガ有効ナリヤ否ヤヲ査閲シ管海官廳ニテ必要アリト認ムルトキハ當該船舶ノ現狀ガ證書ニ記載シタル條件ニ違反スルコトナキヤ否ヤヲ確ムルニ必要ナル檢査ヲ行フ

二　前號ニ該當セザル船舶ニ付テハ管海官廳ノ適當ト認ムル所ニ依リ日本船舶ニ付行フ檢査ニ準ジ檢査ヲ行フ

第三條　外國船舶ノ積量ハ左ノ各號ニ依ル

一　船舶ガ其ノ所屬地ノ當該官廳ノ交付シタル船舶國籍證書又ハ船舶檢査證書ヲ受有スルトキハ之ニ記載シタル積量ニ依ル

二　前號ノ證書ヲ受有セザル船舶ニ付テハ船舶積量測度法ニ依リ算定シタル積量ニ依ル

管海官廳ハ帝國政府トノ間ニ船舶積量ニ關スル互認協定ナキ國ニ屬スル船舶ニ付テハ前項第一號ノ規定ニ拘ラズ船舶積量測度法ニ依リ之ヲ測度スルコトヲ得

附　則

第四條　本令ハ昭和九年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

第五條　船舶安全法施行規則第百九十條、第百九十一條、第百九十三條及第百九十五條ノ規定ハ同法第十四條第一號又ハ第二號ニ掲グル外國船舶ニ、同規則第百九十六條ノ規定ハ同法第十四條各號ニ掲グル外國船舶ニ之ヲ準用

ス

第六條　船舶安全法第十四條第三號ニ掲グル外國船舶ニシテ同法第三十三條ニ該當スルモノハ本令施行後一年ヲ限リ滿載吃水線ヲ標示セザルコトヲ得

第七條　昭和六年七月一日以後ニ龍骨ヲ据附ケ國際航海ニ從事スル旅客船又ハ昭和七年七月一日以後ニ龍骨ヲ据附ケ國際航海ニ從事スル船舶ニシテ船舶安全法第十四條第三號ニ掲グル外國船舶ニ付テハ其ノ構造、設備及滿載吃水線ニ關シ、昭和六年七月一日以後ニ龍骨ヲ据附ケ國際航海ニ從事スル船舶ニシテ同條各號ニ掲グル外國船舶ニ付テハ無線電信施設ニ關シ本令施行後三月ヲ限リ本令ニ依ラザルコトヲ得

第八條　前條ノ船舶ヲ除クノ外船舶安全法第十四條第三號ニ掲グル外國船舶ニ付テハ其ノ構造、設備、滿載吃水線及無線電信施設ニ關シ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ本令施行後一年ヲ限リ本令ニ依ラザルコトヲ得

○遞信省令第六號

船舶設備規程左ノ通定ム

昭和九年二月一日

遞信大臣　南　弘

船舶設備規程

目次

第一編　救命設備
第一章　總則
第二章　端艇
第三章　船舶ニ備フベキ端艇其ノ他ノ救命器具ノ數量
第一節　第一種船ノ端艇、救命筏及救命浮器
第二節　第二種船ノ端艇、救命筏及救命浮器
第三節　第三種船ノ端艇、救命筏、救命浮器、救命浮環又ハ救命胴衣
第四節　第四種船ノ端艇、救命筏及救命浮器
第五節　第五種船ノ端艇、救命筏及救命浮器
第六節　救命胴衣、救命浮環及救命索發射器
第四章　端艇及救命筏ノ附屬品
第五章　端艇其ノ他ノ救命器具ノ積附及標示

第六章　乘艇裝置
第二編　消防設備
第一章　總則
第二章　近海以上ノ航行區域ヲ有スル旅客船ノ消防設備
第三章　旅客船ニ非ザル船舶及沿海區域以下ノ航行區域ヲ有スル旅客船ノ消防設備
第三編　居住及衛生設備
第一章　旅客室
第二章　旅客定員
第三章　旅客ニ關スル設備
第四章　船員室等
第五章　衛生設備
第四編　航海用具等
第一章　錨、鎖及索
第二章　操舵設備
第三章　航海用具其ノ他ノ屬具
第五編　特殊貨物ノ積附設備
第一章　火藥庫
第二章　甲板積木材貨物ノ積附
第三章　穀類貨物ノ積附
第六編　電氣設備

第一章　總則

第一節　通則

第二節　機械及器具

第三節　電線、電路及附屬設備

第二章　配線工事

第三章　特殊場所ニ於ケル設備

附則

船舶設備規程

第一編　救命設備

第一章　總則

第一條　本編ノ規定ノ適用ニ付テハ船舶ヲ分チテ左ノ六種トス

第一種船　近海以上ノ航行區域ヲ有スル旅客船

第二種船　沿海ノ航行區域ヲ有スル旅客船

第三種船　平水ノ航行區域ヲ有スル旅客船

第四種船　近海以上ノ區域ニ於テ臨時旅客又ハ甲板旅客ヲ運送スル旅客船

第五種船　旅客船ニ非ザル船舶ニシテ沿海以上ノ航行區域ヲ有スルモノ

第六種船　旅客船ニ非ザル船舶ニシテ平水ノ航行區域ヲ有スルモノ

第二條　救命艇ヲ分チテ左ノ五種トス

一　第一級甲型救命艇　内部浮體ノミヲ有シ固定舷側ヲ有スル無甲板救命艇

二　第一級乙型救命艇　内部浮體及外部浮體ヲ有シ固定舷側ヲ有スル無甲板救命艇

三　第二級甲型救命艇　内部浮體及外部浮體ヲ有シ舷側ノ上部ヲ疊込ミ得ル無甲板救命艇

四　第二級乙型救命艇　固定水密舷墻又ハ疊込ミ得ル水密舷墻ヲ有スル有甲板救命艇

五　發動機附救命艇　第一級救命艇ニシテ發動機ヲ備フルモノ

第三條　端艇ト稱スルハ救命艇及容積一・四立方メートル以上ノ普通艇、傳馬船其ノ他ノ艀舟ヲ謂フ

第四條　救命設備トシテ船舶ニ備フベキ救命艇、救命筏、救命浮器、救命浮環、救命胴衣、救命索發射器、救命焔及信號紅焔ハ試驗規程ニ適合スルモノナルコトヲ要ス

第二章　端　艇

第五條　救命艇ノ容積又ハ面積ノ算定並ニ救命艇、救命筏及救命浮器ノ定員ノ算定ニ付テハ試驗規程ニ依ル

第六條　發動機附救命艇ハ燃料ヲ十分ニ備ヘ何時ニテモ直ニ使用シ得ル狀態ニ置キ且之ヲ迅速ニ水上ニ卸ス爲ノ適當ナル裝置ヲ備フベシ

第七條　普通艇、傳馬船其ノ他ノ艀舟ノ構造ハ管海官廳ニ於テ適當ト認ムルモノナルコトヲ要ス

第八條　普通艇ノ容積ハ其ノ外部ニ於テ長サ及幅ヲ測リ長サノ中央ニ於テ内部ノ深サヲ測リ之ヲ相乘ジタルモノノ十分ノ六トス

傳馬船其ノ他ノ艀舟ノ容積ハ前項ノ長サ、幅及深サヲ相乘ジタルモノノ十分ノ七トス

第九條　普通艇、傳馬船其ノ他ノ艀舟ノ定員ハ其ノ容積（立方メートルニテ）ヲ〇・二八三ニテ除シ之ヲ定ム

第十條　沿海以下ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ備フル端艇ノ定員ハ第五條又ハ前條ノ規定ニ依ル定員ノ一・一倍トス

第三章　船舶ニ備フベキ端艇其ノ他ノ救命器具ノ數量

第一節　第一種船ノ端艇、救命艇及救命浮器

第十一條　第一種船ニハ其ノ長サニ應ジ第一號表(イ)欄ニ掲グル組數ノ端艇鈎ヲ備フベシ但シ最大搭載人員ヲ收容スルニ必要ナル端艇ノ數ヨリ多キコトヲ要セズ

管海官廳ニ於テ已ムヲ得ズト認ムル場合ニ於テハ端艇鈎ノ組數ヲ第一號表(ロ)欄ニ掲グルモノ迄減ズルコトヲ得

第十二條　前條ノ端艇鈎ノ各組ニハ第一級救命艇一隻ヲ取

附クルコトヲ要ス

前項ノ救命艇ノ合計定員ガ船舶ノ最大搭載人員ニ達セザルトキハ之ニ達スル迄救命艇ヲ增備スベシ

前項ノ增備救命艇ハ第一項ノ救命艇ノ下ニ一隻宛配置シ尙殘餘アルトキハ其ノ内側ニ配置スベシ

第十三條　長國際航海ニ從事スル第一種船ニ在リテハ管海官廳ニ於テ救命筏ガ前條第一項ノ救命艇ノ内側ニ配置セラルル增備艇ヨリモ一層迅速且有效ニ利用セラルト認ムルトキハ該增備艇ニ代ヘ救命艇ヲ備フルコトヲ得但シ救命艇ノ總容積ヲ第一號表(ニ)欄ニ掲グル最小容積未滿ト爲スコトヲ得ズ

第十四條　長國際航海ニ從事スル第一種船ニ於テ救命艇ノ數十三隻ヲ超ユルトキハ中一隻、十九隻ヲ超ユルトキハ中二隻ヲ發動機附救命艇ト爲スベシ

第十五條　長國際航海ニ從事セル第一種船ニ在リテハ第十二條第二項ノ規定ニ依ル增備艇ニ代ヘ救命筏又ハ救命浮器ヲ備フルコトヲ得但シ救命艇ノ總容積ヲ第一號表(ホ)欄ニ掲グル最小容積未滿ト爲スコトヲ得ズ

第十六條　長國際航海ニ從事スル第一種船ニ在リテハ最大搭載人員ノ百分ノ二十五ヲ收容シ得ベキ救命浮器ヲ備ヘ短國際航海ニ從事スル第一種船ニ在リテハ前條ノ規定ニ依ルモノノ外最大搭載人員ノ百分ノ十ヲ收容シ得ベキ救命浮器ヲ備フベシ

第二節　第二種船ノ端艇、救命筏及救命浮器

第十七條　第二種船ニハ其ノ長サニ應ジ第一號表(イ)欄ニ掲グル組數ノ端艇鈎ヲ備フベシ但シ管海官廳ニ於テ已ムコトヲ得ズト認ムル場合ニ於テハ其ノ組數ヲ同表(ロ)欄ニ掲グルモノ迄減ズルコトヲ得

第十八條　前條ノ端艇鈎各組ニハ第一級救命艇一隻ヲ取附クルコトヲ要ス

前項ノ救命艇ノ總容積ガ第一號表(チ)欄ニ掲グル最小容積ニ達セザルトキハ之ニ達スル迄救命艇ヲ增備スベシ

第十九條　救命艇ノ總容積及端艇鈎ノ組數ハ前二條ニ拘ラズ船舶ノ最大搭載人員ヲ收容スルニ必要ナル程度ヲ超ユルコトヲ要セズ

第二十條　第十八條ノ規定ニ依ル救命艇ノ總容積ガ第一號表(チ)欄ノ總容積ニ達スルモ船舶ノ最大搭載人員ノ百分ノ五十ヲ收容スルニ必要ナル容積ニ達セザルトキハ之ニ達スル迄端艇、救命筏又ハ救命浮器ヲ增備スベシ

第二十一條　長サ二五メートル未滿ノ第二種船ニ在リテハ管海官廳ノ見込ニ依リ救命艇ニ代ヘ端艇鈎ヲ備ヘザル端艇、救命艇又ハ救命浮器ヲ備フルコトヲ得

第三節　第三種船ノ端艇、救命筏、救命浮器、救命浮環又ハ救命胴衣

第二十二條　湖川港内ノミヲ航行スル船舶ヲ除クノ外第三種船ニハ最大搭載人員ノ百分ノ三十ヲ收容スルニ必要ナル端艇、救命筏、救命浮器、救命浮環又ハ救命胴衣ヲ備フベシ

前項ノ場合ニ於テ船舶ニ備フベキ救命浮環又ハ救命胴衣ノ數ハ其ノ一箇ヲ以テ一人ヲ收容スルモノトシテ之ヲ算定ス

第四節　第四種ノ船ノ端艇、救命筏及救命浮器

第二十三條　第四種船ニハ其ノ長サニ應ジ第一號表(イ)欄ニ掲グル組數ノ端艇鈎ヲ備フベシ但シ最大搭載人員ヲ收容スルニ必要ナル端艇ノ數ヨリ多キコトヲ要セズ

管海官廳ニ於テ已ムコトヲ得ズト認ムル場合ニ於テハ端艇鈎ノ組數ヲ第一號表(ハ)欄ニ掲グルモノ迄減ズルコトヲ得

第二十四條　前條ノ端艇鈎ノ各組ニハ第一級救命艇一隻ヲ取附クルコトヲ要ス

前項ノ救命艇ノ合計定員ガ船舶ノ最大搭載人員ニ達セザルトキハ之ニ達スル迄救命艇ヲ增備スベシ

前項ノ增備救命艇ハ端艇、救命筏又ハ救命浮器ヲ以テ之ニ代用スルコトヲ得但シ救命艇ノ總容積ヲ第一號表(ヘ)欄ニ掲グル最小容積未滿ト爲スコトヲ得ズ

第二十五條　長國際航海ニ從事セザル第四種船ニ付テハ第二十三條ノ規定ニ依リ備フベキ端艇鈎ノ組數及前條第二項ノ規定ニ依リ增備スベキ救命艇ハ最大搭載人員ノ百分ノ八十ヲ收容スルニ必要ナルモノ迄、前條第三項但書ノ規定ニ依ル最小容積ハ第一號表(ト)欄ニ掲グルモノ迄之ヲ減ズルコトヲ得

第二十六條　特ニ限定セラレタル區域ヲ航行スル第四種船ニ付管海官廳前三條ノ規定ヲ適用スルコト實際上不可能ナリト認メタルトキハ當該航路及旅客ノ性質ヲ考慮シ適當ト認ムル程度迄其ノ適用ヲ斟酌スルコトヲ得

第五節　第五種船ノ端艇、救命筏及救命浮器

第二十七條　近海以上ノ航行區域ヲ有スル第五種汽船ニハ各舷ニ最大搭載人員ヲ收容シ得ルニ足ル總容積ノ第一級救命艇及之ニ對スル端艇鈎ヲ備フベシ但シ救命艇ノ總數三隻ナルトキハ中一隻ヲ、三隻ヲ超ユルトキハ中二隻ヲ第一級救命艇ニ非ザル端艇ト爲スコトヲ得

前項但書ノ規定ニ依リ第一級救命艇ニ非ザル端艇ヲ備フル場合ニ於テハ最大搭載人員ヲ收容スルニ必要ナル容積ノ二分ノ一以上ノ總容積ヲ有スル第一級救命艇ヲ各舷ニ

備フベシ

近海以上ノ航行區域ヲ有スル第五種帆船及沿航ノ航行區域ヲ有スル第五種船ニハ最大搭載人員ヲ收容スルニ必要ナル端艇及之ニ對スル端艇鈎ヲ備フベシ

第二十八條　長サ二五メートル未滿ノ第五種船ニ在リテハ管海官廳ノ見込ニ依リ端艇鈎ヲ備フル端艇ニ代ヘ之ヲ備ヘザル端艇、救命筏、救命浮器又ハ救命浮環ヲ備フルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ船舶ニ備フベキ救命浮環ノ數ハ其ノ一箇ヲ以テ一人ヲ收容スルモノトシテ之ヲ算定ス

第六節　救命胴衣、救命浮環及救命索發射器

第二十九條　左ノ各號ノ船舶ニハ最大搭載人員ト同數ノ救命胴衣ヲ備フベシ

一　第一種船、第二種船又ハ第四種船

二　遠洋航行區域ヲ有スル第五種船又ハ近海ノ航行區域ヲ有スル第五種汽船

前項第一號ニ掲グル船舶ニ於テハ小兒ヲ搭載スル爲實際ノ搭載人員ガ船舶ノ最大搭載人員ヲ超ユル場合ニ對シ超過人員ニ相當スル數ノ救命胴衣ヲ增備シ置クベシ

第三十條　旅客船ニハ左表ニ依リ救命浮環及救命焰ヲ備フベシ

船ノ長サ(米)	第一種船 救命浮環	第一種船 救命焰	第二種船 救命浮環	第二種船 救命焰	第三種船 救命浮環	第三種船 救命焰	第四種船 救命浮環	第四種船 救命焰
六一未滿	八	六	四	二	二	—	六	二
六一以上九一未滿	一二	六	六	二	四	—	八	四
九一以上一二二未滿	一二	六	六	二	四	—	一〇	六
一二二以上一八三未滿	一八	九	六	二	四	—	一二	六
一八三以上二四四未滿	二四	一二	六	二	四	—	一二	六
二四四以上	三〇	一五	六	二	四	—	一二	六

第三十一條　旅客船ニ非ザル船舶ニハ左表ニ依リ救命浮環及救命焰ヲ備フベシ

船舶ノ種類	航行區域		救命浮環	救命焰
第五種船	遠洋區域	汽船	六	四
	近海區域		四	二
	沿海區域		二	—
第六種船	平水區域		二	—
第三十二條　國際航海ニ從事スル第一種船ニハ救命索發射器一組ヲ備フベシ		帆船	四	—
			二	—
			—	—

第四章　端艇及救命筏ノ附屬品

第三十三條　救命艇ニハ左ノ各號ニ掲グル附屬品ヲ備フベシ

一　櫂(各腰掛ニ付一挺)、豫備櫂二挺、操舵櫂一挺、櫂栓又ハ櫂架一組半及鈎竿一本

二　各栓孔ニ對シ栓二箇(適當ナル自働辨ヲ取附クルトキハ栓ヲ要セズ)、塗汲一箇及亜鉛鍍鐵製バケツ一箇

三　舵一箇及舵柄又ハ索附横舵柄一箇

四　手斧二箇

五　油ヲ滿タシ蕊ヲ整ヘタル燈一箇

六　有效ナル羅針儀　一箇

七　一枚以上ノ良好ナル帆及附屬裝置ヲ備フル檣一本

八　海錨一箇

九　繫索一筋

十　植物性又ハ動物性ノ油四・五リットルヲ容器一箇(該容器ハ水面ニ容易ニ油ヲ撒布シ得ル構造ヲ有シ且海錨ニ取附ケ得ル樣裝置シタルモノナルコトヲ要ス)

十一　定員一人ニ付一リットルノ割合ノ飲料水ヲ容レ且紐附ノ杓ヲ備ヘタル水密容器一箇

十二　水密容器ニ容レタル信號紅焰一二箇及水密容器ニ容レタル燐寸一箱

十三　小型附屬品ヲ格納スルニ適當ナル箱一箇

第二級乙型救命艇ニハ前項各號ニ掲グル附屬品ノ外塗水「ポンプ」二箇ヲ備フベシ

第三十四條　長國際航海ニ從事スル第一種船ノ救命艇ニハ前條ノ規定ニ依ル附屬品ノ外左ノ各號ニ掲グル附屬品ヲ備フベシ

一　定員一人ニ付一キログラムノ割合ノ糧食ヲ容レタル氣密容器一箇

二　定員一人ニ付半キログラムノ割合ノ煉乳

第三十五條　發動機附救命艇ニハ第三十三條ノ規定ニ依ル附屬品ヲ備ヘ且鈎竿一本ヲ增備スベシ但シ櫂ノ數ハ腰掛ノ數ノ二分ノ一ニ止メ檣及帆ハ之ヲ備ヘザルモ妨ナシ

長國際航海ニ從事スル第一種船ノ發動機附救命艇ニハ前項ノ規定ニ依ル附屬品ノ外前條各號ニ掲グル附屬品ヲ備フベシ

第三十六條　長國際航海ニ從事スル第一種船ノ發動機附救命艇ニハ無線電信設備ヲ爲シ且探照燈ヲ備フベシ

探照燈ハ八〇ワット以上ノ燈、有效ナル反射鏡及動源ヲ備ヘ明キ色ノ物體ヲ一八〇メートルノ距離ニテ約一八メートルノ幅ニ亘リ合計六時間有效ニ照明シ得ルコトヲ要シ且連續三時間使用シ得ルモノナルコトヲ要ス

無線電信及探照燈ニ要スル動力ガ同一動源ヨリ供給セラ

ルルトキハ該動源ハ兩設備ノ同時ノ操作ニ對シ十分ナルコトヲ要ス

第三十七條　近海以上ノ航行區域ヲ有スル船舶ノ普通艇ノ附屬具ニ付テハ第三十三條ノ規定ヲ準用ス

沿海以下ノ航行區域ヲ有スル船舶ノ普通艇ニハ左ノ各號ニ掲グル附屬品ヲ備フベシ

一　櫂(各腰掛ニ付一挺)、豫備櫂二挺、操舵櫂一挺、櫂栓又ハ櫂架一組半及鈎竿一本

二　各栓孔ニ對シ栓二箇(適當ナル自働辨ヲ取附クルトキハ栓ヲ要セズ)、塗汲一箇及桶一箇

三　舵一箇及舵柄又ハ索附横舵柄一箇

四　繫索一筋

第三十八條　傳馬船其ノ他ノ艀舟ニハ櫂、舵及其ノ附屬品ニ代ヘ櫓二挺、櫂一挺ヲ備フルノ外前條第二項各號ニ掲グル附屬品ヲ備フベシ

第三十九條　救命筏ニハ左ノ各號ニ掲グル附屬品ヲ備フベシ

一　櫂四挺

二　櫂架五箇

三　繫索一筋

四　救命焰一箇

五　海錨一箇

六　植物性又ハ動物性ノ油四・五リットルヲ容レタル容器(該容器ハ水面ニ容易ニ油ヲ撒布シ得ル構造ヲ有シ且海錨ニ取附ケ得ル樣裝置シタルモノナルコトヲ要ス)

七　定員一人ニ付一リットルノ割合ノ飲料水ヲ容レ且紐附ノ杓ヲ備ヘタル水密容器一箇

八　水密容器ニ容レタル信號紅焰一二箇及水密容器ニ容レタル燐寸一箱

第四十條　長國際航海ニ從事スル第一種船ノ救命筏ニハ前條各號ニ掲グル附屬品ノ外定員一人ニ付一キログラムノ割合ノ糧食ヲ容レタル氣密器一箇ヲ備フベシ

沿海以下ノ航行區域ヲ有スル船舶ノ救命筏ニハ前條第四號乃至第八號ノ附屬品ヲ備フルコトヲ要セズ

第五章　端艇其ノ他ノ救命器具ノ積附及標示

第四十一條　已ムコトヲ得ザル場合ニ於テハ端艇ハ上下ニ重ネテ積附ケ又他ノ端艇内ニ重ネテ積附クルコトヲ得但シ之ヲ進水セシムルニ當リ吊リ上グルコトヲ要スル積附ハ動力ニ依ル吊上裝置ヲ備ヘザル場合ニ於テハ之ヲ爲スコトヲ得ズ

第四十二條　端艇鈎下ニ重ネテ配置シタル端艇ノ外其ノ内

側ニ端艇又ハ救命筏ノ積附ヲ必要トスルトキハ之ヲ甲板上ニ横ニ積附クルコトヲ得但シ其ノ積附ハ端艇又ハ救命筏ガ之ヲ進水セシムル暇ナキ場合ニ於テハ船舶ヨリ離レテ容易ニ浮ビ得ル様之ヲ爲スベシ

端艇ヲ内側ニ配置スル場合ニ於テハ其ノ成ルベク多數ヲ甲板ノ一側ヨリ他側ニ移動シ進水セシムル爲管海官廳ノ適當ト認ムル移動裝置ヲ設クベシ

第四十三條　端艇ハ其ノ揚卸ニ當リ相互ニ妨害セザル様特殊ノ方法ヲ講ズル場合ニ限リ之ヲ二層以上ノ甲板ニ積附クルコトヲ得

第四十四條　端艇ハ進水ニ際シ推進器ニ接近シ危險ヲ生ズル虞アル位置又ハ船舶ノ前端部ニ之ヲ積附クルコトヲ得ズ

第四十五條　端艇鈎ハ管海官廳ノ適當ト認ムル形式ノモノニシテ端艇ノ揚卸操作ガ他ノ端艇ノ揚卸操作ニ依リ妨害セラレザル様之ヲ配置スベシ

第四十六條　端艇鈎ニ配置セラレタル端艇ニハ何時ニテモ使用シ得ル吊索ヲ備附ケ且端艇ヲ吊索ヨリ迅速ニ取外ス爲ノ裝置ヲ設クベシ

第四十七條　國際航海ニ從事スル第一種船及甲板旅客ヲ搭載スル第四種船ノ端艇揚卸裝置ハ左ノ各號ノ規定ニ適合スルモノナルコトヲ要ス但シ短國際航海ニ從事スル船舶ニシテ最低航海吃水線ヨリ端艇甲板迄ノ高サガ四・五メートル以下ノモノニ付テハ管海官廳ニ於テ適當ニ之ヲ斟酌スルコトヲ得

一　端艇鈎、滑車、吊索其ノ他ノ一切ノ裝具ハ船舶ガ何レカノ側ニ一五度傾キタル場合ニ於テモ滿載狀態ノ端艇ヲ安全ニ卸シ得ル程度ノ强力ヲ有スルモノナルコトヲ要ス

二　吊索ハ船舶ガ最小航海吃水ニ於テ反對ニ一五度傾キタル場合ニ水面ニ達スル長サノモノナルコトヲ要ス

三　端艇鈎ニハ旅客ヲ除クノ外艤裝品及艇手ノ全部ヲ搭載シタル端艇ヲ吊卸可能ナル最大傾斜ニ逆ヒ振出スニ十分ナル力ヲ有スル裝置ヲ備フベシ

四　二隻以上ノ端艇ガ同一組ノ端艇鈎ニ依リ取扱ハルル場合ニ於テハ各端艇ニ付各別ニ吊索ヲ備フベシ但シ捲返ス爲ノ機械裝置ヲ備ヘ且吊索ニ鋼索ヲ使用スルトキハ此ノ限ニ在ラズ

五　前號ノ場合ニ於テハ端艇ノ揚卸裝置ハ各端艇ヲ順次迅速ニ卸シ得ルモノナルコトヲ要シ且鋼索ヲ捲返ス爲ノ機械裝置ヲ備フルトキハ尙手動捲返裝置ヲ備フベシ

第四十八條　鋼製普通型端艇鈎ノ徑ハ船舶ノ種類ニ應ジ左

ノ各號ノ規定ニ依リ算定シタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ但シ傳馬船其ノ他ノ艀舟ニ用ウル端艇鈎ノ徑ハ管海官廳ニ於テ適當ト認ムルモノト爲スコトヲ得

一　前條ノ規定ノ適用ヲ受クル船舶ニ用ウル鋼製普通型端艇鈎ノ徑ハ左ノ算式ニ依リ之ヲ定ム

$$10.2\sqrt[3]{\frac{W(H+4S)}{12.5}}$$　ミリメートル

Wハ人（端艇ノ定員一人ニ付七五キログラムノ割合トス）及艤裝品ヲ滿載シタルトキノ端艇ノ重量（キログラムニテ）

Hハ上部支點ヨリ測リタル端艇鈎ノ高サ（メートルニテ）

Sハ端艇鈎上部突出ノ徑（メートルニテ）

右算式ヲ適用スルニ當リテハ尙左ノ規定ニ依ル

（一）端艇鈎ガ二箇以上ノ端艇ノ揚卸ニ使用セラルル場合ニ於テハWハ各端艇ノ重量中最大ナルモノトス

（二）Wヲ當該端艇ノ定員ニテ除シタル數ガ一〇〇未滿ナル場合ニ於テハWハ端艇ノ定員ニ一〇〇ヲ乘ジタルモノト看做ス

二　前條ノ規定ノ適用ヲ受ケザル船舶ニ用ウル鋼製普通型端艇鈎ノ徑ハ左ノ算式ニ依リ之ヲ定ム

$$124\sqrt[3]{\frac{L\times B\times D(H+4S)}{174}}$$　ミリメートル

Lハ外板ノ外面ト船首材トノ交點ヨリ船尾ニ於ケル之ニ相當スル點迄測リタル端艇ノ長サ（メートルニテ）

Bハ外板ノ外面迄測リタル端艇ノ最大幅（メートルニテ）

Dハ長サノ中央ニ於テ龍骨ノ上面ヨリ舷端迄測リタル端艇ノ深サ（メートルニテ）

H及Sハ前號ノ規定ニ依ル

第四十九條　救命筏及救命浮器ハ何時ニテモ近寄リ得ル場所ニ容易且迅速ニ之ヲ進水セシメ得ル様備置クベシ

第五十條　救命浮環ハ何時ニテモ近寄リ得ル場所ニ容易且迅速ニ取外シテ投ゲ得ル様之ヲ備置クベシ

船舶ノ各舷ニ備フル救命浮環中少クトモ一箇ニハ長サ二七・五メートル以上ノ救命索ヲ取附ケ置クベシ

第五十一條　救命焰ハ必要ナル取附具ヲ附シ其ノ屬スル救命浮環ノ附近ニ之ヲ備置クベシ

第五十二條　救命胴衣ハ容易ニ使用シ得ル様旅客室、船員室其ノ他適當ノ場所ニ配置スベシ

一船ニ備フル救命胴衣ノ種類ハ二種ヲ超ユルコトヲ得ズ

第五十三條　端艇、救命筏及救命浮器ニハ其ノ定員竝ニ之ヲ搭載スル船舶ノ名稱及船籍港ヲ標示シ且端艇ニハ其ノ寸法ヲ標示スベシ

前項ノ標示ハ見易キ場所ニ明瞭且耐久的ナル文字ヲ以テ之ヲ爲シ管海官廳ノ適當ト認メタルモノナルコトヲ要ス

第五十四條　救命浮環ニハ船名ヲ標示スベシ

第一種船ニ在リテハ救命浮環ノ備附場所ヲ示スベキ適當ナル標示ヲ爲スベシ

第五十五條　救命胴衣ヲ備附ケタル箇所ニハ明瞭ナル標示ヲ爲シ且旅客室毎ニ救命胴衣ノ著用法説明書ヲ掲ゲ置クベシ

第六章　乘艇裝置

第五十六條　本章ノ規定ハ國際航海ニ從事スル旅客船ニ之ヲ適用ス

第五十七條　乘艇甲板ニハ旅客ノ乘艇ニ對スル適當ナル設備ヲ爲スベシ

各組ノ端艇鈎ニハ適當ナル梯子ヲ備置クベシ

第五十八條　各區畫室及各甲板ニハ管海官廳ノ適當ト認ムル出入設備ヲ設クベシ

第五十九條　船舶ノ各部分殊ニ端艇ノ備附アル甲板ニハ安全上十分ナル電燈其ノ他ノ照明設備ヲ爲スベシ

最低航海吃水線ヨリ端艇甲板迄ノ高サガ九・一五メートルヲ超ユル船舶ニ在リテハ端艇ノ吊出若ハ吊卸作業中又ハ吊卸直後ニ於テ必要ニ應ジ船舶ヨリ端艇ヲ照明スル爲適當ナル設備ヲ設クベシ

前二項ノ安全照明設備ハ照明用主機械ニ故障ヲ生ジタル場合ニ於テ隔壁甲板以上ノ箇所ニ備ヘタル獨立ノ動源ニ依リ照明シ得ベキモノナルコトヲ要ス

第六十條　旅客又ハ船員ニ供用スル各主要區畫室ノ出口ハ常ニ非常燈ヲ以テ照シ置クベシ

前項ノ非常燈ハ照明用主機械ニ故障ヲ生ジタル場合ニ於テ前條第三項ノ動源ニ依リ照明シ得ベキ裝置ノモノナルコトヲ要ス

第六十一條　長國際航海ニ從事スル旅客船ニ在リテハ汽笛又ハ汽角ニ依ル信號裝置ノ外旅客ヲ集合所ニ召集スル爲船橋ヨリ電氣裝置ニ依リ操作セラルル危急信號裝置ヲ適當ノ場所ニ備フベシ

第二編　消防設備

第一章　總　則

第六十二條　本編第二章ノ規定ハ近海以上ノ航行區域ヲ有スル旅客船ニ之ヲ適用ス但シ臨時旅客又ハ甲板旅客ヲ運送スル船舶及國際航海ニ從事セザル船舶ニ付管海官廳該

規定ヲ適用スルコト實際上不可能ナリト認メタルトキハ船舶ノ大小、航路等ヲ考量シ適當ト認ムル程度迄其ノ適用ヲ斟酌スルコトヲ得

本編第三章ノ規定ハ旅客船ニ非ザル船舶及沿海以下ノ航行區域ヲ有スル旅客船ニ之ヲ適用ス

第六十三條　船舶ニ備フベキ火災警報裝置、防毒面、安全燈、移動式泡消火器、携帶用泡消火器及携帶用液體消火器ハ試驗規程ニ適合スルモノナルコトヲ要ス

第六十四條　前條ニ掲グルモノ以外ノ消防裝置ニ付テハ本令ニ適合セザルモノト雖モ管海官廳ニ於テ本令ニ定ムルモノト同一ノ效力ヲ有スト認ムルモノニ限リ之ヲ本令ニ適合スルモノト看做ス

第六十五條　消防裝置ハ航海中何時ニテモ使用シ得ル狀態ニ整備シ置クコトヲ要ス

第二章　近海以上ノ航行區域ヲ有スル旅客船ノ消防設備

第六十六條　船舶ニハ巡視員ガ近寄リ得ザル場所ニ於ケル火災ノ發生又ハ徵候ヲ乘組員ノ注意ヲ引キ易キ一箇所又ハ數箇所ニテ自働的ニ表示シ又ハ記錄スル火災警報裝置ヲ設クベシ

第六十七條　船舶ニハ十分ナル數ノ携帶用液體消火器ヲ備ヘ各機關室ニハ少クトモ二箇ノ携帶用液體消火器ヲ配置スベシ

第六十八條　船舶ニハ防毒面一箇及安全燈一箇ヨリ成ル裝具二組ヲ隔リタル箇所ニ一組宛備フベシ

第六十九條　總噸數四千噸未滿ノ船舶ニハ二箇、總噸數四千噸以上ノ船舶ニハ三箇ノ消防用蒸汽「ポンプ」其ノ他ノ動力「ポンプ」ヲ備フベシ

前項ノ各「ポンプ」ハ船内何レノ部分ニモ十分ナル水量ヲ二箇ノ强力ナル噴射ヲ以テ同時ニ放出シ得ベキモノナルコトヲ要シ且船舶ノ發港前何時ニテモ使用シ得ル狀態ト爲シ置クコトヲ要ス

第七十條　前條ノ規定ニ依リ三箇以上ノ消防「ポンプ」ヲ備フル船舶ニ在リテハ該「ポンプ」ノ全部ヲ同一室内ニ備フルコトヲ得ズ

汽罐ニ油ヲ焚ク汽船ニ在リテ汽機室ト汽罐室トノ仕切ガ完全ナル鋼製隔壁ニ非ズシテ燃料油ガ汽罐室淦水道ヨリ汽機室ニ流ルル虞アル構造ノモノナルトキハ消防「ポンプ」中一箇ヲ軸路又ハ機關室外ノ場所ニ置クベシ

第七十一條　消防「ポンプ」ノ送水管ハ水密戸及防火戸ヲ閉ヂタル場合ニ於テ居住設備ヲ設ケタル甲板ノ何レノ部分ニモ同時ニ二箇强力ナル射水ヲ爲シ得ル樣配置スベシ

送水管ノ支管ハ各甲板上ニ於テ之ニ消防布管ヲ容易ニ連絡シ得ル樣配置スベシ

送水管及布管ハ十分ナル大サヲ有シ且適當ナル材料ヲ以テ製造シタルモノナルコトヲ要ス

第七十二條　貨物積載場所ニハ何レノ部分ニモ消防「ポンプ」ニ依リ迅速且同時ニ二箇ノ强力ナル射水ヲ爲シ得ル樣設備スベシ

總噸數千噸以上ノ船舶ニ在リテハ遊離狀態ニテ最大艙ノ全容積ノ百分ノ三十以上ヲ占有シ得ル量ノ鎭火性瓦斯ヲ常設ノ管系ニ依リ貨物ヲ搭載スル各區畫室ニ迅速ニ送込ミ得ル樣設備スベシ但シ蒸汽機關ヲ備フル船舶ニ在リテハ鎭火性瓦斯ニ代ヘ蒸汽ヲ用ウルコトヲ得

第七十三條　主汽罐ニ油ヲ焚ク汽船ノ機關室ノ消防設備ハ左ノ各號ノ規定ニ依ル

一　消防「ポンプ」ニ依リ機關室ノ何レノ部分ニモ迅速且同時ニ二箇ノ强力ナル射水ヲ爲シ得ル樣設備スベシ

二　各汽罐室及燃料油槽、澄油槽其ノ他燃料油設備ヲ設置シタル各機關室ニハ泡ヲ急速ニ放出撒布シ得ベキ裝置ヲ備フベシ

本號ノ裝置ハ之ヲ備ヘタル室ノ外側ヨリ操作シ且調節シ得ルモノナルコトヲ要ス

本號ノ裝置ハ各區畫室底面（二重底ヲ有スル船舶ニ在リテハ二重底內板ノ上面、二重底ヲ有セザル船舶ニ在リテハ底部外板ノ內面）ノ全面積ヲ一五・二四センチメートルノ深サ迄蔽フニ十分ナル泡ヲ放出シ得ルモノナルコトヲ要ス若シ汽機室ト汽罐室トノ仕切ガ完全ナル鋼製隔壁ニ非ズシテ燃料油ガ汽罐室淦水道ヨリ汽罐室ニ流ルル虞アル構造ナルトキハ汽罐室ト汽機室トヲ併セタルモノヲ一區畫トシ泡ノ量ヲ定ムベシ

三　容量一三六リットル以上ノ泡消火器ヲ汽罐室ガ一室ナル汽船ニ在リテハ一箇、汽罐室ガ二室以上ナル汽船ニ在リテハ二箇備フベシ

本號ノ消火器ニハ汽罐室又ハ燃料油設備ヲ設置シタル場所ノ何レノ部分ニモ達シ得ル布管ヲ備ヘ之ヲ卷車ニ卷附ケ置クベシ

四　油ノ表面ヲ甚シク攪亂セズシテ油上ニ撒水スル爲適當ナル送水管ヲ備フベシ

五　各焚火場ニハ砂、曹達ヲ飽和シタル鋸屑又ハ管海官廳ノ適當ト認ムル乾燥物質二八三立方デシメートルヲ容レタル容器一箇及撒布用具ヲ備フベシ

六　各汽罐室及燃料油設備ヲ設置シタル各機關室ニハ携帶用泡消火器二箇ヲ備フベシ

七　各容器及之ヲ操作スル辨ハ近寄リ易ク且火災ノ發生ニ依リ容易ニ遮ラレザル場所ニ之ヲ備置クベシ

第七十四條　發動機ニ依リ推進スル船舶ノ機關室ノ消防設備ハ左ノ各號ノ規定ニ依ル

一　消防「ポンプ」ニ依リ機關室ノ何レノ部分ニモ迅速且同時ニ二箇ノ强力ナル射水ヲ爲シ得ル樣設備スベシ

二　油ノ表面ヲ甚シク攪亂セズシテ油上ニ撒水スル爲適當ナル送水管ヲ備フベシ

三　機關室內ニ副汽罐ヲ有スル場合ニ於テハ適當ナル布管ヲ備フル容量一三六リットルノ泡消火器一箇ヲ備フベシ

四　機關室內ニ副汽罐ヲ有セザル場合ニ於テハ容量四五リットルノ移動式泡消火器一箇ヲ備フベシ

五　容量九リットルノ携帶用泡消火器ヲ機關ノ軸馬力一千毎ニ一箇ノ割合ヲ以テ備フベシ但シ其ノ總數ハ二箇ヨリ少カラザルコトヲ要シ六箇ヨリ多キコトヲ要セズ

第三章　旅客船ニ非ザル船舶及沿海以下ノ航行區域ヲ有スル旅客船ノ消防設備

第七十五條　沿海ノ航行區域ヲ有スル旅客船ニハ四箇、平水ノ航行區域ヲ有スル旅客船ニハ二箇ノ消防手桶ヲ備フベシ

消防手桶ハ常時水ヲ滿タシ消火ニ便利ナル場所ニ之ヲ備ヘ置クベシ

第七十六條　總噸數百噸以上ノ旅客船ニ在リテハ蒸汽「ポンプ」其ノ他ノ動力「ポンプ」ヲ備ヘ船內各部ニ射水シ得ル樣送水管及消防布管ヲ備フベシ

總噸數三百五十噸以上ノ旅客船ニ在リテハ第七十七條又ハ第七十八條ノ規定ニ依リ機關室ニ備フルモノノ外十分ナル數ノ携帶用液體消火器ヲ備フベシ

第七十七條　主汽罐ニ油ヲ焚ク汽船ノ機關室ノ消防設備ハ左ノ各號ノ規定ニ依ル

一　汽罐室ニハ動力「ポンプ」ノ送水管ヲ適當ノ位置ニ導キ布管ヲ容易ニ取附ケ得ル樣裝置スベシ

二　蒸汽ヲ汽罐室ノ下部ニ噴出セシメ得ベキ多孔管ヲ備フベシ

三　汽罐室ニハ近海以上ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ在リテハ二箇、其ノ他ノ船舶ニ在リテハ一箇ノ砂三〇立方デシメートル以上ヲ容レタル箱ヲ備フベシ

四　近海以上ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ在リテハ二箇、其ノ他ノ船舶ニ在リテハ一箇ノ携帶用液體消火器ヲ備フベシ

第七十八條　發動機ニ依リ推進スル船舶ノ機關室ノ消防設

備ハ左ノ各號ノ規定ニ依ル

一　近海以上ノ航行區域ヲ有スル船舶ニハ二箇、其ノ他ノ船舶ニハ一箇ノ携帶用液體消火器ヲ備フベシ但シ瓦斯發動機ヲ備フル船舶又ハ旅客船ニ非ザル沿海以下ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

二　近海以上ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ在リテハ二箇、其ノ他ノ船舶ニ在リテハ一箇ノ砂三〇立方デシメートル以上ヲ容レタル箱ヲ備フベシ

第三編　居住及衞生設備

第一章　旅客室

第七十九條　左ニ掲グル旅客以外ノ旅客ニ對シテハ本章ノ規定ニ依リ旅客室ヲ設備スベシ

一　甲板旅客

二　航行豫定時間三時間未滿ノ航路ニ於テ搭載スル臨時旅客

三　沿海以下ノ航行區域ニシテ航行豫定時間三時間未滿ノ航路ニ於テ搭載スル旅客

管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ七月一日ヨリ八月末日ニ至ル期間ニ限リ前項第二號及第三號ノ規定ニ依ル航行豫定時間ヲ五時間迄延長スルコトヲ得

第八十條　旅客室ハ滿載吃水線ノ直下ノ甲板以上ニ之ヲ設クベシ

第八十一條　甲板間ニハ其ノ高サ遠洋ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ在リテハ二・一メートル以上、近海ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ在リテハ一・八メートル以上、沿海以下ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ在リテハ一・四メートル以上ノ場所ニ非ザレバ旅客室ヲ設クルニトヲ得ズ但シ船尾ノ如キ斜曲ノ場所ニ設ケタル腰掛樣ノ平棚ニシテ其ノ上面ヨリ甲板ノ裏面迄ノ高サ一・二メートルナルトキハ之ヲ客席ト爲スコトヲ得

第八十二條　上甲板以上ニ於ケル旅客室ノ高サハ遠洋ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ在リテハ二・一メートル以上、近海ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ在リテハ一・八メートル以上、沿海ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ在リテハ一・四メートル以上ナルコトヲ要ス

第八十三條　客席ヲ二層以上ト爲ス場合ニ於テハ客席ノ上面ヨリ甲板ノ下面又ハ上層客席ノ下面迄ノ高サハ移民ヲ搭載スル移民船ノ雜居客席ニ在リテハ一メートル以上、其ノ他ノ船舶ノ三等客席ニ在リテハ〇・七六メートル以上ト爲スベシ

前項ノ場合ニ於テハ甲板ノ上面ヨリ下層客席迄ノ高サヲ一五センチメートル以上ト爲スベシ

第八十四條　旅客室ハ燃料油槽ノ隔壁又ハ頂板ニ隣接シテ之ヲ設クルコトヲ得ズ但シ油槽隔壁ト旅客室トヲ隔離スル爲通風十分ニシテ且通行シ得ル間隙ヲ以テ氣密ナル鋼製隔壁ヲ設ケタル場合又ハ人孔其ノ他ノ開口ナキ油槽頂板ノ上面ヲ厚サ三八ミリメートル以上不燃性塗料ヲ以テ塗裝シ且該場所ノ通風ヲ特ニ十分ト爲シタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第八十五條　旅客室ハ假設ノ梁上ニ之ヲ設クルコトヲ得ズ

旅客甲板ハ梁ニ固著シ塡隙シタルモノナルコトヲ要ス

旅客室直上ノ暴露鋼甲板及旅客ヲ搭載スル暴露鋼甲板ニハ木甲板ヲ張ルコトヲ要ス

第八十六條　臨時旅客ヲ搭載スル船舶又ハ沿海以下ノ航行區域ヲ有スル船舶ハ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ前條ノ規定ニ依ラザルコトヲ得

甲板旅客ヲ搭載スル船舶ハ管海官廳ニ於テ航路ノ狀況等ニ依リ差支ナシト認ムルトキハ前條第三項ノ規定ニ依ラザルコトヲ得

第八十七條　雜居客室ニハ出入口ニ通ズル通路ヲ適當ニ設クベシ但シ客席ヲ一層ト爲ス場合ニ於テ客席ノ面積ノ六分ノ一ヲ通路ニ充ツルトキ又ハ長サ及幅三・七メートル以下ノ客席ニシテ他室ノ通路ニ當ラザルトキハ別ニ通路ヲ設ケザルモ妨ナシ

前項ノ通路ノ幅ハ遠洋ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ在リテハ九〇センチメートル以上、其ノ他ノ船舶ニ在リテハ六〇センチメートル以上ト爲スベシ

第八十八條　左ニ掲グル場所ハ客室ニ充ツルコトヲ得ズ

一　外車汽船ノ車覆

二　船首隔壁アル船舶ニ在リテハ其ノ前部、船首隔壁ナキ船舶ニ在リテハ上甲板上面ニ於テ船首材ノ內面ヨリ船ノ最大幅ノ二分ノ一ニ當ル箇所ヨリ前部

三　幅又ハ長サ六〇センチメートル未滿ノ場所

四　汽罐室ノ周圍ニ防熱裝置ヲ施サザル場合ニ於テハ其ノ周圍六〇センチメートル迄ノ場所

五　其ノ他管海官廳ニ於テ旅客ノ起臥動作ニ不適當ト認ムル場所

第八十九條　左ニ掲グル場所ハ客室ノ面積ニ算入セズ但シ湖川港內ノミヲ航行スル船舶又ハ發航港ヨリ到達港迄直航スル船舶ニ在リテハ艙口ノ上面、周圍及載貨門ノ內側ヲ客席ニ算入スルモ妨ナシ

一　通路

二　艙口ノ上面

三　艙口ノ周圍六〇センチメートル迄ノ場所

四　載貨門ノ前後各三五センチメートルノ箇所ヨリ其ノ幅ニテ艙口ノ周圍六〇センチメートル迄ノ場所

第九十條　上甲板其ノ他閉塞セザル場所ニ旅客ヲ搭載スル場合ト雖モ左ニ掲グル場所ハ之ヲ旅客搭載場所ニ充ツルコトヲ得ズ

一　艙口、天窓、舷側水道其ノ他障害物ノ占ムル部分

二　甲板室、艙口、天窓及舷側水道ノ間ニ於ケル幅六〇センチメートル未滿ノ場所

三　短船首樓甲板上ノ場所

四　船首材ノ前面ヨリ船ノ長サノ八分ノ一間ニアル上甲板及長船首樓甲板上ノ場所

五　其ノ他管海官廳ニ於テ旅客ノ搭載ニ適セズト認ムル場所

第九十一條　旅客室ノ容積ノ算定ニ付テハ左ノ各號ノ規定ニ依ル

一　形狀整正ナル場所ニ在リテハ平均ノ幅ニ長サ及高サヲ乘ズ

二　形狀整正ナラザル場所ニ在リテハ各室毎ニ其ノ前中後ノ三箇所ニ於テ上中下ノ幅ヲ測リ前後ニ於ケル上下ノ幅ノ和ニ前後ノ中幅ノ四倍及中央ニ於ケル上下ノ幅ノ各四倍ヲ加ヘ且中央ノ中幅ノ十六倍トヲ加ヘタルモノヲ三十六ニテ除シ之ニ長サ及平均ノ高サヲ乘ズ

三　船尾斜曲ナル場所〔長サ(矢)ガ幅(弦)ノ二分ノ一ノ箇所ヨリ後部〕ニ在リテハ長サノ三分ノ二ニ其ノ場所ノ前端ノ幅ト高サトヲ乘ズ

四　前各號ノ規定ニ依リ定メタル容積ヨリ該容積内ニテ客室ニ充ツルコトヲ得ザル場所ノ容積ヲ減ズ

第九十二條　客席ノ面積又ハ第七十九條第一項各號ニ掲グル旅客ヲ搭載スル場所ノ面積ノ算定ニ付テハ左ノ各號ノ規定ニ依ル

一　形狀整正ナル場所ニ在リテハ平均ノ幅ニ長サヲ乘ズ

二　形狀整正ナラザル場所ニ在リテハ前中後ノ三箇所ノ幅ヲ測リ前後ノ幅ノ和ニ中央ノ幅ノ四倍ヲ加ヘ六ニテ除シ之ニ長サヲ乘ズ

三　船尾斜曲ナル場所〔長サ(矢)ガ幅(弦)ノ二分ノ一ニ等シキ箇所ヨリ後部〕ニ在リテハ長サノ三分ノ二ニ其ノ場所ノ前端ノ幅ヲ乘ズ

四　前各號ノ規定ニ依リ定メタル面積ヨリ第八十九條ノ規定ニ依リ客室ノ面積ニ算入セザル場所及第九十條各號ニ掲グル場所ノ面積ヲ減ズ

第二章　旅客定員

第九十三條　旅客室ノ定員ハ第九十一條ノ規定ニ依リ定メ

タル旅客室ノ容積（立方メートルニテ）ヲ左表ニ掲グル單位容積ニテ除シタル員數ト寢臺ヲ備フル旅客室ニ在リテハ寢臺ノ數其ノ他ノ旅客室ニ在リテハ第九十二條ノ規定ニ依リ定メタル客席ノ面積（平方メートルニテ）ヲ左表ニ掲グル單位面積ニテ除シタル員數トノ中小ナルモノトス

第二甲板ヨリ下方ノ場所

航行區域	等級	上甲板以上ノ場所及上甲板直下ノ場所 單位面積（平方米）	上甲板以上ノ場所及上甲板直下ノ場所 單位容積（立方米）	第二甲板ヨリ下方ノ場所 單位面積（平方米）	第二甲板ヨリ下方ノ場所 單位容積（立方米）
遠洋	一等室	一人ニ付一・一〇平方米以上ノ寢臺ヲ備フベシ	三・五〇	一人ニ付一・一〇平方米以上ノ寢臺ヲ備フベシ	三・五〇
遠洋	二等室	一人ニ付一・一〇平方米以上ノ寢臺ヲ備フベシ	三・五〇	一人ニ付一・一〇平方米以上ノ寢臺ヲ備フベシ	三・五〇
遠洋	三等室	一人ニ付一・一〇平方米以上ノ寢臺ヲ備フベシ	二・七五	一人ニ付一・一〇平方米以上ノ寢臺ヲ備フベシ	三・〇〇
近海	一等室	一人ニ付一・一〇平方米以上ノ寢臺ヲ備フベシ	三・五〇	一人ニ付一・一〇平方米以上ノ寢臺ヲ備フベシ	三・五〇
近海	二等室	一・一〇	二・〇五	一・四〇	二・五五
近海	三等室	〇・八五	一・五五	一・一〇	二・〇五
沿海	一等室	一・一〇	二・〇五	一・四〇	二・五五
沿海	二等室	〇・八五	一・五五	一・一〇	二・〇五
沿海	三等室	〇・五五	一・一五	〇・八五	一・五五
平水	一等室	〇・八五	—	一・一〇	—
平水	二等室	〇・五五	—	〇・八五	—
平水	三等室	〇・四五	—	〇・五五	—

備考

一　沿海ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ於テ雜居客室ノ客棚ヲ二段以上ト爲ストキハ該室ノ定員ノ算定ニ用ウル單

位面積ハ表ニ掲グルモノノ一・五倍トス

二　近海ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ於テ雜居客室ノ客棚ヲ二段以上ト爲ストキハ該室ノ定員ノ算定ニ用ウル單位面積及單位容積ハ表ニ掲グルモノノ一・三倍トス

三　平水ノ航行區域ヲ有シ最遠里程ヲ一時間以内ニ航行シ得ベキ船舶ノ旅客室ノ定員ヲ算定スルニ當リテハ其ノ航路ノ狀況ニ依リ三等室單位面積ヲ上甲板以上ノ場所又ハ其ノ直下ノ場所ニ於テハ〇・三平方メートル迄、第二甲板ヨリ下方ノ場所ニ於テハ〇・四五平方米迄減ズルコトヲ得

第九十四條　臨時旅客ヲ搭載スル室ノ定員ハ左表ニ掲グル單位面積及單位容積ニ依リ前條ニ準ジ之ヲ定ム

航行豫定時間	上甲板以上ノ場所及上甲板直下ノ場所 單位面積（平方米）	上甲板以上ノ場所及上甲板直下ノ場所 單位容積（立方米）	第二甲板ヨリ下方ノ場所 單位面積（平方米）	第二甲板ヨリ下方ノ場所 單位容積（立方米）
一時間未滿	〇・三〇	—	〇・四五	—
六時間未滿	〇・四五	—	〇・五五	—
六時間以上十二時間未滿	〇・五〇	一・〇〇	〇・七五	一・四〇
十二時間以上二十四時間未滿	〇・六五	一・二〇	〇・九五	一・七〇
二十四時間以上	〇・八五	一・五五	一・一〇	二・〇五

第九十五條　第七十九條第一項第二號又ハ第三號ニ掲グル旅客ヲ搭載スベキ上甲板上其ノ他閉塞セザル場所ノ定員ハ第九十二條ノ規定ニ依リ算定シタル甲板面積（平方メートルニテ）ヲ第九十三條又ハ前條ノ表ニ掲グル單位面積ニテ除シタル員數トス

第九十六條　甲板旅客ノ定員ハ其ノ運送區域ニ應ジ第九十二條ノ規定ニ依リ算定シタル面積（平方メートルニテ）ヲ左表ニ掲グル單位面積ニテ除シタル員數トス

區域	單位面積（平方米）暴露上甲板	單位面積（平方米）其ノ他ノ暴露甲板
甲區域	〇・八五	〇・八五
乙區域	〇・八五	—
丙區域	〇・八五	〇・八五
丁區域	一・一〇	—

前項ニ於テ甲區域トハ大小「スンダ」列島ノ西方ニ在ル南緯一一度以北、北緯八度以南ノ印度洋ヲ謂ヒ乙區域トハ北緯八度以北ニ於ケル印度洋、「ベンガル」灣、「アラビヤ」海、「ペルシヤ」灣及紅海ヲ謂ヒ丙區域トハ南緯一一度ノ線ニ依リ北ハ東經一三〇度以西ニ在リテハ北緯八度、東經一三〇度以東ニ在リテハ北緯二一度ノ線ニ依リ東ハ東經一八〇度ノ線ニ依リ西ハ大小「スンダ」列島及馬來半島ニ依リ限ラレタル區域ヲ謂ヒ丁區域トハ南ハ東經一三〇度以西ニ在リテハ北緯八度、東經一三〇度以東ニ在リテハ北緯二一度ノ線ニ依リ北ハ北緯三五度（黃海及渤海ヲ含ム）ノ線ニ依リ東ハ東經一八〇度ノ線ニ依リ西ハ亞細亞ノ沿岸ニ依リ限ラレタル船舶安全法施行地外ノ區域ヲ謂フ

乙區域及丁區域ニ於テハ上甲板以外ノ暴露甲板ニ甲板旅客ヲ搭載スルコトヲ得ズ但シ特ニ限定セラレタル區域内ニ於テ甲板旅客ヲ運送スル場合ニ於テ管海官廳ニ於テ差支ナシト認メタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

前項但書ノ場合ニ於テハ單位面積ヲ暴露上甲板其ノ他ノ暴露甲板ニ對シ何レモ〇・八五平方メートルトシ甲板旅客ノ定員ヲ算定ス

第九十七條　管海官廳ハ航路、季節、船舶ノ大小、乾舷、復原力、救命設備又ハ旅客ニ關スル設備等ヲ考量シ旅客定員ヲ第九十三條乃至前條ニ依リ算定シタルモノヨリ適當ニ減ズルコトヲ得

第三章　旅客ニ關スル設備

第九十八條　旅客室ニハ少クトモ莚、疊其ノ他旅客ノ坐臥ニ適スベキ敷物ヲ備フベシ

第九十九條　旅客室ニハ採光通風ノ爲相當ノ窓ヲ設クベシ

第百條　甲板間ニ旅客室ノ設アルトキハ甲板上ニ出入シ得ベキ出入口ヲ設ケ之ニ梯子ヲ備フベシ

沿海以上ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ在リテハ前項ノ出入口ハ天氣ノ如何ニ拘ラズ何時ニテモ甲板上ニ出入シ得ベキ裝置ト爲シ又其ノ梯子ハ旅客定員五十人未滿ナルトキハ幅六〇センチメートル以上ノモノ一箇以上、五十人以上百人未滿ナルトキハ幅一〇〇センチメートル以上ノモ

ノ一箇以上若ハ幅六〇センチメートル以上ノモノ二箇以上、百人以上ナルトキハ一人ニ付一センチメートルノ割合ニテ定メタル總幅ニ達スル迄幅六〇センチメートル以上ノモノヲ備フベシ

回リ梯子又ハ勾配急ニシテ段面狹ク柵欄ニ依ラザレバ昇降シ難キ梯子ハ其ノ幅ノ三分ノ二ヲ以テ、出入口ニ近ク梯子ヲ架ケタル場合ニ於テ出入口ノ幅ガ梯子ノ幅ヨリ狹キトキハ該出入口ノ幅ヲ以テ又梯子ノ下部ニ於テ之ニ面スル壁又ハ他ノ梯子迄ノ距離不十分ニシテ昇降ニ不便ナルトキハ管海官廳ノ適當ト認ムル實際ヨリ狹キ幅ヲ以テ梯子ノ幅ト看做ス

臨時旅客ヲ搭載スル場所ニ對スル梯子ノ幅ハ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ前二項ノ規定ニ適合セザルモ妨ナシ

梯子ハ成ルベク前後ノ方向ニ置キ且甲板ト六〇度以内ノ角度ニ据エ柵欄ヲ附シ其ノ後面ニ板ヲ張ルベシ

第百一條　近海以上ノ航行區域ヲ有スル船舶ノ上甲板下ニ於ケル雜居客室ニハ通風管ヲ旅客甲板毎ニ各別ニ設ケ其ノ截面積ハ旅客定員一人ニ付出口入口トモ各一六平方センチメートルノ割合ヲ以テ之ヲ定ムベシ但シ機關室ノ兩側ニ於ケル雜居客室ニ於テハ通風管ノ截面積ハ二一平方センチメートルノ割合ト爲スベシ

屈曲セル通風管ヲ用ウルトキハ其ノ截面ヲ屈曲ノ度ニ應ジ各屈曲ニ對シ前項ノ截面ノ百分ノ五乃至十ヲ增スベシ

又屈折セル通風管ヲ用ウルトキハ其ノ截面ヲ各屈折ニ對シ屈折ノ度ニ應ジ百分ノ十六乃至三十六ヲ增スベシ

船樓内又ハ甲板室内ニ在ル上甲板口ヲ通ジ雜居客室ニ通風シ得ル場合、機械的通風ノ裝置アル場合、雜居客室内ノ容積ニ餘剩アル場合又ハ雜居客室ト他室トノ空氣ノ流通シ得ル場合ニ於テハ管海官廳ノ見込ニ依リ通風管ノ截面ヲ適當ニ減少スルコトヲ得

臨時旅客ヲ搭載スル場所ニ對スル通風管ハ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ第一項及第二項ノ規定ニ適合セザルモ妨ナシ

第百二條　移民ヲ搭載スル移民船ノ上甲板下ニ於ケル雜居客室ニ對シテハ適當ナル機械的通風裝置ヲ設クベシ

第百三條　第九十六條第二項ニ掲グル甲、乙又ハ丁區域ニ付左ニ掲グル荒天季節ニ於テ甲板旅客ヲ搭載スルトキハ甲板客逃避ノ爲甲板旅客一人ニ對シ甲板面積一・一平方メートル容積二・〇五立方メートルノ割合ノ遮蔽場所ヲ甲板室内、船樓内又ハ甲板間ニ備フベシ但シ甲板旅客ヲ搭載スル部分ノ天幕ヲ二重ト爲ストキハ管海官廳ノ見込

ニ依リ之ヲ備ヘザルモ妨ナシ

一　甲區域　四月十六日ヨリ十月三十一日迄

二　乙區域　五月一日ヨリ八月三十一日迄

三　丁區域　六月一日ヨリ十月十四日迄

第百四條　旅客船ニ於テハ高サ一メートル以上ノ舷墻又ハ柵欄ヲ堅牢ニ取附クベシ但シ沿海以下ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ在リテハ管海官廳ノ見込ニ依リ舷墻若ハ柵欄ノ高サヲ減ズルカ又ハ他ノ方法ヲ以テ之ニ代用スルコトヲ得

柵欄ノ横棒ハ其ノ間隔二三センチメートルヲ超ユルコトヲ得ズ但シ之ニ帆布若ハ網ヲ取附クルカ又ハ管海官廳ニ於テ安全ト認ムル他ノ裝置ヲ爲ストキハ此ノ限ニ在ラズ

第百五條　旅客船ニハ適當ノ舷梯ヲ設ケ且堅牢ナル舷梯鈎ヲ備フベシ但沿海以下ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ付テハ管海官廳ニ於テ必要ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ舷梯ニハ柵欄ヲ附シ且其ノ裏面ニ板又ハ帆布ヲ張ルベシ

第百六條　熱帶地方ヲ航行スル船舶ニハ旅客及船員ニ對スル適當ノ防熱設備ヲ爲スベシ

第百七條　第七十九條第一項各號ニ掲グル旅客ヲ搭載スル場所ニハ天幕ヲ設備スベシ

第百八條　移民ヲ搭載スル移民船ニ於テハ雜居室内ニ旅客ノ手廻品ヲ格納スル物ハヲ設備スベシ但シ甲板ノ上面ヨリ下層客席迄ノ高サ四〇センチメートル以上ニシテ其ノ間ノ場所ヲ物入ニ利用スルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第四章　船員室等

第百九條　船員室ノ定員ハ其ノ容積（立方メートルニテ）ヲ左表ニ掲グル單位容積ニテ除シタル員數ト寢臺ヲ備フル船員室ニ在リテハ寢臺ノ數、其ノ他ノ船員室ニ在リテハ其ノ座席面積（平方メートルニテ）ヲ左表ニ掲グル單位面積ニテ除シタル員數トノ中小ナルモノトス

船舶ノ航行區域	單位面積（平方米）	單位容積（立方米）
遠洋區域	一人ニ付一・一〇平方米以上ノ寢臺ヲ備フベシ	二・七五
近海區域	一・一〇	二・〇五
沿海區域	〇・五五	一・一五
平水區域	〇・四五	—

備考

沿海ノ航行區域ヲ有シ最遠里程ヲ航行スル時間十二時間以上ヲ要スル船舶ノ船員室ノ定員ハ近海區域ニ對スル單位面積及單位容積ニ依リ算定スルモノトス

管海官廳ハ平水ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ前項ノ規定ヲ適用スルニ當リテハ適當ニ斟酌スルコトヲ得

第百十條　第八十條乃至第八十九條、第九十一條及第九十二條ノ規定ハ船員室ニ之ヲ準用ス但シ第八十八條第二號ニ掲グル場所ハ之ヲ船員室ニ充ツルコトヲ得

第百十一條　船員室其ノ他船員ニ供用スル室ニハ錨鎖管ノ開口又ハ揚錨機、捲揚機其ノ他ノ機具ヲ設置スルコトヲ得ズ

第百十二條　船員室ニハ其ノ定員ニ相當スル押入又ハ戸棚ヲ設クベシ但シ平水ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ付テハ管海官廳ノ見込ニ依リ適當ニ之ヲ斟酌スルコトヲ得

第百十三條　船員室ニハ釣床、寢臺又ハ船員ノ坐臥ニ適スル敷物ヲ備フベシ

第百十四條　船員室ニハ舷窓、甲板明取リ又ハ天窓ヲ設クベシ

上甲板下ノ雜居船員室ニハ適當ノ通風管ヲ設クベシ

前項ノ通風管ノ截面積ハ近海以上ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ付テハ船員室定員一人ニ付出口入口トモ各一六平方センチメートルノ割合ヲ以テ之ヲ定ム

第百十五條　船員又ハ旅客ノ何レニモ非ザル者ノ居室ニ付テハ旅客室ニ關スル規定ヲ準用ス

第五章　衞生設備

第百十六條　近海以上ノ航行區域ヲ有スル旅客船ニハ船舶檢査證書ニ掲グル旅客定員一人ニ付〇・四五平方メートルノ割合ヲ以テ上甲板以上ノ閉塞セラレザル場所ニ適當且安全ナル運動場ヲ設クベシ

第百十七條　旅客船ニハ最大搭載人員五十人ニ對シ一箇ノ割合ヲ以テ大便所ヲ設クベシ但シ最大搭載人員三百人以上ノ船舶、沿海以下ノ航行區域ヲ有スル船舶又ハ臨時旅客ヲ搭載シテ其ノ航行豫定時間十二時間未滿ノ航海ヲ爲ス船舶ニ付テハ管海官廳ノ見込ニ依リ其ノ割合ヲ斟酌スルコトヲ得

第百十八條　移民船ニハ上甲板以上ノ場所又ハ上甲板直下ノ甲板間ノ場所ニ於テ成ルベク旅客室及船員室ヨリ隔離シタル箇所ニ病室ヲ設ケ最大搭載人員二百人迄ハ四十人毎ニ一箇、二百人ヲ超ユル人員ニ付テハ超過人員六十人毎ニ一箇ノ割合ヲ以テ寢臺ヲ備フベシ病室ハ一・八三メートル以上ノ高サヲ有シ且收容人員一人ニ付四立方メートル以上ノ容積ヲ有スルコトヲ要ス

第百十九條　前條ノ病室及寢臺ニ付テハ左ノ各號ノ規定ニ依ル

一　病室ノ一部ハ之ヲ隔離室ト爲シ病室用寢臺ノ四分ノ一以上ヲ設備シ得ル構造ト爲スベシ

二　病室ニハ規定ノ數ノ二分ノ一以上ノ寢臺ヲ常置スベシ

三　寢臺ハ金屬製ニシテ長サ一・八三メートル以上幅六〇センチメートル以上ノモノトシ之ヲ上下ニ重ヌルコトナク其ノ一側ニ幅一メートル以上ノ通路ヲ存シ据附クベシ但シ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ寢臺ヲ上下ニ重ネテ配置スルコトヲ得

第百二十條　移民船ニハ病室附屬ノ浴室、便所、診療室並ニ藥局ヲ設クベシ但シ藥局ハ之ヲ診療室ニ兼用スルモ妨ナシ

第百二十一條　移民船ハ船舶安法施行地ニ於ケル最後ノ港ヲ發航セントスル際該港ヨリ初メテ到達スベキ外國ノ港迄ノ航行豫定時間ニ應ジ特殊船檢査證書ニ掲グル旅客ニ對シ支給スベキ第二號表ニ定ムル食料及飲用水ヲ備フベシ

第百二十二條　移民船ニハ第三號表ニ定ムル醫藥其ノ他ノ衞生用品ヲ備フベシ

第四編　航海用具等

第一章　錨、錨鎖及索

第百二十三條　鋼製汽船ニ於テ艤裝數トハ鋼船構造規程ニ依ル船ノ深サト幅トノ和ニ其ノ長サヲ乘ジタル數ニ船樓又ハ甲板室ノ種類ニ應ジ左ノ各號ニ掲グル數ヲ加算シタルモノヲ謂フ

一　低船首樓又ハ低船尾樓ヲ有スル船舶ニ在リテハ該樓ノ長サト高サトヲ相乘ジタル數

二　船首樓、船橋樓又ハ船尾樓等ヲ有スル船舶ニ在リテハ船樓ノ長サト高サトヲ相乘ジタル積ノ四分ノ三

三　船ノ幅ノ二分ノ一ヲ超ユル長サ又ハ幅ヲ有スル甲板室其ノ他類似ノ構造物ヲ備フル船舶ニ在リテハ其ノ長サト高サトヲ相乘ジタル積ノ二分ノ一

鋼製帆船ニ於テ艤裝數トハ船樓ヲ有セザル場合ニ於テハ鋼船構造規程ニ依ル船ノ深サト幅トノ和ニ長サヲ乘ジタル數ヲ謂ヒ船樓ヲ有スル場合ニ於テハ該數ニ其ノ十五分ノ一ヲ加算シタルモノヲ謂フ

前二項ノ長サ、幅、深サ及高サハ單位ヲメートルトシ單位以下第二位ニ止ム

第百二十四條　木船ニ於テ艤裝數トハ船樓ヲ有セザル船舶ニ在リテハ上甲板下ノ積量(立方メートルニテ)ヲ謂ヒ船樓ヲ有スル船舶ニ在リテハ該積量(立方メートルニテ)ニ船樓ノ積量(立方メートルニテ)ノ二分ノ一ヲ加ヘタルモ

ノヲ謂フ

第百二十五條　船舶ニハ其ノ艤裝數ニ應ジ第四號表又ハ第五號表ニ定ムル錨、錨鎖及索ヲ備フベシ

第百二十六條　大錨ノ合量ガ表ニ掲グルモノヨリ減少セザル限リ大錨二箇ヲ備フベキ船舶ニハ中一箇ハ百分ノ七・五以内又三箇ヲ備フベキ船舶ニハ一箇ハ百分ノ十五以内、一箇ハ百分ノ七・五以内表ニ掲グル單量ヨリ少量ナルモノト爲スモ妨ナク又各大錨ノ單量ヲ相等シキモノト爲スモ妨ナシ

沿海以下ノ航行區域ヲ有スル汽船ニ付テハ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ大錨三箇ヲ備フベキ場合ト雖モ其ノ數ヲ二箇ト爲スコトヲ得但シ中一箇ノ大錨ノ錨量ハ表ニ掲グル單量以上、他ノ一箇ハ該單量ノ百分ノ八十五以上ト爲スベシ

第百二十七條　有銲錨ノ錨銲ノ重量ハ錨銲ヲ除キタル錨ノ重量ノ四分ノ一以上ナルコトヲ要ス

無銲錨ノ錨柄ヲ除キタル重量ハ錨ノ全重量ノ五分ノ三以上ナルコトヲ要ス

第百二十八條　遠洋ノ航行區域ヲ有スル船舶、近海ノ航行區域ヲ有スル汽船ニ備フル錨（錨銲ヲ含ミタル重量七六・二キログラム以下ノモノヲ除ク）、錨鎖及鋼索ハ試驗規程ニ適合シタルモノナルコトヲ要ス

第百二十九條　近海以下ノ航行區域ヲ有スル帆船及總噸數五十噸未滿ノ汽船ニ在リテハ日本形錨ヲ代用スルモ妨ナシ

前項ノ規定ニ依リ代用シタル日本形錨ニ對シテハ相當ノ錨索ヲ以テ錨鎖ニ代用スルモ妨ナシ

日本形錨ノミヲ備フル帆船ノ錨、錨索及索ハ第五號表ニ代ヘ艤裝數ニ應ジ第六號表ニ定ムルモノヲ備フベシ

前項ノ船舶ニ備フル大錨索以外ノ錨索ノ長サハ第六號表ニ定ムル大錨索ノ長サニ等シクシ其ノ徑ハ其ノ錨量ニ應ジ第七號表ノ定ムル所ニ依ル

第百三十條　第四號表及第五號表ニ定ムル中錨ノ鎖又ハ鋼索ハ相當ノ大サノ麻索又ハ棕梠索ヲ以テ之ニ代用シ又同表中挽索ノ麻索ハ相當ノ大サノ棕梠索ヲ以テ之ニ代用スルモ妨ナシ

第百三十一條　錨鎖ハ褻耗ノ最モ甚シキ箇所ニ於ケル平均ノ徑ガ其ノ原徑ニ應ジ第八號表ニ定ムルモノ以下トナリタルトキハ之ヲ使用スベカラズ

第百三十二條　總噸數三十噸未滿ノ帆船、淺渫船、總噸數二十噸以上ノ旅客船ヲ除キタル平水ノ航行區域ヲ有スル船舶及湖川港内ノミヲ航行スル船舶ニ付テハ錨數、錨量

竝ニ錨鎖、大索等ノ徑及長サハ管海官廳ニ於テ適當ト認ムル程度迄之ヲ減ズルコトヲ得

第百三十三條　錨ハ常時使用セザルモノト雖モ取出シ易キ場所ニ備ヘ置クベシ

重量一五〇キログラム以上ノ錨ヲ備フル船舶ニハ適當ナル揚錨ノ設備ヲ爲スベシ

第二章　操舵設備

第百三十四條　長サ六〇メートルヲ超ユル汽船ニハ動力ニ依ル操舵裝置ヲ備フベシ

第百三十五條　手用操舵具ヲ常用スル船舶ニハ豫備操舵索一揃ヲ備フベシ但シ平水ノ航行區域ヲ有スル船舶及總噸數五十噸未滿ノ船舶ニ付テハ管海官廳ノ見込ニ依リ之ヲ備ヘザルモ妨ナシ

第百三十六條　動力ニ依ル操舵機ヲ常用スル船舶ニハ舵柄ノ制動裝置又ハ制動索ヲ備ヘ且豫備トシテ手用操舵具又ハ動力ニ依ル操舵機ヲ用ウベシ

小形船ニ付テハ管海官廳ノ見込ニ依リ前項ノ舵柄制動索ヲ以テ豫備手用操舵具ニ兼用セシムルコトヲ得

第百三十七條　動力ニ依ル操舵機ヲ有スル船舶ニハ其ノ操舵裝置ニ發條其ノ他ノ緩衝裝置ヲ備ヘ且舵柄ニ連絡スル部分ノ操舵鎖ノ豫備ヲ備フベシ但シ平水ノ航行區域ヲ有スル船舶及總噸數五百噸未滿ノ船舶ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

總噸數五百噸以上ノ船舶ニ備附クル操舵鋼索鎖ハ試驗規程ニ適合シタルモノナルコトヲ要ス

第三章　航海用具其ノ他ノ屬具

第百三十八條　船舶ニ備フベキ航海用具其ノ他ノ屬具ハ第九號表ノ定ムル所ニ依ル

本章ニ於テ船燈トハ檣燈、舷燈、船尾燈、碇泊燈、紅燈其ノ他海上衝突豫防法ニ規定スル燈ヲ謂フ

第百三十九條　電氣船燈ヲ常用スル船舶ニ在リテハ第九號表ノ規定ニ依リ豫備燈ヲ要セザル場合ト雖モ各電氣船燈ニ對シ豫備ノ油船燈ヲ備フベシ

第百四十條　船燈、油信號燈、霧中號角、火箭、榴彈及信號青焔ハ試驗規程ニ適合スルモノナルコトヲ要ス

船燈ニ付テハ其ノ船名及備附年月日ヲ記載シタル合格證明書又ハ檢定證明書ヲ船内ニ保管シ置クベシ

第百四十一條　船燈ノ備附ニ付テハ左ノ規定ニ依ル

一　油船燈ヲ備フル船舶ニ於テハ船燈一種ニ付沿海ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ在リテハ三箇以上、近海以上ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ在リテハ五箇以上ノ豫備燈筒ヲ備フベシ

二　船燈ハ其ノ射光ニ妨ナキ適當ノ場所ニ於テ其ノ燈光ヲ甲板上ニ發射セザル裝置ヲ爲スベシ

三　近海以上ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ在リテハ綠紅ノ挿入硝子ヲ使用スル舷燈ヲ備フルトキハ綠紅各二箇ノ豫備挿入硝子ヲ備フベシ

四　舷燈ヲ常平架ニ裝置スルトキハ其ノ支點ハ透鏡ノ中心ト同一水平面內ニ在ルコトヲ要ス

五　油舷燈二對ヲ備フル場合ニ於テハ該燈ハ何レモ同一ノ隔板ニ適合スルモノナルコトヲ要ス

六　電氣舷燈及油舷燈ニ對シテハ各別ノ隔板ヲ備フベシ

第百四十二條　舷燈隔板ノ形狀寸法ハ船燈試驗規程ニ適合スルモノナルコトヲ要ス

隔板ハ其ノ側板ガ垂直ニシテ且船ノ首尾線ニ平行ナル樣之ヲ船舷又ハ其ノ他ノ固定物（檣ノ靜索ノ如キハ固定物ト看做サズ）ニ取附クルコトヲ要ス

第百四十三條　汽船及機關ヲ有スル帆船ニハ適當ナル場所ニ汽笛若ハ汽角又ハ適當ノ音響信號器ヲ裝置スベシ

第百四十四條　沿海以上ノ航行區域ヲ有スル船舶ニハ其ノ航行スベキ區域及港灣ノ海圖ヲ備フベシ

海圖ハ水路部ノ最近刊行ニ係ルモノヲ使用スベシ但シ最近ノ刊行ニアラザルモ改正ノ廉ヲ記入シタルモノ又ハ外國出版ノ海圖ニシテ最近ノ刊行ニ係ルモノヲ使用スルモ妨ナシ

第百四十五條　帆船ニハ檣ニ相當スル帆一揃ヲ備フベシ

近海以上ノ航行區域ヲ有スル帆船ニ於テハ前項ノ帆ノ外左表ニ依リ豫備帆ヲ備フベシ

區別	豫備帆ノ種類	數
橫帆ヲ備ヘザル船	「フオール・ステースル」	一
	「フオースル」	一
橫帆ヲ備フル船	「フオースル」又ハ「メインスル」	一
	「フオール・ステースル」	一
	「トツプスル」	一

第百四十六條　總噸數五千噸以上ノ旅客船ニハ無線方位測定機ヲ備フベシ

第五編　特殊貨物ノ積附設備

第一章　火藥庫

第百四十七條　火藥庫ハ成ルベク熱氣ナク且旅客室又ハ船員室ニ接近セザル甲板間ノ場所ニ設置シ其ノ扉ハ艙口ヨリ容易ニ接近シ得ル箇所ニ設クベシ

管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ火藥庫ヲ甲板間以外ノ場所ニ設ケシムルコトヲ得

第百四十八條　鋼製火藥庫ノ內面ハ亞鉛鍍スルカ又ハ之ニ

塗料ヲ施スベシ

第百四十九條　木製火藥庫ノ構造ハ左ノ各號ノ規定ニ依ル

一　庫壁ハ六一センチメートルヲ超エザル間隔ニ配置セラレ上下兩端ヲ甲板ニ固著セラレタル七五ミリメートル角以上ノ支柱ノ內面ニ厚サ三〇ミリメール以上ノ板ヲ取附ケタル構造ト爲スベシ

二　各支柱ノ連結ヲ完全ナラシムル爲其ノ上部及下部ニ幅二三〇ミリメール以上厚サ三〇ミリメートル以上ノ板ヲ固ク取附クベシ

第百五十條　鋼製又ハ木製火藥庫ノ內面ニハ鐵釘其ノ他ノ鐵材ヲ露出セザル樣木板、革又ハ毛布ノ類ヲ以テ內張スベシ

第百五十一條　火藥庫ノ床ハ三〇センチメートル以下ノ間隔ニ配置セラレタル幅七五ミリメートル以上厚サ二五ミリメートル以上ノ橫木ノ上ニ之ト同一寸法ノ內張板ヲ七五ミリメール以下ノ間隔ニ取附ケタル網目格子ニシテ掃除ノ爲取外シ且持出シ得ベキ構造ト爲スベシ

第百五十二條　火藥庫ガ船側迄達スル場合ニ於テハ船側ニ二三センチメートルヲ超エザル間隔ニ內張板ヲ取附クルコトヲ要ス

第百五十三條　船ノ橫ノ方向ニ於ケル幅一二・二メートルヲ超ユル火藥庫ニハ縱通隔壁ヲ設クルコトヲ要ス

前項ノ隔壁ハ九〇センチメートル以下ノ間隔ニ配置セラレ上下兩端ヲ甲板ニ固著セラレタル七五ミリメートル角以上ノ支柱ノ兩側ニ厚サ二五ミリメートル以上ノ木板ヲ一五センチメートル以內ノ間隔ヲ以テ交互ニ取附ケタル構造ノモノト爲スベシ但シ船舶ノ常設支柱ガ適當ノ位置ニ在リテ其ノ間隔一八〇センチメートルヲ超エザルトキハ之ヲ縱通隔壁ノ支柱ニ代用スルコトヲ得

第百五十四條　火藥庫ノ扉ハ堅牢ナル構造トシ之ニ强固ナル錠ヲ備フベシ

第百五十五條　火藥庫ニハ適當ナル通風裝置ヲ備フベシ

火藥庫ニ通ズル通風管ノ管口ニハ二枚ノ細目金網ヲ附スルカ又ハ他ノ適當ナル防火蓋ヲ備フベシ

通風管ヲ備ヘザル鋼製火藥庫ニ於テハ側壁ノ成ルベク上部ニ十分ナル數ノ徑五〇ミリメートル以上ノ換氣孔ヲ穿ツベシ

第百五十六條　持運式火藥庫ハ容積二・二六立方メートル以下ニシテ其ノ床及側壁ハ厚サ七五ミリメートル以上幅五〇ミリメートル以上ノ支柱及厚サ三〇ミリメートル以上ノ木板ヲ用ヰテ構造シ其ノ蓋ハ之ヲ取附ケタルトキ移動セザル樣嵌込構造ト爲シ且堅牢ナル錠ヲ備フベシ

第二章　甲板積木材貨物ノ積附

第百五十七條　甲板積木材貨物トハ上甲板又ハ船樓甲板ノ暴露部ニ積載スル木材貨物ヲ謂フ

前項ノ木材貨物ニハ木質「パルプ」又ハ之ニ類似ノ貨物ヲ包含セズ

第百五十八條　上甲板下ノ場所ニ通ズル甲板口ニシテ甲板積木材貨物ニ依リ蔽ハルモノハ其ノ積附前ニ艙口梁、縱材、蓋板等ノ閉鎖裝置ヲ所定ノ位置ニ配置シ之ヲ完全ニ閉鎖スベシ

甲板積木材貨物ヲ積載スル場所ニ在ル通風管ハ十分之ヲ保護スベシ

第百五十九條　船員ノ通路ニ當ル開口ノ附近ニ於テハ各開口ヨリ浸水スルコトヲ妨グ爲臨時之ヲ閉ヂ且留メ得ル樣木材貨物ヲ積附クベシ

船員室ヘノ通路ニ當ル甲板積木材貨物ノ上面ハ歩行ニ適スル樣十分平坦ナラシメ且其ノ各側ニハ貨物上少クトモ一・二二メートルノ高サヲ有シ且三〇センチメートル以内ノ間隔ニ配置セラレタル棚棒ヲ備ヘタル保護欄干又ハ之ニ相當スル保護索ヲ設クルコトヲ要ス

第百六十條　操舵裝置ハ木材貨物ニ依リ損傷セラレザル樣十分ニ之ヲ保護シ且成ルベク之ニ近寄リ易キ樣木材貨物ヲ積附クベシ

第百六十一條　甲板積木材貨物ノ性質ニ依リ支杆ヲ要スル場合ニ於テハ適當ナル强力ヲ有スル木製又ハ金屬性ノ支杆ヲ心距三・〇五メートル以内ニ於テ木材ノ長サ及性質ニ應ジ適當ニ配置シ且之ヲ定著スル爲有効ナル裝置ヲ備フベシ

第百六十二條　甲板積木材貨物ヲ其ノ全長ニ亘リ十分締附クル爲貨物ノ兩側ニ跨ル十分ナル强力ヲ有スル縛索及其ノ締附裝置ヲ備フベシ

前項ノ縛索ニハ何時ニテモ近寄リ得ル箇所ニ於テ解放裝置ヲ備フベシ

第百六十三條　甲板積木材貨物ハ之ヲ密ニ積附ケ縛リ且動カザル樣爲スベシ又其ノ積附ハ船舶ノ航行及必要ナル操作ニ支障ナク且水分ノ吸收ニ依ル木材ノ量ノ增加竝ニ燃料及倉庫品ノ消費ニ依ル其ノ重量ノ減少其ノ他船内ニ於ケル重量ノ變更ヲ考量ノ上航海ノ全道程ヲ通ジ復原性ノ十分ナル餘裕ヲ保持シ得ルモノナルコトヲ要ス

第百六十四條　木材滿載吃水線ヲ標示シタル船舶ガ普通ノ滿載吃木線ヲ超エ甲板積木材貨物ヲ搭載セントスルトキハ其ノ積附ニ付本章ノ規定ニ依ルノ外船舶滿載吃水線規程ノ定ムル所ニ依ルベシ

第三章　穀類貨物ノ積附

第百六十五條　穀類貨物トハ米、麥、豆、竪果、果核、種子其ノ他之ニ類似ノ散粒狀貨物ヲ謂フ

第百六十六條　近海以上ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ其ノ純噸數ノ三分ノ一ニ相當スル容積以上ノ容積ノ穀類貨物ヲ散積スル場合ニ於テハ其ノ積附ハ本章ノ規定ニ依ル

穀類貨物ノ容積分明ナラザルトキハ其ノ重量二瓲ヲ以テ船舶ノ純噸數一噸ニ相當スルモノト看做ス

第百六十七條　穀類貨物ハ上甲板ト第二甲板トノ間ノ場所ニ散積スルコトヲ得ズ但シ艙内ノ空積ヲ塡充スル爲適當ナル構造ノ補給裝置ニ積載スルトキハ此ノ限ニ在ラズ

穀類貨物ヲ積載シタルトキハ十分ニ之ヲ荷均シ且塡込ムベシ

第百六十八條　穀類貨物ヲ艙内ニ滿載スル場合ニ於テハ全高ニ亘リ縱通隔壁又ハ適當ニ定著セラレタル荷止板ヲ設ケ適當ニ之ヲ區畫シ其ノ上部ニ於ケル梁ノ間ノ間隙ニハ塡材ヲ施スベシ

穀類貨物ヲ艙内ニ滿載セザル場合ニ於テハ前項ニ準ジ適當ナル荷止板ヲ設クベシ

第百六十九條　穀類貨物ヲ艙内ニ滿載セザル場合ニ於テハ其ノ積載スル穀類貨物ノ約四分ノ一ヲ袋入ト爲シ之ヲ散積貨物ノ上ニ設ケタル適當ナル踏板ノ上ニ搭載スベシ但シ當該貨物ノ性質又ハ他ノ貨物トノ積合セニ依リ穀類貨物ノ移動ノ虞ナキトキハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ規定ハ穀類貨物ヲ滿載スル場合ト雖モ艙内ノ空積ヲ塡充スル爲ノ適當ナル補給裝置ノ備ナキ場合ニ之ヲ適用ス

第六編　電氣設備

第一章　總則

第一節　通則

第百七十條　本編ノ規定ハ推進以外ノ用途ニ供スル電氣設備ニ之ヲ適用ス

第百七十一條　供給電壓ハ直流ニ在リテハ五〇〇ヴオルト、交流ニ在リテハ二五〇ヴオルト以下ナルコトヲ要ス

電氣扇、電熱器、小形電動機其ノ他之ニ類スル小形ノ電氣器具（以下單ニ小形電氣器具ト稱ス）及白熱電燈ニ供給スル電路ノ電壓ハ直流ニ在リテハ二五〇ヴオルト、交流ニ在リテハ一五〇ヴオルト以下ナルコトヲ要ス

第百七十二條　供給電壓ハ供給點ニ於テ保持スベキ一定電壓ニ成ルベク百分ノ四ヲ超ユル變動ヲ生ゼシメザルモノト爲スベシ

第百七十三條　電氣方式ハ左ノ各號ノ一ニ依ルコトヲ要ス

一　直流又ハ交流單相ノ二線式
二　直流又ハ交流單相ノ三線式
三　交流三相三線式
四　交流三相四線式

第百七十四條　電氣設備ニ關シ本編ニ規定セザル事項ニ付テハ管海官廳ノ適當ト認ムル所ニ依ル船舶ノ種類、用途等ニ依リ本編ノ規定ニ依リ難キモノニ付亦同ジ

第二節　機械及器具

第百七十五條　發電機、電動機等ハ其ノ捲線ト大地トノ間ノ絶縁ガ其ノ最大使用電壓ノ一・五倍ノ電壓ニ依ル絶縁耐力試驗ニ十分間以上耐フルコトヲ要ス

第百七十六條　計器用變成器以外ノ變壓器ハ適當ノ絶縁耐力試驗ニ耐フルモノナルコトヲ要ス

前項ノ變壓器ハ其ノ最大使用電壓ガ第百七十一條ノ電壓ヲ超ユルモノナルトキハ兩捲線ノ混觸ヨリ生ズル危險ヲ防止スル爲之ニ適當ナル安全裝置ヲ備フベシ

第百七十七條　發電機、電動機、變壓器等ハ特殊ノ場合ヲ除クノ外易燃性瓦斯、酸性瓦斯又ハ油蒸氣ノ積鬱セザル通風良好ナル區畫内ノ水、蒸汽、油若ハ熱ニ因ル障害又ハ他動的損傷ヲ受クル虞ナキ場所ニ之ヲ設置スベシ

第百七十八條　發電機、電動機等ノ鐵製ノ臺及變壓器ノ外函ハ接地スルコトヲ要ス但シ乾燥シタル木製ノ床其ノ他之ニ類スル絶縁性物ノ上ヨリ之ヲ取扱フ樣設置シタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第百七十九條　配電盤ハ不燃性物ヲ以テ製作シタルモノナルコトヲ要ス

第百八十條　配電盤ノ各帶電部ハ之ヲ適當ニ離隔スルカ又ハ不燃性絶縁物ヲ以テ保護シ其ノ間ニ弧光ノ持續セザル樣設置スベシ

配電盤ニ取附クル器具及電線（電纜及管ニ藏メタル電線ヲ除ク）ハ容易ニ點檢シ得ル樣之ヲ設置スベシ

第百八十一條　主配電盤ニハ適當ナル計器ヲ備フベシ

第百八十二條　開閉器、自動遮斷器其ノ他充電スル導體ニ接スル器具ハ不易燃性物ヲ以テ絶縁シタルモノナルコトヲ要ス

第百八十三條　開閉器、自働遮斷器其ノ他之ニ類スル器具ハ其ノ使用電流及電壓ヲ表示シタルモノナルコトヲ要ス

第百八十四條　機械及器具ハ船舶ノ動搖ニ依リ支障ヲ生ゼザルモノナルコトヲ要ス

第三節　電線、電路及附屬設備

第百八十五條　絶縁電線ハ使用電流ニ因ル溫度上昇ノ爲絶縁物ヲ損傷セザルモノナルコトヲ要ス

第百八十六條　電纜及鉛被電線ハ電氣工作物規程ニ定ムル第四種絶縁電線（以下單ニ第四種電線ト稱ス）ト同等以上ノ効力ヲ有スルモノナルコトヲ要ス

第百八十七條　電路中必要ナル箇所ニハ特ニ定ムル場合ヲ除クノ外其ノ各極ニ適當ナル開閉器ヲ裝置スベシ

第百八十八條　機械、器具及電線ヲ保護スル爲電路中必要ナル箇所ニ適當ナル自働遮斷器ヲ裝置スベシ

地線工事ノ接地線及多線式電路ノ中性線ニハ自働遮斷器ヲ裝置スルコトヲ得ズ

第百八十九條　電路中必要ナル箇所ニハ常ニ漏電ノ有無ヲ自働的ニ表示スル適當ナル裝置ヲ備フベシ

第百九十條　電路ハ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムル場合ヲ除クノ外其ノ全部ヲ十分大地ヨリ絶縁スベシ

第百九十一條　電線ニ接續點ヲ設クルトキハ左ノ各號ニ依ル

一　電線ノ電氣抵抗ヲ增加セシメザルコト
二　電線ノ强サヲ二割以上減少セシメザルコト
三　接續管又ハ特殊ノ方法ニ依リ接續スル場合ヲ除クノ外接續部分ハ之ヲ鑞附スルコト

第二章　配線工事

第百九十二條　配線ハ電纜、鉛被電線又ハ金屬製管、金屬製線樋若ハ木製線樋ニ藏メタル絶縁電線ナルコトヲ要ス

第百九十三條　配線ハ徑一・六粍以上ノ軟銅線ナルコトヲ要ス但シ使用場所又ハ工事ノ方法ニ依リ適當ニ之ヲ斟酌スルコトヲ得

第百九十四條　電纜ノ金屬被覆及鉛被電線ノ鉛被ハ接地スルコトヲ要ス

第百九十五條　他動的損傷ヲ受クル虞アル場所ニハ鎧裝電纜又ハ適當ナル保護裝置ヲ有スル鉛被電線ヲ使用スルコトヲ要ス

第百九十六條　木製線樋ヲ用ウル配線工事ハ乾燥セル場所ニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

前項ノ配線工事ハ左ノ各號ニ依ル

一　電線ハ第四種電線ナルコト
二　線樋内ニ於テハ電線ニ接續點ヲ設ケザルコト
三　線樋ハ乾燥シタル堅緻ナル木材ヲ以テ製作シ其ノ内外面ニ耐水性ノ塗料ヲ施スコト

第百九十七條　金屬製管又ハ金屬製線樋ヲ用ウル線工事ハ左ノ各號ニ依ル

一　電線ハ第四種電線ナルコト
二　電線ハ撚線ナルコト但シ短小ナル管若ハ樋内ニ藏ムルモノ又ハ徑二粍以下ノモノハ此ノ限ニ在ラズ

三　管又ハ樋ノ接續ハ電氣的ニ完全ニシテ且振動ニ依リ破損セザルモノナルコト

四　管又ハ樋ハ接地スルコト但シ短小ナル管又ハ樋ニシテ乾燥シタル場所ニ設置スルモノハ此ノ限ニ在ラズ

五　管又ハ樋ノ内部ニ於テハ電線ニ接續點ヲ設ケザルコト

六　鐵製ノ管又ハ樋ハ酸化作用ヲ防止スル爲亞鉛鍍ヲ施スカ又ハ「エナメル」等ヲ以テ被覆スルコト

七　濕氣アル場所又ハ壁内ニ設置スル管又ハ樋ハ其ノ内部ニ濕氣ノ浸入スル事ヲ防グ爲接手其ノ他ノ附屬品ニ適當ナル防濕裝置ヲ施スコト

第百九十八條　電纜又ハ鉛被電線ガ甲板又ハ水密隔壁ヲ貫通スル部分ニハ甲板管又ハ水密「グランド」ヲ備ヘ梁又ハ水密ナラザル隔壁ヲ貫通スル部分ニハ鉛其ノ他ノ軟質非鐵物質ノ帙輪ヲ備フベシ

第四種電線ガ甲板、梁又ハ隔壁ヲ貫通スル部分ニハ絶縁性物ヲ備ヘ適當ニ之ヲ保護スベシ

第百九十九條　電氣使用場所ニ於ケル電線ハ適當ニ分岐シ且分岐點ニ近キ箇所ニ於テ各分岐回路ノ各極ニ開閉器及自働遮斷器ヲ裝置スベシ

前項ノ各分岐回路ヨリ更ニ分岐スル二線式電路ニ備フル開閉器及自動遮斷器ハ單極ニ之ヲ裝置スルコトヲ得

第二百條　汽機室及汽罐室内ノ配線ハ各獨立ノ分岐回路ト爲スベシ

第二百一條　檣燈、舷燈、兩色燈、三色燈及船尾燈ニ對シテハ燈毎ニ獨立ノ配線ト爲シ別箇ノ開閉器及自働遮斷器ニ依リ制御シ得ル裝置ト爲スベシ

前項ノ開閉器及自働遮斷器ハ航海船橋上ニ之ヲ集合設置スベシ又船燈ガ電球ノ纖條ノ切斷其ノ他ノ原因ニ因リ滅シタル場合ニハ之ヲ自働的ニ表示スル設備ヲ爲スベシ

管海官廳ハ差支ナシト認ムル場合ニ於テハ前二項ノ規定ノ適用ヲ斟酌スルコトヲ得

第二百二條　應急送電裝置ヲ要スル船舶ニ在リテハ應急送電路ハ主電源ヨリ應急電源ニ急速ニ切換ヘ得ル裝置ト爲スベシ

第三章　特殊場所ニ於ケル設備

第二百三條　濕氣アル場所又ハ雨露ニ暴露スル場所ニ設置スル電氣設備ニハ適當ナル防濕又ハ防水裝置ヲ施スベシ

第二百四條　石炭庫其ノ他塵埃アル場所ニ於ケル電氣設備ハ左ノ各號ニ依ル

一　配線ハ鎧裝電纜又ハ金屬製管ニ藏メタル第四種電線ナルコト

二　開閉器、自働遮斷器其ノ他ノ器具ハ適當ナル防塵裝置ヲ有スルモノナルコト

三　電球承口ハ無鍵承口ナルコト

第二百五條　腐蝕性ノ瓦斯又ハ溶液ノ發散スル場所ニ於ケル電氣設備ニハ瓦斯若ハ溶液ノ爲侵サレザル樣適當ナル塗裝其ノ他ノ豫防方法ヲ施スコトヲ要ス

第二百六條　爆發又ハ燃燒シ易キ危險ナル物質ヲ發生又ハ貯藏スル場所ニ於ケル電氣設備ハ左ノ各號ニ依ル

一　配線ハ鎧裝電纜又ハ金屬製線樋若ハ金屬製管ニ藏メタル第四種電線ナルコト

二　自働遮斷器、開閉器、點滅器、抵抗器其ノ他火花ヲ發シ又ハ溫度過昇ノ虞アル器具ハ該場所内ニ設置セザルコト但シ堅牢ナル氣密函若ハ油中ニ藏ムルカ又ハ其ノ他ノ適當ナル保安裝置ヲ施シタルモノハ此ノ限ニ在ラズ

三　電球承口ハ無鍵承口ナルコト

四　電球ニハ氣密ナル外球ヲ裝置シ且堅固ナル外裝ヲ施スコト

五　電動機ハ火花ヲ發スル部分ヲ有セザルモノハ火花ヲ發スル部分ニ適當ナル保安裝置ヲ特ニ施シタルモノニ限リ之ヲ使用スルコト

六　電線ト機械又ハ器具トノ接續ハ電氣的ニ完全ニシテ且振動ニ因リ弛緩セザル樣堅固ニ取附ケタルモノナルコト

第二百七條　磁氣羅針儀ニ接近スル電氣設備ハ羅針儀ニ有害ナル影響ヲ及ボサザル樣設置スルコトヲ要ス

附　則

第二百八條　本令ハ昭和九年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二百九條　本令施行ノ際現ニ船舶ニ備フル端艇鈎ハ本令ノ規定ニ適合セザルモノト雖モ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ之ヲ引續キ當該船舶ニ備フル場合ニ限リ本令ノ規定ニ適合スルモノト看做ス

前項ノ端艇ニ付テハ其ノ容積ハ船舶檢査規程ニ依リ算定シタル容積ヲ立方メートルニ換算シタルモノヲ以テ、其ノ定員ハ同規程ニ依リ算定シタルモノヲ以テ第五條又ハ第八條及第九條ノ規定ニ依リ算定シタル容積及定員ト看做ス

前二項ノ規定ハ昭和六年七月一日以後ニ龍骨ヲ据附ケタル國際航海ニ從事スル旅客船ニシテ近海以上ノ航行區域ヲ有スルモノニ付テハ之ヲ適用セズ

第二百十條　國際航海ニ從事スル旅客船ニシテ昭和六年六月三十日以前ニ龍骨ヲ据附ケタルモノニ付テハ發動機附

救命艇及救命索發射器ノ備附、端艇及救命筏ノ附屬品ノ備附、端艇ノ積附及揚卸裝置、乘艇裝置竝ニ消防設備ニ關シ本令ヲ適用スルコト實際上困難ナリト認ムルトキハ管海官廳ニ於テ之ヲ適當ニ斟酌スルコトヲ得

第二百十一條　本令施行ノ際沿海以下ノ航路定限ヲ有スル旅客船ニ現ニ備フル救命艇ニ非ザル端艇ハ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ之ヲ引續キ當該船舶ニ備フル場合ニ限リ救命艇ニ代用セシムルコトヲ得

第二百十二條　國際航海ニ從事スル旅客船ニシテ近海以上ノ航行區域ヲ有スルモノヲ除キ本令施行前製造シタル船舶ニ付管海官廳本令ニ依リ救命設備ヲ備フルコト實際上困難ナリト認メタルトキハ近海以上ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ在リテハ本令施行後二年、其ノ他ノ船舶ニ在リテハ四年以内ニ於テ行フ最後ノ中間檢査又ハ定期檢査ノ時期迄其ノ設備ニ付仍從前ノ例ニ依ラシムルコトヲ得

第二百十三條　本令施行ノ際現ニ存スル旅客室ニ付テハ左ニ掲グル事項ニ關シ仍從前ノ例ニ依ラシムルコトヲ得

一　室ノ高サ、通路及梯子ノ幅竝ニ客席ト甲板又ハ上層客席トノ間ノ高サ

二　移民搭載場所トシテ使用スル旅客室ニ付テハ雜居客室ノ通風裝置及病室ノ設備

三　旅客定員ノ算定ニ用ウル單位容積及單位面積但シ旅客室ノ現狀其ノ他旅客定員ノ算定ニ關スル條件ニ變更ナキ場合ニ限ル

第二百十四條　前條第一號ノ規定ハ船員室及船員又ハ旅客ニ非ザル者ノ居室ニ之ヲ準用ス

第二百十五條　本令施行前製造シタル旅客船ノ舷墻又ハ柵欄ノ高サニ付テハ仍從前ノ例ニ依ラシムルコトヲ得

第二百十六條　本令施行ノ際現ニ船舶ニ備フル錨、錨鎖及索ノ數、重量、徑又ハ長サニ付テハ仍從前ノ例ニ依ラシムルコトヲ得

本令施行ノ際現ニ船舶ニ備フル錨、錨鎖、鋼索、操舵鋼索ニ付テハ之ヲ引續キ當該船舶ニ備フル場合ニ限リ第百二十八條又ハ第百三十七條第二項ノ規定ニ依ラザルコトヲ得

第二百十七條　本令施行後一年以内ニ新ニ船舶ニ備附クル救命筏、救命浮器、救命索發射器、信號紅焰、火災警報裝置、防毒面、安全燈、移動式泡消火器、携帶用泡消火器、携帶用液體消火器及油信號燈ハ本令ノ規定ニ適合セザルモノト雖モ管海官廳ニ於テ適當ト認ムルモノニ限リ之ヲ本令ノ規定ニ適合スルモノト看做ス

第二百十八條　本令施行ノ際現ニ船舶ニ備ヘ又ハ前條ノ規

定ニ依リ船舶ニ備ヘタル救命筏、救命浮器、救命索發射器、信號紅焰、火災警報裝置、防毒面、安全燈、移動式泡消火器、携帶用泡消火器、携帶用液體消火器及油信號燈ハ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ之ヲ引續キ當該船舶ニ備フル場合ニ限リ本令ノ規定ニ適合スルモノト看做ス

第二百十九條　第百四十六條ノ規定ニ依ル無線方位測定機ハ本令施行後二年ヲ限リ管海官廳ニ於テ其ノ備附ヲ猶豫スルコトヲ得

第二百二十條　本令施行ノ際現ニ船舶ニ備フル電氣設備ニ付テハ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルモノニ限リ仍從前ノ例ニ依ラシムルコトヲ得

第一號表　端艇表

船ノ長サ（米）	端艇鈎ノ最小組數 (イ)	(ロ)	(ハ)	救命艇ノ最小容積（立方米） (ニ)	(ホ)	(ヘ)	(ト)	(チ)
三一未滿	二	二	—	—	—	—	—	六
三一以上三七未滿	二	二	二	一八	一一	三	九	九
三七　四三	二	二	二	二五	一七	二八	一三	一三
四三　四九	二	二	二	四四	二四	三五	一七	一七
四九　五三	三	三	二	五三	三三	四二	二三	二三
五三　五八	三	三	二	六八	三七	五四	二六	二六
五八　六三	四	四	四	七八	四一	六二	三〇	二九
六三　六七	四	四	四	九四	四五	七五	三七	三二
六七　七〇	五	四	四	一一〇	四八	八八	四二	三四
七〇　七五	五	四	四	一二九	五二	一〇三	四六	三六
七五　七八	六	五	四	一四四	六〇	一一五	五一	四二
七八　八二	六	五	四	一六〇	六八	一二八	五七	四八
八二　八七	七	五	四	一七五	七六	一四〇	六九	五三
八七　九一	七	五	五	一九六	八五	一五七	八〇	六〇
九一　九六	八	六	六	二一四	九四	一七一	九四	六六
九六以上一〇一未滿	八	六	六	二三五	一〇五	一八八	一〇五	七四
一〇一　一〇七	九	七	六	二五五	一一六	二〇四	一一六	八一
一〇七　一一三	九	七	六	二七三	一二五	二一八	一二五	八八
一一三　一一九	一〇	七	六	三〇一	一三三	二四一	一三三	九三
一一九　一二五	一〇	七	七	三三一	一四四	二六五	一四四	一〇一
一二五　一三三	一二	九	八	三七〇	一五六	二九六	一五六	一〇九
一三三　一四〇	一三	九	九	四〇八	一七〇	三二七	一七〇	一一九
一四〇　一四九	一四	一〇	一〇	四五一	一八五	三六一	一八五	一三〇
一四九　一五九	一四	一〇	一〇	四九〇	二〇一	三九二	二〇一	一四一
一五九　一六八	一六	一二	一〇	五三〇	二一七	四二四	二一七	一五二
一六八　一七七	一六	一二	一二	五七六		四六一		

獸肉	一八八グラム		
野菜類	適宜		
漬物梅干類	適宜		
調味料（味噌、醤油、鹽、砂糖、酢ノ類）	適宜		
飲用水	三・六リットル		
一七七	一八六	一八一	一三二
一八六	一九五	一八一	一三二
一九五	二〇四	二〇一	一四一
二〇四	二一三	二〇一	一四一
二一三	二二三	二二一	一五
二二三	二三二	二三一	一五
二三二	二四一	二四一	一七
二四一	二五〇	二五〇	一七
二五〇	二六一	二六一	一八
二六一	二七一	二六一	一八
二七一	二八二	二八二	一九
二八二	二九三	二八一	一九
二九三	三〇三	三〇二	二〇
三〇三	三一四	三〇二	二〇

備考

救命艇ノ容積ヲ求ムルニ當リ第二級救命艇ノ容積（立方メートルニテ）ハ該救命艇ノ定員二〇・二八三ヲ乘ジタルモノヲ用ウベシ

第二號表　移民船ニ對スル食料及飲用水表

品名	量額
米	七四〇グラム
肉	一八八グラム
野菜類	適宜
漬物梅干類	適宜
調味料（味噌、醤油、鹽、砂糖、酢ノ類）	適宜
飲用水	三・六リットル

備考

一　本表ノ量額ハ一人一日ニ對シ支給スベキ最小額トス

二　主食物中米ハ七分搗又ハ胚芽米トシ成ルベク新鮮良質ナルモノヲ支給スベシ

三　無砂搗白米七五〇グラム、麵麭八六三グラム又ハ麥粉若ハ乾麵麭六九四グラムヲ以テ七分搗米七四〇グラムニ代用スルコトヲ得

四　無砂搗白米ヲ用ウルトキハ其ノ量額ノ十分ノ一迄麥ヲ混用スルコトヲ得

五　鳥肉、魚肉ヲ以テ獸肉ニ代用スルコトヲ得但シ魚肉ヲ以テ代用スルトキハ鳥獸肉ノ用量ノ倍量以上ヲ用ウベシ

六　蒸溜機ヲ備フル船舶ニハ水量ヲ半減スルコトヲ得

第三號表　移民船ニ對スル醫藥及衛生用品表

（一）內用藥

藥名	數量
アスピリン	二五〇グラム
サルチル酸	一〇〇〃
サルチル酸ソーダ	五〇〇〃
鹽酸キニーネ	二五〃
重曹	一、〇〇〇〃
マグネシヤ	一〇〇〃
次硝酸蒼鉛（ビスミット）	二五〇〃
ビオフエルミン	二〇〇〃
タンナルピン	二五〃
ヂアスターゼ	二五〇〃
稀鹽酸	二〇〇〃
苦味チンキ	五〇〇〃
薄荷水	五〇〇〃
バルビタール（ベロナール）	五〇〃
セネガシロップ	一、〇〇〇〃
杏仁水	一〇〇〃
硫酸マグネシヤ（硫苦）	二五〇〃
ヒマシ油	二五〇〃
ロカイヤラツバ丸	五〇〇箇
醋酸カリ液	二五〇グラム
ヂガーレン又ハヂギタミン	一五立方糎
安息香酸ソーダカフエイン（安那加）	五〇グラム
カンフル	二五〃
ブロムカリ	五〇〃
ブロムワレリル尿素（カルモチン又ハブロバリン）	一〇〇〃
ヨードカリ	五〇〃
サンタル油	一〇〇〃
コパイババルサム	五〇〃
サントニン	五〃
アミノピリン錠	五〇箇
炭酸グアヤコール	五〇グラム
規鉄丸	五〇〇箇
オリザニン	五〇〇グラム
燐酸コデイン十倍末	五〇〃
パントポン錠又ハナルコポン錠	二〇箇
澱粉	二五〇グラム
乳糖	二五〇〃
炭末錠	二〇〇箇

（二）注射藥

名	數量
液	
クラウデン	一〇立方糎入五管トロンボゲン二・五立方糎入六管ヲ以テ代用スルコトヲ得
パントポン	一二管
カンフルオレフ油	一立方糎ニ付二〇%ノモノ二四本
ヴイタカンファー	一〇本
リンゲル液又ハロツク液	六〃
生理的食鹽水	一、〇〇〇グラム

（三）外用藥

名	數量
鱗片狀硼酸	五〇〇グラム
醋酸鉛	五〇〇〃
酸化亞鉛	五〇〇〃
硫酸亞鉛	二五〃
硝酸銀	二五〃
デルマトール	二五〃
ヨードホルム	二五〃
イスラビン又ハパンセプチン又ハトリパフラビン	二五〃
青酸酸化汞	一〇〃
リバノール	一〇グラム
アンモニア水	一〇〇〃
クレオソート又ハカンホニツク	二五〃
イヒチオール	五〇〃
過マンガン酸カリ	二五〃
過酸化水素水	一〇〇〃
オレフ油	五〇〇〃
粉末芥子	五〇〇〃
ホミカエキス十倍末	二五〇〃
ロートエキス十倍末	二五〇〃
マルコール	一、〇〇〇〃
グリセリン	五〇〇〃
蒸溜水	五〇〇〃
單軟膏	二五〇〃
硼酸軟膏	五〇〇〃
水銀軟膏	一〇〇〃
タール膏	一〇〇〃
亞鉛華軟膏	二五〇〃
ワセリン	二五〇〃
亞鉛華絆創膏	二五〇〃
硫亞水（硫酸亞鉛水）	一本
	二〇〇グラム

石炭酸	五〇〇グラム
クレゾール石鹼液	五〇〇〃
葡萄酒	五〇〇〃
ビツク硬膏	一本

（四）血精類

名	數量
藥	
ヂフテリヤ血精（一、〇〇〇國際免疫單位）	二本
破傷風血精（八、〇〇〇國際免疫單位）	一本

（五）醫療器械類

品名	數量
小外科器械	一圍
（內譯）	
外科刀	三箇
直剪刀	一〃
反剪刀	一〃
鑷子	一〃
有鈎鑷子	一〃
兩頭銳匙	一〃
ペアン氏血鉗子	一〃
持針器	一〃
消息子	一箇
有溝消息子	一〃
縫合針	五本
縫合糸	一箇
消毒盤	一〃
膿盆	三〃
注射器（針二本附）	一〃
グリセリン浣腸器	一〃
カテテール	二〃
尿道注射器	一〃
スポイド	二〃
洗眼用コップ	一〇〃
反射鏡	一〃
卷綿棒（咽頭用）	一〃
同（耳鼻用）	五〃
消毒ガーゼ貯槽	一〃
食鹽注射用ゴム及針	一〃
器械消毒器	一〃
天秤（上皿）	一〃
竿秤（一瓦用）	一〃
液量器	二〇〇立方糎
	二〇〃

硝子製乳鉢(乳棒共) 一組
薬匙
　金属製 一〃
　同(合匙) 一箇
　水牛製 一〃
漏斗 六〇粍 一〃
　　 九五粍 一〃
膏薬板 二〃
膏薬篦 金属製 水牛角製各 一〃
木栓抜 一〃
投薬瓶
　四〇〇立方糎 一箇
　二〇〇〃 五〇〃
　一〇〇〃 一〇〇〃
　六〇〃 五〇〃
　三〇〃 五〇〃
投薬便箋 内用 五〇〇〃
　　　　 外用 五〇〇枚
薬袋 内用 五〇〇〃
　　 外用 一、〇〇〇〃
薬包紙 五〇〇〃
點眼瓶 二、〇〇〇〃
カプセル 五〇箇
膏薬容器 一〇〇〃
オブラート 一〇〇〃
脱脂綿 四〇〇グラム 一二〃
精製ガーゼ 九メートル 二〃

ヨードホルムガーゼ 一〇〇グラム入 一〃
止血綿 一〇〇グラム入 二〃
巻軸繃帯 四裂一反巻 一〇本
　　　　 五〃一反巻 一〇〃
　　　　 六〃〃 五〃
　　　　 八〃〃 五〃
三角巾 一〇枚
片眼帯 一〇〇箇
副木 一二本
晒綿 五反
リント 一本
亜麻仁油紙 一〇〇枚
氷嚢 二〇箇
氷枕 一〇〃
安全針 一〇〇〃
不透性布 七五糎幅 三・八米
検温器 五箇
手術用敷布 一枚
手術衣 一著
爪刷毛 一箇
繃帯剪刀 一〃
吸入器 一〃
挿便器 三〃
挿尿器 三〃
指サック 三六〃
懐爐 一〇〃

第四號表

汽船錨鎖及大索表

艤装數 鋼船	艤装數 木船	錨數 大	錨數 中	錨量 大錨 單量	錨量 大錨 合量	錨量 無桿大錨 單量	錨量 無桿大錨 合量	錨量 中錨 單量	大錨鎖 長サ	大錨鎖 徑	中錨用鎖又ハ鋼索 長サ	中錨用鎖又ハ鋼索 鎖 徑	中錨用鎖又ハ鋼索 鋼索 徑	挽索(麻索又ハ鋼索) 長サ	挽索 麻索 徑	挽索 鋼索 徑	大索(麻索又ハ鋼索) 長サ	大索 大 數	大索 大 麻索 徑	大索 大 鋼索 徑※	大索 小 數	大索 小 麻索 徑	大索 小 鋼索 徑※
ヲ超エ 以下	ヲ超エ 以下			瓩	瓩	瓩	瓩	瓩	米	粍	米	粍	粍	米	粍	粍	米		粍	粍		粍	粍
80—90	40—55	2	—	50	100	65	130	—	100	12	—	—	—	110	28	—	—	—	—	—	—	—	—
90—105	55—70	2	—	65	130	80	160	—	125	13	—	—	—	110	30	—	—	—	—	—	—	—	—
105—140	70—100	2	—	75	150	95	190	—	150	14	—	—	—	110	32	—	80	1	20	—	—	—	—
140—175	100—140	2	1	100	200	125	250	25	175	16	75	10	—	135	35	—	110	1	22	—	—	—	—
175—220	140—225	2	1	140	280	175	350	40	200	17	75	11	—	135	40	—	135	1	22	—	—	—	—
220—280	225—325	2	1	180	355	230	445	40	225	18	75	13	—	135	45	16↑	165	1	24	—	—	—	—
280—335	325—425	2	1	215	430	265	535	65	225	19	75	14	16↑	135	45	16	165	1	32	—	—	—	—
335—390	425—525	2	1	255	510	320	635	90	250	21	100	15	18	135	50	18	165	1	32	—	—	—	—
390—445	525—650	2	1	290	585	370	725	115	300	22	100	16	18	135	50	18	165	1	32	—	—	—	—
445—500	650—780	2	1	330	660	420	825	140	300	24	100	16	18	135	55	20	165	1	40	14	—	—	—
500—555	780—920	2	1	370	735	460	915	150	300	25	100	17	20	135	60	20	165	1	45	16	—	—	—
555—620	920—1075	3	1	420	1195	520	1485	180	300	27	100	18	22	135	60	20	165	1	45	16	—	—	—
620—685	1075—1230	3	1	510	1450	635	1805	205	350	29	100	19	22	135	65	22	165	1	45	16	—	—	—
685—750	1230—1415	3	1	595	1700	735	2120	215	350	30	100	20	24	135	70	22	165	1	50	18	—	—	—
750—825	1415—1645	3	1	685	1955	850	2440	240	375	32	100	21	24	135	70	22	165	1	50	18	1	32	—
825—900	1645—1925	3	1	775	2210	965	2755	265	375	34	125	22	26	165	75	24	165	1	50	18	1	40	14
900—985	1925—2240	3	1	865	2465	1080	3075	290	400	34	125	22	26	165	75	24※	165	1	50	18	1	40	14
985—1075	2240—2580	3	1	950	2720	1180	3390	305	400	36	125	23	28※	165	—	26	165	1	50	18	1	40	14
1075—1180	2580—2945	3	1	1040	2970	1295	3710	330	400	38	125	24	28	165	—	26	165	1	50	18	1	40	14
1180—1290	2945—3400	3	1	1145	3250	1425	4065	355	450	40	125	25	30	165	—	26	165	1	50	18	1	40	14
1290—1410	3400—3910	3	1	1245	3530	1550	1420	395	450	42	125	25	30	165	—	26	165	2	50	18	2	40	14
1410—1550	3910—4475	3	1	1345	3810	1675	4775	430	450	42	150	27	32	165	—	28	165	2	50	18	2	40	14
1550—1720	4475—5155	3	1	1450	4115	1805	5130	470	450	44	150	27	32	165	—	28	165	2	50	18	2	40	14
1720—1915	—	3	1	1575	4470	1970	5590	510	450	46	150	28	34	165	—	32	165	2	60	20	2	50	18

錨量欄ノ註：(有桿錨ハ其ノ桿量ヲ除ク)

備考　表中ノ※印欄鋼索ハ十二本線六ツ撚柔軟鋼索ヲ、⊘印欄鋼索ハ二十四本線六ツ撚特別柔軟鋼索ヲ又⊠印欄鋼索ハ三十本線六

ツ撚特別柔軟鋼索ヲ使用シタル場合ノ寸法トス

1915—2110	—	3	1	1700	4850	2135	6070	560	450	48	150	29	34	185	—	32	165	2	60	20	2	50	18
2110—2320	—	3	1	1830	5235	2285	6500	610	500	48	150	29	34	185	—	32	165	2	60	20	2	50	18
2320—2535	—	3	1	1980	5640	2475	7060	660	500	50	175	30	36	220	—	32	165	2	60	20	2	55	20
2535—2760	—	3	1	2135	6070	2665	7595	710	500	52	175	30	36	220	—	36	165	2	60	20	2	55	20
2760—2990	—	3	1	2255	6500	2860	8130	760	500	54	175	30	36	220	—	36	165	2	60	20	2	55	20
2990—3235	—	3	1	2440	6935	3050	8660	825	500	56	175	32	38	220	—	38	165	2	65	22	2	60	20
3235—3495	—	3	1	2590	7390	3240	9245	890	500	58	175	32	38	220	—	40↓	165	2	65	22	2	60	20
3495—3755	—	3	1	2770	7900	3455	9880	965	500	58	175	34	40	220	—	38↑	165	2	65	22	2	60	20
3755—4015	—	3	1	2945	8410	3685	10515	1040	550	60	225	34	40	240	—	40	185	2	65	22	2	65	22
4015—4275	—	3	1	3125	8915	3910	11150	1120	550	62	225	34	40↓	240	—	42	185	2	65	22	2	65	22
4275—4535	—	3	1	3300	9425	4130	11785	1195	550	64	225	36	38↑	240	—	44	185	2	65	22	2	65	22
4535—4795	—	3	1	3480	9930	4315	12420	1270	550	66	225	36	38	240	—	44	185	2	65	22	2	65	22
4795—5070	—	3	1	3655	10460	4570	13080	1345	550	66	225	36	38	240	—	44	185	2	65	22	2	65	22
5070—5350	—	3	1	3860	11020	4825	13770	1425	600	68	225	38	44	240	—	52	185	2	65	22	2	65	22
5350—5630	—	3	1	4065	11580	5080	14480	1500	600	70	225	38	44	240	—	52⊗	220	2	65	22	2	65	22
5630—5925	—	3	1	4240	12090	5310	15140	1575	600	70	225	40	44	240	—	52	220	2	65	22	2	65	22
5925—6225	—	3	1	4420	12600	5535	15800	1650	600	72	225	42	44	240	—	52	220	2	65	22	2	65	22
6225—6520	—	3	1	4620	13150	5765	16460	1730	600	74	275	42	48⊗	255	—	55	220	3	65	22	2	65	22
6520—6820	—	3	1	4800	13660	5995	17070	1805	600	76	275	44	48	255	—	55	220	3	65	22	2	65	22
6820—7135	—	3	1	4980	14170	6225	17730	1895	600	78	275	46	48	255	—	55	220	3	65	22	2	65	22
7135—7450	—	3	1	5155	14730	6450	18390	1980	600	80	275	46	48	255	—	58	220	3	65	22	3	65	22
7450—7785	—	3	1	5360	15290	6705	19100	2070	600	82	275	48	52	255	—	58	220	3	65	22	3	65	22
7785—8140	—	3	1	5560	15850	6960	19810	2160	600	82	275	48	52	255	—	58↓	220	3	65	22	3	65	22
8140—8510	—	3	1	5765	16460	7215	20530	2250	600	85	275	48	52	275	—	65↑	220	3	65	22	3	65	22
8510—8900	—	3	1	5995	17070	7495	21340	2335	600	85	275	50	52	275	—	65	220	3	65	22	3	65	22
8900—9310	—	3	1	6225	17730	7775	22150	2425	600	88	275	52	58	275	—	65⊠	220	3	65	22	3	65	22
9310—9755	—	3	1	6450	18390	8075	22960	2515	600	91	275	52	58↓	275	—	65↓	220	3	65	22	3	65	22

第五號表

帆船錨、錨鎖及大索表

艤裝數 鋼船	艤裝數 木船	錨數 大	錨數 中	錨數 小	錨量(量鋲ヲ除ク) 大錨 單量	大錨 合量	中錨 單量	小錨 單量	大錨鎖 長サ	大錨鎖 徑	中錨用鎖又ハ鋼索 長サ	鎖徑	鋼索徑※	挽索(麻索又ハ鋼索) 長サ	麻索徑	鋼索徑※	大索(麻索又ハ鋼索) 長サ	大 數	大 麻索徑	大 鋼索徑※	小 數	小 麻索徑	小 鋼索徑※
超エ 以下	超エ 以下				瓩	瓩	瓩	瓩	米	粍	米	粍	粍	米	粍	粍	米		粍	粍		粍	粍
65—80	40—55	2	—	—	75	150	—	—	125	12	—	—	—	110	28	—	—	—	—	—	—	—	—
80—95	55—70	2	1	—	90	180	25	—	150	14	75	9	—	110	32	—	165	1	20	—	—	—	—
95—115	70—100	2	1	—	115	235	25	—	175	16	75	10	—	110	35	—	165	1	20	—	—	—	—
115—150	100—140	2	1	—	140	280	40	—	200	17	75	11	—	135	40	—	165	1	22	—	—	—	—
150—195	140—210	2	1	1	180	355	40	25	225	18	75	11	—	135	40	14	165	1	24	—	—	—	—
195—230	210—285	2	1	1	215	430	65	25	225	19	75	13	—	135	45	16	165	1	24	—	—	—	—
230—280	285—355	2	1	1	255	510	75	40	250	21	75	13	—	135	45	16	165	1	24	—	—	—	—
280—315	355—425	2	1	1	290	585	75	40	300	22	100	13	—	135	50	18	165	1	28	—	—	—	—
315—360	425—495	2	1	1	330	660	100	50	300	24	100	14	16	135	55	18	165	1	32	—	—	—	—
360—400	495—565	2	1	1	370	735	115	50	300	25	100	15	18	135	55	18	165	1	32	—	—	—	—
400—445	565—710	3	1	1	420	1195	125	65	300	27	100	16	18	135	60	20	165	1	32	—	—	—	—
445—490	710—850	3	1	1	510	1450	190	90	350	29	100	16	18	135	60	20	165	1	40	14	—	—	—
490—550	850—990	3	1	1	610	1740	205	100	350	30	100	17	20	135	65	22	165	1	45	16	—	—	—
550—605	990—1135	3	1	1	685	1956	240	125	375	32	100	18	22	135	65	22	165	1	45	16	—	—	—
605—660	1135—1275	3	1	1	775	2210	265	125	400	34	100	19	22	135	70	22	165	1	50	18	—	—	—
660—715	1275—1415	3	1	1	865	2465	280	140	425	36	100	19	22	135	75	24	165	1	55	18	—	—	—
715—780	1415—1700	3	1	1	965	2745	330	165	450	36	100	20	24	135	—	26	165	1	60	20	—	—	—
780—855	1700—1985	3	1	1	1065	3050	370	180	450	38	125	21	24	165	—	26	165	1	60	20	1	32	—
855—940	1985—2265	3	1	1	1175	3105	405	205	500	40	125	22	26	165	—	26	165	1	65	22	1	40	14
940—1030	2265—2550	3	1	1	1295	3695	430	215	500	42	125	22	26	165	—	26	165	1	65	22	1	40	14
1030—1145	2550—2835	3	1	1	1410	4015	445	230	500	42	125	23	28	165	—	26	165	1	75	24	1	45	16
1145—1265	2835—3400	3	1	1	1525	4315	485	240	500	44	125	24	28	165	—	26	165	1	75	24	1	45	16
1265—1400	3400—3965	3	1	1	1625	4635	535	265	500	46	150	25	30	165	—	28	165	1	—	26	1	50	18
1400—1560	3965—4535	3	1	1	1730	4930	545	280	500	48	150	25	30	165	—	28	165	1	—	26	1	50	18
1560—1730	—	3	1	1	1855	5285	570	280	500	50	150	27	32	165	—	28	165	1	—	26	1	55	18
1730—1905	—	3	1	1	1930	5500	585	290	500	50	150	27	32	165	—	32	165	1	—	28	1	60	20
1905—2110	—	3	1	1	2030	5790	610	305	500	52	175	28	34	165	—	32	165	1	—	28	1s	60	20
2110—2340	—	3	1	1	2135	6085	685	345	550	56	225	29	34	165	—	36	165	1	—	32	1	65	22
2340—2590	—	3	1	1	2285	6515	775	385	550	58	225	30	36	165	—	36	165	1	—	32	1	65	22
2590—2860	—	3	1	1	2440	6960	865	430	550	60	225	32	38	220	—	38	165	1	—	36	1	75	24

備考

表中※印欄鋼索ハ十二本線六ツ撚柔軟鋼索ヲ使用シタル場合ノ寸法トス

第六號表 日本形錨ヲ備フル帆船ノ錨、錨索及大索表

艤裝數	錨數 大錨	錨數 其ノ他	錨數 合計	錨量 大錨	錨量 合量	大錨索(麻索又ハ棕梠索) 麻索徑	大錨索 棕梠索徑	大錨索 各大錨ニ附スル錨索ノ長サ	絶索(麻索又ハ鋼索) 長サ	絶索 麻索徑	絶索 鋼索徑※	大索 長サ	大索 麻索徑
40ヲ超エ 55以下	2	1	3	瓩 75	瓩 205	粍 24	粍 32	米 55	米 110	粍 28	粍 —	米 —	粍 —
55— 70	2	2	4	95	320	28	40	65	110	32	—	165	20
70—100	2	2	4	115	395	32	45	75	110	35	—	165	20
100—140	2	3	5	130	565	35	45	80	135	35	—	165	22
140—210	2	3	5	170	750	45	60	90	135	40	14	165	24
210—285	2	4	6	205	1010	50	65	90	135	45	16	165	24
285—355	2	4	6	255	1240	55	75	110	135	45	16	165	24
355—425	2	4	6	300	1430	60	80	110	135	50	18	165	28
425—495	2	4	6	330	1610	65	—	125	135	55	18	165	32
495—565	2	4	6	360	1800	70	—	125	135	55	18	165	32

備考 ※印欄鋼索ハ十二本線六ツ撚鋼索ヲ使用シタル場合ノ寸法トス

第七號表 日本形錨ノ錨量ト錨索對照表

錨量	麻索徑	棕梠索徑
瓩 30	粍 18	粍 24
40	20	28
50	20	28
60	22	30
70	24	32
80	24	32
90	26	35
100	28	40
110	30	40
120	32	45
130	35	45
140	40	55
150	40	55
160	40	55
170	45	60
180	45	60
190	45	60
200	50	65
210	50	65
220	50	65
230	52	70
240	52	70
250	55	75

第八號表 錨鎖衰耗限度表

原徑	平均ノ徑	原徑	平均ノ徑	原徑	平均ノ徑
粍 9	粍 8	粍 26	粍 23	粍 56	粍 50
10	9	27	24	58	52
11	10	28	25	60	53.5
12	11	29	26	62	55.5
13	11.5	30	27	64	57
14	12.5	32	28.5	66	59
15	13	34	30	68	61
16	14	36	32	70	62.5
17	15	38	34	72	64
18	16	40	36	74	66
19	17	42	37.5	76	68
20	18	44	39	78	70
21	19	46	41	80	71.5
22	19.5	48	43	82	73
23	20.5	50	44.5	85	76
24	21.5	52	46.5	88	78.5
25	22	54	48	91	81.5

第九號表 屬具表

屬具名稱＼航行區域	遠洋 汽船	遠洋 帆船	近海 汽船	近海 帆船	沿海 汽船	沿海 帆船	平水 汽船	摘要
號鐘	一	一	一	一	一	一	—	徑二〇三ミリメートル以上ニシテ適當ノ場所ニ懸垂スルコトヲ要ス
時計	二	二	二	一	一	一	一	湖川港内ヲ限リ航行スル船舶ニハ管海官廳ノ見込ニ依リ船長ノ所持品ヲ以テ之ニ代用スルコトヲ得
雙眼鏡	一	一	一	一	一	一	—	
晴雨計	一	一	一	一	一	一	—	
海水用寒暖計	一	一	—	—	—	—	—	總噸數三十噸未滿ノ帆船ニハ之ヲ備ヘザルモ妨ナシ
手用測程具	—	一	—	一	一	—	—	
砂漏計	—	二	—	一	一	—	—	
測程機械	二	—	一	—	—	—	—	
手用測鉛	二	二	二	二	二	—	—	測鉛ノ重量ハ手用測鉛ニ在リテハ三・二瓩以上、深海測鉛ニ在リテハ一二・七瓩以上ナルコトヲ要ス
深海測鉛	一	一	一	一	—	—	—	測鉛ニ附スル線ノ長サハ手用測鉛ニ在リテハ四六メートル以上、深海測鉛ニ在リテハ二三〇メートル以上ナルコトヲ要ス 總噸數三十噸未滿ノ帆船ニハ之ヲ備ヘザルモ妨ナシ
測深機械	一	—	一	—	—	—	—	旅客船ニ非ザル船舶、總噸數八百噸未滿ノ旅客船及臨時旅客又ハ甲板旅客ヲ搭載スル爲旅客船トナリタル船舶ニハ之ヲ備ヘザルモ妨ナシ
時辰儀	一	一	—	—	—	—	—	
六分儀	一	一	—	—	—	—	—	
航海曆	一	一	—	—	—	—	—	
羅針儀	三	三	三	二	二	二	一	近海區域以上ヲ航行區域トスル船舶ニ在リテハ一箇ハ天象艀角ヲ測リ得ベキ器具ヲ備フルコトヲ要ス 沿海ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ在リテハ一箇ハ日本形磁石ヲ用ウルモ妨ナシ 湖川港內ヲ限リ航行スル船舶ニシテ管海官廳ニ於テ必要ナシト認ムルトキハ羅針儀ヲ備ヘザルモ妨ナシ
檣燈 常用	二	—	一	—	一	—	一	總噸數四十噸以上ノ汽船ニハ甲種檣燈ヲ備ヘ總噸數四十噸未滿ノ汽船ニハ甲種又ハ乙種檣燈ヲ備フベシ 近海以下ノ航行區域ヲ有スル船舶ト雖モ長サ四五・七メートル以上ナルトキハ常用燈二箇ヲ備フベシ 曳船ニ從事スル汽船ハ常用燈トシテ甲種檣燈二箇以上ヲ增備スベシ 機關ヲ有スル帆船ニハ汽船ニ準ジ檣燈ヲ備フベシ
檣燈 豫備	二	—	—	—	—	—	—	湖川港內ヲ限リ晝間ノ航行ノミニ使用スル船舶ニハ檣燈ヲ備ヘザルモ妨ナシ 豫備燈ハ油船燈ト爲スコトヲ要ス
舷燈 常用	一對	一對	一對	一對	一對	一對	一對	帆船及總噸數四十噸以上ノ汽船ニハ甲種舷燈ヲ備フベシ 總噸數四十噸未滿ノ汽船ニハ甲種又ハ乙種舷燈ヲ備フベシ但シ甲種兩色燈一箇ヲ以テ代用スルコトヲ得 湖川港內ヲ限リ晝間ノ航行ノミニ使用スル船舶ニハ舷燈ヲ備ヘザルモ妨ナシ
舷燈 豫備	一對	一對	—	—	—	—	—	豫備舷燈ハ油舷燈ト爲スコトヲ要ス
船尾燈	一	一	一	一	一	一	一	小形船ニ於テハ甲種、乙種又ハ丙種白燈ヲ以テ代用スルコトヲ得 湖川港內ヲ限リ晝間ノ航行ノミニ使用スル船舶ニハ船尾燈ヲ備ヘザルモ妨ナシ
碇泊燈	二	二	一	一	一	一	一	碇泊燈ハ甲種、乙種又ハ丙種白燈ナルコトヲ要ス 近海以下ノ航行區域ヲ有スル船舶ト雖モ長サ四五・七メートル以上ナルトキハ碇泊燈二箇ヲ備フベシ
紅燈	二	二	二	二	二	—	—	總噸數四十噸未滿ノ汽船ニハ紅燈及黑球ノ備アルコトヲ要セズ
黑球	二	二	二	二	二	—	—	黑球ハ直徑六一〇ミリメートルニシテ布其ノ他保存ニ耐フベキ材料ヲ用キタルモノナルコトヲ要ス
霧中號角	一	一	一	一	一	一	—	
火箭又ハ榴彈	十二	十二	六	—	六	—	—	榴彈ヲ備フルトキハ打上臺ハ遠洋ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ在リテハ二箇ヲ備ヘ船首及船尾ニ於テ一ハ右舷ニ他ハ左舷ニ据附クベシ又近海以下ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ在リテハ一箇ヲ備ヘ適當ノ場所ニ据附クベシ 口徑八九ミリメートル以上ノ信號砲又ハ口徑一四〇ミリメートル以上ノ臼砲、附屬具及十二發以上ノ發射設備ヲ備フル船舶ニハ火箭又ハ榴彈ヲ備ヘザルモ妨ナシ
信號青焰	十二	六	—	—	—	—	—	
國旗	二	二	二	一	一	一	一	
國際信號旗	一組	一組	一組	一組	一組	NC二旗	—	總噸數百噸未滿ノ船舶ニハNC二旗ノミヲ備フルモ妨ナシ但シNC旗ノミヲ備ヘ若ハ之ヲ備ヘザル船舶ト雖モ信號符字ノ點符アルモノハ其ノ符字ニ對スル信號旗ヲ備フベシ
國際通信書	一	一	一	一	一	—	—	總噸數百噸未滿ノ船舶ニハ之ヲ備ヘザルモ妨ナク又無線電信裝置ノナキ船舶ニハ國際通信書中電信篇ヲ備ヘザルモ妨ナシ
船名錄	一	一	一	一	一	—	—	總噸數百噸未滿ノ船舶ニハ之ヲ備ヘザルモ妨ナシ 成ルベク最近刊行ノモノヲ備フベシ
信號燈	一	一	一	一	—	—	—	國際航海ニ從事スル總噸數百五十噸以上ノ船舶ニ限リ之ヲ備フベシ

備考
一 夜間營業所ニ在リテ要招ニ應ズル水先船ニハ甲種又ハ乙種白燈一箇ヲ備フベシ但シ碇泊燈トシテ甲種又ハ乙種白燈ヲ備フルトキハ之ヲ以テ兼用スルコトヲ得
二 夜間營業所ニ在リテ要招ニ應ズル水先汽船ニハ總噸數四十噸未滿ノモノ又ハ平水ノ航行區域ヲ有スルモノト雖モ紅燈一箇ヲ備フベシ

⊙遞信省令第七號

船舶滿載吃水線規程左ノ通定ム

昭和九年二月一日

遞信大臣　南　弘

船舶滿載吃水線規程

目次

第一編　總則
第一章　定義
第二章　乾舷ノ種類
第三章　滿載吃水線ノ標示
第四章　乾舷ノ決定
第二編　汽船ノ形狀ニ依ル夏期乾舷
第一章　表定乾舷
第二章　船樓ニ關スル修正
第三章　深サ及梁矢ニ關スル修正
第四章　舷弧ニ關スル修正
第三編　鋼船ノ强力
第一章　縱抵抗率及肋骨抵抗率
第二章　標準强力
第三章　强力ニ依ル吃水ノ算定
第四編　甲板積木材貨物ヲ運送スル汽船、槽船及木汽船ノ乾舷ニ關スル特別規定
第一章　甲板積木材貨物ヲ運送スル汽船
第二章　槽船
第三章　木汽船
第五編　帆船ノ乾舷ニ關スル特別規定
第一章　鋼帆船
第二章　木帆船
第六編　船舶ノ構造及設備
第一章　通則
第二章　乾舷甲板又ハ船樓甲板ニ於ケル艙口其ノ他ノ甲板口
第三章　乾舷甲板又ハ船樓甲板ニ於ケル機關室口、通風筒及空氣管
第四章　乾舷甲板下ノ船側ニ於ケル開口
第五章　船樓端ノ隔壁、船員ノ保護裝置及放水口
第六章　木材滿載吃水線ノ指定ヲ受クル汽船
第七章　槽船
附則

船舶滿載吃水線規程

第一編　總則

第一章　定義

第一條　本令ニ於テ乾舷甲板トハ最上層ノ全通甲板ヲ謂フ

但シ最上層ノ全通甲板ノ暴露部ニ常設閉裝置ヲ備ヘザル開口ヲ有スル船舶ニ在リテハ該甲板ノ直下ノ全通甲板ヲ謂フ

船首ト船尾トノ間ニ於テ一部分ノ甲板ト他ノ部分ノ甲板トガ連續セザル船舶ニ付乾舷甲板ヲ定ムル場合ニ於テハ上方ノ甲板ノ部分ニ於テ之ト平行シテ下方ノ甲板ノ延長面ヲ假定シ該下方ノ甲板及其ノ延長面ヲ全通甲板ト看做ス

第二條　本令ニ於テ船樓トハ船側ヨリ船側ニ達シ上部ニ甲板ヲ有スル乾舷甲板上ノ構造物ヲ謂フ

本令ニ於テ船樓ノ長サトハ船橋樓ニ在リテハ其ノ平均ノ長サ、其ノ他ノ船樓ニ在リテハ船ノ長サヲ測ル兩端點ニ於ケル垂線ノ間ニ在ル部分ノ平均ノ長サヲ謂フ

第三條　本令ニ於テ平甲板船トハ船樓ヲ有セザル船舶ヲ謂フ

第四條　本令ニ於テ船ノ長サトハ計畫夏期滿載吃水線又ハ計畫海水滿載吃水線上ニ於テ船首材ノ前面ヨリ舵柱ヲ有スル船舶ニ在リテハ其ノ後面迄、舵柱ヲ有セザル船舶ニ在リテハ舵頭ノ中心迄測リタル距離ヲ謂フ

巡洋艦形船尾ヲ有スル船舶ニ在リテハ船ノ長サハ前項ノ規定ニ依ル長サト計畫夏期滿載吃水線又ハ計畫海水滿載吃水線上ニ於ケル船ノ全長ノ百分ノ九十六トノ中大ナルモノトス

船ノ長サハLヲ以テ之ヲ示シ其ノ單位ハメートルトス

第五條　本令ニ於テ船ノ幅トハLノ中央ニ於テ鋼船ニ在リテハ肋骨ノ外面ヨリ外面迄、木船ニ在リテハ外板ノ外面ヨリ外面迄ノ最大幅ヲ謂フ

船ノ幅ハBヲ以テ之ヲ示シ其ノ單位ハメートルトス

第六條　本令ニ於テ船ノ深サトハLノ中央ニ於テ鋼船ニ在リテハ龍骨ノ上面ヨリ、木船ニ在リテハ龍骨ノ溝ノ下緣ヨリ乾舷甲板梁ノ船側ニ於ケル上面迄測リタル垂直距離ヲ謂フ但シ船體中央橫截面ノ下部ガ凹形ヲ成ス船舶又ハ厚キ龍骨裏板ヲ有スル木船ニ在リテハ船底外板ノ外面ノ扁平部ノ延長ト龍骨ノ側面トノ交點ヨリ乾舷甲板梁ノ船側ニ於ケル上面迄測リタル垂直距離ヲ謂フ

Lノ中央ニ於ケル船底勾配ガ八分ノ一ヨリ大ナル鋼帆船ノ深サハ第百八條ノ規定ニ依ル

船ノ深サハDヲ以テ之ヲ示シ其ノ單位ハメートルトス

第七條　本令ニ於テ乾舷用深サトハDニ乾舷甲板ノ梁上側板ノ厚サト左ノ算式ニ依リ算定シタル厚サトノ中大ナル

モノヲ加ヘタルモノヲ謂フ

$$\frac{T(L-S)}{L}$$

Tハ船樓内及甲板口ノ部分ヲ除キタル乾舷甲板ノ平均ノ厚サ（メートルニテ）

Sハ船樓ノ長サノ和（メートルニテ）

乾舷用深サハD_0ヲ以テ之ヲ示シ其ノ單位ハメートルトス

第八條　本令ニ於テ乾舷トハLノ中央ニ於ケル乾舷甲板ノ上面ノ延長ト外板ノ外面トノ交點ヨリ滿載吃水線迄測リタル垂直距離ヲ謂フ但シ乾舷甲板ニ舷側水道又ハ梁壓材ヲ設ケタル場合ニ於テハ其ノ内側ニ於ケル甲板ノ上面ノ延長ト外板ノ外面トノ交點ヨリ滿載吃水線迄測リタル垂直距離ヲ謂フ

第九條　本令ニ於テ吃水トハLノ中央ニ於テDノ下端ヨリ滿載吃水線迄測リタル垂直距離ヲ謂フ

第十條　本令ニ於テ甲板積木材貨物トハ乾舷甲板又ハ船樓甲板ノ暴露部ニ積載スル木材貨物ヲ謂フ

前項ノ木材貨物ニハ木質「パルプ」及之ニ類似ノ貨物ヲ包含セズ

第十一條　本令ニ於テ槽船トハ包裝セザル液體貨物ノ運送ノ爲特殊ノ構造ヲ爲シタル汽船ヲ謂フ

第十二條　本令ニ於テ北部季節冬期帶トハ左ノ各號ニ掲グル海面ヲ謂フ（別紙附圖參照）

一　北亞米利加ノ東岸ヨリ北緯三十六度ノ線ニ沿ヒ西班牙國「タリフア」迄、朝鮮ノ東岸ヨリ北緯三十五度ノ線ニ沿ヒ本州ノ西岸迄、本州ノ東岸ヨリ北緯三十五度ノ線ニ沿ヒ西經百五十度迄及其ノ地點ヨリ羅盤方位線ニ沿ヒ北緯五十度ニ於ケル「ヴアンクーヴアー」島ノ西岸迄引キタル線ヨリ北方ノ海面

二　地中海及黑海

釜山及横濱ハ本帶域ト夏期帶域トノ限界線上ニ在ルモノト看做ス

第十三條　本令ニ於テ北部季節冬期帶ニ於ケル冬期季節又ハ夏期季節トハ其ノ區域ニ應ジ左表ニ掲グル期間ヲ謂フ（別紙附圖參照）

欄	區域	冬期季節	夏期季節
一	西經五十度ニ於ケル「グリーンランド」ノ海岸ヨリ南ヘ北緯四十五度迄、其ノ地點ヨリ北緯四十五度ノ線ニ沿ヒ西經十五度迄、其ノ地點ヨリ北緯六十度迄及其ノ地點ヨリ北緯六十度ノ線ニ沿ヒ諸威國ノ西迄引キタル線内及其ノ北方ニ於ケル北亞米利加ト歐羅巴トノ間ノ區域	十月十六日ヨリ四月十五日迄	四月十六日ヨリ十月十五日迄
二	前欄ニ掲グル區域ヲ除キタル北緯三十六度以北ノ大西洋及其ノ接續海（「バルテイツク」海ヲ含ム）	十一月一日ヨリ三月三十一日迄	四月一日ヨリ十月三十一日迄
三	地中海及黑海	十二月十六日ヨリ三月十五日迄	三月十六日ヨリ十二月十五日迄
四	北緯三十五度ト北緯五十度トノ間ノ日本海	十二月一日ヨリ二月末日迄	三月一日ヨリ十一月三十日迄
五	前欄ニ掲グル日本海ヲ除キ北緯三十五度以北ニ於ケル亞細亞ト亞米利加トノ間ノ區域	十月十六日ヨリ四月十五日迄	四月十六日ヨリ十月十五日迄

備考

「ベルゲン」ハ第一欄ニ掲グル區域ト第二欄ニ掲グル區域トノ限界線上ニ在ルモノト看做ス

第十四條　本令ニ於テ南部季節冬期帶トハ南亞米利加ノ東岸ヨリ南緯四十度ノ線ニ沿ヒ西經五十六度迄、其ノ地點ヨリ羅盤方位線ニ沿ヒ南緯三十四度西經五十度ノ點迄、其ノ地點ヨリ南緯三十四度ノ線ニ沿ヒ南阿弗利加ノ西岸迄、南緯三十度ニ於ケル南阿弗利加ノ東岸ヨリ羅盤方位線ニ沿ヒ南緯三十五度ニ於ケル「オーストラリア」ノ西岸迄、其ノ地點ヨリ「オーストラリア」ノ南岸ニ沿ヒ「エーリラド」岬迄、其ノ地點ヨリ羅盤方位線ニ沿ヒ「タスマニア」ノ「グリム」岬迄、其ノ地點ヨリ「タスマニア」ノ北岸ニ沿ヒ「エッデイストーン・ポイント」迄、其ノ地點ヨリ羅盤方位線ニ沿ヒ東經百七十度ニ於ケル「ニユージーランド」ノ「サウス」島ノ西岸迄、其ノ地點ヨリ「サウス」島ノ西岸、南岸及東岸ニ沿ヒ「ソーンダス」岬迄、其ノ地點ヨリ羅盤方位線ニ沿ヒ南緯三十三度西經百七十度ノ點迄及其ノ地點ヨリ南緯三十三度ノ線ニ沿ヒ南亞米利加ノ西岸迄引キタル線ヨリ南方ノ海面ヲ謂フ（別紙附圖參照）

「ヴアルパライソ」、「ケープ・タウン」及「ダーバン」ハ本帶域ト夏期帶域トノ限界線上ニ在ルモノト看做ス

第十五條　本令ニ於テ南部季節冬期帶ニ於ケル冬期季節トハ四月十六日ヨリ十月十五日迄ノ期間ヲ謂ヒ、夏期季節トハ十月十六日ヨリ四月十五日迄ノ期間ヲ謂フ

第十六條　本令ニ於テ季節熱帶トハ左表ニ掲グル各區域內ノ海面ヲ謂ヒ、季節熱帶ニ於ケル熱帶季節又ハ夏期季節トハ其ノ區域ニ應ジ左表ニ掲グル期間ヲ謂フ（別紙附圖參照）

欄	區域	熱帶季節	夏期季節
一	北大西洋ニ於テ北ハ「ユカタン」ニ於ケル「カトーシユ」岬ヨリ「キユバ」國ノ「サン・アントニオ」岬迄引キタル線、北緯二十度迄ノ「キユバ」國ノ南岸及北緯二十度西經二十度ノ點迄ノ線ニ依リ、西ハ中央亞米利加ノ東岸及北岸ニ依リ、南ハ南亞米利加ノ北岸及北緯十度ノ線ニ依リ又東ハ西經二十度ノ線ニ依リ限ラレタル區域	十一月一日ヨリ七月十五日迄	七月十六日ヨリ十月三十一日迄
二	北緯二十四度以北東經五十九度以東ノ「アラビア」海	八月一日ヨリ五月二十日迄	五月二十一日ヨリ七月三十一日迄
三	北緯二十四度以南北緯八度以北ノ「アラビア」海ニシテ西北ハ東經五十九度ノ線、西南ハ東經四十五度ノ線ニ依リ限ラレタル區域	十二月一日ヨリ五月二十日迄及九月十六日ヨリ十月十五日迄	五月二十一日ヨリ九月十五日迄及十月十六日ヨリ十一月三十日迄
四	北緯八度以北ノ「ベンガル」灣	十二月十六日ヨリ四月十五日迄	四月十六日ヨリ十二月十五日迄
五	支那海ニ於テ西及北ハ印度支那及香港迄ノ支那ノ海岸ニ依リ、東ハ香港ヨリ「スアル」港（「ルソン」島）迄ノ羅盤方位線並ニ北緯十度迄ノ「ルソン」「サマール」及「レイト」ノ諸島ノ西岸ニ依リ又南ハ北緯十度ノ線ニ依リ限ラレタル區域	一月二十一日ヨリ四月三十日迄	五月一日ヨリ一月二十日迄
六	北大平洋ニ於テ北ハ北緯二十五度ノ線ニ依リ、西ハ東經百六十度ノ線ニ依リ、南ハ北緯十三度ノ線ニ依リ又東ハ西經百三十度ノ線ニ依リ限ラレタル區域	四月一日ヨリ十月三十一日迄	十一月一日ヨリ三月三十一日迄

七	北大平洋ニ於テ北及東ハ「カリフオルニア」、「メキシコ」國及中央亞米利加ノ海岸ニ依リ、西ハ西經百二十度ノ線及北緯三十度西經百二十度ノ點ヨリ北緯十三度西經百五度ノ點迄ノ羅盤方位線ニ依リ又南ハ北緯十三度ノ線ニ依リ限ラレタル區域	三月一日ヨリ六月三十日迄及十月一日ヨリ十一月一日ヨリ同月三十日迄	七月一日ヨリ十月三十一日迄及十二月一日ヨリ二月末日迄
八	南大平洋ニ於テ北ハ南緯十一度ノ線ニ依リ、西ハ「オーストラリア」ノ東岸ニ依リ、南ハ南緯二十度ノ線ニ依リ又東ハ東經百七十五度ノ線ニ依リ限ラレタル區域並ニ南緯十一度以南ノ「カーペンタリア」灣	四月一日ヨリ十一月三十日迄	十二月一日ヨリ三月三十一日迄
九	南大平洋ニ於テ西ハ西經百五十度ノ線ニ依リ、南ハ南緯二十度ノ線ニ依リ又北及東ハ南緯十一度西經百五十度ノ點ヨリ南緯二十六度西經七十五度ノ點ニ至ル羅盤方位線ニ依リ限ラレタル區域	三月一日ヨリ十一月三十日迄	十二月一日ヨリ二月末日迄

備考

一　「カラチ」ハ第二欄ニ掲グル區域ト第三欄ニ掲グル區域トノ限界線上ニ在ルモノト看做ス

二　香港及「スアル」ハ第五欄ニ掲グル區域ト夏期帶域トノ限界線上ニ在ルモノト看做ス

三　西貢ハ第五欄ニ掲グル區域ト熱帶域トノ限界線上ニ又「アデン」及「ペルベラ」ハ第三欄ニ掲グル區域ト熱帶域トノ限界線上ニ在ルモノト看做ス

第十七條　本令ニ於テ熱帶トハ左ノ各號ニ掲グル海面ヲ謂フ（別紙附圖參照）

一　北ハ北緯十度ニ於ケル南亞米利加ノ東岸ヨリ北緯十度ノ線ニ沿ヒ西經二十度迄、其ノ地點ヨリ北ヘ北緯二十度迄及其ノ地點ヨリ北緯二十度ノ線ニ沿ヒ阿弗利加ノ西岸迄引キタル線、阿弗利加ノ東岸ヨリ北緯八度ノ線ニ沿ヒ馬來半島ノ西岸迄、其ノ地點ヨリ馬來及暹羅國ノ海岸ニ沿ヒ北緯十度ニ於ケル交趾支那ノ東岸迄、其ノ地點ヨリ北緯十度ノ線ニ沿ヒ東經百四十五度迄、其ノ地點ヨリ北ヘ北緯十三度迄及其ノ地點ヨリ北緯十三度ノ線ニ沿ヒ中央亞米利加ノ西岸迄引キタル線ニ依リ限ラレ南ハ南亞米利加ノ東岸ヨリ南回歸線ニ沿ヒ阿弗利加ノ西岸迄、阿弗利加ノ東岸ヨリ南緯二十度ノ線ニ沿ヒ「マダガスカル」ノ西岸迄、其ノ地點ヨリ「マダガスカル」ノ西岸及北岸ニ沿ヒ東經五十度迄、其ノ地點ヨリ北ヘ南緯十度迄、其ノ地點ヨリ南緯十度ノ線

ニ沿ヒ東經百十度迄、其ノ地點ヨリ羅盤方位線ニ沿ヒ「オーストラリア」ノ「ポートダーウイン」迄、其ノ地點ヨリ東ヘ「オーストラリア」ノ海岸及「ウエッセル」島ニ沿ヒ「ウエッセル」岬迄、其ノ地點ヨリ南緯十一度ノ線ニ沿ヒ「ヨーク」岬ノ西側迄、南緯十一度ニ於ケル「ヨーク」岬ノ東側ヨリ南緯十一度ノ線ニ沿ヒ西經百五十度迄、其ノ地點ヨリ羅盤方位線ニ沿ヒ南緯二十六度西經七十五度ノ點迄及其ノ地點ヨリ羅盤方位線ニ沿ヒ南緯三十度ニ於ケル南亞米利加ノ西岸迄引キタル線ニ依リ限ラレタル海面

二 「ポートセイド」ヨリ東經四十五度ノ線迄ノ「スエズ」運河、紅海及「アデン」灣

三 東經五十九度ノ線迄ノ「ペルシア」灣「コクインボ」、

滿載吃水線　乾舷

夏期滿載吃水線　夏期乾舷
冬期滿載吃水線　冬期乾舷
冬期北大西洋滿載吃水線　冬期北大西洋乾舷
熱帶滿載吃水線　熱帶乾舷
夏期淡水滿載吃水線　夏期淡水乾舷
熱帶淡水滿載吃水線　熱帶淡水乾舷

帆船ニ標示スベキ滿載吃水線及之ニ對スル乾舷ハ左表ニ掲グル三種トス

摘要

冬期北大西洋滿載吃水線ハ槽船ニ非ザルL一〇〇・五八メートルヲ超ユル汽船、近海ノ航行區域ヲ有スル汽船及北緯三十六度以北ノ北大西洋ヲ航行セザル漁船ニハ之ヲ標示スルコトヲ要セズ

「リオ・デ・ジアネイロ」及「ポート・ダーウイン」ハ前項第一號ノ區域ト夏期帶域トノ限界線上ニ在ルモノト看做ス

第十八條　本令ニ於テ夏期帶トハ第十二條、第十四條、第十六條及第十七條ニ掲グル帶域又ハ區域ニ屬セザル總テノ海面ヲ謂フ

第十九條　前七條ニ掲グル帶域又ハ區域ノ限界線上ニ在ル港ハ各場合ニ應ジ船舶ガ該港ニ到著スル迄ニ航行シタル帶域若ハ區域又ハ該港ヲ發航シタル後航行スベキ帶域若ハ區域ノ内ニ在ルモノト看做ス

第二章　乾舷ノ種類

第二十條　汽船ニ標示スベキ滿載吃水線及之ニ對スル乾舷ハ左表ニ掲グル六種トス

滿載吃水線　乾舷

海水滿載吃水線　海水乾舷
冬期北大西洋滿載吃水線　冬期北大西洋乾舷
淡水滿載吃水線　淡水乾舷

冬期北大西洋滿載吃水線及北緯三十六度以北ノ北大西洋ヲ航行セザル漁船ニハ之ヲ標示スルコトヲ要セズ

第二十一條　夏期乾舷ハ夏期帶ニ於テハ一年ヲ通ジ、季節熱帶及季節冬期帶ニ於テハ各其ノ夏期季節間海水ニ於テ保持スベキ最小乾舷トス

第二十二條　冬期乾舷ハ季節冬期帶ニ於テ其ノ冬期季節間海水ニ於テ保持スベキ最小乾舷トス

第二十三條　冬期北大西洋乾舷ハ北緯三十六度以北ノ北大西洋ヲ其ノ冬期季節間ニ於テ横斷スル航海ノ場合ニ海水ニ於テ保持スベキ最小乾舷トス

第二十四條　熱帶乾舷ハ熱帶ニ於テハ一年ヲ通ジ、季節熱帶ニ於テハ其ノ熱帶季節間海水ニ於テ保持スベキ最小乾舷トス

第二十五條　海水乾舷ハ第二十三條ニ掲グル場合ヲ除クノ外海水ニ於テ保持スベキ最小乾舷トス

第二十六條　夏期淡水乾舷ハ第二十一條ニ掲グル區域及季節ニ、熱帶淡水乾舷ハ第二十四條ニ掲グル區域及季節ニ淡水ニ於テ保持スベキ最小乾舷トス

淡水乾舷ハ第二十三條ニ掲グル場合ヲ除クノ外淡水ニ於テ保持スベキ最小乾舷トス

第三章　滿載吃水線ノ標示

第二十七條　滿載吃水線ハ兩舷側ニ幅二五ミリメートルノ線ヲ以テ之ヲ標示スベシ

第二十八條　乾舷甲板ノ位置ハLノ中央ニ於テ長サ三〇〇ミリメートルノ水平線ヲ以テ之ヲ標示シ其ノ上緣ノ中央點ヲ第八條ノ交點ニ一致セシムベシ

第二十九條　前條ノ水平線ノ下方ニ於テLノ中央ニ外徑三〇〇ミリメートルノ圓標ヲ畫キ其ノ中心ヨリ該水平線ノ上緣迄ノ垂直距離ヲ夏期乾舷又ハ海水乾舷ニ等シクスベシ

圓標ヲ貫通シ長サ四六〇ミリメートルノ水平線ヲ畫キ其ノ上緣ノ中央點ヲ圓標ノ中心ニ一致セシメ夏朗滿載吃水線又ハ海水滿載吃水線ノ標示ト爲スベシ

前項ノ水平線ノ上方ニ於テ圓標ノ外側ニ高サ一一五ミリメートル幅七五ミリメートルノ記號Jノ及Gヲ標示スベシ

第七十一條但書ニ依リ舷弧ノ高サヲ測リタル船舶ニ在リ

テハLノ中央ヨリ前方Lノ四分一ノ箇所ニモ前三項ノ標示ヲ爲スベシ

第三十條　前條第一項ノ圓標ノ中心ヨリ前方五四〇ミリメートルノ箇所ニ後緣ヲ有スル垂直線ヲ畫キ其ノ前緣ヨリ前方ニ向フ長サ二五〇ミリメートルノ水平線ノ上緣ヲ以テ第二十條第一項又ハ第二項ニ掲グル海水ニ於ケル各滿載吃水線（海水滿載吃水線ヲ除ク）ヲ標示シ又其ノ後緣ヨリ後方ニ向フ長サ二五〇ミリメートルノ水平線ノ上緣ヲ以テ淡水ニ於ケル各滿載吃水線ヲ標示スベシ

前項ノ滿載吃水線ノ標示ニハ左表ニ掲グル記號ヲ附スベシ

滿載吃水線ノ種類	記號
夏期滿載吃水線	S
冬期滿載吃水線	W
冬期北大西洋滿載吃水線	WNA
熱帶滿載吃水線	T
夏期淡水滿載吃水線及淡水滿載吃水線	F
熱帶淡水滿載吃水線	TF

木材滿載吃水線ノ標示ニ付テハ第九十六條ノ規定ニ依ル

第三十一條　滿載吃水線ノ標示ハ鋼船ニ在リテハ外板ニ切込ムカ又ハ之ニ點刻シ木船ニ在リテハ外板ニ三ミリメートル以上ノ深サニ切込ミ且暗色ノ船側ニ於テハ白色又ハ黃色ニ塗リ白色ノ船側ニ於テハ黑色ニ塗リ之ヲ見易キモノト爲スベシ

第三十二條　滿載吃水線ノ標示ヲ見易キモノト爲ス爲必要ナル場合ニ於テハ其ノ位置ヲ第二十八條及第二十九條ニ規定シタル位置ヨリ後方ニ變更スル等適當ノ手段ヲ執ルベシ

第四章　乾舷ノ決定

第三十三條　本章ノ規定ハ貨物及脚荷ノ性質及積附ガ船舶ノ復原性ヲ保持スルニ適當ナル場合ニ付之ヲ定メタルモノトス

第三十四條　第三十五條乃至第四十二條ノ規定ハ船舶ノ構造及設備ガ第六編ノ規定ニ適合スル場合ニ付之ヲ定メタルモノトス

第三十五條　鋼汽船ノ夏期乾舷ハ第二編第一章ノ規定ニ依ル表定乾舷ヲ必要ニ應ジ第二編第二章乃至第四章ノ規定ニ依リ修正シタルモノトス

强力ガ第三編ニ掲グル標準强力ニ達セザル鋼汽船ノ夏期乾舷ハ前項ノ規定ニ拘ラズ第三編第三章ノ規定ニ依リ算定シタル各吃水ノ中最小ナルモノニ相當スルモノトス

前項ノ規定ハ鋼船ノ構造ニ關スル規程又ハ船級協會ノ鋼

船ノ構造ニ關スル規則ノ最高標準ニ適合シタル船舶ニハ之ヲ適用セズ

第三十六條　槽船又ハ木汽船ノ夏期乾舷ハ夫々第四編第二章又ハ第四編第三章ノ規定ニ依リ之ヲ定ム

第三十七條　帆船ノ海水乾舷ハ第五編ノ規定ニ依リ之ヲ定ム

第三十八條　冬期乾舷ハ夏期乾舷ニ之ニ相當スル吃水ノ四十八分ノ一ヲ加ヘタルモノトス

第三十九條　冬期北大西洋乾舷ハL一〇〇・五八メートル以下ノ汽船ニ在リテハ冬期乾舷ニ五一ミリメートルヲ加ヘタルモノ、L一〇〇・五八メートルヲ超ユル汽船ニ在リテハ冬期乾舷ニ等シキモノ、帆船ニ在リテハ海水乾舷ニ七六ミリメートルヲ加ヘタルモノトス但シ槽船ニ在リテハ第百五條ノ規定ニ依ル

第四十條　熱帶乾舷ハ夏期乾舷ヨリ之ニ相當スル吃水ノ四十八分ノ一ヲ減ジタルモノトス

第四十一條　甲板積木材貨物ヲ運送スル汽船ノ海水ニ於ケル各種木材乾舷ハ第四編第一章ノ規定ニ依リ之ヲ定ム

第四十二條　船舶所有者ニ於テ吃水ノ限度ヲ豫定シタル場合ニ於テハ前七條ノ規定ニ依ル各種乾舷ニシテ該限度ニ對スル乾舷ヨリ小ナルモノハ之ヲ該限度ニ對スル乾舷ニ等シカラシムルコトヲ得

第四十三條　海水ニ於ケル滿載吃水線ハ本章前各條ノ規定ニ拘ラズ乾舷甲板ノ上面ノ延長ト外板ノ外面トノ交線ノ最低點ノ下方五一ミリメートルヨリ小ナル距離ニ在ルコトヲ得ズ

第四十四條　夏期淡水乾舷、熱帶淡水乾舷又ハ淡水乾舷ハ夫々本章前各條ノ規定ニ依リ定メタル夏期乾舷、熱帶乾舷又ハ海水乾舷ヨリ左ノ算式ニ依リ算定シタル修正高ヲ減ジタルモノトス

$$\frac{\triangle}{4T}\ \text{ミリメートル}$$

△ハ夏期乾舷又ハ海水乾舷ニ相當スル吃水ニ於テ鋼船ニ在リテハ肋骨ノ外面、木船ニ在リテハ外板ノ外面ニ對スル海水排水量

Tハ夏期乾舷又ハ海水乾舷ニ相當スル吃水ニ於テ鋼船ニ在リテハ肋骨ノ外面、木船ニ在リテハ外板ノ外面ニ對スル吃水毎一センチメートル海水排水量

前項ノ△及Tヲ確認シ得ザル場合ニ於テハ前項ノ修正高ハ夏期乾舷又ハ海水乾舷ニ相當スル吃水ノ四十八分ノ一ト爲スベシ

甲板積木材貨物ヲ運送スル汽船ノ夏期淡水木材乾舷及熱

帶淡水木材乾舷ノ算定ニ付テハ第九十九條第一項ノ規定ニ依ル

前三項ノ規定ハ海水ノ一立方メートルノ重量ガ一・〇二五トン、淡水ノ一立方メートルノ重量ガ一トンナル場合ニ相當スルモノトス

第四十五條　汽船ニ在リテハ第二十二條又ハ第二十三條ニ掲グル區域及季節又帆船ニ在リテハ第二十三條ニ掲グル區域及季節ニ於テハ當該乾舷ヨリ前條ノ規定ニ依ル修正高ヲ減ジタルモノヲ淡水ニ於テ保持スベキ最小乾舷トス

第四十六條　L九一・四四メートルヲ超ユル汽船ニシテ構造上槽船ト類似ノ特徴ヲ有スルモノニ付テハ管海官廳ハ當該船舶ガ第六編ニ規定スル槽船ニ對スル條件ニ適合スル程度及當該船舶ニ於ケル區畫ノ程度ヲ考慮シ槽船ニ對スル乾舷ノ振合ニ依リ其ノ乾舷ヲ定ムルコトヲ得但シ該乾舷ハ該船舶ヲ槽船ト看做シ指定スベキモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

第四十七條　管海官廳必要アリト認ムルトキハ船體ノ現狀、局部ノ構造、工事ノ良否又ハ船舶若ハ船員ノ安全ニ關ズル設備ヲ考慮シ本令ニ定ムル乾舷ヲ增加スルコトヲ得

遞信大臣ハ船舶ノ構造、用途又ハ航路ノ難易ニ應ジ本令ニ該當セザル乾舷ヲ指定セシムルコトアルベシ

第四十八條　特殊ノ船形ヲ有スル船舶ノ乾舷ノ算定ニ付テハ管海官廳ノ適當ト認ムル所ニ依ル

第二編　汽船ノ形狀ニ依ル夏期乾舷

第一章　表定乾舷

第四十九條　肥瘠係數ハ左ノ算式ニ依リ算定ス

$$V \over L \times B \times b_1$$

b_1ハDノ百分ノ八十五

VハDノ下端ヨリb_1ノ距離ニ於ケル龍骨ニ平行ナル吃水線迄測リ鋼船ニ在リテハ肋骨ノ外面、木船ニ在リテハ外板ノ外面ニ對スル排水量（船尾管膨出部ノ排水量ヲ含マズ）（立方メートルニテ）

前項ノVヲ確認シ難キ場合ニ於テハ管海官廳ノ適當ト認ムル方法ニ依リ肥瘠係數ヲ算定ス

第五十條　汽船ノ表定乾舷ハ肥瘠係數ガ〇・六八以下ナルトキLニ應ジ左表ニ依リ求メタル乾舷トシ肥瘠係數ガ〇・六八ヲ超ユルトキハ該乾舷ニ左ノ算式ニ依リ算定シタル係數ヲ乘ジタルモノトス

$$\frac{C+0.68}{1.36}$$

Cハ肥瘠係數

第二章　船樓ニ關スル修正

第五十一條　船樓ノ高サハ船樓甲板ノ上面ヨリ乾舷甲板梁ノ上面迄ノ最小垂直距離ヨリDoトDトノ差ヲ減ジタルモノトス

第五十二條　船樓ノ標準ノ高サハ船樓ノ種類及Lニ應ジ左表ニ掲グル高サトス

船樓ノ種類	L	船樓ノ標準ノ高サ（米）
前端隔壁ニ開口ヲ有セザル低船尾樓	122.0以上	1.82
	76.2以下	1.22
	30.5以下	0.91

乾舷（粍）	L	乾舷（粍）	L
1870	124.0	200	24.0
1936	126.5	221	26.5
2001	129.0	242	29.0
2066	131.5	262	31.5
2131	134.0	283	34.0
2196	136.5	304	36.5
2260	139.0	325	39.0
2324	141.5	349	41.5
2388	144.0	375	44.0
2451	146.5	403	46.5
2514	149.0	432	49.0
2576	151.5	462	51.5
2637	154.0	493	54.0
2698	156.5	525	56.5
2758	159.0	559	59.0
2816	161.5	594	61.5
2874	164.0	630	64.0
2931	166.5	668	66.5
2988	169.0	716	69.0
3044	171.5	745	71.5
3100	174.0	784	74.0
3154	176.5	825	76.5
3208	179.0	869	79.0
3261	181.5	913	81.5
3313	184.0	958	84,0
3364	186.5	1005	86.5
3415	189.0	1053	89.0
3466	191.5	1103	91.5
3514	194.0	1155	94.0
3562	196.5	1208	96.5
3609	199.0	1261	99.0
3656	201.5	1316	101.5
3702	204.0	1373	104.0
3748	206.5	1432	106.5
3792	209.0	1491	109.0
3836	211.5	1553	111.5
3879	214.0	1615	114.0
3922	216.5	1678	116.5
3965	219.0	1741	119.0
4008	221.5	1805	121.5

備考

一　Lガ表ニ掲グルモノノ中間ニ在ルトキハ挿間法ニ依リ乾舷ヲ算定ス

二　平甲板船ニ在リテハ表ニ依リ求メタル乾舷ニLノ一メートルニ付一・二五ミリメートルノ割合ノ修正高ヲ加ヘタルモノトス

	其ノ他ノ船樓	
	76.2以下	122.0以上
備考	1.83	2.29

Lガ表ニ掲グルモノノ中間ニ在ルトキハ挿間法ニ依リ船樓ノ標準ノ高サヲ算定ス

「トランク」ノ標準ノ高サハ前項ノ表ニ掲グル「其ノ他ノ船樓」ノ標準ノ高サニ等シキモノトス

第五十三條　船樓端ノ隔壁ノ出入口ニ於ケル第一級閉鎖裝置ハ左ノ各號ノ條件ニ適合スル閉鎖裝置トス但シ出入口ノ緣材ノ甲板上ノ高サガ三八〇ミリメートル未滿ナルトキハ該出入口ニ設クル閉鎖裝置ハ左ノ各號ノ條件ニ適合スル場合ト雖モ之ヲ第一級閉鎖裝置ト認メズ

一　鋼製又ハ鑄製ニシテ隔壁ニ常設的ニ且强固ニ取付ケタルモノナルコト

二　構造堅牢ニシテ開口ナキ隔壁ト同等ノ强力ヲ有シ之ヲ閉ヅルトキハ風雨密トナルコト

三　隔壁又ハ閉鎖裝置ニ常設的ニ取附ケタル定著設備ヲ備ヘ隔壁ノ兩側又ハ上方ノ甲板ヨリ閉鎖定著シ得ルコト

第五十四條　船樓端ノ隔壁出入口ニ於ケル第二級閉鎖裝置ハ左ノ各號ニ掲グル閉鎖裝置トス

一　幅七六センチメートル以下厚サ五〇ミリメートル以上ノ堅質木製蝶番戸

二　隔壁ニ鉸釘ヲ以テ固著シタル竪溝形材ヲ出入口ノ兩側ニ設ケ之ニ該口ノ全高ニ亘リ左ノ算式ニ依リ算定シタル厚サヨリ小ナラザル厚サノ挿板ヲ爲シタル裝置

$$50+\frac{25}{38}(L-76)\ \text{ミリメートル}$$

bハ出入口ノ幅(センチメートルニテ)但シ該幅ガ七六センチメートル未滿ナルトキハ七六・〇

三　前二號ニ掲グルモノト同一ノ效力ヲ有スル板戸ニシテ取外シ得ルモノ

第五十五條　分立船樓ハ左ノ各號ノ條件ニ適合スルモノニ限リ之ヲ蔽圍シタルモノトシテ取扱フベシ

一　船樓ヲ蔽圍シタル隔壁ガ有效ナル構造ノモノナルコト

二　前號ノ隔壁ニ出入口ヲ設ケタルトキハ之ニ第一級又ハ第二級ノ閉鎖裝置ヲ備フルコト

三　船樓ノ側外板ニ開口ヲ設ケタルトキ又ハ其ノ端ノ隔壁ニ出入口以外ノ開口ヲ設ケタルトキハ之ニ風雨密ノ閉鎖裝置ヲ備フルコト

四　船橋樓又ハ船尾樓ニ在リテハ其ノ內部ニ船員室、機關室、燃料庫其ノ他ノ作業場所アルトキハ隔壁ニ於ケル出入口トハ別ニ何時ニテモ此等ノ場所ニ出入シ得ル設備ヲ備フルコト

第五十六條　船樓ノ有效ノ長サノ算定ニ付テハ左ノ各號ニ依ル

一　船樓ノ端ニ於ケル暴露シタル隔壁ガ第百四十一條及第百四十二條ノ規定ニ適合セザルトキハ隔壁ハ之ヲ無キモノト看做シ又船樓ノ側外板ニ常設閉鎖裝置ヲ備ヘザル開口アルトキハ開口ノ前端ヨリ後端迄ノ船樓ノ部分ハ之ヲ無キモノト看做ス

二　船樓ノ標準ノ高サヨリ小ナラザル高サノ船樓ニ在リテハ其ノ全部ガ蔽圍シタルモノナルカ又ハ全部ガ蔽圍セザルモノナルトキハ船樓ノ種類及閉鎖狀態等ニ應ジ第五十七條乃至第六十一條ノ規定ニ依ル

三　前號ノ船樓ガ其ノ末端ヨリ內方ニ隔壁ヲ設ケタル爲蔽圍シタル部分ト蔽圍セザル部分トヨリ成ルモノナルトキハ各部分ニ付前號ノ規定ヲ準用シテ求メタル有效ノ長サヲ相加フ

四　船樓ノ高サガ其ノ標準ノ高サヨリ小ナルトキハ前各號ニ依リ算定シタル長サニ船樓ノ高サト其ノ標準ノ高サトノ比ヲ乘ズ

第五十七條　蔽圍シタル船首樓ニ在リテハ其ノ長サヲ有效ノ長サトス

蔽圍セザル船首樓ニ在リテハ其ノ位置及舷弧ノ前半部ノ平均高ト其ノ標準平均高(第七十四條及第七十五條參照)トノ比ニ應ジ左表ニ掲グル係數ヲ船樓ノ長サニ乘ジタルモノヲ有效ノ長サトス

船首樓ノ位置	舷弧ノ前半部ノ平均高ト其ノ標準平均高トノ比(S)			係數
前部垂線ヨリ後方Lノ十分ノ一ニ相當スル箇所迄	0.50以下	0.50ヲ超エ1.00未滿	1.00以上	
前欄ニ掲グル場所ノ後方		S	1.00	0.50

第五十八條　蔽圍シタル船橋樓ニ在リテハ隔壁ニ於ケル閉鎖狀態ニ應ジ左表ニ掲グル係數ヲ船樓ノ長サニ乘ジタルモノヲ有效ノ長サトス

隔壁ニ於ケル閉鎖狀態		係數	摘要
前端隔壁	出入口ナキカ又ハ出入口ニ第一級閉鎖裝置ヲ有ス	1.00	
	出入口ニ第二級閉鎖裝置ヲ有ス	0.90	
後端隔壁	出入口ナキカ又ハ出入口ニ第一級閉鎖裝置ヲ有ス	1.00	
	出入口ニ第二級閉鎖裝置ヲ有ス	※1.00	
	出入口ナキカ又ハ出入口ニ第一級若ハ第二級閉鎖裝置ヲ有ス	0.90	※後端隔壁ニ接續スル「トランク」アリテ第六十四條ノ規定ニ依リ其ノ有效ノ長サヲ船樓ノ有效ノ長サノ和ニ加算シタルトキハ一・〇〇ノ代リニ〇・九〇ヲ用ウ

蔽圍セザル船橋樓ニ在リテハ前端ガ閉鎖セラレザルトキハ其ノ長サノ百分ノ五十、前端ガ閉鎖セラレ後端ガ閉鎖セラレザルトキハ百分ノ七十五ヲ有效ノ長サトス

第五十九條　蔽圍シタル船尾樓ニ在リテハ隔壁ニ於ケル閉鎖狀態及船樓ノ長サトLトノ比ニ應ジ左表ニ掲グル係數ヲ船樓ノ長サニ乘ジタルモノヲ有效ノ長サトス

隔壁ニ於ケル閉鎖狀態		蔽圍シタル船尾樓ノ長サトLトノ比	係數	摘要
出入口ニ第二級閉鎖裝置ヲ有ス		0.50以下	※1.00	※船尾樓ニ接續スル「トランク」ニアリテ第六十四條ノ規定ニ依リ其ノ有效ノ長サヲ船樓ノ有效ノ長サノ和ニ加算シタルトキハ一・〇〇又ハ〇・九五ノ代リニ〇・九〇ヲ用ウ
		0.50以上0.60	※0.95	
		0.60以上0.70	0.90	
		0.70以上	1.00	
出入口ナキカ又ハ出入口ニ第一級閉鎖裝置ヲ有ス				

備考（隔壁ニ於ケル出入口ニ第二級閉鎖裝置ヲ有スル蔽圍シタル船尾樓ニ於テ其ノ長サトLトノ比ガ表ニ掲グルモノノ中間ニ在ルトキハ挿間法ニ依リ係數ヲ算定ス）

蔽圍セザル船尾樓ニ在リテハ其ノ長サノ百分ノ五十ヲ有效ノ長サトス

第六十條　低船尾樓ニ付テハ船樓端ニ開口ヲ有セザル隔壁アルトキハ該隔壁迄ノ船樓ノ長サヲ有效ノ長サトシ船樓端ノ隔壁ニ開口アルトキハ該船樓ヲ船尾樓ト看做シ前條ノ規定ニ依リ有效ノ長サヲ算定ス

第六十一條　常設閉鎖裝置ヲ備ヘザル中心線甲板口ヲ有スル船樓ニ在リテハ左ノ各號ニ依リ有效ノ長サヲ算定ス

一　常設閉鎖裝置ヲ備ヘザル甲板口ニ第六十二條ノ規定ニ適合スル一時的閉鎖裝置ヲ備ヘザルトキ又ハ常設閉鎖裝置ヲ備ヘザル甲板口ノ幅ガ該甲板口ノ長サノ中央ニ於ケル船樓甲板ノ幅ノ百分ノ八以上ナルトキハ甲板口ノ前端ヨリ後端迄ノ間ハ船樓ナキモノト看做シ其ノ他ノ部分ニ付テハ其ノ位置ニ應ジ之ヲ船首樓、船橋樓又ハ船尾樓ト看做シ第五十七條乃至第五十九條ノ規定ニ依リ求メタル有效ノ長サヲ相加フ

二　常設閉鎖裝置ヲ備ヘザル甲板口ニ第六十二條ノ規定ニ適合スル一時的閉鎖裝置ヲ備ヘ且該甲板口ノ幅ガ甲板口ノ長サノ中央ニ於ケル船樓甲板ノ幅ノ百分ノ八十ヨリ小ナルトキハ左ノ算式ニ依リ算定シタル長サヲ有效ノ長サトス

$$l+(1-p)\times(L-l)$$

lハ船樓甲板ト乾舷甲板トノ間ノ隔壁ニ於ケル第二級閉鎖裝置ヲ備フル出入口ハ之ニ第一級閉鎖裝置ヲ備フルモノト看做スノ外前號ノ規定ヲ適用シテ算定シタル船樓ノ有效ノ長サノ和（メートルニテ）

pハ常設閉鎖裝置ヲ備ヘザル甲板口ノ幅ト該甲板口ノ長サノ中央ニ於ケル船樓甲板ノ幅トノ比但シ其ノ比ガ〇・五未滿ナルトキハ〇・五

第六十二條　前條ノ甲板口ノ一時的閉鎖裝置ハ左ノ各號ノ條件ニ適合スルモノ又ハ之ト同一效力ノモノナルコトヲ要ス

一　甲板ニ堅固ニ鋲著シタル高サ二二九ミリメートル以上ノ鋼製緣材ヲ備フルコト

二　第百二十條ニ規定スル艙口蓋板ト同樣ノ蓋板ヲ備ヘ且之ヲ麻索ニ依リ締附クル裝置ヲ備フルコト

三　第六編第二章ノ規定ニ依リ船樓甲板ノ艙口ニ要スル艙口梁、縱材及其ノ承金又ハ壺金ト同樣ノ蓋板支持裝置ヲ備フルコト

第六十三條　「トランク」ハ左ノ各號ノ條件ニ適スル場合ニ於テハ之ヲ有效ナル「トランク」トス船側ヨリ船側迄達セザル類似ノ構造物ニ付亦同ジ

一　「トランク」ハ船樓ト同等以上ノ强力ヲ有スル構造ノモノナルコト

二　「トランク」ノ部分ニ於テハ艙口ハ「トランク」甲板ニ之ヲ設ケ其ノ構造及閉鎖裝置ハ暴露セル船樓甲板ノ艙口ニ對スル第六編第二章ノ規定ニ適合シ又「トランク」甲板ノ梁上側板ハ通路トシテ十分ナル幅ヲ有シ且「トランク」ニ十分ナル横抗撓力ヲ與フルモノナルコト

三　船樓及之ニ接續スル「トランク」ニ依リ又ハ船樓、分立「トランク」及之ヲ連結シタル有效ナル常設通路ニ依リ常設縱通作業臺ヲ形成シ且該作業臺ニハ保護欄干ヲ備フルコト

四　「トランク」ノ箇所ニ於ル乾舷甲板ノ暴露部ニハ少クトモ該部分ノ長サノ二分ノ一間ニ開放欄干ノ設ケアルコト

五　通風筒ハ「トランク」、水密蓋又ハ同一效力ノ裝置ニ依リ之ヲ保護スルコト

六　機關室圍壁ハ「トランク」、標準ノ高サ以上ノ高サヲ有スル船樓又ハ之ト同一ノ高サ及同等ノ强力ヲ有スル甲板室ニ依リ之ヲ保護スルコト

第六十四條　有效ナル「トランク」ヲ有スル船舶ニ於テ船尾樓及船橋樓ノ隔壁ニ出入口ナキカ又ハ該隔壁ニ於ケル出入口ニ第一級閉鎖裝置ヲ備フルトキハ第六十五條ノ規定ニ依リ算定シタル「トランク」ノ有效ノ長サ又該隔壁ニ於ケル出入口ニ第一級閉鎖裝置ヲ備ヘザルトキハ該有效ノ長サノ百分ノ九十ト各船樓ノ有效ノ長サノ和トス

第六十五條　「トランク」ノ有效ノ長サノ算定ニ付テハ左ノ各號ニ依ル

一　「トランク」ノ實際ノ長サニ「トランク」ノ平均ノ幅ト船ノ幅トノ比ヲ乘ズ

二　「トランク」ノ實際ノ高サガ其ノ標準ノ高サヨリ小ナルトキハ前號ニ依リ求メタル長サニ「トランク」ノ實際ノ高サト標準ノ高サトノ比ヲ乘ズ但シ「トランク」甲板上ノ艙口緣材ノ高サガ規定ノ高サヨリ小ナルトキハ「トランク」ノ實際ノ高サヨリ緣材ノ規定ノ高サト其ノ實際ノ高サトノ差ヲ減ジタルモノト「トランク」ノ標準ノ高サトノ比ヲ乘ズ

第六十六條　船樓ヲ有スル船舶ニ在リテハLニ應ジ左ノ各號ニ揭グル高サニ船樓ノ有效ノ長サノ和トLトノ比及船型ニ應ジ左表ニ揭グル船樓係數ヲ乘ジテ得タル修正高ヲ表定乾舷ヨリ減ズベシ

一　Lガ二四・四メートル以上八五・三メートル未滿ナルトキハ左ノ算式ニ依リ算定シタル高サ

$$356+\frac{508}{60.9}(L-24.4)\ \text{ミリメートル}$$

二　Lガ八五・三メートル以上一二二メートル未滿ナルトキハ左ノ算式ニ依リ算定シタル高サ

$$864+\frac{203}{36.7}(L-85.3)\ \text{ミリメートル}$$

三　Lガ一二二メートル以上ナルトキハ一〇六七ミリメートル

船型 ＼ 船樓ノ有效ノ長サノ和トLトノ比	0	0.10	0.20	0.30	0.40	0.50	0.60	0.70	0.80	0.90	1.00
船首樓、船橋樓及船尾樓ヲ有スル汽船	0	0.063	0.127	0.190	0.275	0.360	0.460	0.630	0.753	0.877	1.000
船首樓及船橋樓ノミヲ有スル汽船	0	0.050	0.100	0.150	0.235	0.320	0.460	0.630	0.753	0.877	1.000
船首樓及船尾樓ノミヲ有スル汽船	0	0.013	0.077	0.140	0.225	0.310	0.410	0.580	0.705	0.827	0.950
船首樓ノミヲ有スル汽船	0	0.007	0.077	0.140	0.225	0.310	0.410	0.580	0.705	0.827	0.950
船橋樓及船尾樓ノミヲ有スル汽船	0	0.050	0.100	0.150	0.235	0.320	0.460	0.630	0.753	0.877	1.000
船橋樓ノミヲ有スル汽船	0	0.063	0.127	0.190	0.275	0.360	0.460	0.630	0.753	0.877	1.000
船尾樓ノミヲ有スル汽船	0	0.10	0.20	0.30	0.40	0.50	0.60	0.70	0.80	0.90	1.00

備　考

一　低船首樓及低船尾樓ハ夫々船首樓及船尾樓トシテ取扱フベシ

二　第一條第一項但書ノ船舶ハ常設閉鎖裝置ヲ備ヘザル甲板口ノ前端ヨリ後端迄ノ間ハ船樓ナキモノト看做ス

三　船樓ノ有效ノ長サノ和トLトノ比ガ表ニ掲グルモノノ中間ニ在ルトキハ挿間法ニ依リ船樓係數ヲ算定ス

四　船橋樓ト他ノ船樓トヲ有スル汽船ニ在リテハ船橋樓ノ有效ノ長サガLノ十分ノ二未滿ナルトキハ相當欄ニ掲グル係數ト船橋樓ナキモノト看做シタル場合ノ係數トノ間ニ挿間法ニ依リ船樓係數ヲ算定ス

第三章　深サ及梁矢ニ關スル修正

第六十七條　D_0ガLノ十五分ノ一ヲ超ユル船舶ニ在リテハ左ノ算式ニ依リ算定シタル修正高ヲ表定乾舷ニ加フベシ

一　Lガ一一八・九メートル未滿ナルトキ

$$2.104\left(D_0-\frac{L}{15}\right)L \quad \text{ミリメートル}$$

二　Lガ一一八・九メートル以上ナルトキ

$$249.9\left(D_0-\frac{L}{15}\right) \quad \text{ミリメートル}$$

第六十八條　中央部Lノ十分ノ六ニ亘ル蔽圍シタル船樓ヲ有スル船舶、全通「トランク」ヲ有スル船舶又ハ開口ナキ隔壁ヲ有スル船樓ト「トランク」トガ連續シテ船首尾ニ全通スル船舶ニ於テD_0ガLノ十五分ノ一ヨリ小ナルトキハ前條ノ算式ニ依リ算定シタル修正高ノ絕對値ヲ表定乾舷ヨリ減ズベシ但シ船樓又ハ「トランク」ノ高サガ其ノ標準ノ高サヨリ小ナルトキハ修正高ハ前條ノ算式ニ依リ算定シタルモノニ船樓又ハ「トランク」ノ實際ノ高サト其ノ標準ノ高サトノ比ヲ乘ジタルモノト爲スベシ

第六十九條　Lノ中央ニ於テDノ下端ヨリ乾舷甲板ノ船側ニ於ケル上面迄ノ實際ノ深サガD_0ニ等シカラザル船舶ニ在リテハ左ノ算式ニ依リ算定シタル修正高ヲ正負ノ符

號ヲ附シタル儘表定乾舷ニ加フベシ

$$1000(D_1-D_0) \quad \text{ミリメートル}$$

D_1ハLノ中央ニ於テDノ下端ヨリ乾舷甲板ノ船側ニ於ケル上面迄ノ實際ノ深サ(メートルニテ)

第七十條　Lノ中央ニ於ケル乾舷甲板ノ梁矢ガBノ五十分ノ一ニ等シカラザル船舶ニ在リテハ梁矢ノ高サニ應ジ左ノ各號ノ算式ニ依リ算定シタル修正高ヲ正負ノ符號ヲ附シタル儘表定乾舷ニ加フベシ

一　梁矢ガBノ二十五分ノ一以下ナルトキ

$$\frac{1}{4}(1-r)(20B-R) \quad \text{ミリメートル}$$

二　梁矢ガBノ二十五分ノ一ヲ超ユルトキ

$$-5(1-r)B \quad \text{〃リメートル}$$

rハ蔽圍シタル船樓ノ長サノ和トLトノ比

Rハ L ノ中央ニ於ケル乾舷甲板ノ梁矢(ミリメートルニテ)

第四章　舷弧ニ關スル修正

第七十一條　舷ノ高サハLノ中央ニ於ケル舷弧上ノ點ヲ通過スル龍骨ニ平行ナル直線ヨリ垂直ニ之ヲ測ルモノトス但シ船尾吃水カ船首吃水ヨリ大ナル狀態ヲ以テ航行スル樣計畫セラレタル船舶ニ在リテハ龍骨ニ平行ナル直線ノ代リニ計畫滿載吃水線ニ平行ナル直線ヨリ之ヲ測ルコトヲ得(第二十九條第四項參照)

第七十二條　平甲板船及分立船樓ヲ有スル船舶ニ在リテハ舷弧ノ高サハ乾舷甲板ニ於テ之ヲ測ルベシ

船樓ヲ蔽圍シタル隔壁ニ開口ナキ場合又ハ隔壁ニ於ケル出入口ニ第一級閉鎖裝置ヲ備フル場合ニ於テハ該船樓ノ蔽圍シタル部分ニ於ケル乾舷甲板ノ舷弧ノ高サハ乾舷甲板ノ暴露部ニ於ケル舷弧ノ延長線迄測ルコトヲ得但シ船樓甲板ガ乾舷甲板ノ暴露部ト同等以上ノ舷弧ヲ有セザルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第一條第一項但書ノ船舶ニ在リテハ舷弧ノ高サハ船樓甲板ニ於テ之ヲ測ルベシ此ノ場合船樓ノ高サガ標準ノ高サヲ超ユルトキハLノ中央ニ於テ乾舷甲板ノ上面ヨリ船樓ノ標準ノ高サニ相當スル箇所ヲ通ル直線ヲ基準トシテ舷弧ノ高サヲ測ルコトヲ得

第七十三條　標準舷弧ハLノ兩端點及其ノ六等分點ニ於テ夫々左表ニ掲グル高サヲ有スルモノトス

分長點ノ位置	舷弧ノ高サ(糎)
Lノ後端點	0.833 L + 25.4
Lノ後端ヨリLノ六分ノ一ニ相當スル點	0.37 L + 11.3
Lノ後端ヨリLノ三分ノ一ニ相當スル點	0.0925 L + 2.825

Lノ中央點	0
Lノ前端ヨリ$\frac{1}{3}$Lノ三分ノ一ニ相當スル點	0.185L＋5.65
Lノ前端ヨリLノ六分ノ一ニ相當スル點	0.74L＋22.6
Lノ前端點	1.666L＋50.8

第七十四條　舷弧ノ標準平均高又ハ其ノ前半部若ハ後半部ノ標準平均高ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス

C（0.833L＋25.4）センチメートル

Cハ係數ニシテ左表ニ依ル

算定スベキ事項　C

舷弧ノ標準平均高	1
舷弧ノ前半部ノ標準平均高	$\frac{1}{2}$
舷弧ノ後半部ノ標準平均高	$\frac{2}{3}$

第七十五條　舷弧ノ平均高ハ第七十六條ニ規定スル場合ヲ除クノ外第七十三條ニ掲グル各分長點ニ於テ測リタル舷弧ノ高サニ分長點ノ位置ニ應ジ左表ニ掲グル係數ヲ乘ジタル積ノ和ヲ十八ニテ除シタルモノトシ舷弧ノ前半部又ハ後半部ノ平均高ハLノ前半部又ハ後半部ニ於ケル第七十三條ニ掲グル各分長點ニ於テ測リタル舷弧ノ高サニ分長點ノ位置ニ應ジ左表ニ掲グル係數ヲ乘ジタル積ノ和ヲ三十六ニテ除シタルモノトス

分長點ノ位置

	舷弧ノ平均高ヲ定ムル係數	舷弧ノ前半部ノ平均高ヲ定ムル係數	舷弧ノ後半部ノ平均高ヲ定ムル係數
Lノ後端點	1	1	4
Lノ後端ヨリLノ六分ノ一ニ相當スル點	4	1	15
Lノ後端ヨリLノ三分ノ一ニ相當スル點	2	1	12
Lノ中央點	4	5	5
Lノ前端ヨリLノ三分ノ一ニ相當スル點	2	12	1
Lノ前端ヨリLノ六分ノ一ニ相當スル點	4	15	1
Lノ前端	1	4	1

第七十六條　舷弧ノ後半部ノ平均高ガ其ノ標準平均高ヨリ大ニシテ前半部ノ平均高ガ其ノ標準平均高ヨリ小ナルトキハ後半部ノ舷弧ハ標準舷弧ニ等シキモノト看做シ舷弧ノ平均高ヲ算定ス

舷弧ノ前半部ノ平均高ヨリ大ニシテ後半部ノ平均高ガ其ノ標準平均高ノ百分ノ五十以下ナルトキハ前半部ノ舷弧ハ標準舷弧ニ等シキモノト看做シ又後半部ノ平均高ガ其ノ標準平均高ノ百分ノ五十ヲ超エ百分ノ七十五未滿ナルトキハ前半部ノ舷弧ハ各分長點ニ於テ左ノ算式ニ依リ算定シタル高サヲ有スルモノト看做シ舷弧ノ平均高ヲ算定

ス

$$S_0+\left(\frac{r-50}{25}\right)(S_f-S_0)$$

S_fハ前半部ノ當該分長點ニ於ケル舷弧ノ實際ノ高サ

S_0ハS_fヲ測リタル點ニ於ケル標準舷弧ノ高サ

rハ舷弧ノ後半部ノ平均高ト其ノ標準平均高トノ比（百分率ニテ）

第七十七條　舷弧ノ平均高ガ其ノ標準平均高ヨリ小ナル船舶ニ在リテハ左ノ算式ニ依リ算定シタル修正高ヲ表定乾舷ニ加フベシ

$(S_0-S)(7.5-5r_1)$　ミリメートル

S_0ハ舷弧ノ標準平均高（センチメートルニテ）

Sハ舷弧ノ平均高（センチメートルニテ）

r_1ハ平甲板船ニ在リテハ零、船樓ヲ有スル船舶ニ在リテハ船樓ノ長サノ和トLトノ比

第七十八條　舷弧ノ平均高ガ其ノ標準平均高ヨリ大ナル船舶ニ在リテハ船樓ノ有無ニ應ジ左ノ各號ノ算式ニ依リ算定シタル修正高ヲ表定乾舷ヨリ減ズベシ但シ該修正高ガ左表ニ掲グル限度ヲ超ユルトキハ之ヲ其ノ限度ニ止ム

一　平甲板船ノ場合

$7.5(S-S_0)$　ミリメートル

二　船樓ヲ有スル船舶ノ場合

$(S-S_0)(7.5-5r_1)\times\frac{5E}{L}$　ミリメートル

S_0ハ舷弧ノ標準平均高（センチメートルニテ）

Sハ舷弧ノ平均高（センチメートルニテ）

r_1ハ船樓ノ長サノ和トLトノ比

Eハ蔽圍シタル船樓又ハ其ノ一部ニシテ中央部Lノ十分ノ一ノ間ニ在ルモノノ長サ（メートルニテ）

L	修正高ノ限度（粍）
三〇・五メートル以下ナルトキ	38
三〇・五メートルヲ超ユルトキ	1.25×L

第三編　鋼船ノ强力

第一章　縱抵抗率及肋骨抵抗率

第七十九條　本編ニ於テ强力甲板トハ中央部Lノ二分ノ一間ニ於テ船體ノ主要部ヲ構造スル最上層ノ甲板ヲ謂フ

第八十條　本編ニ於テ縱抵抗率トハ中央部Lノ二分ノ一間ニ於ケル船體ノ各横截面ノ抵抗率中最小ナルモノヲ謂フ

第八十一條　船體横截面ノ抵抗率ノ算定ニ付テハ左ノ各號ニ依ル

一　船體横截面ノ水平中性軸ニ對スル惰率ヲ該軸ヨリ强力甲板ノ甲板梁ノ船側ニ於ケル上面迄ノ垂直距離ニテ

除ス

二　強力甲板以下ニ在リテハ甲板梁ノ支持ヲ目的トスル梁下縦通材ヲ除クノ外中央部Lノ二分ノ一以上ニ達スルカ又ハ同一ノ效力ヲ有スル總テノ縦通鋼材ヲ算入シ強力甲板ノ上方ニ在リテハ梁上側板ニ附スル縦通山形材及舷側厚板ノ延長部ヲ算入ス

三　鋲釘孔及螺釘孔ハ之ヲ無キモノト看做ス

四　面積ノ單位ハ平方ミリメートルトシ距離ノ單位ハメートルトス

第八十二條　本編ニ於テ肋骨抵抗率トハLノ中央部ニ於ケル各種艙内肋骨ノ截面ノ抵抗率ヲ謂フ

第八十三條　艙内肋骨ノ截面ノ抵抗率ノ算定ニ付テハ左ノ各號ニ依ル

一　艙内肋骨ガ正肋材及之ト同一寸法ノ副肋材ヲ以テ構造シタルモノナルトキハ其ノ截面ノ中性軸ニ對スル惰率ヲ該軸ヨリ截面ノ端ニ至ル距離ニテ除ス

二　艙内肋骨ガ前號ニ掲グルモノニ該當セザル場合ニ於テハ艙内肋骨ヲ同一ノ效力ヲ有シ正肋材及之ト同一寸法ノ副肋材ヲ以テ構造シタル肋骨ニ付前號ヲ適用ス

三　鋲釘孔及螺釘孔ハ之ヲ無キモノト看做ス

四　寸法ノ單位ハミリメートルトス

第二章　標準强力

第八十四條　本章ニ於テ强力甲板マデノ深サトハLノ中央ニ於テ龍骨ノ上面ヨリ最下ニ在ル强力甲板ノ甲板梁ノ船側ニ於ケル上面迄ノ垂直距離ヲ謂フ

第八十五條　第八十六條、第八十八條及第八十九條ノ規定ハ平爐ニ依リ製造セラレ毎平方ミリメートルノ抗張力四一キログラム以上五〇キログラム以下ニシテ標點間ノ長サ二〇三ミリメートルニ付伸長ノ割合百分ノ十六以上ナル鋼材ヲ以テ構造シタル鋼船ニ付之ヲ定メタルモノトス

第八十六條　標準縦抵抗率ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス

$$f \times b \times B$$

bハ第二十五條第一項、第九十七條、第百一條又ハ第百九條ノ規定ニ依リ定メタル船體ノ形狀ニ基ク夏期乾舷又ハ海水乾舷ニ相當スル吃水（メートルニテ）

fハLニ應ジ定メタル係數ニシテ左表ニ依ル

f	L
3777	30
4193	36
4892	42
6521	48
6533	54
7470	60
8669	66
9920	72
11253	78
12774	84
14335	90
15897	96
17615	102

f	L
19386	108
21232	114
23106	120
25051	126
27031	132
29146	138
31268	144
33480	150
35770	156
38063	162
40414	168
42868	174
45368	180

備考

Lガ表ニ掲グルモノノ中間ニ在ルトキハ挿間法ニ依リfヲ算定ス

第八十七條　前條ノ標準縦抵抗率ハ左ノ各號ノ範圍内ニ在ル寸法ノ鋼船ヲ標準トシ之ヲ定メタルモノトス

一　Lハ一八二・八八メートル以下

二　BハLノ十分ノ一ニ一・五二メートルヲ加ヘタルモノ以上ニシテLノ十分ノ一ニ六・一〇メートルヲ加ヘタルモノ以下

三　Lト强力甲板迄ノ深サトノ比ハ一〇・〇〇以上ニシテ一三・五〇以下

第八十八條　標準肋骨抵抗率ハ第八十九條ニ規定スル場合ヲ除クノ外左ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス

$$S(b-t)(f_1+f_2)$$

Sハ肋骨ノ心距（メートルニテ）

bハ第三十五條第一項、第九十七條、第百一條又ハ第百九條ノ規定ニ依リ定メタル船體ノ形狀ニ基ク夏期乾舷又ハ海水乾舷ニ相當スル吃水（メートルニテ）

tハ二重底ヲ有スル船舶ニ在リテハ船側ニ於ケル内底板ノ上面ト二重底縁板ノ外側ニ附スル肘板ノ上端トノ中央ヨリ、普通肋板ヲ有スル船舶ニ在リテハ中心線ニ於ケル肋板ノ上面ト船側ニ於ケル肋板ノ上端トノ中央ヨリ龍骨ノ上面迄垂直距離（メートルニテ）

f_1ハHニ依ル係數ニシテ左表ニ依ル但シ船舶ノ當該部分ノ形狀ニ因リ肋骨ガ附加强力ヲ得ル場合ニ於テハ左表ニ依ルモノヨリ適當ニ斟酌シタルモノト爲スコトヲ得

f_1	H
19050	0
23218	2.1
26234	2.7
31290	3.3
39355	3.9
49551	4.5
60877	5.1
74144	5.7
88564	6.3
104892	6.9
121552	7.5

備考

一　Hハ二重底ヲ有スル船舶ニ在リテハ船側ニ於ケル内底板ノ上面ト二重底縁板ノ外側ニ附

スル肘板ノ上端トノ中央ヨリ、普通肋板ヲ有スル船舶ニ在リテハ中心線ニ於ケル肋板ノ上面ト船側ニ於ケル肋板ノ上端トノ中央ヨリ最下層梁ノ梁肘板ノ深サノ中央迄ノ垂直距離（メートルニテ）トス

二　Hガ表ニ掲グルモノノ中間ニ在ルトキハ挿間法ニ依リf_1ヲ算定ス

f^2ハKニ依ル係數ニシテ左表ニ依ル

f^2	K
0	0
1041	1.5
2084	3.0
4133	4.5
6217	6.0
9275	7.5
13358	9.0
18467	10.5
24600	12.0

備考

一　Kハ最下層梁ノ船側ニ於ケル上面ヨリ乾舷甲板梁ノ船側ニ於ケル上面迄ノ垂直距離（メートルニテ）ニ船樓アル部分ニ於テハ三・八一〇ヲ、船樓ナキ部分ニ於テハ二・二八六ヲ加ヘタルモノトス

二　Kガ表ニ掲グルモノノ中間ニ在ルトキハ挿間法ニ依リf^2ヲ算定ス

第八十九條　一層甲板船ニ於テ前條ノ規定ニ依ルHガ五・四九メートル未滿ナルトキハ標準抵抗率ハ前條ニ依リ算定シタル抵抗率ニ左ノ算式ニ依リ算定シタル係數f_3ヲ乘ジタルモノトス

$$f_3=0.50+0.05\left(\frac{H}{0.305}-8\right)$$

第九十條　前二條ノ標準肋骨抵抗率ハ左ノ各號ノ範圍内ニ在ル寸法ノ鋼船ヲ標準トシ之ヲ定メタルモノトス

一　D^0ハ四・五七メートル以上ニシテ一八・二九メートル以下

二　BハLノ十分ノ一ニ一・五二メートルヲ加ヘタルモノ以上ニシテLノ十分ノ一ニ六・一〇メートルヲ加ヘタルモノ以下

三　Lト强力甲板迄ノ深サトノ比ハ一〇・〇以上ニシテ一三・五以下

四　肋骨ノ外面ヨリ之ニ最モ近キ梁柱列ノ中心線迄ノ水平距離ハ六・一〇メートル以下

第三章　强力ニ依ル吃水ノ算定

第九十一條　縱抵抗率ニ依ル吃水ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス

$$\frac{M}{f\times B}\ \text{メートル}$$

Mハ縱抵抗率

fハ第八十六條ノ規定ニ依ル

第九十二條　肋骨抵抗率ニ依ル吃水ハ各種艙内肋骨ニ付各場合ニ應ジ左ノ各號ノ算式ニ依リ算定シタル吃水中最小ナルモノトス

一　一層甲板船ニ於テ第八十八條ノ規定ニ依ルHガ五・四九メートル未滿ナル場合

$$\frac{m}{S(f_1+f_2)\times f_3}+t\ \text{メートル}$$

二　前號ニ該當セザル場合

$$\frac{m}{S(f_1+f_2)}+t\ \text{メートル}$$

mハ肋骨抵抗率

S、t、f_2及f_3ハ第八十八條及第八十九條ノ規定ニ依ル

第九十三條　第八十五條ニ掲グル規格ニ合格セザル材料ヲ以テ船體ノ要部ヲ構造シタル船舶ノ强力ニ依ル吃水ハ管海官廳ノ適當ト認ムル所ニ依ル

第四編　甲板積木材貨物ヲ運送スル汽船、槽船及木汽船ノ乾舷ニ關スル特別規定

第一章　甲板積木材貨物ヲ運送スル汽船

第九十四條　船舶ニ標示スル木材滿載吃水線ノ種類及之ニ對スル乾舷ハ左表ニ掲グル六種トス

滿載吃水線	乾舷	摘要
夏期木材滿載吃水線	夏期木材乾舷	
冬期木材滿載吃水線	冬期木材乾舷	冬期北大西洋木材滿載吃水線ハ近海ノ航行區域ヲ有スル船舶ニハ之ヲ標示セザルモノトス
冬期北大西洋木材滿載吃水線	冬期北大西洋木材乾舷	
熱帶木材滿載吃水線	熱帶木材乾舷	
夏期淡水木材滿載吃水線	夏期淡水木材乾舷	
熱帶淡水木材滿載吃水線	熱帶淡水木材乾舷	

第九十五條　前條ニ掲グル各種木材乾舷ハ船舶ガ第百條ノ規定ニ從ヒ甲板積木材貨物ヲ積附ケ運送スル場合ニ限リ夫々第二十一條乃至第二十四條又ハ第二十六條第一項ノ場合ニ於テ保持スベキ最小乾舷トス

第九十六條　海水ニ於ケル各種木材滿載吃水線ハ第二十九條第一項ニ掲グル圓標ノ中心ヨリ後方五四〇ミリメートルノ箇所ニ前緣ヲ有スル垂直線ノ後緣ヨリ後方ニ向フ長サ二五〇ミリメートルノ水平線ノ上緣ヲ以テ之ヲ標示シ又淡水ニ於ケル各種木材滿載吃水線ハ該垂直線ノ前緣ヨ

リ前方ニ向フ長サ二五〇ミリメートルノ水平線ノ上緣ヲ以テ之ヲ標示スベシ

前項ノ木材滿載吃水線ノ標示ニハ左表ニ掲グル記號ヲ附スベシ

木材滿載吃水線ノ種類	記號
夏期木材滿載吃水線	LS
冬期木材滿載吃水線	LW
冬期北大西洋木材滿載吃水線	LWNA
熱帶木材滿載吃水線	LT
夏期淡水木材滿載吃水線	LF
熱帶淡水木材滿載吃水線	LTF

第九十七條　夏期木材乾舷ハ第三十五條第一項及第二項ノ規定ヲ準用シテ之ヲ定ム此ノ場合ニ於テハ船樓ニ關スル修正高ハ第六十六條ノ表ニ掲グル船樓係數ノ代リニ總テノ船型ニ對シ左表ニ掲グル船樓係數ヲ用ヰテ之ヲ算定ス

船樓ノ有效ノ長サノ和トLトノ比	船樓係數
0	0.2000
0.10	0.3075
0.20	0.4150
0.30	0.5225
0.40	0.6300
0.50	0.6925
0.60	0.7550
0.70	0.8150
0.80	0.8750
0.90	0.9375
1.00	1.0000

備考

船樓ノ有效ノ長サノ和トLトノ比ガ表ニ掲グルモノノ中間ニ在ルトキハ挿間法ニ依リ船樓係數ヲ算定ス

第九十八條　冬期木材乾舷ハ夏期木材乾舷ニ之ニ相當スル吃水ノ三十六分ノ一ヲ加ヘタルモノトス

冬期大西洋木材乾舷ハL一〇〇・五八メートル以下ノ汽船ニ在リテハ第三十九條ノ規定ニ依ル冬期北大西洋乾舷、L一〇〇・五八メートルヲ超ユル汽船ニ在リテハ第三十八條ノ規定ニ依ル冬期乾舷ニ等シキモノトス

熱帶木材乾舷ハ夏期木材乾舷ヨリ之ニ相當スル吃水ノ四十八分ノ一ヲ減ジタルモノトス

第九十九條　夏期淡水木材乾舷又ハ熱帶淡水木材乾舷ハ夫々夏期木材乾舷又ハ熱帶木材乾舷ヨリ第四十四條ノ規定ヲ準用シテ算定シタル修正高ヲ減ジタルモノトス

第四十五條ノ規定ハ冬期淡水木材乾舷及冬期北大西洋淡水木材乾舷ニ之ヲ準用ス

第百條　甲板積木材貨物ノ積附及積附設備ハ左ノ各號ニ適合スルコトヲ要ス

一　乾舷甲板下ノ場所ニ通ズル甲板口ニシテ甲板積木材貨物ハ蔽ハルルモノハ艙口梁、縱材、蓋板等ノ閉鎖裝置ヲ夫々所定ノ位置ニ配置シテ固ク之ヲ閉ヂ且帶金ヲ以テ締附クベシ

二　甲板積木材貨物ヲ積載スル場所ニ在ル通風管ハ十分ニ之ヲ保護スベシ

三　船員室區域、機關室其ノ他船員ノ作業ニ使用スル場所ヘノ通行ニ十分ナル通路ヲ存スベシ該通路ニ當ル開口ノ附近ニ於テハ各開口ヨリ浸水スルコトヲ防グ爲隨時之ヲ閉ヂ且留メ得ル樣木材貨物ヲ積付クベシ又甲板積木材貨物ノ上面ハ歩行ニ適スル樣十分平坦ナラシメ且其ノ各側ニハ貨物ノ上方少クトモ一・二二メートルノ高サ迄竪ニ三〇センチメートル以內ノ間隔ニ配置セラレタル保護欄干又ハ保護索ヲ設クルコトヲ要ス

四　操舵裝置ハ木材貨物ニ依リ損傷セラレザル樣十分ニ之ヲ保護シ且成ルベク之ニ近寄リ易キ樣爲シ置クベシ

五　乾舷甲板上船樓又ハ甲板室ナキ部分ニハ少クトモ船橋樓ノ標準ノ高サニ等シキ高サ迄木材貨物ヲ滿載スベシ但シ船舶ガ冬期ニ於テ季節冬期帶域內ニ在ル場合ニ於テハ木材貨物ノ高サハ乾舷甲板上船舶ノ最大幅ノ三分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ズ

六　甲板積木材貨物ハ之ヲ密ニ積附ケ縛リ且動カザル樣爲スベシ又其ノ積附方ハ船舶ノ航行及必要ナル操作ニ支障ナク且水分ノ吸收ニ依ル木材ノ重量ノ增加並ニ燃料及倉庫品ノ消費ニ依ル其ノ重量ノ減少其ノ他船內ニ於ケル重量ノ變更ヲ考慮ノ上航海ノ全道程ヲ通ジ復原性ノ十分ナル餘裕ヲ保持シ得ルモノナルコトヲ要ス

七　甲板積木材貨物ノ性質ニ依リ支杆ヲ要スル場合ニ於テハ適當ナル强力ヲ有スル木製又ハ金屬製ノ支杆ヲ以テ甲板積木材貨物ヲ支持スベシ支杆ノ間隔ハ三・〇五メートル以內トシ木材ノ長サ及性質ニ應ジ之ヲ適當ニ配置スベシ

支杆ハ梁上側板ニ固著シタル堅牢ナル山形材若ハ金屬製壺金又ハ同一效力ノ裝置ニ依リ之ヲ留ムルコトヲ要ス

八　甲板積木材貨物ハ三・〇五メートルヲ超エザル間隔毎ニ貨物ノ兩側ニ跨ル各別ノ縛索ニテ縛リ其ノ全長ニ亘リ十分ニ締附クベシ木材ノ長サ三・六六メートル未滿ナルトキハ其ノ長サニ適應シテ縛索ノ間隔ヲ減ズルカ又ハ他ノ適當ナル方法ヲ講ズベシ

縛索ニハ徑一九ミリメートル以上ノ短環鎖又ハ之ト同等ノ强力ノ柔軟鋼索ヲ使用シ何時ニテモ近寄リ得ル箇所ニ於テ之ニ滑鈎及緊螺ヲ取附クベシ尙縛索トシテ鋼索ヲ用ウルトキハ其ノ長サヲ調節スル爲短キ長環鎖ヲ取附ケ置クベシ

縛索ヲ一・五二メートル以內ノ間隔ニ配置スルトキハ

其ノ寸法ヲ前項ニ掲グルモノヨリ適當ニ減ズルコトヲ得但シ鎖ヲ用ウルトキハ徑一二・七ミリメートル以上、索ヲ用ウルトキハ之ト同等以上ノ强力ヲ有スル寸法ノモノナルコトヲ要ス

九　縛索ヲ留ムルニ必要ナル裝置ハ縛索ノ强力ニ相當スル强力ヲ有スルモノナルコトヲ要ス

十　船樓甲板ニ設クル支杆ハ其ノ間隔ヲ約三・〇五メートルトシ十分ナル强力ノ横縛索ヲ以テ之ヲ動カザル樣爲スベシ

第二章　槽　船

第百一條　槽船ノ夏期乾舷ハ第百二條乃至第百四條ニ規定スル事項ヲ除クノ外第三十五條第一項及第二項ノ規定ニ依リ之ヲ定ム

第百二條　槽船ノ表定乾舷ヲ求ムルニハ第五十條ニ掲グル表ノ代リニ左表ヲ用ウルモノトス

舷乾（粍）	L	舷乾（粍）	L
1680	126.5	527	56.5
1732	129.0	560	59.0
1785	131.5	593	61.5
1839	134.0	626	64.0
1894	136.5	660	66.5
1948	139.0	695	69.0
2001	141.5	731	71.5
2053	144.0	767	74.0
2105	146.5	804	76.5
2155	149.0	842	79.0
2204	151.5	881	81.5
2253	154.0	921	84.0
2301	156.5	961	86.5
2348	159.0	1003	89.0
2394	161.5	1045	91.5
2440	164.0	1087	94.0
2484	166.5	1127	96.5
2528	169.0	1171	99.0
2572	171.5	1213	101.5
2613	174.0	1256	104.0
2653	176.5	1301	106.5
2693	179.0	1346	109.0
2732	181.5	1391	111.5
2771	184.0	1437	114.0
		1484	116.5
		1531	119.0
		1579	121.5
		1627	124.0

備考

Lガ表ニ掲グルモノノ中間ニ在ルトキハ挿間法ニ依リ乾舷ヲ算定ス

第百三條　槽船ニ在リテハ船樓ニ關スル修正高ノ算定ニ付テハ第六十六條ノ表ニ掲グル船樓係數ノ代リニ總テノ船型ニ對シ左表ニ掲グル船樓係數ヲ用ウルモノトス

備考

船樓ノ有效ノ長サノ和トLトノ比ガ表ニ掲グルモノノ中間ニ在ルトキハ挿間法ニ依リ船樓係數ヲ算定ス

船樓ノ有效ノ長サノ和トLトノ比	船樓係數
0	0
0.070	0.10
0.140	0.20
0.210	0.30
0.310	0.40
0.410	0.50
0.520	0.60
0.630	0.70
0.753	0.80
0.877	0.90
1.000	1.00

第百四條　舷弧ノ平均高ガ其ノ標準平均高ヨリ大ナル槽船ノ舷弧ニ關スル修正高ノ算定ニ付テハ第七十八條ニ掲グル算式ノ代リニ總テノ船型ニ對シ左ノ算式ヲ用ウルモノトス

$$(S-S_0)(7.5-r_1)$$

S ハ舷弧ノ平均高（センチメートルニテ）　ミリメートル

S_0 ハ舷弧ノ標準平均高（センチメートルニテ）

r_1 ハ船樓ノ長サノ和トLトノ比

第百五條　槽船ノ冬期北大西洋乾舷ハ冬期乾舷ニ船ノ長サ一〇メートルニ付八・三三ミリメートルノ割合ノ修正高ヲ加ヘタルモノトス

第三章　木汽船

第百六條　木汽船ノ夏期乾舷ハ第二編第一章ノ規定ニ依ル平甲板船ニ對スル表定乾舷ヲ必要ニ應ジ第六十七條ノ規定ニ依リ修正シタルモノニ船舶ノ構造ノ種類ニ應ジ左表ニ掲グル係數ヲ乘ジタルモノトス

構造ノ種類	係數
重甲板船	1.40
輕甲板船	2.00

管海官廳ハ船體ノ材料、構造、固著方、工事若ハ現狀ノ良否又ハ船齡ニ應ジ前項ノ係數ヲ適當ニ增減スルコトヲ得

第百七條　木汽船ノ夏期乾舷ハ前條ノ規定ニ拘ラズ第二編ノ規定ヲ適用シテ算定シタル夏期乾舷ヨリ小ナルコトヲ得ズ但シ第二編ノ規定ヲ適用スルニ當リテハ船樓ニ關スル修正ハ管海官廳ニ於テ船樓ノ構造及其ノ閉鎖裝置ヲ適當ト認メタル場合ニ限リ之ヲ爲スモノトス

第五編　帆船ノ乾舷ニ關スル特別規定

第一章　鋼帆船

第百八條　Lノ中央ニ於ケル船底勾配ガ八分ノ一ヨリ大ナル鋼帆船ニ在リテハDハ其ノ下端ガ第六條第一項ニ規定スル點ヨリ上方左ノ算式ニ依リ算定シタル高サニ相當スル箇所ニ在ルモノト看做シ之ヲ測ルコトヲ得

$\frac{1}{2}\left(R-\frac{1}{8}\right)\times\frac{B}{2}$

Rハ L ノ中央ニ於ケル船底勾配但シ其ノ勾配ガ二十四分ノ五ヲ超ユルトキハ二十四分ノ五

第百九條　鋼帆船ノ海水乾舷ハ第三十五條ノ規定ヲ準用シテ之ヲ定ム此ノ場合ニ於テハ表定乾舷ノ決定竝ニ船樓及 D_0 ト L トノ比ニ關スル修正ニ付テハ第百十條乃至第百十二條ノ規定ニ依ル

乾舷(粍)	L
228	24.0
265	26.5
304	29.0
345	31.5
387	34.0
431	36.5
475	39.0
520	41.5
565	44.0
612	46.5
660	49.0
710	51.5
760	54.0
810	56.5
860	59.0
910	61.5
962	64.0
1014	66.5
1067	69.0
1120	71.5
1174	74.0
1229	76.5
1284	79.0
1341	81.5
1399	84.0
1457	86.5
1515	89.0
1573	91.5
1632	94.0
1692	96.5
1752	99.0
1813	101.5

備考

L ガ表ニ掲グルモノノ中間ニ在ルトキハ挿間法ニ依リ乾舷ヲ算定ス

第百十一條　鋼帆船ニ在リテハ船樓ニ關スル修正高ハ左ノ算式ニ依リ之ヲ算定ス

$e\left\{76+8.336(L-24.4)\right\}$ ミリメートル

L ハ L 二四・四メートル未滿ノ船舶ニ在リテハ二四・四、L 一〇〇・五八メートルヲ超ユル船舶ニ在リテハ一〇〇・五八

e ハ船樓係數ニシテ左表ニ依ル

第百十條　鋼帆船ノ表定乾舷ハ肥瘠係數ガ〇・六二以下ナルトキハ L ニ應ジ左表ニ依リ求メタル乾舷トシ肥瘠係數ガ〇・六二ヲ超ユルトキハ該乾舷ニ左ノ算式ニ依リ算定シタル係數ヲ乘ジタルモノトス

$\frac{C+0.62}{1.24}$

C ハ肥瘠係數但シ肥瘠係數ガ〇・七二ヲ超ユルトキハ〇・七二

船型 ＼ 船樓ノ有效ノ長サノ和トLトノ比	甲 船橋樓ヲ有セザル鋼帆船	乙 有效ノ長サガLノ十分ノ二以上ナル船橋樓ヲ有スル鋼帆船
	船樓係數(e)	
0	0	0
0.10	0.070	0.070
0.20	0.130	0.147
0.30	0.170	0.220
0.40	0.235	0.320
0.50	0.300	0.420
0.60	0.475	0.560
0.70	0.700	0.700
0.80	0.800	0.800
0.90	0.900	0.900
1.00	1.000	1.000

備考

一　船樓ノ有效ノ長サノ和トLトノ比ガ表ニ掲グルモノノ中間ニ在ルトキハ挿間法ニ依リ船樓係數ヲ算定ス

二　有效ノ長サガLノ十分ノ二未滿ナル船橋樓ヲ有スル鋼帆船ニ在リテハ甲欄及乙欄ニ掲グル係數ノ間ニ挿間法ニ依リ船樓係數ヲ算定ス

第百十二條　D_0 ガ L ノ十二分ノ一ヲ超ユル鋼帆船ニ在リテハ左ノ算式ニ依リ算定シタル修正高ヲ表定乾舷ニ加フベシ

$1.093\times\left(D_0-\frac{L}{12}\right)(76.20+L)$ ミリメートル

第二章　木帆船

第百十三條　木帆船ノ海水乾舷ハ第百六條ノ規定ニ依リ算定シタル夏期乾舷ニ等シキモノトス

第百十四條　木帆船ノ海水乾舷ハ前條ノ規定ニ拘ラズ當該船舶ヲ鋼帆船ト看做シ本編第一章ノ規定ヲ適用シテ算定シタル海水乾舷ヨリ小ナルコトヲ得ズ但シ本編第一章ノ規定ヲ適用スルニ當リテハ船樓ニ關スル修正ハ管海官廳ニ於テ船樓ノ構造及其ノ閉鎖裝置ヲ適當ト認メタル場合ニ限リ之ヲ爲スモノトス

第六編　船舶ノ構造及設備

第一章　通　則

第百十五條　第三十五條第一項又ハ第百九條ノ規定ニ依リ乾舷ノ指定ヲ受クル鋼船、木材滿載吃水線ノ指定ヲ受クル汽船及槽船ノ構造及設備ニ付テハ本編ノ規定ニ依ル

强力ニ依ル吃水、船舶所有者ノ豫定シタル吃水ノ限度等ニ依リ第三十五條第一項又ハ第百九條ノ規定ニ依ル乾舷ヨリ大ナル乾舷ノ指定ヲ受クル鋼船ニ付テハ管海官廳ハ乾舷ノ增加ノ程度ニ應ジ本編第二章乃至第五章ノ規定ヲ適當ニ斟酌スルコトヲ得

第百十六條　木船ニ付テハ其ノ性質上適當ニシテ且實際上可能ナル範圍內ニ於テ前條ノ規定ヲ準用ス

第百十七條　本編ノ規定ニ該當セザル構造又ハ設備ハ管海官廳ニ於テ本編ニ規定セルモノト同一ノ效力ヲ有スト認ムルモノニ限リ之ヲ本編ノ規定ニ適合スルモノト看做ス

第二章　乾舷甲板又ハ船樓甲板ニ於ケル艙口

其ノ他ノ甲板口

第百十八條　乾舷甲板又ハ船樓甲板ニ於ケル艙口ノ緣材ノ高サハ艙口ノ種類ニ應ジ左表ニ掲グルモノ以上ト爲スベシ

艙口ノ種類		緣材ノ甲板上ノ高サ（粍）
第一種	暴露セル乾舷甲板ニ艙口ヲ設ケタル甲板ノ種類及位置	
	暴露セル船樓甲板	
	船首ヨリL／四分ノ一ニ相當スル箇所迄ノ場所	610
第二種	船首ヨリL／四分ノ一ニ相當スル箇所ヨリ後方ノ場所	
	閉鎖裝置ノ效力ガ第一級閉鎖裝置ノ效力ニ及バザル船樓內	457
第三種	閉鎖裝置ノ效力ガ第二級閉鎖裝置ノ效力ニ及バザル船樓內	
	閉鎖裝置ノ効力ガ第二級閉鎖裝置ノ效力以上ナル船樓內	229

第百十九條　艙口ノ緣材ハ鋼材ヲ以テ堅牢ニ構造スルコトヲ要ス

第一種艙口ノ緣材ニ在リテハ其ノ上緣ヨリ下方二五四ミリメートルニ相當スル箇所ヨリ低カラザル橫防撓材ヲ取

附ケ且艙口ノ長サ又ハ幅ガ三〇・五メートルヲ超ユルトキハ該防撓材ヨリ甲板ニ達スル板又ハ支柱ヲ三・〇五メートル以內ノ間隔ニ設ケ緣材ヲ補强スベシ但シ船樓等ニ依リ保護セラルル端緣材ニ付テハ其ノ補强方法ヲ適當ニ斟酌スルコトヲ得

第百二十條　暴露セル艙口ニハ有效ナル蓋板ヲ備ヘ支面ノ幅六三ミリメートル以上ノ支材ヲ以テ之ヲ支フル裝置ト爲スベシ艙口蓋板ヲ木製ト爲ス場合ニ於テハ其ノ仕上ノ厚サハ支點ノ間隔一・五二メートル以內ナルトキハ少ナクトモ六〇ミリメートルト爲スベシ

第百二十一條　木製蓋板ヲ備フル暴露艙口ノ艙口梁及縱材ノ心距及寸法ハ第一種艙口ニ在リテハ左ニ掲グル甲表ニ在リ、第二種艙口ニ在リテハ左ニ掲グル乙表ニ依ルベシ

備　考

一　艙口ノ幅、艙口梁ノ心距又ハ縱材ノ長サ若ハ心距ガ表ニ掲グルモノノ中間ニ在ルトキハ艙口梁又ハ縱材ノ寸法ハ挿間法ニ依リ之ヲ定ム

二　艙口梁ノ深サハ其ノ長サノ中央ニ於テ上部山形材ヨリ梁ノ下緣迄測リタルモノ、縱材ノ深サハ艙口蓋板ノ下面ヨリ縱材ノ下緣迄測リタルモノトス

Lガ三〇・五メートル以下ノ船舶ニ在リテハ平板及山形材ヲ以テ構造シタル艙口梁ノ深サハ艙口ノ種類ニ應ジ前項ノ甲表又ハ乙表ニ掲グルモノノ十分ノ六、球板及山形材ヲ以テ構造シタル艙口梁竝ニ球山形縱材ノ深サハ同表ニ掲グルモノノ十分ノ八ト爲シ平板、球板及山形材ノ厚サハ其ノ深サニ對シ同表ニ掲グル厚サニ等シクシ又木製縱材ノ深サ及幅ハ同表ニ掲グルモノノ十分ノ八ト爲スコトヲ得但シ平板、球板及球山形材ノ厚サハ七・五ミリメートルヨリ又中央木製縱材ノ幅ハ一六五ミリメートルヨリ小ナルコトヲ得ズ

Lガ三〇・五メートルヲ超エ六一メートル未滿ノ船舶ニ在リテハ艙口梁及縱材ノ寸法ハ艙口ノ種類ニ應ジ第一項ニ依ルモノト前項ニ依ルモノトノ間ニ挿間法ニ依リ之ヲ定ムルコトヲ得

第百二十二條　艙口梁ヲ構造スル球板ノ上部又ハ平板ノ上下兩部ニ附スル山形材ノ兩邊ノ幅相等シカラザルトキハ廣邊ヲ水平ニ置クベシ又上部ノ山形材ハ梁ノ全長ニ連續シテ通達セシメ縱材ヲ支フル爲之ヲ屈折セシムルコトヲ得ズ

木製縱材ハ其ノ支面ヲ鋼板ニテ包ムベシ

第百二十三條　艙口梁及縱材ヲ支フル承金又ハ壺金ハ厚サ一二・五ミリメートル以上支面ノ幅七五ミリメートル以

表甲

梁口舷							
ノ舷(米)幅口	キトルザケ設ヲ材縦		キトルタ設ヲ材縦			山形材ノ附上又球 ルスト下ハ板 二雨平ノ 重部板上 ニノ部
	(米)距心ノ梁口舷					
	1.22	1.52	1.83	2.44	3.05	
3.05	球板 (糎)サ深 サ厚 230×11.5	(糎)サ深 サ厚 254×12.5	(糎)サ深 サ厚 280×7.5	(糎)サ深 サ厚 305×8	(糎)サ深 サ厚 356×8.5	(糎)75×75×10
3.66	280×12.5	305×12.5	305×8	356×8.5	432×9	75×75×10
4.27	305×12.5	305×8	356×8.5	432×9	508×9.5	75×75×10.5
4.88	平板 305×8	356×8.5	406×9	483×9.5	559×9.5	90×75×10.5
5.49	356×8.5	406×9	457×9	533×9.5	635×10	100×75×11
6.10	381×8.5	457×9	508×9.5	610×10	711×10.5	100×75×11
6.71	406×9	483×9	559×9.5	660×10.5	762×11	115×75×11.5
7.32	432×9	508×9.5	584×10	711×10.5	813×11	130×90×11.5
7.93	457×9	533×9.5	610×10	736×10.5	864×11.5	140×90×12
8.54	483×9.5	559×9.5	635×10	787×11	915×12	150×90×12.5
9.14	508×9.5	584×10	660×10.5	813×11	965×12	150×90×13

材縦央中						
縦材ノ長サ(米)	材縦板球			形二附上球 材重ス部板 山ルニノ	材縦製木		
	(米)距心ノ材縦				(米)距心ノ材縦		
	0.91	1.22	1.52		0.91	1.22	1.52
1.83	(糎)サ深 サ厚 150×9.0	(糎)サ深 サ厚 165×9.5	(糎)サ深 サ厚 180×9.5	(糎)65×65×9	(糎)サ深 幅 140×180	(糎)サ深 幅 150×180	(糎)サ深 幅 165×180
2.44	180×10.5	200×11	230×11	65×65×9.5	165×180	190×180	200×180
3.05	200×12.5	240×12.5	280×12.5	65×65×10	200×180	215×200	230×230

材縦側兩							
縦材ノ長サ(米)	材縦形山球			山ス部材球 形ルニノ山 材單附上形	材縦製木		
	(米)距心ノ材縦				(米)距心ノ材縦		
	0.91	1.22	1.52		0.91	1.22	1.52
1.83	(糎)150×75×9.5	(糎)165×90×9.5	(糎)180×90×9.5	(糎)65×65×9	(糎)サ深 幅 140×140	(糎)サ深 幅 150×150	(糎)サ深 幅 165×150
2.44	180×90×10.5	200×75×11	230×90×11	65×65×9.5	165×165	190×180	200×180
3.05	200×90×12.5	240×90×12.5	280×90×12.5	65×65×10	200×180	215×200	230×230

表乙

梁口舷							
ノ舷(米)幅口	キトルザケ設ヲ材縦		キトルタ設ヲ材縦			山形材ノ附上又球 ルスト下ハ板 二雨平ノ 重部板上 ニノ部
	(米)距心ノ梁口舷					
	1.22	1.52	1.83	2.44	3.05	
3.05	球板 (糎)サ深 サ厚 203×10	(糎)サ深 サ厚 230×11	(糎)サ深 サ厚 241×11.5	(糎)サ深 サ厚 267×12.5	(糎)サ深 サ厚 292×13	(糎)75×75×10
3.66	230×11	254×12.5	280×12.5	280×7.5	330×8.5	75×75×10
4.27	254×12.5	292×12.5	280×7.5	330×8	381×8.5	75×75×10.5
4.88	平板 280×7.5	280×7.5	305×8	381×8.5	432×9	90×75×10.5
5.49	280×7.5	305×8	386×8.5	432×9	483×9.5	100×75×11
6.10	305×8	330×8.5	406×9	483×9.5	533×9.5	100×75×11
6.71	318×8	356×8.5	432×9	508×9.5	584×10	115×75×11.5
7.32	330×8.5	368×8.5	457×9	533×9.5	635×10	130×90×11.5
7.93	344×8.5	381×8.5	483×9.5	559×9.5	660×10.5	140×90×12
8.54	356×8.5	406×9	508×9.5	584×10	686×10.5	150×90×12.5
9.14	381×8.5	432×9	533×9.5	610×10	711×10.5	150×90×13

材縦央中							
縦材ノ長サ(米)	材縦板球			形二附上球 材重ス部板 山ルニノ	材縦製木		
	(米)距心ノ材縦				(米)距心ノ材縦		
	0.91	1.22	1.52		0.91	1.22	1.52
1.83	(糎)サ深 サ厚 130×8.5	(糎)サ深 サ厚 140×8.5	(糎)サ深 サ厚 150×9	(糎)65×65×9	(糎)サ深 幅 130×180	(糎)サ深 幅 140×180	(糎)サ深 幅 150×180
2.44	150×9.5	180×10	190×10.5	65×65×9.5	150×180	165×180	180×180
3.05	180×11	200×11.5	230×12.5	65×65×10	180×180	190×180	200×180

材縦側兩							
縦材ノ長サ(米)	材縦形山球			山ス部材球 形ルニノ山 材單附上形	材縦製木		
	(米)距心ノ材縦				(米)距心ノ材縦		
	0.91	1.22	1.52		0.91	1.22	1.52
1.83	(糎)130×75×8.5	(糎)140×75×8.5	(糎)150×75×9	(糎)65×65×9	(糎)サ深 幅 130×130	(糎)サ深 幅 140×130	(糎)サ深 幅 150×130
2.44	150×75×9.5	180×75×10	190×90×10.5	65×65×9.5	150×130	165×150	180×150
3.05	180×75×11	200×90×11.5	230×90×12.5	65×65×10	180×150	190×150	200×180

上ニシテ鋼製ノモノナルコトヲ要ス

第百二十四條　暴露セル艙口ノ縁材ニハ其ノ外面ニ於テ六一〇ミリートル以内ノ心距ニ幅六三ミリメートル以上ノ堅牢ナル帶金承ヲ取附ケ且端末ノモノハ艙口ノ各隅ヨリ一五〇ミリメートル以内ノ箇所ニ之ヲ置クベシ

帶金及楔ハ艙口ヲ閉鎖スル爲有效ノモノニシテ良好ナル狀態ニ在ルコトヲ要ス

第百二十五條　暴露セル各艙口ニハ艙口覆布試驗規定ニ依ル甲種覆布二枚以上ヲ備フベシ

第百二十六條　暴露セル艙口ニハ蓋板ヲ締附クル爲環附螺釘ヲ備フルカ又ハ其ノ他ノ裝置ヲ爲スベシ

艙口ノ箇所ニ於ケル甲板ノ幅ノ百分ノ六十ヲ超ユル幅ノ第一種艙口ニ在リテハ特別ノ締附裝置ヲ備フベシ

第百二十七條　閉鎖裝置ノ效力ガ第一級閉鎖裝置ノ效力ニ及バザル船樓内ノ乾舷甲板ニ於ケル艙口ニハ第百二十條乃至等百二十五條ニ規定スル閉鎖裝置ヲ備フベシ此ノ場合ニ於テハ艙口梁及縱材ノ寸法及心距ニ付テハ第二種艙口ニ對シテハ暴露セル第一種艙口、第三種艙口ニ對シテハ暴露セル第二種艙口ニ關スル規定ニ依ル

第百二十八條　本章前各條ノ規定ハ載炭口ニ之ヲ準用ス

第百二十九條　船樓甲板ニハ平載炭孔ヲ設クルコトヲ得又特殊ノ航路ニ使用スル小形船ニ在リテハ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ乾舷甲板ニモ之ヲ設クルコトヲ得

前項ノ平載炭孔ノ枠及蓋ハ鐵製又ハ鋼製ニシテ堅牢ナル構造ノモノナルコトヲ要シ又蓋ハ螺込止又ハ挿込止ノモノトシ蝶番ニ依リ枠ニ取附クルカ又ハ鎖ヲ以テ枠ニ連結シ置クベシ

第百三十條　乾舷甲板ノ暴露部又ハ蔽圍シタル船樓ノ甲板ノ暴露部ニ於ケル昇降口室ハ堅牢ナル構造ノモノナルコトヲ要シ船首ヨリ五ノ四分ノ一以内ノ箇所ニ在ルトキハ之ヲ鋼製トシ鉸釘ヲ以テ鋼甲板ニ固著スルコトヲ要ス

前項ノ昇降口ニ於ケル戸口ノ縁材ノ高サハ昇降口ノ位置ニ應ジ第百十八條ニ定ムル艙口縁材ノ高サ以上ト爲シ戸ハ堅牢ニシテ其ノ兩側ヨリ閉鎖定著シ得ルモノト爲スコトヲ要ス

第三章　乾舷甲板又ハ船樓甲板ニ於ケル機關室口、通風筒及空氣管

第百三十一條　暴露セル乾舷甲板又ハ船樓甲板ニ於ケル機關室口ハ之ヲ適當ニ構造シ且堅牢ナル鋼製圍壁ヲ以テ蓋圍スルコトヲ要ス

乾舷甲板又ハ低船尾樓甲板上ノ機關室圍壁ニシテ他ノ建

設物ニ依リ保護セラレザルモノハ特ニ其ノ强力ヲ十分ナラシムベシ

焚火室口、煙筒及通風筒ノ縁材ハ適當ニシテ且實際上可能ナル限リ暴露甲板上高キ位置ニ之ヲ設ケ又焚火室口ニハ常設的ニ取附ケタル堅牢ナル鋼製蓋ヲ備フベシ

第百三十二條　閉鎖裝置ノ效力ガ第一級閉鎖裝置ノ效力ニ及バザル船樓内ノ乾舷甲板ニ於ケル機關室口ハ之ヲ適當ニ構造シ且鋼製圍壁ヲ以テ蔽圍スルコトヲ要ス

第百三十三條　前二條ノ機關室口圍壁ニ設クル戸口ノ縁材ノ高サハ左表ニ揭グルモノ以上ナルコトヲ要ス

機關室口圍壁ヲ設ケタル甲板ノ種類及位置	縁材ノ甲板上ノ高サ（粍）
暴露セル乾舷甲板	610
暴露セル低船尾樓甲板	457
低船尾樓甲板以外ノ暴露セル船樓甲板	380
閉鎖裝置ノ效力ガ第二級閉鎖裝置ノ效力ニ及バザル船樓内	380
閉鎖裝置ノ效力ガ第一級閉鎖裝置ノ效力ニ及バザル船樓内ノ乾舷甲板	229

前項ノ戸口ニ設クル戸ハ堅牢ナル構造トシ常設的ニ隔壁ニ取附ケタルモノナルコトヲ要シ暴露セル場所ニ設ケラルルトキハ之ヲ兩側ヨリ閉鎖定著シ得ルモノナルコトヲ要ス

第百三十四條　暴露セル乾舷甲板又ハ船樓甲板ニ於ケル通風筒ニシテ乾舷甲板下ノ場所又ハ閉鎖裝置ノ效力ガ第一級閉鎖裝置ノ效力以上ナル船樓内ノ場所ニ通ズルモノニハ鋼製ノ堅牢ナル縁材ヲ備ヘ釘徑ノ四倍ノ心距ニ配置セラレタル鉸釘ニ依リ又ハ同一效力ノ方法ニ依リ之ヲ甲板ニ固著シ縁材ノ底部ニ當ル鋼甲板ハ甲板梁ノ間ニ於テ十分ニ之ヲ防撓スルコトヲ要ス前項ノ通風筒ノ口ニハ有效ナル閉鎖裝置ヲ備フベシ

第百三十五條　前條ノ通風筒ノ縁材ノ高サハ通風筒ノ閉鎖裝置ガ一時的ノモノナルトキハ暴露セル乾舷甲板又ハ船首ヨリ五ノ四分ノ一ノ個所迄ノ船樓甲板ニ在リテハ九一五ミリメートル以上、其ノ他ノ暴露船樓甲板ニ在リテハ七六〇ミリメートル以上ナルコトヲ要ス

通風筒ノ縁材ハ其ノ高サガ九一五ミリメートルヲ超ユルトキハ特別ニ之ヲ支持シ且固著セシムベシ

第百三十六條　脚荷水槽其ノ他ノ槽ニ通ズル空氣管ガ乾舷甲板又ハ船樓甲板ノ上方迄達スル場合ニ於テハ管ノ暴露

部ハ堅牢ナルモノナルコトヲ要シ且管口ヲ閉鎖スル爲十分ナル設備ヲ爲スコトヲ要ス又「ウエル」ニ於テハ甲板ヨリ管口迄ノ高サハ乾舷甲板上ニ在リテハ九一五ミリメートル以上、低船尾樓甲板上ニ在リテハ七六〇ミリメートル以上、其ノ他ノ船樓甲板上ニ在リテハ四五七ミリメートル以上ト爲スベシ

第四章　乾舷甲板下ノ船側ニ於ケル開口

第百三十七條　乾舷甲板下ノ船側ニ於ケル舷門、載貨門、載炭門等ニハ水密ナル戸又ハ蓋ヲ備フベシ此等ノ戸又ハ蓋ハ之ヲ定著スル裝置ヲ有シ且十分ナル强力ヲ有スルモノナルコトヲ要ス

第百三十八條　乾舷甲板下ノ場所ヨリ船側ヲ貫通スル各排出管ニハ自働不還辨二個ヲ備ヘ中一箇ハ何時ニテモ近寄リ得ル場所ニ之ヲ設置スベシ但シ辨ガ容易ニ近寄リ得ル場所ニ在リテ乾舷甲板上ノ場所ヨリ之ヲ閉ヂ得ル裝置ヲ有シ且該場所ニ辨ノ開閉ヲ示ス裝置ヲ備フルトキハ自働不還辨一箇ノミナルモ妨ナシ

船側ニ取附クル辨ハ鑄鋼製ナルコトヲ得ズ

第百三十九條　閉鎖裝置ノ効力ガ第一級閉鎖裝置ノ効力ニ及バザル船樓内ノ乾舷甲板ニ排水管ヲ設ケタルトキハ乾舷甲板下ノ場所ニ不意ニ浸水スルコトヲ防グ爲適當ナル裝置ヲ爲スベシ

第百四十條　海水ニ於ケル最高滿載吃水線ヨリ一五二ミリメートル未滿ノ箇所ニ下線ヲ有スル舷窓ハ舷窓試驗規程ニ適合スル甲種舷窓又ハ之ト同等以上ノモノナルコトヲ要シ又海水ニ於ケル最高滿載吃水線ヨリ一・二二メートル未滿ノ箇所ニ下面ノ最低點ヲ有スル甲板ノ下方ニ設クル舷窓ハ同規程ニ適合スル乙種舷窓又ハ之ト同等以上ノモノナルコトヲ要ス

前項ニ掲グルモノノ外乾舷甲板下ノ場所又ハ閉鎖裝置ノ效力ガ第二級閉鎖裝置ノ效力ト同等以上ナル船樓内ノ場所ニ設クル舷窓ニハ蝶番ニ依リ取附ケタル内蓋ヲ備ヘ完全ニ水密トナル構造ト爲スベシ但シ雜居三等旅客又ハ船員ニ專用スル船樓内ノ容易ニ近寄リ得ル場所ニ設クル舷窓ノ内蓋ハ取外シ得ルモノト爲スコトヲ得

前項但書ノ場合ニ於テハ内蓋ヲ常ニ舷窓ノ近クニ備ヘ置ク爲ノ裝置ヲ爲スベシ

第二項ノ舷窓ノ枠ハ黃銅、鑄鋼其ノ他適當ナル金屬ヲ以テ堅牢ニ構造シタルモノナルコトヲ要シ之ヲ鑄鐵製ト爲スベカラズ又蝶番ノ軸針及締附螺釘ハ黃銅製ナルコトヲ要ス

第五章　船樓端ノ隔壁、船員ノ保護裝置及放水口

第百四十一條　標準ノ高サヲ有スル船首樓、船橋樓又ハ船尾樓ノ暴露セル端ニ於ケル隔壁ハ其ノ厚サヲ左表ニ掲グルモノ以上ト爲シ同表ニ掲グル寸法ノ防撓材ヲ七六センチメートル以内ノ心距ニ竪ニ取附ケ之ヲ防撓シタルモノナルコトヲ要ス

船首樓及前橋樓	部分的ニ保護セラレタル船尾樓隔壁又ハ L ノ十分ノ四未滿ノ長サヲ有スル船尾樓ノ隔壁	船橋樓ノ前端隔壁及 L ノ十分ノ四以上ノ長サヲ有スル船尾樓ノ保護セラレザル隔壁	
隔壁ノ厚サ			
L	厚サ	L	厚サ
48.75以下	(粍) 6.0	48.75以下	(粍) 7.5
122.00以上	9.5	122.00以上	11.0
		61.00以下	
		115.80以上	

防撓材ノ種類及			
L	山形材	L	球形材
45.70未滿	(粍) 75×65×7.5	45.70未滿	(粍) 140×75×7.5
45.70	90×65×8	45.70	150×75×8
76.20	100×75×8.5	61.00	165×75×8.5
106.70	115×75×9	76.20	180×75×9
	130×75×9.5	91.45	190×75×9.5
	140×75×10.5	106.70	205×75×10
	150×75×11	121.90	215×75×10.5
	165×90×11.5	137.15	230×75×11
	180×90×12	152.40	240×90×11.5
	180×90×12.5	167.65	255×90×12
			256×90×12.5
			280×90×13
			48.75未滿
			48.75
			61.00
			73.20
			85.35
			97.55
			109.75
			121.90
			134.10
			146.30
			158.50
			170.70

ノ後端隔壁	サ	サ厚	法寸	山形材
		(粍) 5.0		(粍) 65×65×6.5
		7.5		75×65×7
				90×75×7.5
				100×75×8

備考

Lガ表ニ掲グルモノノ中間ニ在ルトキハ隔壁板ノ厚サ及防撓材ノ寸法ハ挿間法ニ依リ之ヲ定ムヲ設クベシ

第百四十二條　前條ノ規定ニ依リ船尾樓及船橋樓ノ前端隔壁ニ設ケタル防撓材ノ上下兩端ハ短山形材ヲ以テ之ヲ甲板ニ固著セシムルコトヲ要シ又船尾樓及船橋樓ノ後端隔壁ニ於ケル防撓材ハ隔壁ノ緣山形材間ノ全距離ニ亘リ之ヲ取附クルコトヲ要ス

第百四十三條　平甲板船ノ乾舷甲板ニ設ケタル居住用ノ甲板室ノ周壁ハ前二條ニ規定スルモノト同等ノ强力ヲ有スル構造ト爲スベシ

第百四十四條　乾舷甲板及船樓甲板ノ暴露セル部分ニハ適當ノ保護欄干又ハ舷墻ヲ設クベシ

第百四十五條　船員室區域ニ出入スル船員ヲ保護スル爲適當ナル通路、保護索又ハ其ノ他ノ設備ヲ爲スベシ

第百四十六條　乾舷甲板上又ハ船樓甲板上ノ暴露部ニ於ケル舷墻ガ「ウエル」ヲ形成スルトキハ之ニ十分ナル放水口

各舷ニ於ケル舷墻ノ長サ(米)	各舷ニ設クベキ放水口ノ全面積(平方米)
4	0.726
6	0.787
8	0.846
10	0.909
12	0.970
14	1.031
16	1.092
18	1.153
20	1.220
20ヲ超ユルトキ	舷墻ノ長サ一米ニ付0.031平方米ノ割合

備考

舷墻ノ長サガ表ニ掲グルモノノ中間ニ在ルトキハ挿間法ニ依リ放水口ノ面積ヲ算定ス

放水口ノ面積ハ舷弧ノ高サガ標準舷弧ノ高サヨリ小ナル船舶ニ在リテハ前項ニ規定スルモノヨリ適當ニ之ヲ增スコトヲ要シ又「ウエル」ノ長サガLノ十分ノ七ヲ超ユルトキハ適當ニ之ヲ減ズルコトヲ得

第六十一條第一號ニ該當スル船樓內ニ於テハ常設閉鎖裝置ヲ備ヘザル甲板口ノ位置ニ適當ノ放水口ヲ設クベシ

第百四十七條　放水口ハ甲板上成ルベク低キ位置ニ之ヲ設クルコトヲ要シ其ノ下緣ハ舷緣山形材ノ上緣ヨリ高カラザル樣爲スベシ

放水口ニハ約二三センチメートルノ間隔ニ柵又ハ横棒ヲ取附クベシ又戸ヲ取附ケタルトキハ梗塞ノ虞ナキ構造ト爲シ且蝶番ハ黃銅製軸釘ヲ有スルモノト爲スベシ

第六章　木材滿載吃水線ノ指定ヲ受クル汽船

第百四十八條　本章ノ規定ハ木材滿載吃水線ノ指定ヲ受クル汽船ニ之ヲ適用ス

第百四十九條　船體ノ構造ハ甲板積木材貨物ノ重量ニ對シ十分ナル强力ヲ有スルモノナルコトヲ要ス

第百五十條　船舶ハ標準ノ高サ以上ノ高サ及Lノ百分ノ七以上ノ長サノ船首樓ヲ有シ且船尾樓又ハ堅牢ナル鋼製ノ「フード」若ハ甲板室ヲ後部ニ備フル低船尾樓ヲ有スルコトヲ要ス

第百五十一條　乾舷甲板上ノ機關室圍壁ハ其ノ側ニ木材貨物ヲ積載スルニ十分ナル强力及高サノモノナルカ又ハ標準ノ高サ以上ノ高サノ船樓ヲ以テ保護セラルモノナルコトヲ要ス

第百五十二條　中央部Lノ二分ノ一間ニ二重底ヲ備フル船舶ニ在リテハ該部分ノ二重底槽ハ適當ナル縱區畫ヲ有スルコトヲ要ス

第百五十三條　木材貨物ヲ積載スル甲板ニハ高サ九九センチメートル以上ニシテ上緣ニ於テ特ニ防撓セラレ且十分ナル放水口ヲ有スル舷墻ヲ備フルカ又ハ之ト同一ノ高サニシテ特ニ堅牢ナル構造ノ欄干ヲ備フルコトヲ要ス

前項ノ舷墻ニハ梁ノ箇所ニ於テ甲板ニ固著シタル堅牢ナル支柱ヲ取附クベシ

第百五十四條　船舶ハ有效ナル補助操舵裝置ヲ備フルコトヲ要ス

第百五十五條　甲板積木材貨物ノ兩側ニ跨ル縛索ヲ留ムル眼附板ハ三・〇五メートル以內ノ間隔ニテ且船樓端ノ隔壁ヨリ最初ノ眼附板迄ノ距離ガ一・九八メートルヲ超エザル樣配置シ鉸釘ヲ以テ之ヲ舷側厚板ニ固著セシムベシ

但シ追加ノ眼附板ハ之ヲ梁上側板ニ取附クルモ妨ナシ

縛索跟附板ハ縛索ノ强力ニ相當スル强力ヲ有スルモノト爲スベシ

第七章　槽船

第百五十六條　本章ノ規定ハ槽船ニ之ヲ適用ス

第百五十七條　槽船ハ標準ノ高サ以上ノ高サ及ヒノ百分ノ七以上ノ長サノ船首樓ヲ有スルコトヲ要ス

第百五十八條　乾舷甲板上ノ機關室圍壁ハ標準ノ高サ以上ノ高サノ蔽圍シタル船橋樓若ハ船樓又ハ之ト同一ノ高サ及同等ノ强力ヲ有スル甲板室ニ依リ之ヲ保護スルコトヲ要シ又該圍壁ノ開口ニハ鋼製ノ戸ヲ備フルコトヲ要ス

前項ノ船樓又ハ甲板室ハ其ノ端ニ於テ第百四十一條及第百四十二條ニ規定スル船橋樓前端隔壁ト同樣ノ構造ノ隔壁ヲ備ヘ之ニ設クル出入口ニハ甲板上四五七ミリメートル以上ノ高サノ緣材ヲ設ケ且有效ナル閉鎖裝置ヲ備フルコトヲ要ス

第百五十九條　船尾樓ト船橋樓トノ間ニハ甲板下ノ通路ヲ利用シ得ル場合又ハ同一效力ノ通路設備ヲ備フル場合ヲ除クノ外船樓甲板ト同一ノ高サヲ有スル堅牢ナル常設步路ヲ備フルコトヲ要ス船員室ヲ船首ニ設ケタル槽船ニ在リテハ船橋樓ト船首樓トノ間ニ付亦同ジ

前項ノ步路ト船員室區域、機關室其ノ他船舶ノ操作ニ必要ナル場所トノ間ニハ何時ニテモ利用シ得ル安全ナル通路ヲ設クベシ但シ乾舷甲板ヨリ直接出入スル「ポンプ」室ニシテ第五十三條ノ規定ニ適スル閉鎖裝置ヲ備フルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第百六十條　乾舷甲板及膨脹「トランク」甲板上ノ艙口ニハ有效ナル鋼製蓋ヲ以テ水密ニ閉鎖スル裝置ヲ備フベシ

第百六十一條　乾舷甲板ニ設クル通風筒ハ十分ナル强力ヲ有スルモノト爲スカ又ハ船樓若ハ同一效力ノ設備ニ依リ之ヲ保護スベシ

第百六十二條　甲板ノ暴露部ニ於テハ該部分ノ長サノ二分ノ一以上ノ間ヲ開放欄干ト爲スカ又ハ該部分ニ設クル舷檣ニハ特ニ有效ナル放水裝置ヲ備フベシ

船樓ト「トランク」トガ連續シタル槽船ニ在リテハ乾舷甲板ノ暴露部ノ全長ニ亙リ開放欄干ヲ設クルコトヲ要ス

第百六十三條　舷側厚板ノ上緣ハ實際上差支ナキ限リ低キコトヲ要シ成ルベク舷緣山形材ノ上緣ヨリ高カラシメザルコトヲ要ス

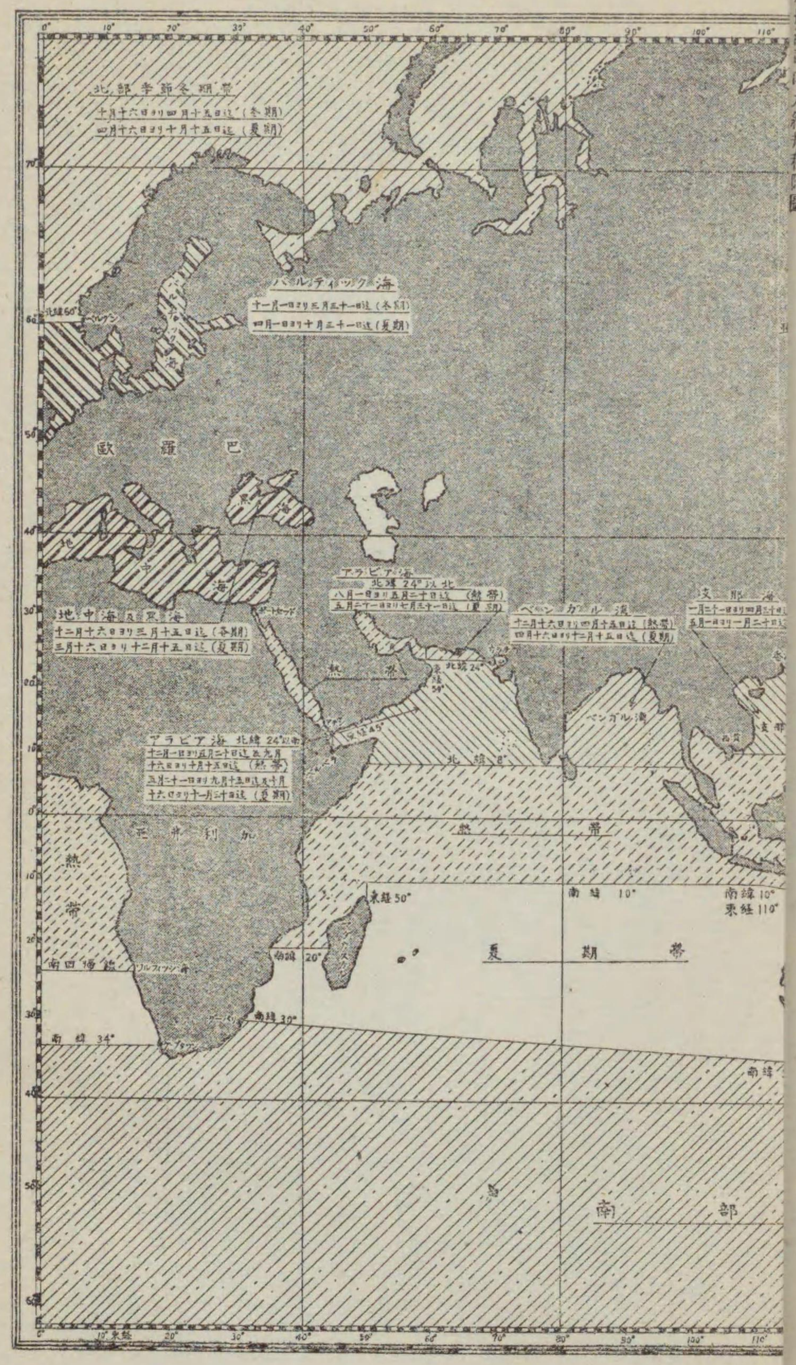
附　則

第百六十四條　本令ハ昭和九年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

第百六十五條　昭和七年六月三十日以前ニ龍骨ヲ据附ケタル船舶ノ滿載吃水線ノ指定ニ付テハ左ノ各號ニ依ル

一　開口ノ保護、保護欄干、放水口及船員室區域ヘノ通路ニ關スル構造及設備ニ付第六編ノ規定ニ適合セザル

(別紙)
船舶滿載吃水線規程附圖



（別紙）

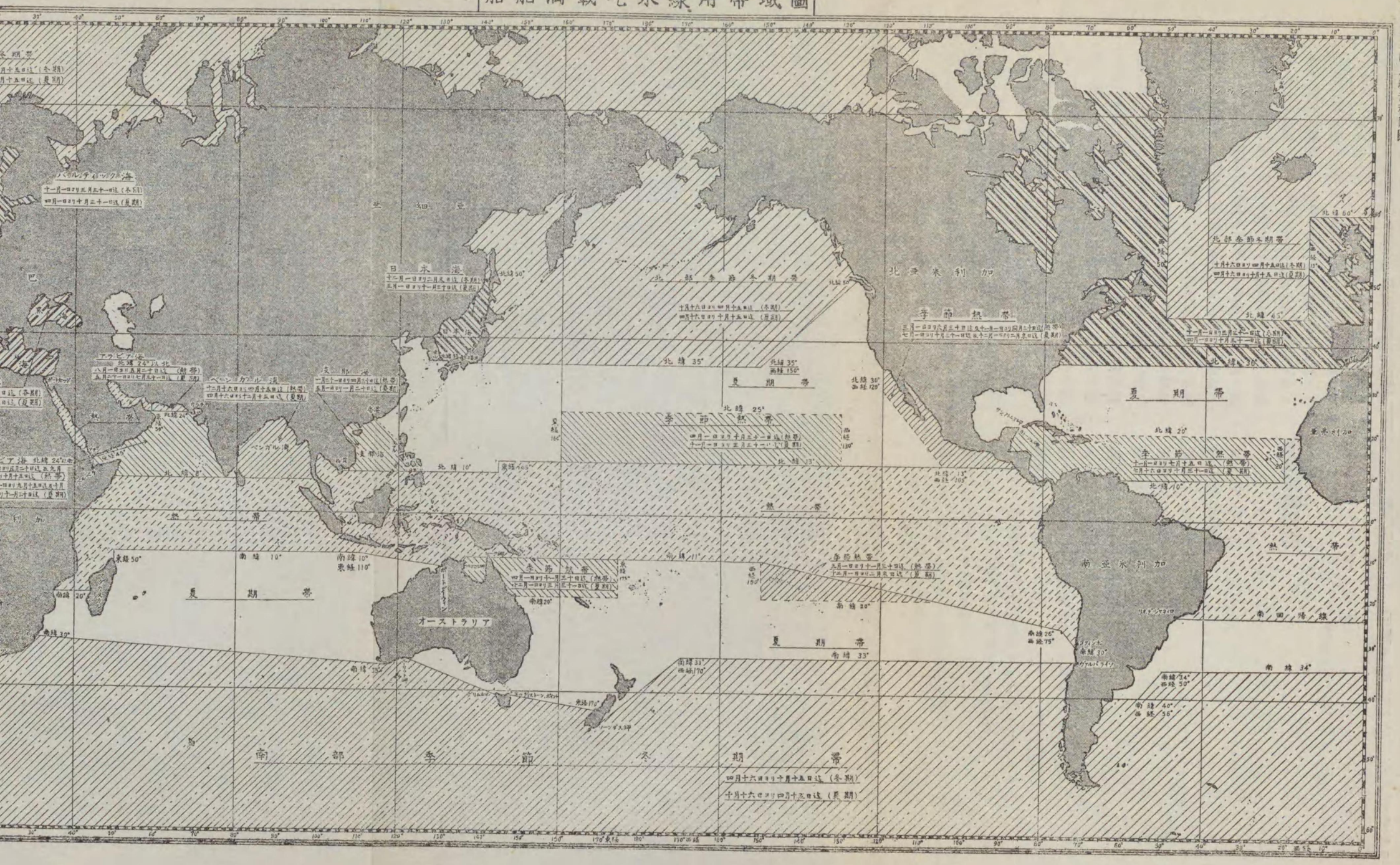
船舶滿載吃水線規程附圖

前項ノ歩路ト船員室區域、機關室其ノ他船舶ノ操作ニ必要ナル場所トノ間ニハ何時ニテモ利用シ得ル安全ナル通路ヲ設クベシ但シ乾舷甲板ヨリ直接出入スル「ポンプ」室

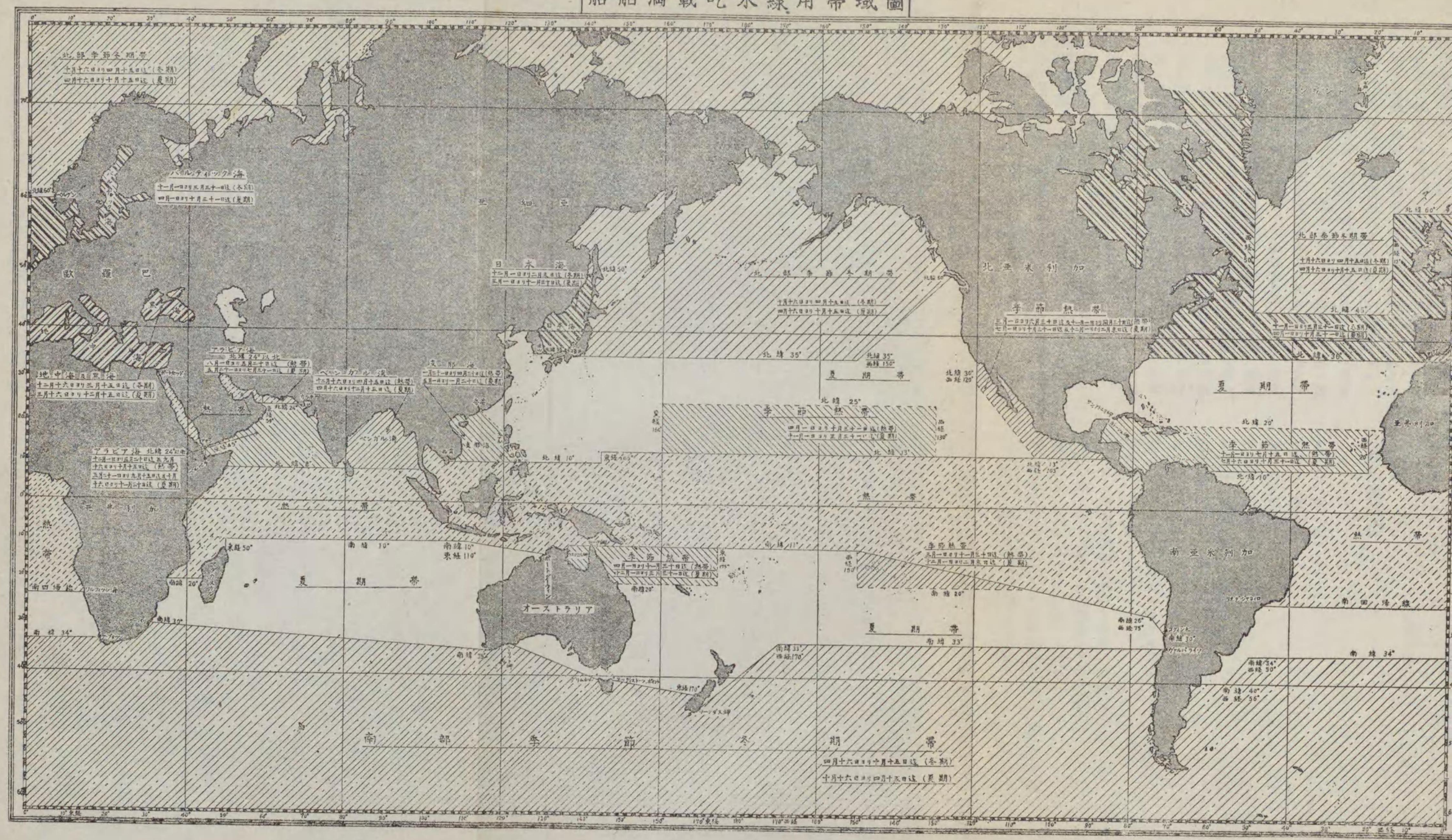
ル船舶ノ滿載吃水線ノ指定ニ付テハ左ノ各號ニ依ル

一　開口ノ保護、保護欄干、放水口及船員室區域ヘノ通路ニ關スル構造及設備ニ付第六編ノ規定ニ適合セザル

圖域帶用線水吃載滿船舶



船舶滿載吃水線用帶域圖



船舶ト雖モ實質上該規定ニ略適合シ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムル場合ニ於テハ之ヲ同章ノ規定ニ適合スルモノト看做ス

二　第百五十條ニ規定スル船樓ヲ有セザル汽船ト雖モ實質上同條ニ規定スル船樓ト略同一ノ效力アル船樓ヲ有シ且第六編第六章ニ規定スル他ノ條件ヲ具備スルトキハ木材滿載吃水線ノ指定ヲ受ケ之ヲ標準スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ管海官廳ハ當該船舶ガ第百五十條ノ規定ニ適合セザル程度ヲ考慮シ適當ニ其ノ乾舷ヲ增加ス

三　第百五十七條、第百五十八條及第百六十二條ノ規定ニ適合セザル槽船ト雖モ實質上同條ノ規定ニ依ル構造及設備ト略同一ノ構造及設備ヲ有シ且第六編第七章ニ規定スル他ノ條件ヲ具備スルトキハ管海官廳ハ第四編第二章ノ規定ニ依リ該船舶ノ乾舷ヲ算定スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ管海官廳ハ當該船舶ガ第百五十七條、第百五十八條及第百六十二條ノ規定ニ適合セザル程度ヲ考慮シ適當ニ其ノ乾舷ヲ增加ス

第百六十六條　船舶滿載吃水線法ニ依リ船舶ニ標示シタル滿載吃水線ノ位置ハ之ヲ本令ニ依リ定メタルモノト看做ス但シ同法ニ依リ汽船ニ標示シタル淡水滿載吃水線ノ位置ハ本令ニ依ル夏期淡水滿載吃水線ノ位置トス

遞遞信省令第八號

船舶區畫規程左ノ通定ム

昭和九年二月一日

遞信大臣　南　弘

船舶區畫規程

目　次

第一章　總則
第二章　浸水率
第三章　可浸長
第四章　區畫室ノ長サ
第五章　區畫ニ關スル特別條件
第六章　區畫滿載吃水線
第七章　水密隔壁ニ於ケル開口
第八章　限界線下ノ船側ニ於ケル開口
第九章　二重底
第十章　水密隔壁等ノ構造及最初ノ試驗
第十一章　耐火隔壁、水密區畫室ヨリノ出口
第十二章　「ポンプ」排水裝置
第十三章　特殊ノ航路又ハ特殊旅客ノ運送ニ使用スル船舶ニ對スル特別規定

附則

船舶區畫規程

第一章　總則

第一條　本令ニ於テ區畫滿載吃水線トハ第三章乃至第五章ノ規定ニ依リ船舶ノ區畫ヲ決定スルニ用ウル吃水線ヲ謂ヒ最高區畫滿載吃水線トハ區畫滿載吃水線中最大吃水ニ對スルモノヲ謂フ

第二條　本令ニ於テ船ノ長サトハ最高區畫滿載吃水線ノ兩端ニ於ケル垂線間ノ距離ヲ謂フ但シ首尾ニ於テ特殊ノ形狀ヲ有スル船舶ニ付テハ遞信大臣ノ適當ト認ムル所ニ依ル船ノ長サハL₁ヲ以テ之ヲ示シ其ノ單位ハメートルトス

第三條　本令ニ於テ船ノ幅トハ最高區畫滿載吃水線以下ニ於テ肋骨ノ外面ヨリ外面迄ノ最大幅ヲ謂フ

第四條　本令ニ於テ隔壁甲板トハ横置水密隔壁ノ達スル最上層ノ甲板ヲ謂フ

第五條　本令ニ於テ限界線トハ隔壁甲板ノ船側ニ於ケル上面ト船側外板トノ交線ニ平行ニ其ノ下方七六ミリメートルノ位置ニ引キタル線ヲ謂フ

前項ノ上面ハ船側ニ於ケル隔壁甲板ノ厚サ一樣ナラザル船舶ニ在リテハ其ノ最小ノ厚サニ依リ又特ニ申請アリタル場合ニ於テハ隔壁甲板ノ全長ニ付算定シタル平均ノ厚サニ依リ之ヲ定ム但シ平均ノ厚サノ算定ニ付テハ實際ノ厚サガ最小ノ厚サニ五〇ミリメートルヲ加ヘタルモノヨリ大ナルトキハ實際ノ厚サハ之ヲ最小ノ厚サニ五〇ミリメートルヲ加ヘタルモノト看做ス

第六條　本令ニ於テ吃水トハL₁ノ中央ニ於テ龍骨ノ上面ヨリ區畫滿載吃水線迄測リタル垂直距離ヲ謂フ

第七條　本令ニ於テ或場所ノ浸水率トハ該場所中央ニ依リ占メラレ得ル容積ト該場所ノ全容積トノ百分率ヲ謂フ

限界線ノ上下ニ亙ル場所ノ浸水率ハ限界線以下ノ容積ニ付之ヲ定ムルモノトス

第八條　本令ニ於テ機關室區域トハ主機關、補機關及常設石炭庫ニ專用スル場所ヲ限ル横置水密隔壁ノ間ノ限界線下ノ部分ヲ謂フ

本令ニ於テ前艙區域トハ機關室區域ノ前方ノ限界線下ノ部分ヲ謂ヒ後艙區域トハ機關室區域ノ後方ノ限界線下ノ部分ヲ謂フ

第九條　本令ニ於テ旅客室又ハ船員室トハ手荷物室、倉庫、食料品庫及郵便物室ヲ除キ旅客又ハ船員ノ居住若ハ使用ニ充テラルル場所ヲ謂ヒ居室トハ旅客室及船員室ヲ包含スルモノヲ謂フ

第十條　或場所ノ容積ハ外板又ハ隔壁板ノ内面迄測リテ之

ヲ算定ス

第二章　浸水率

第十一條　蒸汽機關ニ依リ推進スル船舶ニ在リテハ機關室區域ノ浸水率ハ左ノ算式ニ依リ之ヲ算定ス

$$80+12.5\left(\frac{a-c}{v}\right)$$

aハ機關室區域ニ在ル居室ノ容積

cハ機關室區域ニ在ル貨物、石炭又ハ倉庫品ニ供用セラルル甲板間ノ場所ノ容積

vハ機關室區域ノ全容積

發動機ニ依リ推進スル船舶ニ在リテハ機關室區域ノ浸水率ハ前項ノ算式ニ依リ算定シタル數ニ五ヲ加ヘタルモノトス

第十二條　管海官廳ハ特ニ申請アリタルトキハ前條ノ規定ニ拘ラズ機關室區域ノ現狀ニ應ジ適當ト認ムル方法ニ依リ該區域ノ浸水率ヲ算定スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ居室ノ浸水率ハ九五、貨物艙、石炭庫又ハ倉庫ノ浸水率ハ六〇ト爲スベシ

第十三條　前艙區域又ハ後艙區域ノ浸水率ハ左ノ算式ニ依リ之ヲ算定ス

$$63+35\frac{a}{v}$$

aハ當該區域ニ在ル居室ノ容積

vハ當該區域ノ全容積

第十四條　二箇ノ横置水密隔壁ノ間ノ甲板間ノ場所ニ常設ノ鋼製隔壁ヲ以テ完全ニ圍繞セラレザル居室アルトキハ前三條ノ規定ニ依ル浸水率ノ算定ニ付テハ該場所中常設ノ鋼製隔壁ヲ以テ完全ニ區別セラレ且他ノ用途ニ供用セラルル場所ヲ除キタル殘餘ノ全部ヲ居室ト看做ス

第三章　可浸長

第十五條　L₁ノ或點ニ於ケル可浸水長ト該點ヲ中心トスル船舶ノ部分ノ長サニシテ該船舶ガ區畫滿載吃水線ニ對スル吃水及第二章ノ規定ニ依ル浸水率ヲ有スル場合ニ於テ之ニ浸水セシムルモ限界線ヲ超エ沈下スルコトナキ最大限度ノモノヲ謂フ

第十六條　連續セル隔壁甲板ヲ有セザル船舶ニ在リテハ浸水後ノ沈下及縱傾斜竝ニ關係水密隔壁ノ達スル箇所ヲ考慮シテ連續ノ限界線ヲ假定シ之ニ付可浸長ヲ定ムルモノトス

第十七條　可浸長ハ船舶ノ形狀其ノ他ノ特性ヲ考慮シ管海官廳ノ適當ト認ムル方法ニ依リ之ヲ定ム

第四章　區畫室ノ長サ

第十八條　船舶ニ於ケル區畫室ノ長サハ其ノ中央ニ於ケル

可浸長ニ第二十條乃至第二十四條ノ規定ニ依ル區畫係數ヲ乘ジテ得タル長サ(以下可許長ト稱ス)ヲ超ユルコトヲ得ズ但シ本令ニ於テ別段ノ定アル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第十九條　船舶ノ用途ノ標準數(以下單ニ標準數ト稱ス)ハ第二項ノ規定ニ依ル假想容積(P_1)ト限界線下ニ在ル居室ノ容積(P)トノ割合ニ應ジ左ノ算式ニ依リ之ヲ算定ス

P_1ガPヨリ大ナルトキ

$$72\frac{M+2P_1}{V+P_1-P}$$

P_1ガPヨリ大ナラザルトキ

$$72\frac{M+2P}{V}$$

Mハ機關室區域ノ容積ニ前艙區域又ハ後艙區域ニ於テ二重底內底板ノ上方ニ常設燃料油艙ヲ設ケタルトキハ其ノ容積ヲ加算シタルモノ

Pハ限界線下ニ在ル居室ノ容積

P_1ハ假想容積

Vハ限界線下ノ全容積

假想容積ハP_1左ノ算式ニ依リ之ヲ算定ス但シ算定シタル容積ガ限界線下ニ在ル居室ノ容積ト限界線以上ニ在ル旅客室ノ容積トノ和ヨリ大ナルトキハ之ヲ該和及算定シタル容積ノ三分ノ二ノ中大ナルモノト爲スコトヲ得

$$0.056L\times N$$　立方メートル

Nハ旅客定員

連續セル隔壁甲板ヲ有セザル船舶ニ在リテハ前二項ノ各容積ハ可浸長ノ決定ニ用ヰタル限界線迄測リテ之ヲ算定ス

第二十條　L一三一メートル以上ノ船舶ノ區畫係數ハ標準數ニ應ジ左ノ各號ノ算式ニ依リ之ヲ算定ス

一　標準數二三以下ナルトキ

$$\frac{58.2}{L-60}+0.18$$

二　標準數一二三以上ナルトキ

$$\frac{30.3}{L-42}+0.18$$

三　標準數二三ヲ超エ一二三未滿ナルトキ

$$A-\frac{(A-B)(Cs-28)}{100}$$

Csハ標準數

Aハ第一號ノ算式ニ依リ算定シタル數

Bハ第二號ノ算式ニ依リ算定シタル數

前項ニ依リ算定シタル係數ガ〇・四〇ヨリ小ナル船舶ニ付管海官廳ニ於テ該係數ニ依リ機關室區域ヲ區畫スルコ

ト實際上不可能ナリト認ムルトキハ該區域ニ對ルス區畫係數ヲ〇・四〇ト爲スコトヲ得

第二十一條　L七九メートル以上一三一メートル未滿ノ船舶ノ區畫係數ハ標準數ガ左ノ算式ニ依リ算定シタル數以下ナルトキハ區畫係數ハ之ヲ一トス

$$\frac{3574-25L}{13}$$

二　標準數ガ一二三以上ナルトキハ前條第一項第二號ノ算式ニ依リ算定シタル數ヲ區畫係數トス

三　標準數ガ第一號ノ算式ニ依リ算定シタル數ヲ超エ一二三未滿ナルトキハ左ノ算式ニ依リ區畫係數ヲ算定ス

$$1-\frac{(1-B)(Cs-S)}{123-S}$$

Csハ標準數

Sハ第一號ノ算式ニ依リ算定シタル數

Bハ前條第一項第二號ノ算式ニ依リ算定シタル數

第二十二條　旅客定員ガ左ノ算式ニ依リ算定シタル數及五〇ノ中小ナルモノヲ超エザル船舶ノ區畫係數ハ前二條ノ規定ニ拘ラズ之ヲ一トス

$$\frac{L^2}{650}$$

第二十三條　L七九メートル未滿ノ船舶ノ區畫係數ハ標準數ニ拘ラズ之ヲ一トス

第二十四條　左ノ各號ノ船舶ニ付前三條ニ定ムル區畫係數ニ依リ區畫スルコト實際上不可能ナリト認ムル部分アルトキハ管海官廳ハ該部分ノ區畫係數ニ付適當ニ斟酌スルコトヲ得

一　前二條ニ揭グル船舶

二　L七九メートル以上一三一メートル未滿ニシテ標準數ガ第二十一條第一號ノ算定シタル數ヨリ小ナル船舶

第五章　區畫ニ關スル特別條件

第二十五條　船首隔壁ハ船舶ノ前部垂線ヨリLノ百分ノ五ノ箇所ト同箇所ヨリ三・〇五メートル後方ノ箇所トノ間ニ之ヲ設クベシ

船首部ニ於テ長キ船樓ヲ有スル船舶ニ付テハ船首隔壁ヲ隔壁甲板ノ直上ノ甲板迄延長シ其ノ部分ヲ風雨密ノ構造ト爲スベシ

前項ノ延長部ハ船舶ノ前部垂線ヨリLノ百分ノ五以上ノ箇所ニ設クルトキハ之ヲ下方ノ隔壁ノ直上ニ設ケザルモ妨ナシ此ノ場合ニ於テハ階段ヲ形成スル隔壁甲板ノ部分ヲモ風雨密ノ構造ト爲スベシ

第二十六條　甲區畫室ト之ニ隣接セル乙區畫室トノ合長及

甲區畫室ト之ニ隣接セル乙區畫室トノ合長ガ何レモ合長ノ中央ニ於ケル可浸長ヲ超ユルコトナク且可許長ノ二倍ヲ超エザルトキハ、甲區畫室ノ長サハ可許長ヲ超ユルモ妨ナシ

甲區畫室ノ浸水率ト乙又ハ丙區畫室ノ浸水率トガ相等シカラザルトキハ前項ノ規定ノ適用ニ付テハ各區畫室ノ浸水率ノ平均ヲ兩區畫室ヲ通ズル浸水率ト看做ス

甲區畫室ノ區畫係數ト乙又ハ丙區畫室ノ區畫係數トガ相等シカラザルトキハ第一項ノ規定ノ適用ニ付テハ可許長ノ二倍ノ代リニ左ノ算式ニ依リ算定シタル長サヲ用ウルモノトス

$$l_1+(2l_2-l_1)\frac{F_2}{F_1}$$

l_1ハ兩區畫室ノ中ノ任意ノ一區畫室ノ長サ

F_1ハ長サl_1ナル區畫室ニ對スル區畫係數

F_2ハ他ノ區畫室ニ對スル區畫係數

l_2ハ兩區畫室ニ對スル區畫係數ヲF_1ト看做シタル場合ノ可許長

第二十七條　L一三一メートル以上ノ船舶ニ付テハ船首隔壁ノ次ノ横置隔壁ヨリ前部垂線ニ至ル距離ハ可許長ヲ超ユルコトヲ得ズ

第二十八條　横置隔壁ヲ屈折セシメタル場合ニ於テハ屈折部ハ如何ナル部分ニ於テモ最高區畫滿吃水線ノ水平面ニテ該部分ノ横截面ニ於ケル外板ヨリ中心線ニ直角ニ測リ船ノ幅ノ五分ノ一ニ相當スル箇所ヲ通ル縱通垂直面ヨリ内方ニ在ルコトヲ要ス但シ區畫ガ第二十九條各號ノ一ニ該當スルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二十九條　横置隔壁ニ區畫ガ左ノ各號ノ一ニ該當スルニ非ザレバ之ヲ階段アルモノト爲スコトヲ得ズ

一　當該隔壁ニ依リ仕切ラレタル二區畫室ノ合長ガ可浸長ノ百分ノ九十ヲ超エザルトキ

二　隔壁ガ一平面ナル場合ト同一ノ安全程度ヲ保ツ樣該箇所ニ區畫ヲ增設シタルトキ

第三十條　横置隔壁ニ屈折又ハ階段アル場合ニ於テハ區畫室ノ長サハ同一ノ效力ヲ有スル平面隔壁迄之ヲ測ルモノトス

第三十一條　相隣レル二箇ノ横置隔壁間ノ距離ガ三・〇五メートルニLノ百分ノ二ヲ加ヘタルモノヨリ小ナルトキハ區畫室ノ長サノ決定ニ付テハ當該二隔壁中何レカ一箇ハ之ヲ無キモノト看做ス

前項ノ規定ノ適用ニ付テハ屈折アル隔壁ニ在リテハ前條ニ依ル同一ノ效力ヲ有スル平面隔壁ヲ横置隔壁ト看做シ

階段アル隔壁ニ在リテハ該隔壁ヨリ次ノ隔壁ニ至ル最短距離ヲ横置隔壁間ノ距離ト看做ス

第三十二條　横置水密區畫室ガ局面的ノ區畫ヲ有スル場合ニ於テ三・〇五メートルニLノ百分ノ二ヲ加ヘタル長サニ亘ル如何ナル損傷ヲ船側ニ受クルモ該區畫室ノ全容積ニ浸水スル虞ナキトキハ管海官廳ハ該區畫室ノ長サヲ浸水ノ虞ナキ部分ノ容積ニ應ジ局面的區畫ナキ場合ノ可許長ヨリ適當ニ增スコトヲ得

前項ノ規定ニ付テハ損傷ヲ受ケザル船側ニ付假定スル有效浮力ノ容積ヨリ大ナルコトヲ得ズ

第三十三條　水密甲板又ハ縱通隔壁若ハ内側外板ヲ設クル場合ニ於テハ之ヲ設ケタル部分ノ浸水ニ依リテ生ズル船舶ノ傾斜其ノ他ノ原因ニ因リ船舶ノ安全ヲ害セザル樣適當ナル配置ト爲スベシ

前項ノ配置ハ管海官廳ニ於テ適當ト認ムルモノナルコトヲ要ス

第三十四條　船尾隔壁ハ船舶ノ區畫ニ依ル安全ノ程度ヲ減少セザル限リ之ヲ隔壁甲板ノ下方ニ止ムルコトヲ得

第三十五條　船尾管ハ水密ナル場所ニ設置スルコトヲ要シ船尾管衞帶ハ水密ナル軸路其ノ他ノ場所ニシテ船尾管衞帶ヨリ浸水スル場合ニ於テモ船舶ガ限界線ヲ超エ沈下スルコトナキ程度ノ容積ヲ有スルモノノ内ニ之ヲ設置スルコトヲ要ス

第六章　區畫滿載吃水線

第三十六條　區畫滿載吃水線ハ船舶滿載吃水線規定ニ定ムル圓標ノ前方ニ於ケル垂直線ノ後緣ヨリ後方ニ向フ長サ二五〇ミリメートル、幅二五ミリメートルノ水平線ノ上緣ヲ以テ之ヲ標示スベシ

區畫滿載吃水線ガ船舶滿載吃水線規定ニ依ル當該船舶ノ海水ニ於ケル最高滿載吃水線ヨリ上方ニ在ルトキハ該最高滿載吃水線ノ位置ニ在ルモノトス

第三十七條　區畫滿載吃水線ノ標示ハ主タル旅客搭載狀態ニ對應スルモノニハC_1、其ノ他ノ狀態ニ對應スルモノニハ順次C_2、C_3等ノ記號ヲ附スベシ

區畫滿載吃水線ノ標示ハ船舶滿載吃水線規程ニ定ムル方法ニ準ジ之ヲ爲スベシ

第三十八條　區畫滿載吃水線ニ對スル乾舷ハ船舶滿載吃水線規程ニ依ル乾舷甲板ヲ標示スル當該水平線ノ上緣ヨリ區畫滿載吃水線迄之ヲ測ルモノトス

前項ノ乾舷ハ船舶ガ之ニ對應スル旅客搭載狀態ニ於テ國際航海ニ從事スル場合海水ニ於テ保持スベキ最小乾舷ト

ス

船舶ガ淡水ニ在ルトキハ當該區畫滿載吃水線ハ標示セラレタル當該滿載吃水線ノ上方ニ於テ船舶滿載吃水線規程ニ定ムル淡水ニ對スル修正高ニ等シキ箇所ニ在ルモノトス

第七章　水密隔壁ニ設クル開口

第三十九條　水密隔壁ニ設クル開口ノ數ハ出來得ル限リ之ヲ少クシ又開口ニハ之ヲ水密ニ閉ヅル爲適當ナル裝置ヲ備フルコトヲ要ス

水密隔壁ヲ貫通シテ管、電燈線等ヲ設ケタルトキハ該隔壁ノ水密ヲ保ツ爲適當ナル方法ヲ講ズベシ

第四十條　水密隔壁ニハ支水辨ヲ設ルコトヲ得ズ

左ニ掲グル隔壁ニハ人孔又ハ出入口ヲ設クルコトヲ得ズ

一　限界線下ノ船首隔壁

二　貨物艙ト貨物艙又ハ常設若ハ豫備ノ石炭庫トヲ仕切ル水密横置隔壁但シ甲板間ニ於ケル貨物艙ト貨物艙トヲ仕切ル隔壁ヲ除ク

第四十一條　船首隔壁ニハ船首艙內ノ水其ノ他ノ液體ヲ處理スル爲限界線下ニ於テ一箇ヲ限リ管ヲ通スコトヲ得但シ該管ニハ隔壁甲板ノ上方ヨリ操作シ得ル螺締辨ヲ設ケ辨匣ハ船首艙內ニ於テ船首隔壁ニ之ヲ取附クルコトヲ要ス

第四十二條　機關室內ノ交通用トシテ各橫置隔壁ニ付一箇ヲ限リ出入口ヲ設クルコトヲ得但シ機關室ガ縱通水密隔壁ニ依リ區畫セラレタル場合ニ於テ管海官廳差支ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ出入口ノ下緣ハ出來得ル限リ高キ位置ニ在ルコトヲ要ス

第四十三條　隔壁ノ開口ニ設クル水密戸ハ左ニ掲グルモノヲ除クノ外辷戸ナルコトヲ要ス

一　船側ニ於ケル最低點ノ下面ガ最高區畫滿載吃水線ノ上方二・一三メートル以上ノ箇所ニ在ル甲板ノ上方ニ於ケル旅客室、船員室及作業場所ニ設クル水密蝶番戸

二　甲板間ニ於ケル貨物艙ヲ仕切ル隔壁ニ於テ船側ニ載貨門ノ設置ヲ許サルル高サノ箇所ニ設クル水密蝶番戸

三　機關室內ニ於ケル隔壁ニ螺釘ヲ以テ固定スル取外シ得ル板戸

前項第二號ノ水密蝶番戸ハ其ノ設置ヲ特ニ必要トスル事由アル場合ニシテ其ノ構造及配置ニ付管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムル場合ニ限リ之ヲ設ケ得ルモノトス

第四十四條　蝶番戸ニハ隔壁ノ各側ヨリ操作シ得ル掛金ヲ

備フルコトヲ要ス

辷戸ハ水平ニ動クモノナルモ又ハ垂直ニ動クモノナルモ妨ナシ

手動ノ開閉裝置ノミヲ備フル辷戸ノ開閉裝置ハ戸ノ箇所及隔壁甲板ノ上方ノ近寄リ得ル場所ニ於テ之ヲ操作シ得ルモノナルコトヲ要ス

水密戸ガ自己又ハ他ノ重量物ノ落下作用ニ依リ閉ヅルモノナルトキハ之ニ閉鎖運動ヲ調節スル爲適當ナル裝置ヲ備フルコトヲ要ス閉鎖裝置ハ戸ノ箇所及隔壁甲板ノ上方ノ近寄リ得ル場所ニ於テ戸ヲ放動セシメ得ルモノトシ且落下作用ニ依ラザル手動開閉裝置ヲ備フルコトヲ要シ該裝置ハ戸ノ箇所及隔壁甲板ノ上方ニ於テ之ヲ操作シ得ルモノトシ戸ノ落下閉鎖ノ爲該裝置ヲ外シタル後各操作場ニ於テ迅速ニ再ビ之ヲ仕掛ケ得ルモノト爲スベシ

水密戸ガ中央操作場ヨリ動力ニ依リ操作セラルル裝置ナルトキハ戸ノ箇所ニ於テモ動力ニ依リ之ヲ操作シ得ルモノトスベシ

前項ノ動力開閉裝置ハ中央操作場ヨリ閉ヂラレタル後局部操作場ニ於テ開カレタル戸ガ自働的ニ閉鎖セラレ又戸ガ中央操作場ヨリ開カルルコトヲ局部操作場ニ於テ防ギ得ルモノナルコトヲ要ス

第五項ノ動力開閉裝置ニハ戸ノ箇所及隔壁甲板ノ上方ノ近寄リ得ル場所ニ於テ操作シ得ル手動開閉裝置ヲ備フルコトヲ要ス

各水密戸ニ付テハ戸ノ箇所ヲ除クノ外總テノ操作場ニ其ノ開閉ヲ示ス表示器ヲ備フベシ

第四十五條　橫置隔壁ニ設クル辷戸ニシテ其ノ下緣ガ最高區畫滿載吃水線ノ下方ニ在リ且船舶ノ航行中開クコトアルモノノ開閉裝置ニ付テハ左ノ各號ニ依ルベシ但シ軸路ノ入口ニ在ル水密戸ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

一　戸ノ數ガ五箇ヲ超エルトキハ開閉裝置ハ動力操作ノモノニシテ船橋上ノ操作場ヨリ同時ニ各辷戸ヲ閉ヂ得ルモノナルコトヲ要シ且閉鎖ニ先チ警戒音響信號ヲ發スル裝置ト爲スベシ

二　戸ノ數ガ五箇以下ニシテ標準數ガ六〇ヲ超ユルトキハ各辷戸ノ開閉裝置ハ動力操作ノモノナルコトヲ要ス

三　戸ノ數ガ五箇以下ニシテ標準數ガ三〇ヲ超エ六〇以下ナルトキハ各辷戸ハ落下式ニシテ戸ノ箇所及隔壁甲板ノ上方ヨリ操作シ得ル放動裝置ヲ備ヘ且手動閉鎖裝置ヲ備フルモノナルモ妨ナシ

四　戸ノ數ガ五箇以下ニシテ標準數ガ三〇ヲ超エザルトキハ各辷戸ノ閉鎖裝置ハ手動ノモノナルモ妨ナシ

第四十六條　船舶ノ航行中石炭繰ノ目的ヲ以テ開クコトアル水密戸ヲ隔壁甲板下ノ甲板間ニ於テ石炭庫ヲ仕切ル隔壁ニ設クルトキハ其ノ開閉裝置ハ動力操作ノモノナルコトヲ要ス

第四十七條　二箇以上ノ横置隔壁ヲ貫キテ冷藏貨物艙ニ通ズル圍壁路ヲ設クル場合ニ於テ開口ノ下緣ガ最高區畫滿載吃水線ノ上方二・一三メートル未滿ノ箇所ニ在ルトキハ該開口ニ於ケル水密戸ノ開閉裝置ハ動力操作ノモノナルコトヲ要ス

第四十八條　船員室ヨリ焚火場ヘノ通行ノ爲、管ヲ通ス爲又ハ其ノ他ノ目的ノ爲横置隔壁ヲ貫キテ圍壁路又ハ隧道ヲ設クルトキハ該圍壁路又ハ隧道ハ水密ニシテ第六十四條ノ規定ニ適合スルモノナルコトヲ要ス

前項ノ圍壁路又ハ隧道ガ船舶ノ航行中通路トシテ使用セラルルモノナルトキハ少クトモ各圍壁路又ハ隧道ノ一端ニハ限界線ノ上方ニ達シ得ル樣水密ニ構造セラレタル圍壁ヲ設クルコトヲ要ス

圍壁路又ハ隧道ハ船首隔壁ノ次ノ隔壁ヲ貫キテ之ヲ設クルコトヲ得ズ

强壓通風ノ爲必要アルトキハ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムル場合ニ限リ横置隔壁ヲ貫キテ圍壁路又ハ隧道ヲ設クルコトヲ得

第四十九條　石炭庫ニ於ケル水密戸ニ付テハ石炭ガ戸ノ閉鎖ヲ妨グルコトヲ防グ爲障板其ノ他ノ適當ナル裝置ヲ設クベシ

第四十六條ニ規定スルモノヲ除クノ外常設及豫備ノ石炭庫間ニ設クル水密戸ニ對シテハ常ニ之ニ近寄リ得ル樣圍壁路又ハ隧道ヲ設クベシ

第八章　限界線下ノ船側ニ於ケル開口

第五十條　限界線下ノ船側ニ於ケル開口ノ閉鎖裝置ハ開口ノ用途及位置ニ適應スルモノニシテ管海官廳ノ適當ト認メタルモノナルコトヲ要ス

貨物又ハ石炭ノ搭載ニ專用スル場合ニハ舷窓ヲ設クルコトヲ得ズ

自働通風用舷窓ハ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムル場合ヲ除クノ外之ヲ限界線下ノ船側ニ設クルコトヲ得ズ

第五十一條　甲板間ニ於ケル何レカノ舷窓ノ下緣ガ最高區畫滿載吃水線ノ上方ニ於テ船ノ幅ノ千分ノ二十五ノ距離ニ最低點ヲ有シ船側ニ於ケル隔壁甲板ニ平行ニ引キタル線ノ下方ニ在ルトキハ該甲板間ノ舷窓ハ總テ開キ得ザル型ノモノト爲スベシ

前項ノ舷窓ヲ除クノ外甲板間ニ於ケル何レカノ舷窓ノ下

船側ニ於ケル隔壁甲板ニ平行ニ引キタル線ノ下方ニ在ル緣ガ最高區畫滿載吃水線ノ上方ニ於テ三・六六メートルニ船ノ幅ノ千分ノ二十五ヲ加ヘタル距離ニ最低點ヲ有シトキハ該甲板間ノ舷窓ハ總テ錠前附ノモノナルコトヲ要ス

前二項ノ舷窓以外ノ舷窓ハ普通ノ開キ得ル型ノモノト爲スコトヲ得

第五十二條　左ニ掲グル舷窓ニハ有效ナル蝶番附内蓋ヲ備ヘ容易ニ之ヲ閉ヂ且水密ニ保チ得ル裝置ト爲スベシ

一　第五十一條第一項又ハ第二項ノ舷窓

二　前部垂線ヨリ工ノ八分ノ一以内ノ場所ニ設クル舷窓

三　航行中近寄リ難キ場所ニ設クル舷窓

四　水夫、火夫又ハ下級旅客ノ居住場所ニ設クル舷窓

前項ニ掲グルモノヲ除クノ外隔壁甲板下ニ設クル舷窓ニハ有效ナル内蓋ヲ備フベシ

前項ノ内蓋ハ之ヲ附近ニ備ヘ置ク裝置ヲ有スルトキハ取外シ得ルモノト爲スコトヲ得

第五十三條　船側ニ設クル機關用ノ吸水孔及放水孔竝ニ其ノ他ノ開口ニハ船内ヘノ不慮ノ浸水ヲ防ギ得ル裝置ヲ設クベシ

船側ニ設クル排水孔、衞生排出孔其ノ他類似ノ開口ノ數ハ出來得ル限リ之ヲ少クスベシ

第五十四條　限界線下ノ船側ヲ貫キテ設クル排出管ニハ船内ヘノ浸水ヲ防グ爲左ノ各號ノ一ニ依ル裝置ヲ爲スベシ

一　隔壁甲板ノ上方ニシテ容易且迅速ニ近寄リ得ル場所ヨリ閉鎖シ得ル積極裝置ヲ有スル自働不還辨一箇ヲ各排出管ニ取附ケ且辨ノ開閉ヲ表示スル裝置ヲ操作場ニ備フルコト

二　前號ノ裝置ナキ自働不還辨二箇ヲ各排出管ニ取附ケ其ノ中上方ノモノハ船舶ノ就航狀態ニ於テ檢査ノ爲常ニ近寄リ得ル最高區畫滿載吃水線ノ上方ノ場所ニ之ヲ設置スルコト

第五十五條　限界線下ニ設クル舷門、載貨門及載炭門ハ十分ナル强力ヲ有スル構造ト爲スベシ

一部又ハ全部ガ最高區畫滿載吃水線下ニ在ル載貨門又ハ載炭門ハ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムル場合ニ限リ之ヲ設置スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ構造ニ付テハ管海官廳ノ適當ト認ムル所ニ依ルベシ

第五十六條　灰棄筒、芥棄筒其ノ他類似ノモノノ船内ニ於ケル開口ニハ有效ナル蓋ヲ備フベシ

前項ノ開口ガ限界線下ニ在ルトキハ該開口ノ蓋ハ水密ニ閉鎖シ得ルモノト爲シ且最高區畫滿載吃水線ノ上方ニシ

テ容易ニ近寄リ得ル場所ニ於テ筒ニ自働不還辨ヲ取附クベシ

第九章　二重底

第五十七條　L六一メートル以上ノ船舶ニ付テハ左ノ各號ノ部分ニ二重底ヲ設クベシ

一　L七六メートル未滿ノ船舶ニ在リテハ機關室前端隔壁ヨリ船首隔壁迄

二　L七六メートル以上一〇〇メートル未滿ノ船舶ニ在リテハ機關室前端隔壁ヨリ船首隔壁迄及機關室後端隔壁ヨリ船尾隔壁迄

三　L一〇〇メートル以上ノ船舶ニ在リテハ船首隔壁ヨリ船尾隔壁迄

前項ノ船舶ニ於テ船首隔壁又ハ船尾隔壁迄二重底ヲ達セシムルコト實際上不可能ナルトキハ出來得ル限リ其ノ近ク迄之ヲ達セシムベシ

第五十八條　前條ニ依リ設クル二重底ニ在リテハ二重底緣板ト彎曲部外板トノ交線ハ何レノ部分ニ於テモLノ中央ニ於テ船底基線上船體中心線ヨリ船ノ幅ノ二分ノ一ノ距離ニ在ル點ヲ通リ該基線ニ對シ二十五度ノ傾斜ヲ以テ引キタル横斜線ト肋骨線トノ交點ヲ通ル水平面ノ上方ニ在ルコトヲ要ス

第五十九條　排水ノ目的ノ爲二重底ニ設クル淦水溜ハ必要ナル程度ヲ超エテ其ノ深サヲ大ナラシムルコトヲ得ズ且如何ナル場合ト雖モ緣板ノ内緣又ハ外板ヨリ〇・四五七メートル未滿ノ箇所ニ在ルコトヲ得ズ但シ螺旋推進器ヲ備フル船舶ニ付テハ軸路ノ後端ニ於テ外板迄達スル一箇ノ淦水溜ヲ設クルコトヲ得

第十章　水密隔壁等ノ構造及最初ノ試驗

第六十條　水密隔壁ハ鋼船構造規程ニ適合スルモノナルコトヲ要ス

隔壁ノ階段部及屈折部ハ水密ニシテ且其ノ箇所ニ在ルベキ隔壁ト同一ノ强力ヲ有スル構造ト爲スベシ

肋骨又ハ梁ガ水密甲板若ハ隔壁ヲ貫通スル部分ハ木材又ハ「セメント」ヲ用ヰズシテ水密ヲ保ツ構造ト爲スベシ

第六十一條　本令ニ揭グル水密戸、舷窓、舷門、載貨門、載炭門、辨、管、灰棄筒及芥棄筒ノ設計、材料及構造ニ付テハ管海官廳ノ適當ト認ムル所ニ依ルベシ

第六十二條　隔壁ニ設クル水密戸ハ之ヲ設クル箇所ニ於ケル限界線迄ノ水高壓力ヲ以テ之ヲ試驗スベシ

前項ノ試驗ハ船舶ノ就航前ニ於テ戸ノ取附前又ハ取附後ニ之ヲ行フベシ

第六十三條　二重底（溝形龍骨ヲ含ム）及内側外板ハ限界線

迄ノ水高壓力ヲ以テ之ヲ試驗スベシ

液體ヲ容ルル槽ニシテ水密區畫ノ一部ヲ成スモノハ最高區畫滿載吃水線迄ノ高サ、龍骨ノ上面ヨリ槽ノ箇所ニ於ケル限界線迄ノ高サノ三分ノ二及槽ノ頂板上〇・九二メートル迄ノ高サノ中最大ナルモノニ相當スル水高壓力ヲ以テ之ヲ試驗スベシ

第六十四條　甲板、圍壁、隧道、溝形龍骨又ハ通風筒ニシテ水密ナルコトヲ要スルモノハ其ノ箇所ニ在ルベキ水密隔壁ト同一ノ强力ヲ有スル構造ト爲シ圍壁及通風筒ハ少クトモ限界線迄水密ニ構造セラレタルモノナルコトヲ要ス

前項ノ甲板、圍壁、隧道等ノ水密ナルコトヲ要スル構造及之ニ設クル開口ノ閉鎖裝置ニ付テハ管海官廳ノ適當ト認ムル所ニ依ルベシ

第六十五條　水密甲板ハ漂水又ハ射水ニ依リ、水密ナル圍壁、隧道及通風筒ハ射水ニ依リ之ヲ試驗スベシ

第十一章　耐火隔壁、水密區畫室ヨリノ出口

第六十六條　船舶ニハ管海官廳ノ適當ト認ムル所ニ依リ隔壁甲板ヨリ上部ニ於テ船側ヨリ船側迄達スル耐火隔壁ヲ設クベシ

船樓内ニ於ケル耐火隔壁ノ間隔ハ四〇メートルヲ超ユルコトヲ得ズ但シ管海官廳差支ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第六十七條　耐火隔壁ハ隔壁ニ於テ八一五度ノ溫度ヲ生ズル火ノ蔓延ヲ一時間阻止シ得ベキ金屬其ノ他ノ耐火材料ヲ以テ適當ニ之ヲ構造スルコトヲ要ス

鋼製隔壁ニシテ隔壁甲板直下ノ甲板間ニ於ケル水密隔壁ノ構造ト同一ノ構造ヲ有スルモノガ可燃性材料ノ内張ヲ有セザルトキハ之ヲ前項ノ規定ニ適合スル耐火隔壁ト看做ス

第六十八條　耐火隔壁ニ於ケル階段部及屈折部ハ隔壁ト同一ノ效力ヲ有スルモノナルコトヲ要シ又開口ノ閉鎖裝置ハ耐火性ニシテ且焰ノ浸入ヲ防ギ得ルモノナルコトヲ要ス

第六十九條　船舶ニハ旅客室又ハ船員室ノ在ル各水密區畫室ヨリ其ノ居住者ガ非常ノ際上甲板以上ノ開放セル場所ニ退去シ得ル爲適當ナル設備ヲ爲スベシ

各機關室、軸路其ノ他ノ作業場所ニハ非常ノ際ニ於ケル船員ノ避難ノ爲水密戸ト別箇ニ適當ナル設備ヲ備フベシ

第十二章　「ポンプ」排水裝置

第七十條　船舶ニハ主機關ニ依リ動作スル正淦水「ポンプ」又ハ之ニ代ル獨立機關ニ依リ動作スル正淦水「ポンプ」ノ